

上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅹ

関川谷内遺跡Ⅱ

2 0 0 3

新 潟 県 教 育 委 員 会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅹ

関川谷内遺跡Ⅱ

2003

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上信越自動車道は、首都圏と上越地方を結ぶ幹線道路として、群馬県藤岡インターチェンジから分岐し、群馬県・長野県を経て新潟県上越市に至る全長203kmの高速自動車国道です。これによって、関越・磐越自動車道と並び、日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈として、沿線地域の発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

新潟県教育委員会は、昭和63年度から建設用地内の埋蔵文化財について調査を開始し、平成7年度には長野県境～中郷インターチェンジ間の発掘調査を、平成9年度には中郷インターチェンジ～上越ジャンクション間の発掘調査を終了して、県内全線の調査業務を完了しました。本書は上信越自動車道妙高インターチェンジ建設用地内において、平成5年度から7年度に行った関川谷内遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、縄文時代と平安時代の生活跡が発見され、妙高山の広大な裾野が縄文時代の早い時期から活発に利用されていたこと、平安時代には頸南地域が東山道を通じて信州方面と強い結びつきを持っていたことなどがわかってきました。古代の頸南地域は古文書の記録がほとんどなく、どのような地名で呼ばれていたのかさえ不明ですが、関川谷内遺跡では豊富な物品が出土しており、古代から県境一帯が越後と信濃を結ぶ交通上の要地であったことが推定されます。

今回の調査成果が、歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大なご協力とご援助を賜った妙高高原町教育委員会ならびに地元の方々をはじめ、日本道路公団新潟建設局・同上越工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

新潟県教育委員会

教育長 板屋越 麟一

例 言

- 1 本書は新潟県中頸城郡妙高高原町大字関川字谷内・字中ノ沢ほかに所在する関川谷内遺跡の発掘調査記録である。『関川谷内遺跡Ⅰ』[小池^{et al.}1998] 報告書作成時に、それまで「関川谷内A遺跡」・「関川谷内B遺跡」と呼称していたものを「関川谷内遺跡」として統合し、それぞれ「関川谷内遺跡A地点・B地点」と改めた。本書はB地点Ⅱ区の調査報告書である。なお、B地点Ⅰ区の一部(45～50B・Cグリッド)の縄文土器および石器は『関川谷内遺跡Ⅰ』報告書未掲載であったため、本報告書であわせて報告する。
- 2 発掘調査は上信越自動車道の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。
- 3 発掘調査は新潟県教育委員会(以下、県教委)が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が平成5～7年度に調査を実施した。
- 4 整理及び報告にかかる作業は平成14年度に実施し、埋文事業団職員がこれにあたった。
- 5 出土遺物と整理にかかる資料はすべて県教委が保管・管理している。遺物の註記記号は関川谷内遺跡A地点を「セキA」、同B地点を「セキB」とし、出土地点・層位などを併記した。
- 6 グリッド杭の打設と地形測量及び遺物の地点記録は有限会社中郷測量に委託した。
- 7 本書で示す北方位は日本平面国家座標第Ⅶ系のX軸方向を指しており、真北から0度10分50秒西偏している。
- 8 作成した挿図・図版のうち、既存の図を使用した場合にはそれぞれにその出典を記した。
- 9 掲載した遺物の番号は、縄文土器・縄文時代の石器・古墳時代の土器でそれぞれ通し番号を付し、遺物実測図版と写真図版の番号は一致している。
- 10 文中の注釈はページごとの脚注とした。また、引用参考文献は著者及び発行年を文中に[]で示し、巻末に一括して掲載した。
- 11 本書の編集・執筆は土橋由理子(埋文事業団主任調査員)が担当した。ただし、第Ⅰ～Ⅲ章は県教委・埋文事業団の既刊報告書[小池1998a・b]・[小池2002]を一部改変して転載した。
- 12 剥片石器の実測は有限会社アルケリサーチに委託した。
- 13 本書作成作業の一部は株式会社セビマスに委託した。詳細は第Ⅰ章に記述している。
- 14 本遺跡については1995年7月28・29日の発掘調査展示会「妙高山麓の遺跡 高速道路・国道の発掘」資料集・『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』[滝沢1995]などに概要が記載されているが、本書の記述をもって正式な報告とする。上記『年報』等と本書に齟齬がある場合は、本書の記述をとるものとする。
- 15 縄文土器については谷藤保彦氏(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)・小熊博史氏(長岡市立科学博物館)・鎌谷昌彦氏(大正大学講師)に御教示を賜った。
- 16 石器の石材については高濱信行氏(新潟大学積雪地域災害研究センター)に御教示を賜り、これをもとに整理担当者が個々の石器の石材分類を行った。
- 17 縄文土器の分類は寺崎裕助(埋文事業団課長代理)の協力を得て行った。
- 18 発掘調査から本書の製作に至るまで、下記の方々から多大な御教示を賜った。厚く御礼申し上げる。
小笠原永隆 小島正巳 笹澤正史 佐藤雅一 高橋勉 早津賢二

目 次

第 I 章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過の概要と体制	3
A 経 過	3
B 調査体制	4
3 整理の経過と体制	5
A 経 過	5
B 整理体制	5
第 II 章 遺跡の位置と環境	6
1 妙高火山群由来の堆積物と遺跡の年代	6
2 縄文時代の遺跡	6
第 III 章 調査の概要	9
1 グリッドの設定	9
2 層 序	9
第 IV 章 縄文時代	12
1 遺 構	12
A 概 要	12
B 各 説	12
2 土 器	13
A 概 要	13
C 各 説	16
B 分 類	13
3 石 器	21
A 概 要	21
C 石 材	23
B 石器分類	21
D 各 説	23
第 V 章 縄文時代以降の調査	36
1 遺 構	36
A 概 要	36
B 各 説	36
2 遺 物	36
第 VI 章 ま と め	37
1 縄文時代	37
A 縄文土器	37
B 石 器	39
2 平安時代	40

《要 約》	40		
《引用文献》	41		
《観 察 表》	43		
遺 構	43	土 器	44
石 器	52		

挿 図 目 次

第 1 図 関川谷内遺跡の位置	1	第 10 図 不定形石器分布図	26
第 2 図 関川谷内遺跡調査範囲	2	第 11 図 磨石類分布図	27
第 3 図 関川水系の河川と妙高山麓の遺跡	7	第 12 図 特殊磨石分布図	28
第 4 図 妙高山麓における火山性堆積物と遺物の層位関係	8	第 13 図 石鏃・石鏃未成品分布図	29
第 5 図 グリッド設定図	10	第 14 図 尖頭器・両極石器分布図	30
第 6 図 基本層序	11	第 15 図 剥片・碎片・磨製石斧分布図	31
第 7 図 V層出土土器重量分布図	14	第 16 図 磨石類長幅分布図	32
第 8 図 土器分類別分布図	15	第 17 図 特殊磨石長幅分布図	33
第 9 図 石器計測部位	22	第 18 図 不定形石器長幅分布図	34
		第 19 図 16SK1 出土 土師器甕	36

表 目 次

第 1 表 不定形石器分類表	22	第 2 表 出土石器組成表	25
----------------	----	---------------	----

図 版 目 次

【図面図版】

図版 1 遺構全体図	図版 17 縄文土器実測図 (6)
図版 2 遺構分割図 (1)	図版 18 縄文土器実測図 (7)
図版 3 遺構分割図 (2)	図版 19 縄文土器実測図 (8)
図版 4 遺構分割図 (3)	図版 20 縄文土器実測図 (9)
図版 5 遺構分割図 (4)	図版 21 縄文土器実測図 (10)
図版 6 遺構個別図 (1)	図版 22 縄文土器実測図 (11)
図版 7 遺構個別図 (2)	図版 23 縄文時代の石器実測図 (1)
図版 8 遺構個別図 (3)	図版 24 縄文時代の石器実測図 (2)
図版 9 遺構個別図 (4)	図版 25 縄文時代の石器実測図 (3)
図版 10 遺構個別図 (5)	図版 26 縄文時代の石器実測図 (4)
図版 11 遺構個別図 (6)	図版 27 縄文時代の石器実測図 (5)
図版 12 縄文土器実測図 (1)	図版 28 縄文時代の石器実測図 (6)
図版 13 縄文土器実測図 (2)	図版 29 縄文時代の石器実測図 (7)
図版 14 縄文土器実測図 (3)	図版 30 縄文時代の石器実測図 (8)
図版 15 縄文土器実測図 (4)	図版 31 縄文時代の石器実測図 (9)
図版 16 縄文土器実測図 (5)	図版 32 縄文時代の石器実測図 (10)

【写真図版】

図版 33 関川谷内遺跡遠景・B地点全景	図版 36 4号集石土坑・1号集石土坑・3号集石土坑
図版 34 遺跡遠景・遺跡全景・土層堆積状況・基本土層・遺物出土状況	図版 37 1号集石・2号集石・3号集石・20SK69・20SK55・2SK1・15SK73・20SK65
図版 35 4SI1・5号集石土坑・6号集石土坑	図版 38 20SK75・20SK74・20SK12・20SK7

図版 39 20SK9・20SK1・6SK1・18SK4・18SK5・
18SK3・18SK2・18SK1

図版 40 18SK6・17SK4・17SK5・17SK6・3SK1・
16SK1・1号掘立柱建物・16SK1

図版 41 17SJ2・7SJ3・16SJ1

図版 42 縄文土器 (1)

図版 43 縄文土器 (2)

図版 44 縄文土器 (3)

図版 45 縄文土器 (4)

図版 46 縄文土器 (5)

図版 47 縄文土器 (6)

図版 48 縄文土器 (7)

図版 49 縄文土器 (8)

図版 50 縄文時代の石器 (1)

図版 51 縄文時代の石器 (2)

図版 52 縄文時代の石器 (3)

図版 53 縄文時代の石器 (4)・古墳時代の土器

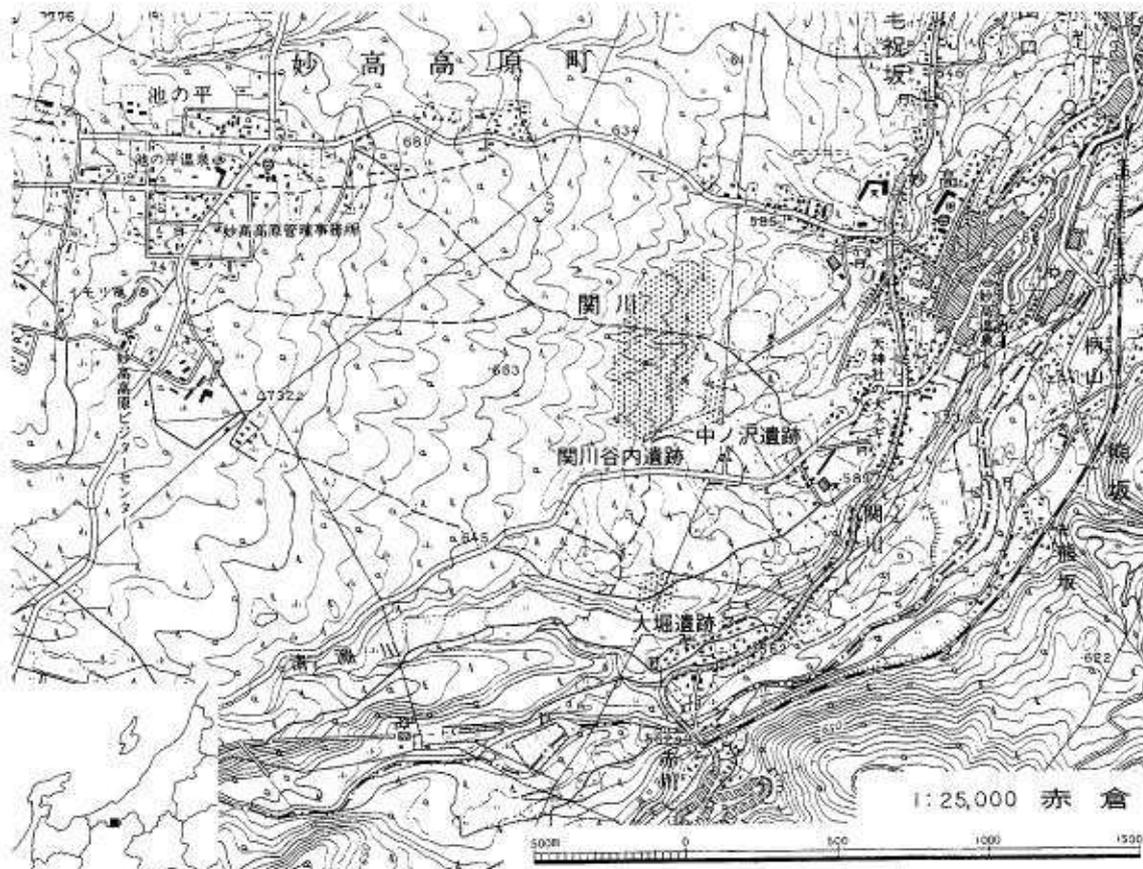
第I章 序 説

1 調査に至る経緯

上信越自動車道（以下、上信越道）は、群馬県藤岡ジャンクション～新潟県上越ジャンクション間の総延長203kmにわたる高速自動車国道であり、関越自動車道と北陸自動車道を結んでいる。

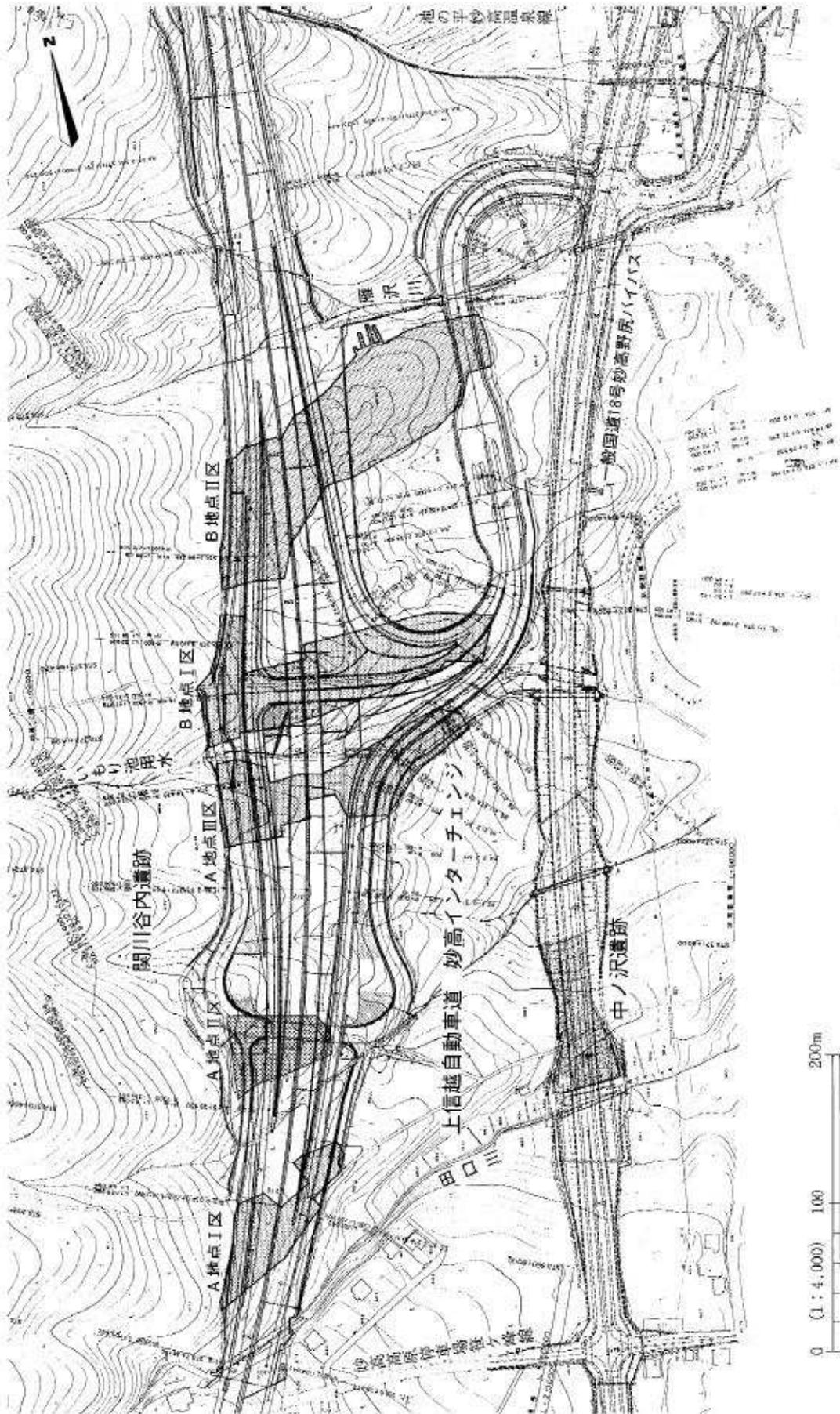
関川谷内遺跡にかかる、上信越道第10次施工命令区間（長野県中野市～新潟県中頸城郡中郷村）は、昭和63年9月に施工命令が出され、これ以後、用地内の遺跡分布調査・試掘調査などに関する協議が本格化した。新潟県教育委員会（以下、県教委）は日本道路公団（以下、公団）の依頼を受けて同年11月14日から同月19日に、第10次施工命令区間3町村（妙高高原町・妙高村・中郷村）の踏査を行い、周知の14か所、新発見の遺跡2か所、遺跡推定地7か所、総計848,000m²について調査が必要である旨、公団新潟建設局に回答している（昭和63年12月21日付け、教文第1002号）。

本報告書の遺跡は、この時点では存在が確認されていなかったが、遺跡推定地No.1・2として取り上げられ、それぞれ上信越道用地周辺の約32,000m²、約31,000m²に分布する可能性があるとされた。なお、踏査時には上信越道法線の詳細が明らかでなかったため、両地点の面積は後に上信越道にかかる



第1図 関川谷内遺跡の位置

（国土地理院 平成3年9月発行 1:25,000原図）〔小池1998aに加筆〕



第2図 関川谷内遺跡調査範囲

(日本道路公団作成 1:1,000原図)
[小池 1998a から転載]

26,400m²と29,900m²に修正計算されている。

平成5年の一次調査では、当初の対象範囲を拡大して、田口川・雁沢川間の総計88,500m²の範囲を調査し、42,000m²の範囲に縄文時代早期・前期の遺物包含層を確認した〔小池1994〕。同年8月には、隣接して建設される国道18号妙高野尻バイパスの埋蔵文化財調査が行われており、中ノ沢遺跡〔立木(主編)・寺崎ほか1997〕の存在が明らかになっていたが、これとの混同をさけるために、地籍図に記載のある小字名のひとつによって遺跡名を関川谷内遺跡とし、さらに、遺跡が広範な面積に及ぶため、イモリ池用水で便宜的に二分して南方を関川谷内A遺跡、北方を関川谷内B遺跡と呼称することにした。これら3遺跡は近接している上、時代時期の共通性も強く、本来同一の名称で取り扱うべきものと考えられる。これまでの経緯があるため名称の統一は控えるが、上信越道関係の2遺跡は関川谷内遺跡として統合し、それぞれを関川谷内遺跡A地点、同B地点と改めることにする。

2 調査経過の概要と体制

A 経 過

1) 平成5年度

調査に着手するまでは遺跡推定地であったが、隣接する中ノ沢遺跡の調査によって、遺物の分布は十分に予想されていた。9月27日から10月18日に、妙高インターチェンジ用地のほぼ全域にあたる田口川～雁沢川間の88,500m²を対象に、トレンチ掘削(86か所)による一次調査を実施した。尾根筋の緩傾斜面5面に遺物包含層が確認され、縄文時代早期・前期の土器370点余り、石器類17点が採集された。

2) 平成6年度

二次調査の対象面積は総計42,000m²と広大であり、6年度はA地点全体(I～III区、計18,500m²)とB地点のII区を、7年度はB地点I区(8,500m²)を対象に調査を実施することとした。しかし、6年度中に妙高インターチェンジ用地西縁に工事用道路を開削したい旨、道路公団から9月に要望があり、7年度に調査を予定していたB地点I区の西縁(幅約20m)1,500m²を6年度調査分に追加した。

5月の連休後に実質的な調査を開始するために、4月5日から除雪作業を始め、4月26日から重機による表土除去を進めた。A地点はIII区から調査に着手し、遺物包含層の掘り下げが終了した時点で砂利敷きの作業用道路を敷設してII区・I区に進み、最後は再びIII区に戻り、集石土坑などの遺構を調査して終了した。B地点は追加されたI区西縁部を、10月にII区と同時進行して調査した。

3) 平成7年度

B地点I区7,000m²を調査して、8月25日に関川谷内遺跡すべての調査を終了した。4月17日から重機による除雪・表土除去作業を並行して行い、5月9日には作業員を投入して遺物包含層の調査を開始した。縄文時代早期・前期を主体とする遺跡にあって、予想外に平安時代の遺構・遺物が認められたため、8月上旬であった終了予定を2週間ほど遅延することになった。

B 調査体制

平成5年度

主 体 新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 本間栄三郎）

調査期間 [関川谷内遺跡A地点・同B地点一次調査] 平成5年9月27日～10月18日

管 理	総 括	藍原 直木（専務理事・事務局長）
	管 理	渡辺 耕吉（総務課長） 茂田井信彦（調査課長）
	庶 務	藤田 守彦（総務課主事）
調 査	調査指導	藤巻 正信（調査課調査第一係長）
	調査職員	小池 義人（調査課専門員）
		佐藤 正知（調査課主任調査員）
		藤田 豊明（ 同 ）
武田 孝昭（調査課専門員）		

平成6年度

主 体 新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 本間栄三郎）

調査期間 [関川谷内遺跡B地点I区・II区二次調査] 平成6年4月25日～11月14日

管 理	総 括	藍原 直木（専務理事・事務局長）
	管 理	渡辺 耕吉（総務課長） 茂田井信彦（調査課長）
	庶 務	泉田 誠（総務課主事）
調 査	調査指導	藤巻 正信（調査課調査第一係長）
	調査職員	滝沢 規朗（調査課文化財調査員）
		佐藤 正知（調査課主任調査員）
		横田 浩（調査課文化財調査員）
		内山 良典（調査課嘱託員）
		小池 石子（ 同 ）

平成7年度

主 体 新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 本間栄三郎）

調査期間 [関川谷内遺跡B地点I区 二次調査] 平成7年4月17日～8月25日

管 理	総 括	藍原 直木（専務理事・事務局長）
	管 理	山上 利雄（総務課長） 亀井 功（調査課長）
	庶 務	泉田 誠（総務課主事）
調 査	調査指導	藤巻 正信（調査課調査第一係長）
	調査職員	小池 義人（調査課主任調査員）
		山田 聡（ 同 ） 清塚 則和（調査課嘱託員）

3 整理の経過と体制

A 経 過

整理は県教委の委託を受けて埋文事業団が平成14年度に県立埋蔵文化財センターにおいて実施した。出土遺物の洗浄・遺物No.の註記は発掘作業の現場で実施されていたので、整理作業は主に図面整理、遺物の実測作業を行った。なお、遺構図面の基礎整理の一部は調査終了年度及び平成13年度に実施した。

遺 物 遺物は出土した大グリッドごとに通し番号が付され、平面図に出土位置、遺物台帳に出土層位が記録されていた。整理作業では記録をもとに遺物の出土グリッド・層位を確認し、遺物に追加して註記した。台帳に記されている層位には基本層位のⅠ～Ⅵ層のほか「包含層」などの記載があったが、これらについては調査担当者に確認ののち、「Ⅴ層」など対応する層位に読み替えて註記した。

遺物の製図作業は、土器については実測個体選出後、実測・トレースを事業団職員が行った。石器は剥片石器70点について有限会社アルケアリサーチに委託し、磨石類・特殊磨石・磨製石斧80点については事業団職員が行った。写真撮影は、土器・石器ともに事業団職員がデジタルカメラ（ニコンD100）で行った。

遺 構 遺構の製図作業は、原図及び仮版作成を事業団職員が行い、トレース・版組みを株式会社セビアスに委託した。

版下作成・印刷製本 版下作成から印刷製本にかかる作業については、デジタル化に適應して従前の手法を転換し、トレースの一部と版構成作業を株式会社セビアスに委託するとともに、印刷業者の作業を印刷・製本に限定した。委託した業務は遺構図面などのコンピュータトレースと版構成作業一般であり、埋文事業団は本文・図版のレイアウトを含む編集作業を行い、以下の資料を支給した。

本文・挿図：テキスト形式・Microsoft社Excel形式のデータ、貼り込み版下

遺構図面図版：原図コピー・レイアウト図案・文字データ

遺物図面図版：個々のトレース図・レイアウト図案・拓影・文字データなど

遺構写真図版：遺構写真のCD-R・レイアウト図案

遺物写真図版：遺物写真のCD-R・レイアウト図案

B 整理体制

平成14年度

主 体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越 麟一）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 板屋越 麟一）

管 理	総 括	黒井 幸一（事務局長）				
	管 理	長谷川司郎（総務課長）				
	庶 務	高野 正司（総務課主任）				
整 理	整理総括	岡本 郁栄（調査課長）				
	整理指導	北村 亮（調査課整理担当課長代理）				
	整理担当	土橋由理子（調査課主任調査員）				
	作 業	間 栄子	和泉 裕子	田口 和子	室塚 真弓	柳谷 栄子（以上、嘱託員）

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 妙高火山群由来の堆積物と遺跡の年代

妙高山は数十万年前から現在にいたるまで4回の活動期と、活動期に挟まれる3回の休止期があり、その間噴火と崩壊・侵蝕を繰り返しながら今日見られるような複式成層火山となった。このうち、発掘調査で認められる堆積物は第4回目の活動期(第Ⅳ期)に堆積したものが主体である。第Ⅳ期は約3万年前のシブタミ川火砕流の発生に始まり、現在はその終末期にあたる〔早津1985〕。関川谷内遺跡に存在する大田切川火山灰・赤倉火砕流堆積物・田口岩屑なだれ堆積物もこの第Ⅳ期の堆積物である。

大田切川火砕流堆積物(OT-p)は妙高山の東方から北東にかけての、小二俣川・関川・片貝川流域に分布する。時期は考古遺物との関係で縄文時代中期末～後期初頭が考えられているが〔早津・小島1985〕、実年代は¹⁴C年代測定値にばらつきがあるため、約4,000～4,500年前という幅をもった値が示されている。妙高山南東麓にはこれに関係して噴出された大田切川火山灰(OT-a)のみが分布している。

赤倉火砕流堆積物(AK-p)は、妙高山の東麓に広く分布し、北は片貝川から南は妙高高原町大字関川までの範囲で認められる。また、赤倉火山灰層(AK-a)も山麓の広範囲に堆積している。考古遺物からみた時期は縄文時代前期の有尾式より新しく、諸磯c式よりは古い時期、実年代では約5,300年前と捉えるのが妥当と考えられている〔早津1995〕。

田口岩屑なだれ堆積物は7,780±160y.B.P.(Gak-7545)〔早津・古川1981〕(引用文献中では田口泥流堆積物上層部)という¹⁴C年代が得られている〔早津1985〕。

歴史時代の鍵層には高谷池火山灰グループに含まれる焼山起源のKG-cがあり、約1,000年前の降下とされている〔早津1994〕。KG-cは妙高山麓に多数存在する炭窯の覆土に度々確認されている〔立木(土橋)1999など〕。

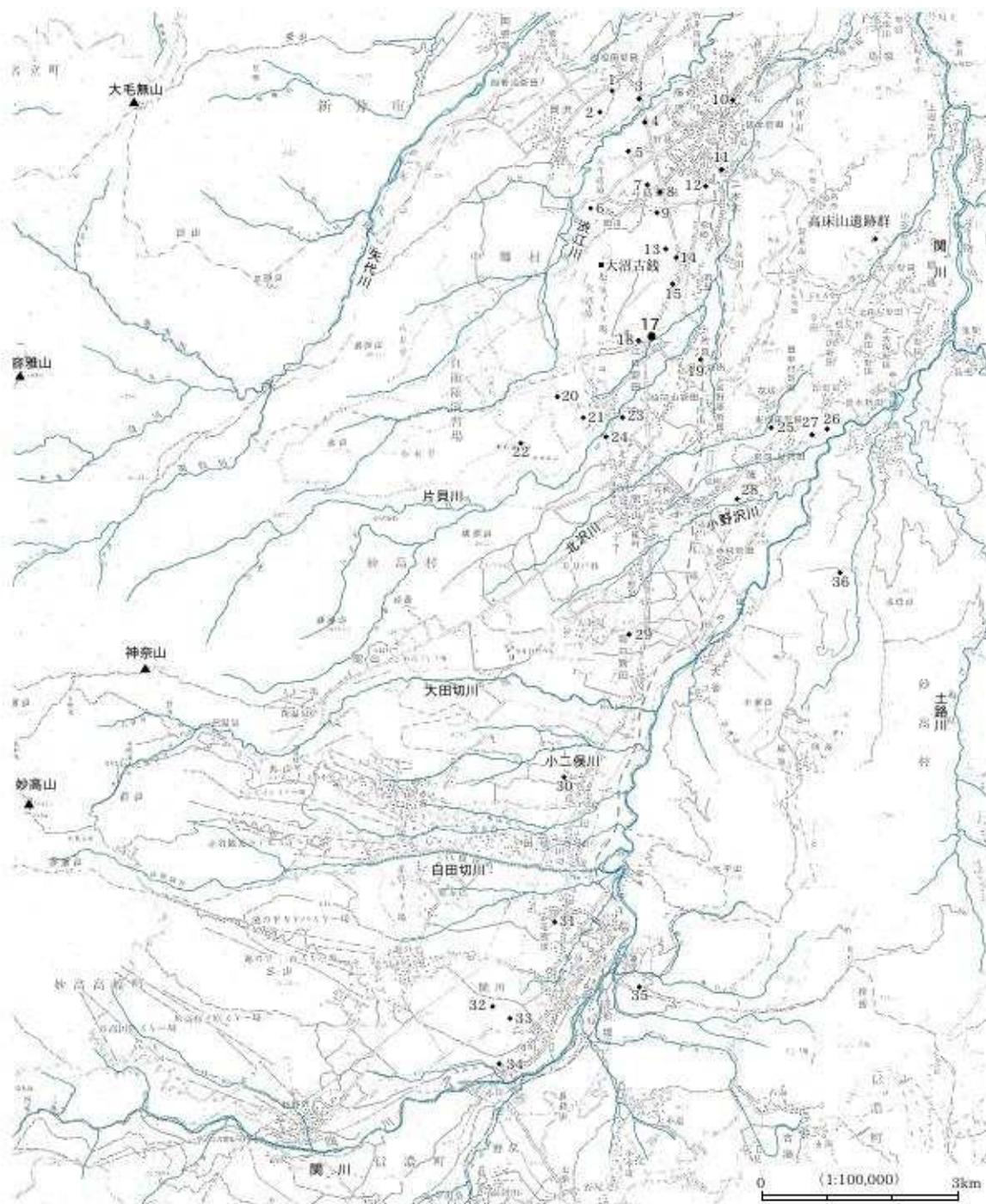
2 縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡分布は、妙高山裾野周縁部に集中するが、妙高高原町田切から妙高村関山の間は遺跡密度が低い。これは大田切川火砕流が厚く堆積しているためで、中期中葉以降の遺跡が散在するにすぎない。

草創期から前期中葉にかけては、妙高高原町関川集落西方の緩斜面に位置する大堀遺跡〔立木(土橋)・寺崎ほか1996〕、関川谷内遺跡、中ノ沢遺跡〔立木(土橋)・寺崎ほか1997〕において押型文土器など良好な遺物が多数出土している。関川谷内遺跡B地点の主体となる時期、早期末から前期初頭の遺跡としては、絡糸体圧痕文土器を出土した、大堀遺跡〔前掲〕、妙高村中古遺跡〔室岡・早津1986〕、中郷村窪畑B遺跡〔立木(土橋)ほか1999〕、新井市三本木新田B遺跡〔立木(土橋)・寺崎1997〕などがある。

縄文時代前期後葉から中期前葉の遺跡は主に妙高山北東側斜面に点在する。籠峰遺跡〔親跡・野村ほか1996、小林ほか2000〕・和泉A遺跡〔加藤・荒川ほか1999〕では下位の赤倉火砕流堆積物と上位の大田切川火砕流に挟まれた土層で遺構・遺物が検出されている。

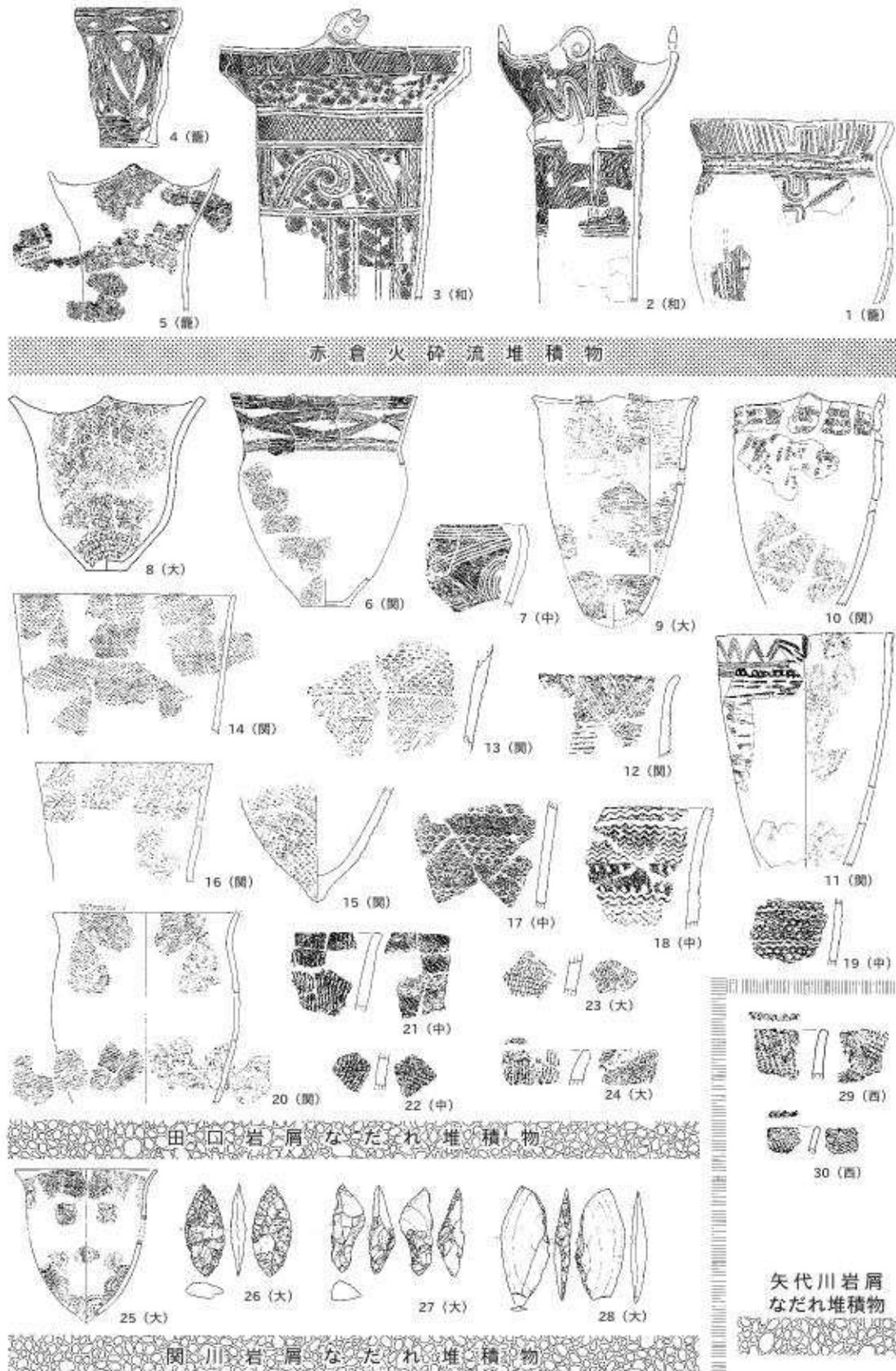
縄文時代中期中葉から後期・晩期の遺跡は、大田切川火砕流堆積物より上位に包含層がある。遺跡の分布は、前期後葉から中期前葉の遺跡とほぼ共通しており、良好な遺跡が点在する。



1. 小丸山遺跡	縄文(後・晩)	13. 中の原B・C遺跡	縄文	25. 上ツ平遺跡	縄文(晩)・中世
2. 前原遺跡	縄文(中)	14. 中の原D遺跡	縄文(早～後)・平安	26. 柿ノ木町遺跡	縄文(前・中)
3. 西脇田新田遺跡	縄文(早・前)	15. 窪畑B遺跡	縄文(早～後)・平安	27. 道添遺跡	縄文(中・後)
4. 郷清水遺跡	縄文(前・晩)・平安	16. 寿池遺跡	縄文(早)	28. 落生遺跡	縄文(後・晩)
5. 野林遺跡	縄文(前)	17. 小重遺跡	縄文(早～中)・中世	29. 大洞原C遺跡	縄文(後)・古墳
6. 大沼遺跡	縄文(前)	18. 横引遺跡	縄文(前)・古墳・平安	30. 外峯遺跡	縄文(中)
7. 八斗原遺跡	縄文(早)	19. 南田遺跡	縄文(中)・中世	31. 東浦遺跡	縄文・平安
8. 上中島遺跡	縄文(早・前・晩)	20. 松ヶ峯遺跡群	縄文(早・前)	32. 関川谷内遺跡	縄文(早・前)・平安
9. 南野畔遺跡	縄文(早・中)	21. 湯の沢遺跡群	縄文(前～後)	33. 中ノ沢遺跡	縄文(早・前)・平安
10. 蟻塚A遺跡	縄文(前・中)	22. 勤助山遺跡群	縄文(前・中)	34. 大畑遺跡	旧石器・縄文(早・前)
11. 北ノ原遺跡	縄文(中・後)	23. 能峰遺跡	縄文(中・晩)	35. 兼保D遺跡	縄文(後)
12. 奥の城西峯遺跡	縄文(後・晩)	24. 和泉A遺跡	縄文(中・晩)・弥生	36. 中古遺跡	縄文(早・前)

第3図 関川水系の河川と妙高山麓の遺跡

(国土地理院 平成5年発行「妙高山」「飯山」1:50,000原図) [小池2002から転載]



(籠)：中郷村能峰遺跡 (和)：中郷村和泉A遺跡 (大)：妙高高原町大塚遺跡
 (中)：妙高高原町中ノ沢遺跡 (関)：妙高高原町関川谷内遺跡 (西)：中郷村西福田新田遺跡

第4図 妙高山麓における火山性堆積物と遺物の層位関係 (小池2002から転載)

第Ⅲ章 調査の概要

1 グリッドの設定

グリッドはA地点・B地点共通で上信越自動車道のセンター杭を基準として設定した(第5図)。グリッドの主軸はSTA.370+00杭($X=95,401.8348, Y=-27,057.4822$)とSTA.375+00杭($X=95,889.4015, Y=-26,953.6922$)を結んだラインとした。主軸の方向は真北から約12度東偏している。大グリッドの呼称は、主軸方向の南から順に算用数字、これと直交する方向に西からアルファベットを付け、10m四方ごとにこれを組み合わせて示した。なお、STA.370+00杭の南東側区画を10Gとした¹⁾。小グリッドは大グリッドを2m四方に25分割し、大グリッド表示の後につけて10G20のように示した。

2 層 序

遺跡の層序は関川谷内遺跡A地点とおおむね共通するので、既刊の報告書〔小池1998b〕を引用・加筆しながら説明する。遺跡はA・B地点合わせると南北約700mの広がりを持ち、遺跡の南側を田口川、北側を雁沢川が東流し、遺跡範囲を区切っている。遺跡は東向き緩斜面にあり、東西に伸びる尾根上から遺構・遺物が検出された。尾根間には小川が流れており、特にA地点中央を流下するいもり池用水は年間を通じて水流を保っている。

土層のあり方は妙高火山に由来する赤倉火砕流堆積物(AK-p・AK-a)と大田切川火山灰(OT-a)、田口岩屑なだれ堆積物によって明瞭に区分される。地形は基本的に田口岩屑なだれ堆積物に規定され、現地形はこれと大きく異なっていない。

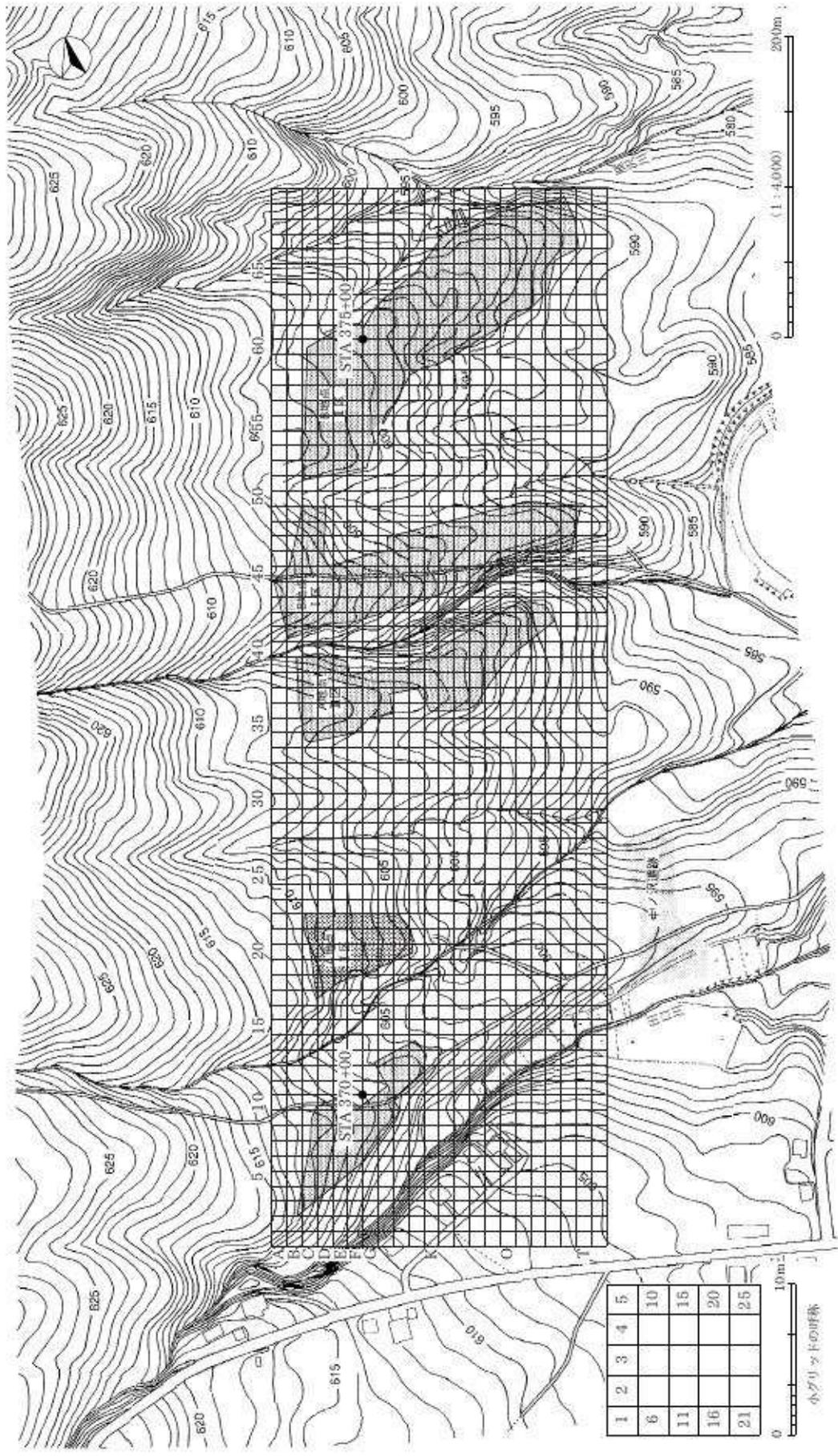
I層：暗褐色～黒褐色の土壌である。一部に赤みを帯びた茶褐色の火山灰(焼山火山灰KG-b?)の含まれる場所があり、これをI bとする。I b層が認められる範囲ではそれより上部をI aとする。なお、A地点Ⅲ区ではI層中に灰白色の火山灰(焼山火山灰KG-c?)の含まれる部分があり、これをI b層としているので注意を要する。

II層：大田切川火山灰(黄灰色～黄褐色)が斑状に混入する暗褐色～黒褐色の土壌。大田切川火山灰の噴出時期は、考古遺物との関係では縄文時代中期末～後期初頭とされている〔早津・小島1985〕。

III層：黒褐色～暗褐色の土壌である。上位からⅢa～Ⅲc層に細分される。Ⅲa層は大田切川火山灰がわずかに混じる土層、Ⅲb層は純粋な暗褐色土。Ⅲc層はIV層がわずかに混じる土層である。縄文時代前期中葉以降の遺物を含む。

IV層：赤倉火砕流に伴う堆積物またはそれを含む土層。黄灰色の土壌で黒色～暗褐色のブロックが斑状に含まれることがある。色調の違いで上位からIV a、IV b層に細分される。IV a層は黄色みがあり、

1) 『関川谷内遺跡Ⅰ』第1章3において、グリッドの設定図とその呼称方法が記されているが、一部誤りがあるのでこの記載をもって正とする。誤記の内容は①第4図グリッド設定図において、グリッド南北方向の算用数字「5～65」の写植が1グリッドずつ北にずれている。②第2図関川谷内遺跡調査範囲・第4図グリッド設定図中のA地点Ⅱ区の位置が10m北にずれて示されている。③グリッドの呼称が「STA.370+00杭の北東側区画を10Gとした」とされている。なお、誤記は上記部分に限られ、第Ⅲ章以降の遺構・遺物に関する図面・観察表・事実記載には誤りがなく、今回提示するグリッドに一致する。

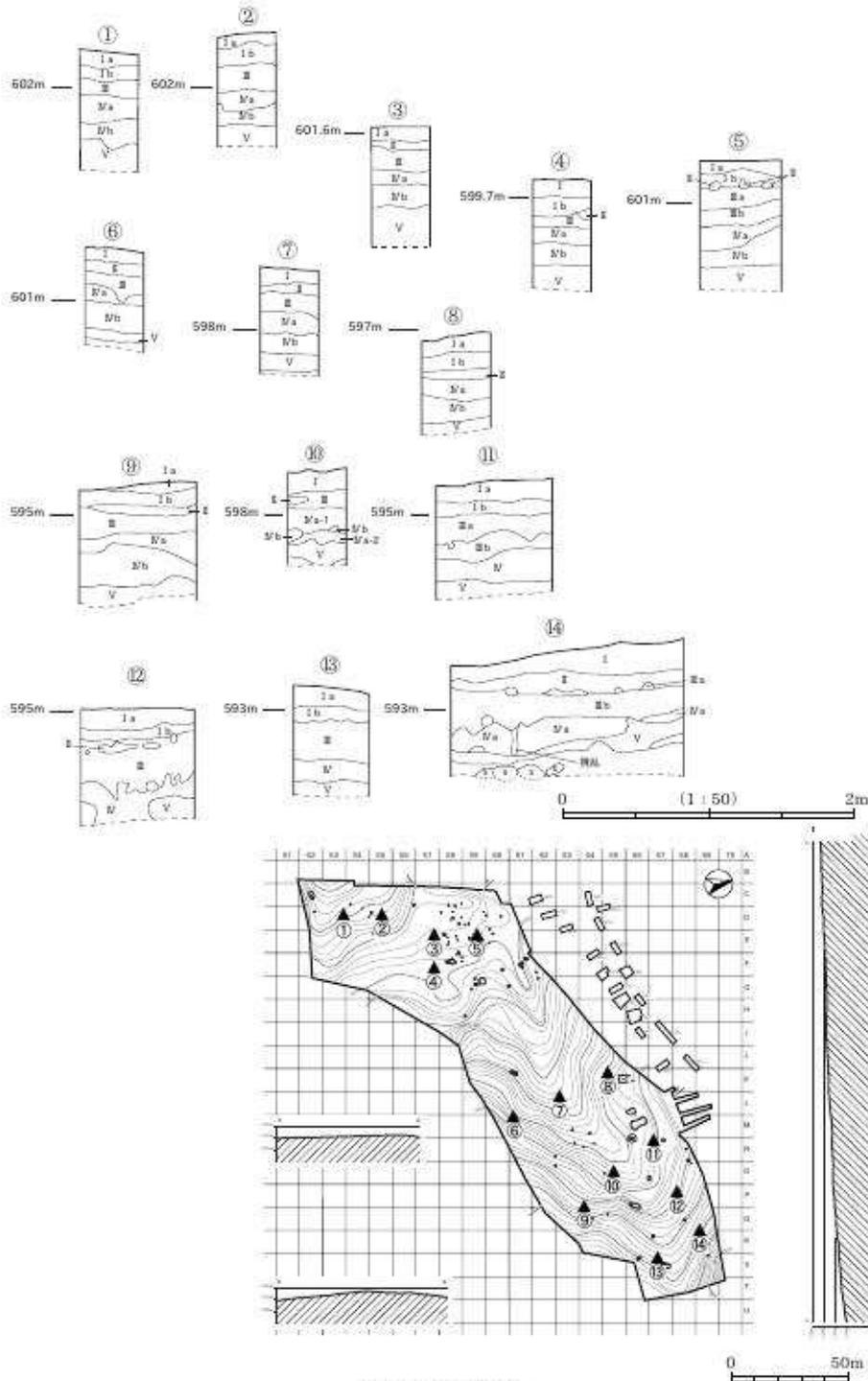


第5図 グリッド設定図

IV b層は灰色がかかる。赤倉火砕流堆積物の形成時期は、妙高村道添遺跡の資料で5,310 ± 110y.B.P. (I-17,943) という測定値が出ている [早津1995]。

V層：黒色～黒褐色の土壌。早期～前期後葉の遺物を含む。便宜的に上・中・下に分けて遺物を取り上げたが、明確に分層できるものではない。押型文土器は下～中に限定されるが、その他については限定できない。

VI層：黄褐色を呈する田口岩屑なだれ堆積物である。上面約20cmは黄褐色を呈するローム質土、それより下位は拳大程度までの礫を多く含むローム質土であり、A地点では前者をVI a層、後者をVI b層としていた。B地点ではVI層で最終的な遺構確認を行った。



第6図 基本層序

第IV章 縄文時代

1 遺 構 (図版1～10)

A 概 要

関川谷内遺跡B地点では縄文時代の住居跡・集石・集石土坑・フラスコ状土坑・土坑・石織製作跡が検出された。遺構は調査区西側のやや平坦な場所と、尾根先端部で検出された。検出面は地山面である¹⁾。遺構分布は早期末～前期初頭の土器の分布範囲とほぼ一致することから、おおむねこの時期に構築された遺構と推定される。

遺構No.は発掘調査時に土層観察ベルトを境として調査区を22分割し、その区画単位に通し番号を付していた。そのため、遺構番号の前に区画No.を付して表記している。

B 各 説

個々の法量・検出位置については遺構一覧表に記し、特記事項のある遺構についてのみ個別に説明する。

4S11 (図版6・35) 掃鉢状の掘り込みをもち、中央に直径約55cmの地床炉と推定される焼土粒・炭化物を含む堆積土が認められる。縄文土器(208)、剥片(23)・特殊磨石(24・25)が出土した。

集石土坑(図版6・35・36) 5基検出された。5・6号、3・4号がそれぞれ近くに、1号だけが離れたところに分布する。構成礫はVI層の田口岩屑なだれ堆積物に含まれる安山岩と思われ、亜角礫あるいは亜円礫である。これは関川谷内遺跡A地点と同様である。下部土坑の深さは6号集石土坑が62cmと深いが、ほかは35cm程度である。礫は土坑の下底まで詰まっているわけではなく、上半部までの堆積である。覆土は黒色～暗褐色で炭化粒・材を含む。6号集石土坑では壁面に焼土が検出された。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。

集石(図版6・37) 3基検出された。構成礫は集石土坑と同様にVI層の田口岩屑なだれ堆積物に含まれる安山岩と思われ、亜角礫あるいは亜円礫である。1号集石は6号集石土坑に伴う可能性がある。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。

フラスコ状土坑(図版7・37) 6基検出された。開口部は円形で直径約50～60cm、深さ30cm程度、下部のオーバーハングしている部分は開口部より10～20cm程広がっている。2SK1はやや大形で、開口部82cm、底部95cmを計る。いずれの土坑からも植物遺体・遺物は出土しなかった。20SK55上部のV中層から縄文土器細片が出土した。

土坑(図版7～10・37～40) 68基検出されたが、いずれも性格は不明である。遺構覆土から遺物が出土したのは15SK73、3SK1で、ほとんどの土坑で遺物の出土は無い。14基の土坑については、V層から出土した遺物で平面的な出土位置から土坑伴出の可能性のある遺物が存在する。これについては観察表に記した。この場合でも細片のため時期の細分は困難だったが、おおむね早期末～前期初頭に位置付

1) 発掘調査時の記録ではVIa層とされているが、基本層序の設定がVI層までであるので、それとは区別して地山と表現しておく。遺構の最終確認を発掘限界面のVI層上面よりやや下がったところまで行ったため、このような表現になったものである。

けられる土器であった。

土坑は58D・E、59D・Eに多く分布し、60mほどの空白域を挟んでL列より東側にも散漫に分布する。

15SK73 押型文土器を多く出土したA地点に近い場所での検出である。覆土から押型文土器が3個体一括出土したが、埋設したような状況ではなかった。

20SK7 くびれのある土坑である。覆土の堆積状況から、土坑2基が切り合っていると考えられる。南側がより新しい土坑である。

石鏃製作跡 (図版4)

45X3 南北約4m、東西約3mの範囲から縄文土器 (125・151・169・198)、石鏃・石鏃未成品・剥片など (1~21) が集中して出土した。掘り込みなどは確認されていない。同一母岩の石鏃製作関係の遺物が出土していることから、石鏃製作跡の可能性が考えられる。遺構の構築時期は、土器の時期から早期末~前期初頭に属すると推定される。

2 土 器 (図版12~22・42~49)

A 概 要

B地点Ⅱ区では縄文時代早期から後期の土器が出土した。早期~前期中葉の土器はV層、前期後葉以降の土器はⅠ~Ⅲ層に包含される。主体となるのは早期末~前期初頭の土器である。

B 分 類

出土土器を時期ごとにⅠ~Ⅵ群に分類し、その中で文様などの要素で細分した。

Ⅰ群 早期

A類 押型文

Ⅱ群 早期末葉~前期初頭

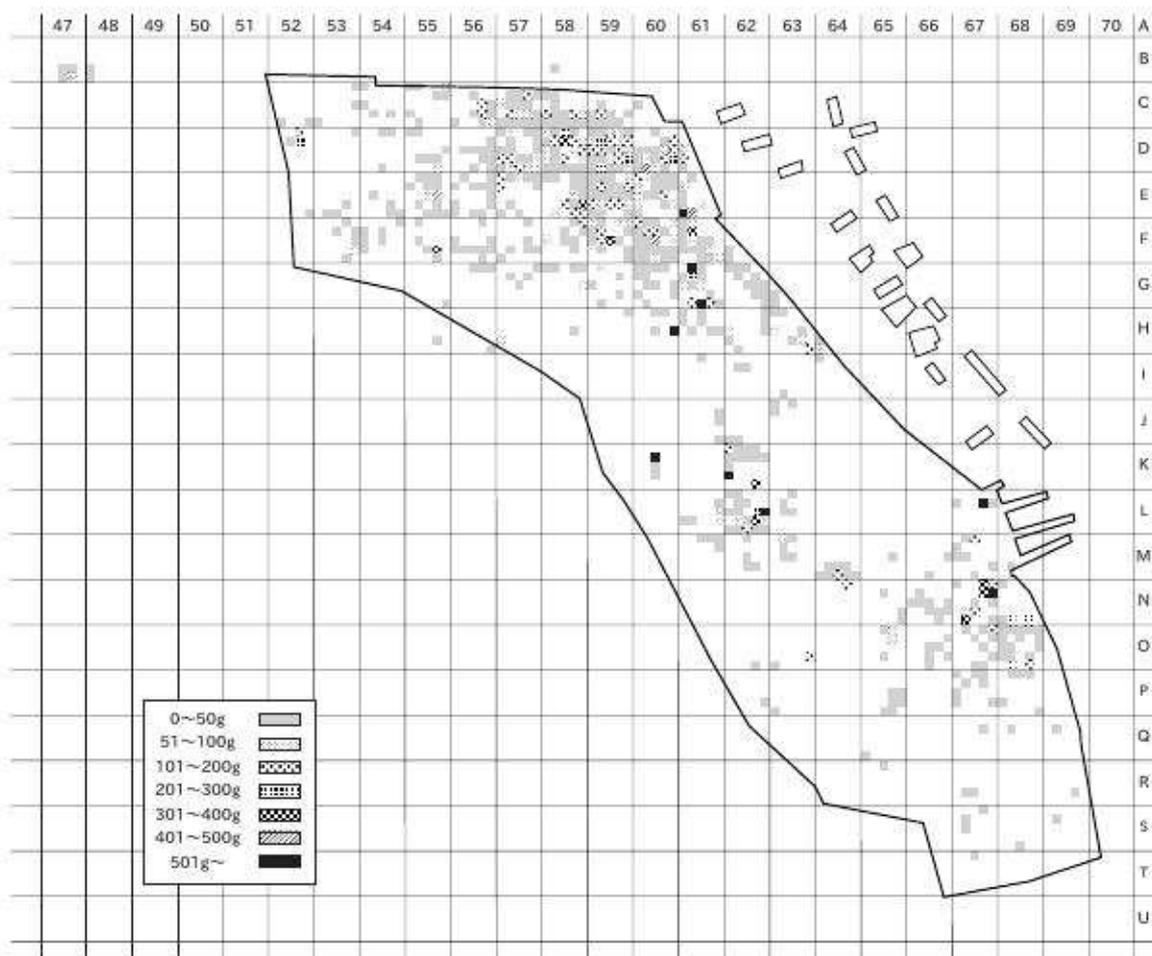
A類 絡条体圧痕文を施文する

- 1種 縄文を地文とする
- 2種 撚糸文を地文とする
- 3種 条痕文を地文とする
- 4種 地文なし
- 5種 縄側面圧痕をもつ

B類 縄文地文とする

- 1種 口縁部に刺突のある隆帯が巡る
- 2種 口縁部につまみにより隆帯が作り出される
- 3種 沈線が施される
 - a 内面に条痕文が施される
 - b 内面がナデにより調整される
- 4種 円形竹管による刺突が施される
- 5種 棒状工具側面圧痕がある

C類 沈線のみ



第7図 V層出土土器重量分布図

D類 刺突のみ

E類 縄文地文のみ

1種 内面に条痕が施される

2種 内面に擦痕が認められる

3種 内面がナデにより調整される（擦痕・条痕以外のものを一括した。以下、同じ。）

4種 内面口縁部に縄文が施文される

F類 燃糸文施文

1種 内面に条痕が施される

2種 内面に擦痕が認められる

3種 内面がナデにより調整される

G類 条痕文施文

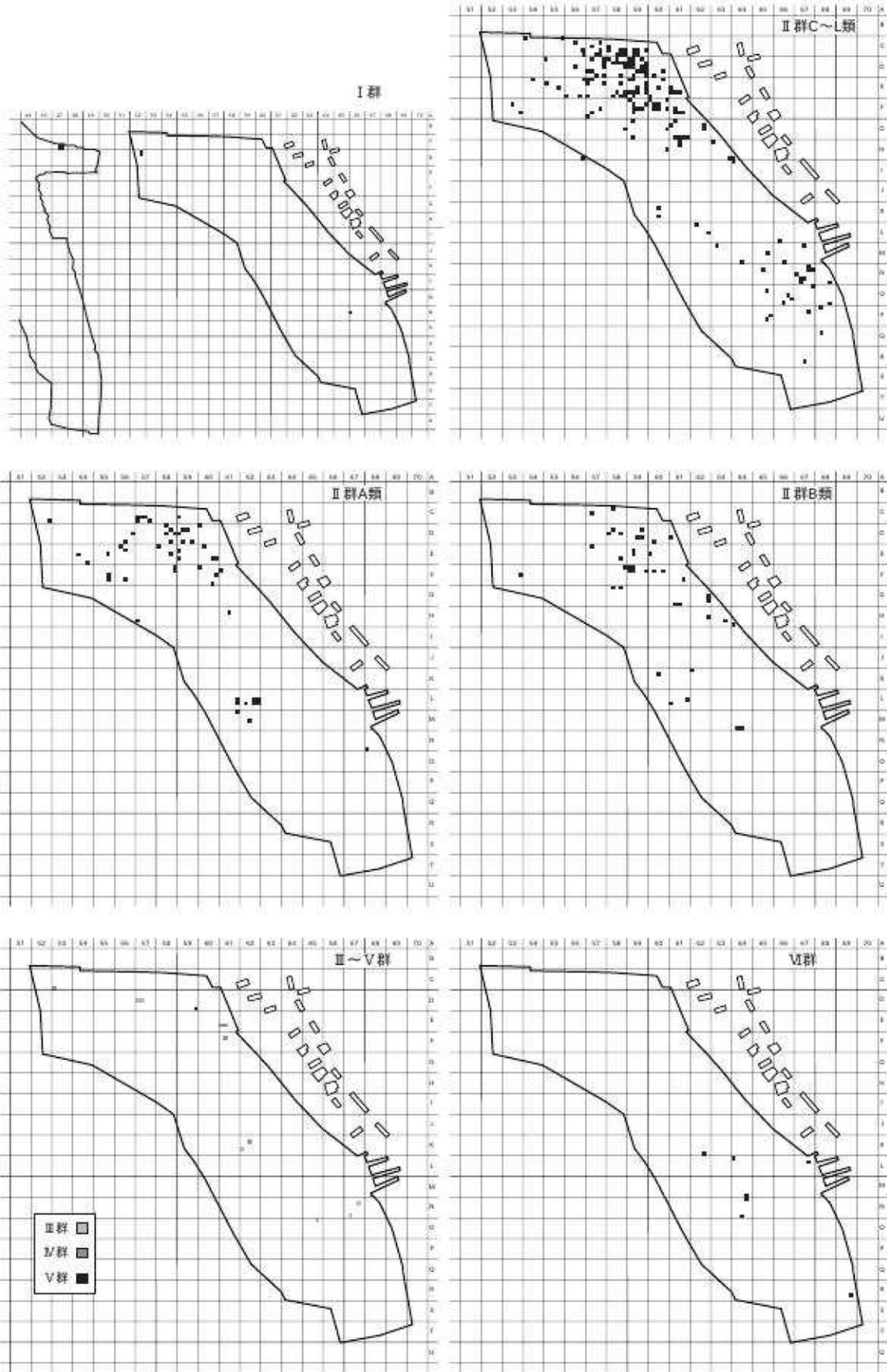
1種 内面に条痕が施される

2種 内面に擦痕が認められる

3種 内面がナデにより調整される

H類 縄文と条痕が施文されるもの

I類 縄文と燃糸文が施文されるもの



第8図 土器分類別分布図 (遺構・遺構伴出の可能性あるもの含む)

2 土 器

J類 指頭圧痕が密に施文されるもの

K類 底部

L類 無文あるいは文様不明

III群 前期前葉

A類 結束羽状縄文の多段構成をとるもの

B類 底部あるいは底部近くの体部に爪形文が巡るもの。底部は上げ底となる

C類 屈曲する頸部をもち、口縁部はループ縄文多段構成、体部に斜行縄文をもつ

D類 櫛歯状工具による刺突が施される

1種 縄文地文に列点状の刺突が施されるもの

2種 刺突のみが密に加えられるもの

IV群 前期中葉

A類 有尾式並行

1種 平口縁で、口縁部に並行沈線・刺突があるもの

2種 波状口縁で口縁部に沈線、体部に縄文が施文されるもの

B類 縄文地文のみ

V群 前期後葉

A類 諸磯b式並行

1種 波状口縁で、縄文地文に半截竹管による施文が行われる深鉢

2種 無文の浅鉢

B類 燃糸文地文に沈線で文様を描くもの

VI群 中期以降

A類 体部下半に縦方向の条痕あるいは燃糸文、口縁部との境に横走する並行沈線と刺突が施される

B類 円形竹管による刺突が体部全体に及ぶもの

C類 無文部を広く残し、縄文を施文する

D類 無文の口縁部

E類 刺突のある隆帯をもつ

F類 沈線・刺突列が施文される

上記分類に基づいて本文及び観察表の記載を行う。個々の土器の属性は観察表に記し、本文では特徴ある土器について説明する。

V層出土土器の重量分布図を第7図、時期別の分布図を第8図に示す。時期別分布図は実測した土器をもとに作成したが、実測個体の抽出は大グリッド単位にほぼ個体に漏れがないように行っているため、この図をもって全体の出土状況を反映していると考えてよい。

C 各 説

1) I 群 土 器 (1~7)

A類 (1~7) 1~5は15SK73出土土器である。1は楕円と山形の密接回転施文を地文として、口縁に鋸歯状を意識して楕円押型文の原体が回転施文されている。原体幅は約12mmである。口縁端部は丸

みを帯びている。2の原体幅は約40mmである。右下に山形文と見られる部分がわずかにあるが、原体端部かもしれない。3～5は同一個体の可能性が高い。3の口縁端部は丸みを帯びている。

6a～6hは尖り気味の口縁端部をもち、口縁部に横位、体部に斜位あるいは縦位の楕円文が回転施文されている個体と推定される。6a・6bでは回転施文の密接楕円文を地文として、押型文原体の非回転圧痕がハの字（鋸歯状）に施文されている。

2) II群土器 (8～296)

II群土器には口縁に隆帯が巡る土器があるが、この場合の部位の呼称は口縁端部から隆帯までを口縁、隆帯より下を「隆帯下」あるいは体部、隆帯の上を「隆帯上」とする。

II群土器は文様要素だけではなく、焼成の状態や内面の調整によっても分類される。内面調整では条痕の有無、指頭圧痕の有無が目立った特徴として挙げられる。指頭圧痕のある土器の多くは器壁が薄く、堅緻である。この種の土器は観察表備考欄に「内面指頭圧痕」と記した。焼成は器壁の厚さにかかわらず多孔質でスポンジ状を呈するものがあり、これらについては観察表の焼成欄に「粗」と記した。

なお、II群土器には遺構出土土器もあるが、点数が少なく一括性が低いこともありこの節であわせて説明する。出土遺構は観察表に記した。観察表中で遺物No.の欄に遺構通しNo.が記入されているものは、発掘調査時点で遺構出土であることが認識されていたものである。層位の欄のみに遺構名が記入されているものは、V層出土であるが調査時点で遺構出土であることが予測され、遺物取り上げ後に下から遺構が検出されて遺構伴出と判断されたものである。よって、遺構出土土器であっても出土状況はあまり良好ではない。

A類 (8～55) 絡条体圧痕の認められる土器群である。絡条体は原体の燃紐が細く巻きの細かいもの(18・22・28㍉)と、原体の燃紐が太く巻きの粗いもの(25・35㍉)に大別されるが、概して細かいものが多い。燃紐の条の燃りは読み取れるものについて観察表に「絡条体L」などと記した。

A1類 (8～32) 21a・21bは同一個体で、21aに絡条体側面圧痕、21bに縄文が施文されている。22・23の絡条体は非常に巻きが細かい。25は巻きの太い絡条体圧痕で口縁に鋸歯状を意識した施文がされている。器面の荒れが激しいので判然としないが、体部に縄文が施文されている。28・29の地文は複節LLRである。絡条体の巻きは細かい。30～32は体部縄文で口唇のみ絡条体圧痕が施文されている。

A2類 (33・34・36) 33は同一の絡条体を押圧・回転する半置反転の手法が用いられている。内面は条痕のほか指頭圧痕も明瞭で、器壁が薄い。

A3類 (35・37～40) 35は図上復元した個体である。口縁に芋虫状の絡条体圧痕が横位に押圧され、体部には条痕が施される。

A4類 (41～48) 41の口唇には縄文が施文されている可能性があるが連続していない。

A5類 (49) 49は全体に剥落が激しく判然としないが、口唇に絡条体圧痕、口縁に縄の側面圧痕(複節原体)、以下に縄文が施文されている。

A類 (50～55) A1～A5類に細分できないが、絡条体圧痕があるものをまとめた。

B1類 (56～70) 隆帯上の施文は刺突を基本とするが、棒状工具側面圧痕、縦位短沈線など若干の変化がある。口縁は平口縁、波状口縁があり、さらに口縁に地文がないもの、縄文地文のものがある。56は口縁無文で隆帯に対して直交する方向で丸棒状工具側面圧痕がつけられている。底部は焼成前に穿孔後、再び粘土が詰められ穴がふさがれている。57は低い隆帯に対して下から上に突き上げるようにして刺突

が行われている。58の隆帯は非常に低く、器面が盛り上がった程度のものである。60は隆帯の直上の口縁に隆帯に並行する沈線が引かれている。61は高い隆帯に丸棒状工具が強く押し付けられている。62は隆帯貼り付け後、隆帯下の縄文が施文されている。63aの隆帯上刺突は幅広のヘラ状工具で右下から左上に押し上げるように刺突が行われている。65・66は波状口縁に沿うように隆帯が付けられ、隆帯を斜めに横切る形で短沈線が引かれている。67は縦位隆帯の左にRL、右にLRが施文されている。68は縦位隆帯の両脇に円形竹管の刺突が並ぶ。

B2類 (71～79) 72～76は低い隆帯の直上に爪跡、直下に指頭が対になって残ることから、つまみにより隆帯を作り出したことがわかる。77も指跡のみ残存するが、同様に施文されたと推定される。78は隆帯直上及び直下からヘラ状工具で粘土を寄せるようにして隆帯を作り出している。79も78と同様の施文が行われていたと推定される。

B3a類 (80～82) 80の沈線は丸棒状工具で引かれているが、不規則である。81・82も丸棒状工具による沈線だが、比較的深めの施文である。

B3b類 (83～89) 84の地文は一見すると絡条体圧痕に見えるが、多条縄文の回転によるものである。

B4類 (90・91) 90・91は比較的薄手で、ナデにより丁寧に調整されている。90の口唇はしっかり面取りされている。円形竹管刺突列の上下に沈線が引かれているように見えるのは地文縄文の原体端部である。

B5類 (92～94) 94aと94bは同一個体の口縁であるが、平口縁と波状口縁の破片となる。部分的に波状を呈する個体であったと推定される。

C類 (95～98) 98は条痕にも見えるが、線が不規則なことから沈線とした。97はヘラ状もしくは角棒状の工具で沈線を引いている。

D類 (99・100) 99は地文条痕の可能性はある。刺突原体は幅広の棒状のもので右から左へ押し込むように刺突している。100は先端が平らな丸棒状工具を用いて刺突を行い、その後各刺突の右上から刺突に向けて短沈線が引かれている。

E類 (94c・94d, 101～250) E類は縄文地文のみの土器を一括した。体部破片の中にはA類・B類の体部破片の可能性のあるものも含まれている。

E1類 (101～111) 101の体部にはつまみ痕が連続する。B2類の隆帯作出に近い手法である。102の地文は無節縄文のようだが、単節縄文が粘土による目詰まりを起こしたものである。108～111は同一個体の可能性がある。

E2類 (112～122) E2類の分類根拠となった「擦痕」は、条痕ほど明瞭ではないが細い条線が一定幅を単位として並行するもので、古墳時代の土師器に見られるハケ目のような調整を指す。ナデ痕とは並行する条線の有無で区別した。

E3類 (94c・94d, 123～247) 123・124は図上復元した。123は67N10グリッドから一括して出土した。124は平口縁であるが調整が丁寧ではなく小さく波打っている。125は法量的には123・124と大差ないと推定されるが、器壁が非常に薄く、内面の指頭圧痕も顕著である。4SX3出土土器である。126は図上復元した。薄手の堅緻な土器で、縄文を口縁部では横、体部では斜めに回転し、口縁部文様帯を区別している。128～130は平口縁に突起がある土器である。127にも小突起がある。131・132は波状口縁である。

133～140は口唇に施文がある土器である。133は図上復元である。口唇に縄文が回転施文されてい

る。斜縄文を基本とするが、体部下半の一部は羽状縄文になっている。139のループのように見えるのは縄文原体端部である。140は体部上半部が0段多条の縄文、下半の一部が単節縄文である。

146～174は口唇に施文がない土器である。171・172は同一個体の可能性が高い。149のループ状に見える部分は直前段3本燃の原体端部である。151は4SX3出土土器である。152と153は同一個体の可能性がある。152は羽状縄文が施文され、口縁部に直前段3本燃RL・同LRの原体端部が明瞭に残る。体部は器面荒れが激しく判然としないが、同様の原体端部は認められない。このためほかの原体が用いられていた可能性が考えられる。153もRL・LRの羽状縄文であることから、口縁部だけ装飾的に端部痕が残るように別原体を用いたのかもしれない。149・157は3SK1出土土器である。

175～228、230～247は体部破片である。羽状縄文175・177～191、斜縄文176・192～247に大別される。羽状縄文はいずれも非結束で、RL・LRの横回転を基本とする。原体には単節だけではなく多条のものも多く用いられている。179～182は羽状の境目にループ状の模様が見られるが、原体の端部処理部分の回転圧痕である。187はRL・LRの縦回転である。185・223は3SK1、198は4SX3出土土器である。

176・192～208・210・221は単節縄文LR横回転である。192～195は原体の端部処理部分の回転圧痕が明瞭に残る。201は無文部をもつ。209は縄文LRを多方向に回転施文している。

211～214は多条縄文を用いている。214は縄文端部処理痕が明瞭である。

215～220・222・223は単節縄文RL横回転である。

224～228は単節縄文を横、縦、斜めなどに回転している。

229～231は木の実圧痕と推定される直径5～7mm程度の円形の穴が不規則にあいている。深さは約4mmで器壁を貫通しない。土器裏面には少ないので装飾的な意味合いがあったと推定される。

232～235は多条縄文による縄文地文の土器である。

236～239はLあるいはRによる縄文地文の土器である。

240～247は縄文施文だが、詳細不明のものである。

E4類 (248～250) 248は口唇にも縄文が施文されている。

F1類 (251～255) F1類は比較的薄く堅緻な土器が多い。251は厚さ6mm程度と薄く、口縁端部の形態が一定しない。252内面の条痕は強く施文されるところと全く施文されないところがある。

F2類 (256・257) 256は薄く堅緻な土器である。

F3類 (258～276) 258～270は燃糸R、271～274は燃糸L、275～276は燃糸だが詳細不明である。

G1類 (277a) 277aは277bと同一個体であるが、条痕のつき方にむらがあり、277bには条痕は認められなかった。

G2類 (278) 内外面同一の原体で条痕を施文している可能性がある。

G3類 (277b・279～283) 283は口縁端部に近い破片で、口縁端部直下に横走沈線が施文されている可能性がある。

H類 (284) 284は破片上半部に斜縄文、下半部に条痕が施される。縄文は太さの違う縄の合い燃りの可能性がある。

I類 (285) 285は破片上半分に縄文多条LR、下半分に燃糸L2本組が施文され、羽状縄文となっている。薄く堅緻な土器である。

J類 (286) 連続する指頭圧痕により、うろこ状の文様を作り出している。口縁端部から3列は左上から右下に向けて押し下げ、それ以下は右下から左上に押し上げるように施文している。

K類 (289b・291～296) 丸底 (291・293)、尖底 (289b・292・294～296) がある。296は穿孔されている。291は図上復元である。

L類 (287～289a・290) 289a・289bは幅1mmほどの極小の刻みが縦方向に連続する。原体・施文方法は不明である。

3) III 群 土 器

A類 (297) 297は図上復元である。0段多条RL・同LRにより結束羽状縄文が施文されている。口唇には0段多条LRが回転施文されている。

B類 (298・299) 298は底部付近の体部に爪形文が1列刺突されている。299は底面周縁部に爪形文が刺突されている。

C類 (302) 302aは屈曲する頸部をもつ土器で、頸部付近にループ多段構成の羽状縄文、体部から底部までは斜縄文が施文される。ループ原体長は15～20mmである。胎土に多量の繊維を含み、器面にも繊維痕が多く残る。

D類 (300・301) 300は胎土に繊維を多量に含み器面に繊維痕が多く残る。櫛歯状工具は3列1組と推定される。301の櫛歯状工具は、幅約6mmの2股に割れた板状の工具である。これを連続して押し引くように刺突している。

4) IV 群 土 器

A1類 (305) 305は一括出土したほぼ完形の土器である。口縁部の沈線と刺突は同一原体により施文されている。原体は半截竹管あるいは2本の棒を束ねた工具で、幅約8mmを計る。1本の幅は約3mm、間隔は約2mmである。3段の沈線間に刺突列が施文される。

A2類 (306) 306は図上復元した。口縁に沈線、体部に縄文が施文される。

B類 (303・304) 304はIII層出土で、内面も平滑に磨き上げるような調整がされており、II群B類土器とは異なる。303は出土層位不明であるが、胎土の雰囲気ややはりII群B類土器とは異なるので本類とした。

5) V 群 土 器

A1類 (307) 307は縄文地文に半截竹管で幾何学模様が描かれる。全体の文様構成は不明である。

A2類 (308) 308は無文のいわゆるUFO型の浅鉢である。

B類 (309・310) 309はIII層出土である。310は排土出土であるが309に類似するので本類とした。

6) VI 群 土 器

A類 (311・312) 311は無文の口縁の下に横走沈線が2本並行し、その間に半截竹管状工具押し引きによる逆C字の刺突が施される。横走沈線からT字形に垂下する部分が見られる。312の沈線・刺突は棒状工具による。

B類 (313) 313は全面に刺突が及ぶという要素から、後期三十稲場式に並行する可能性が考えら

れる。

C類 (314) 314は破片上部のごく一部に縄文が認められる。

D類 (315) 315は小突起がある可能性がある。

E類 (316) 316は太目の隆帯が垂下し、隆帯上に指頭によると見られる刺突が施される。後期の土器と推定される。

F類 (317) 317は薄く、堅緻な土器で、刺突列の下に沈線で逆V字模様が施文される。わずかに残る屈曲部から、口縁が開く器形であると考えられる。後期堀之内式土器に並行すると推定される。

3 石 器 (図版23～32・50～53)

A 概 要

石器は包含層から288点、遺構から107点が出土した。出土層位はV層が主体であるが、Ⅲ～Ⅳ層から10点、Ⅵ層上面から3点が出土している。石器の所属時期はV層出土土器の主体となる時期が早期末葉～前期初頭にかけてであるので、おおむねこの時期に属すると考えられる。出土石器の組成は第2表に示す。

包含層では特殊磨石・磨石類が多い点が特徴で、両者で石器全体の45%を占める。このほか不定形石器とした中に、旧石器時代のナイフ形石器の可能性のある石器1点がある。遺構では4SX3から石鏃製作に関連する資料が一括して出土している。

B 石器分類

出土石器の分類は次のとおりである。

尖頭器 両側縁からの剥離によって先端部が作り出され、横断面形が凸レンズ形を呈する石器。

石鏃 「矢の先端につける石製のやじり」[鈴木1991]。

両極石器 両極に打痕・剥離痕のあるものを両極石器とした。2個1対の極をもつもの(2極1対)と、4個2対の極をもつもの(4極2対)がある。

不定形石器 従来「掻・削器類」・「スクレイパー」・「二次加工のある剥片」・「使用痕のある剥片」・「微細剥離のある剥片」・「不定形石器」などといわれている石器を一括し、分類は第1表[鈴木1996]に従った。なお、細分類については可能なものについてのみ行った。

剥片・砕片 ともに石核からの剥片生産あるいは石器製作の過程などで生じた石のかけらだが、1cm四方未満の大きさのものを砕片として便宜的に区別した。

磨製石斧 全面を研磨して、斧状に仕上げられた石器。

磨石類 「素材となる礫(転石)の正面及び側縁に磨痕・敲打痕・くぼみ痕を有するもの」[北村1990]。使用痕の組み合わせで以下の8類に分類した。分類は[高橋1990]をもとに加筆した。

A類：磨痕

B類：磨痕+凹痕

C類：磨痕+敲打痕

D類：磨痕+凹痕+敲打痕

E類：凹痕

F類：凹痕+敲打痕

G類：敲打痕

H類：両端に打ち欠きがあるもの

特殊磨石 「三角柱・四角柱・楕円状などの河原石（転石）を素材とし、その稜の部分に細長い機能面を有するもの」[北村1990]とし、使用痕の組み合わせで次のように細分した。

A類：稜上の磨面のみのも

B類：稜上の磨面のほかに、磨面があるもの

C類：稜上の磨面のほかに、端部に敲打痕があるもの

D類：稜上の磨面のほかに、磨面・端部の敲打痕があるもの

E類：稜上の磨面のほかに、凹痕があるもの

F類：稜上の磨面のほかに、凹痕・磨面があるもの

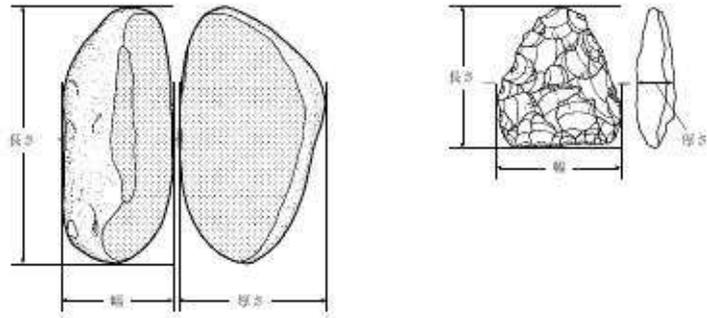
G類：稜上の磨面のほかに、凹痕・端部の敲打痕があるもの

H類：稜上の磨面のほかに、凹痕・磨面・端部の敲打痕があるもの

台石 大形で安定性のある扁平な礫の1面あるいは両面に凹凸などの作業面をもつ石器。

砥石 断面凹状の砥面をもつ石器。

上記の分類に従い記載を進める。実測図は左側を表面または背面、右側を裏面または腹面と称する。石器の左右はとくに断りがない限り、表面に向かったときの左右である。



第9図 石器計測部位

分類	刃部形状	刃部ライン	素材	二次加工部位	細分類
A類	スクレイパー 中型・急角度・連続剥離	—	縦長	側縁と端部	A1類
			横長	片側縁と底縁	A2類
B類	スクレイパー 小型・急角度・連続剥離	外彎状	縦長	片側縁と端部	B1類
			横長	底縁	B2類
C類	鋸歯縁石器 大型・中型・急角度・鋸歯状剥離	直線状	縦長・厚手	片側縁	C1類
			横長・厚手	底縁	
		内彎状	縦長・厚手	片側縁	C2類
			横長・厚手	底縁	C3類
	外彎状	縦長・厚手	片側縁	C3類	
—	—	厚手	—	C4類	
D類	大型・急角度剥離	直線状	厚手	片側縁 (一方の側縁は古い剥離面や切断面などを利用する)	D1類
			厚手	—	
	大型・浅角度剥離	直線状	厚手	片側縁 (D1類と同じ) 両側縁	D2類
			厚手	片側縁 (D1類と同じ) 両側縁	
	小型剥離	直線状	厚手	片側縁 (D1類と同じ) 両側縁	D3類
			薄手	両側縁	石錐
E類	大ノツチ 大型・中型・急角度剥離	内彎状	縦長・厚手	側縁	E1類
			横長・厚手	底縁	
	大ノツチ 大型・中型・浅角度剥離	内彎状	縦長	側縁	E2類
			横長	底縁	
小ノツチ 中型・急角度剥離	内彎状	縦長	側縁	E2類	
		横長	側縁		
小ノツチ 小型剥離	—	縦長	側縁	E2類	
		横長	側縁・底縁		
F類	中型・小型・急角度・不連続剥離	—	縦長	側縁	F1類
		—	縦長	側縁と端部	F2類
		—	横長	底縁 側縁 底縁と側縁	F3類
G類	大型・中型・浅角度剥離	直線状	縦長	側縁	G類
			横長	底縁	
H類	無加工(使用痕の微細剥離・使用痕) 小型・浅角度剥離	外彎状	背面は自然面	側縁	H類
			横長	底縁	
I類	端部に小型・連続剥離	端部に丸味	縦長・薄手 横長・薄手	端部	I類
J類	無加工(使用痕の微細剥離・使用痕)	—	縦長	側縁	J類
			横長	側縁・底縁	
K類	両面加工(調整)石器 (刃部平面形は波状、側面はジグザグ状)	外彎状	薄手	—	K類

第1表 不定形石器分類表(鈴木1996を一部改変)

C 石 材

剥片石器の素材となった石材のうち凝灰岩などについては石質・模様の様子から母岩識別が可能であった。母岩識別できたものについては石材名に続けてアルファベットを記し、同一母岩であることを示した(観察表参照)。以下、石鏃製作に関連する資料に多用されていた凝灰岩B・Cについて説明する。

凝灰岩B：白色を呈する。光沢なし。

凝灰岩C：白色に赤い筋模様が入る。光沢なし。

磨石類・特殊磨石の素材となった石材は模様・質感から安山岩・砂岩・流紋岩・花崗岩・斑岩に大別した。特徴は以下のとおりである。

安山岩：多孔質で節理の発達が見られない。

砂岩：比較的軟質で砂が剥落するものと、緻密で硬質のものがある。

流紋岩：花崗岩に似るが、花崗岩のような等粒状組織をもたない。

花崗岩：等粒状組織をもつ。

斑岩：斑状組織をもち、石基にガラス質を含まない。石英(白色の斑晶)を含むものもある。

D 各 説

1) 遺構出土の石器

4SX3 (1~21)

凝灰岩Bを母岩とする石鏃製作に関連する資料が一括して出土した。石器組成は第2表に示す。

石鏃(1・2) 凹基無茎石鏃である。1は珪質頁岩製、2は凝灰岩Bで、先端は裏面への加工で仕上げられている。

石鏃未成品(3~9・11) 7・8には素材の腹面が残存していることから、素材が厚手の剥片だったことがわかる。7の表面には調整剥片10が接合する(図版50-7+10)。5はかなり厚みを残すが基部が作出されている。9は上半部欠損としたが、5と同様の基部作出工程の可能性もある。これに対して、4・6のように比較的厚さが減じられていても明確に基部が作り出されないものもある。完成形態に違いがあるのかもしれない。11には両極剥離痕が残るので、石鏃作出過程で両極剥離が使われていた可能性がある。

剥片(10・12~19) いずれも凝灰岩B製である。石鏃の未成品より大きい剥片から調整剥片まであるが、石鏃素材となるような厚手の剥片はない。

不定形石器(20) 両極剥離のあと、上端に微細剥離が残されている。下端には両極剥離によるツブレが残存する。

磨石(21) 表面中央の窪みは石材のものである。側縁以外に磨痕が残る。

4SX2 (22)

2極1対の両極石器・特殊磨石各1点が出土した。石器組成は第2表に示す。

特殊磨石(22) 稜上の磨面に打ち欠きが見られる。

2) 包含層出土の石器

包含層出土石器のうち、4S11にからむ可能性が高い石器については包含層出土石器と区別して説明す

る。そのほかの石器は分類別に記述を進める。巻末石器観察表中の細分類のうち（ ）で示したものは、破損しているが（ ）内の分類にあてはまる可能性が高いことを表す。なお、分類別石材別分布図を第10～15図、分類別石材組成表を第2表に示す。

4SI1 (23～25)

剥片 (23) 無斑品質安山岩製の薄手の剥片である。

特殊磨石 (24・25) 24表面の磨面は浅い皿状を呈する。25の窪み痕は表面のものは浅く、側面のものは播鉢状に深い。

包含層

尖頭器 (26・27・31) 26は表面側が膨らむ側面形を呈することから、剥片素材であったと推定される。両面に丁寧な調整が行われている。27・31は先端部のみ残存するが、厚手で断面形も石鎌の扁平さとは一線を画することから尖頭器とした。

石鎌 (28～30・32) 29は4SX3の石鎌と同様の石材である凝灰岩B製である。形態も同遺構出土石鎌と共通する。4SX3から南東へ40mほど離れた、尾根の反対側斜面から出土した。28・30は凹基無茎石鎌であるが、扶りの深さが異なる。32は唯一の平基無茎石鎌である。

石鎌未成品 (33～35) 33・34はいずれも凝灰岩Cを母岩とし、素材剥片の腹面が残存する。35は横長の剥片の形態を生かして周縁に剥離を加えている。

両極石器 (36～40) 2極一対 (36～38) と4極二対 (39・40) のものがある。

不定形石器 (41～74) 不定形石器はA～J類に分類し、さらに可能なものは細分類した。全部で56点出土した。石材組成、分類組成は第2表に、分布は第10図、法量散布図は第18図に示す。

A類は4点出土し (41～43・49)、そのうち1点はA2類 (42) に分類される。

B類は8点出土し (44～48・50)、2点はB1類に分類される (44・48)。

C類と推定されるものは2点出土した (51)。

D類は4点出土した (52～55)。このうち3点は石錐に分類される (52・53・55)。54の末端部裏側は左側からの力で剥落しているが、その後側縁に沿った刃こぼれが認められるので、錐というよりスクレイパーのような使用方法が考えられる。

E類は9点出土し (56～62)、E1類2点 (61・62)、E2類7点 (56～60) に分類される。59は末端と左側縁にスクレイパー状の刃部をもち、右側縁に扶入部が作出されている。

G類は1点出土した (63)。

H類は4点出土した (64・65)。64は磨石類の破片を素材としている。磨石類には石核状を呈する80のような例もあるので、破片というより意図的に磨石類を石核にしていた可能性もある。

I類、I類と推定されるもの各1点が出土した (66)。

J類17点、J類と推定されるもの2点が出土した (67～72)。

F・K類に該当する石器は無い。

ほかに、上記の分類に当てはまらないもの2点 (73・74)、未成品の可能性のあるもの1点 (75) が出土した。73は下半部を欠損するが無斑品質安山岩製の横長剥片を素材として、右側縁に刃潰し状の調整が加えられている。妙高高原町大塚遺跡でも同様の石器が出土しており、旧石器時代のナイフ形石器として報告した [立木(±橋)1996]。73はこれに酷似しているため、形態的には旧石器時代のナイフ形石器の可能性が高い。ただし、関川谷内遺跡の立地する場所は田口岩屑なだれ堆積物によって規定されているの

遺構

		片貫頁岩	凝灰岩B	鉄石英	土	無珉品質 安山岩	流紋岩	砂岩	珉岩	片貫木	合計
4-SX3	石礫	1	1								2
	石礫未成石		8								8
	不定形石器			1							1
	銅片	1	16(6)		3(1)	6(2)	2				28(8)
	銅片	6(6)	56(54)			4(4)					65(63)
	磨石								1		1
	合計(点)	7(6)	81(59)	1	3(1)	10(6)	2	0	1	0	105(71)
総重量(g)	2.3	89.7	4.8	3.2	5.1	0.6	0	1392.2	0	1497.9	
4-SX2	磨石									1	1
	特殊磨石							1			1
	合計(点)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	総重量(g)	0	0	0	0	0	0	1191.2	0	5.6	1196.8

()内は点数のうちフルイ出土の点数を示す。

包含層

	片貫頁岩	凝灰岩	凝灰岩B	チヤート	鉄石英	土	黒曜石	無珉品質 安山岩	安山岩	流紋岩	珉岩	砂岩	銅板岩	珉岩	凝灰岩	片貫木	不明	合計
実地層					1			1	1									3
石礫	1			1	1			1										4
石礫未成石		2				1												3
磨石					3				2		3							9
不定形石器	4		5		14	1	2		20	2	4		1	1				56
銅片	4	1	5	1	17	1	1	1	28	2	3		3	1		2		71
銅片					3				1									5
磨石										25	6			13				66
特殊磨石									24	2	1	17		20				64
磨石												1						1
珉石												1						1
合計(点)	9	3	11	2	39	2	3	52	53	18	2	44	1	35	5	2	2	288
総重量(g)	46.6	34.1	142.2	4	233	6.7	28.8	4.2	753.3	28083.5	4391.4	2215.2	22859.3	43.5	22077.2	195.5	16.7	11137.4

他に、遺構出土石器、トレンチ出土石器、表採石器がある。

不定形石器(細分類)

	片貫頁岩	凝灰岩	凝灰岩B	チヤート	鉄石英	土	黒曜石	無珉品質 安山岩	安山岩	流紋岩	砂岩	銅板岩	珉岩	凝灰岩	片貫木	不明	合計	
A	2				1				1								4	
B			3				1		3							1	8	
(C)	1								1								2	
D									1		3						4	
E	1		1		3				3			1					9	
G									1								1	
H					1				1		1		1				4	
I					1												1	
(I)							1										1	
J			1		7	1			7	1							17	
(J)					1						1						2	
未成石?									1								1	
不明									2								2	
合計(点)	4	0	5	0	14	1	2	0	20	2	4	1	1	1	0	0	1	56
総重量(g)	29.4	0	97.6	0	112.5	2.9	17.1	0	354.1	191.1	45.5	71.6	43.5	53.2	0	0	6.5	1024.1

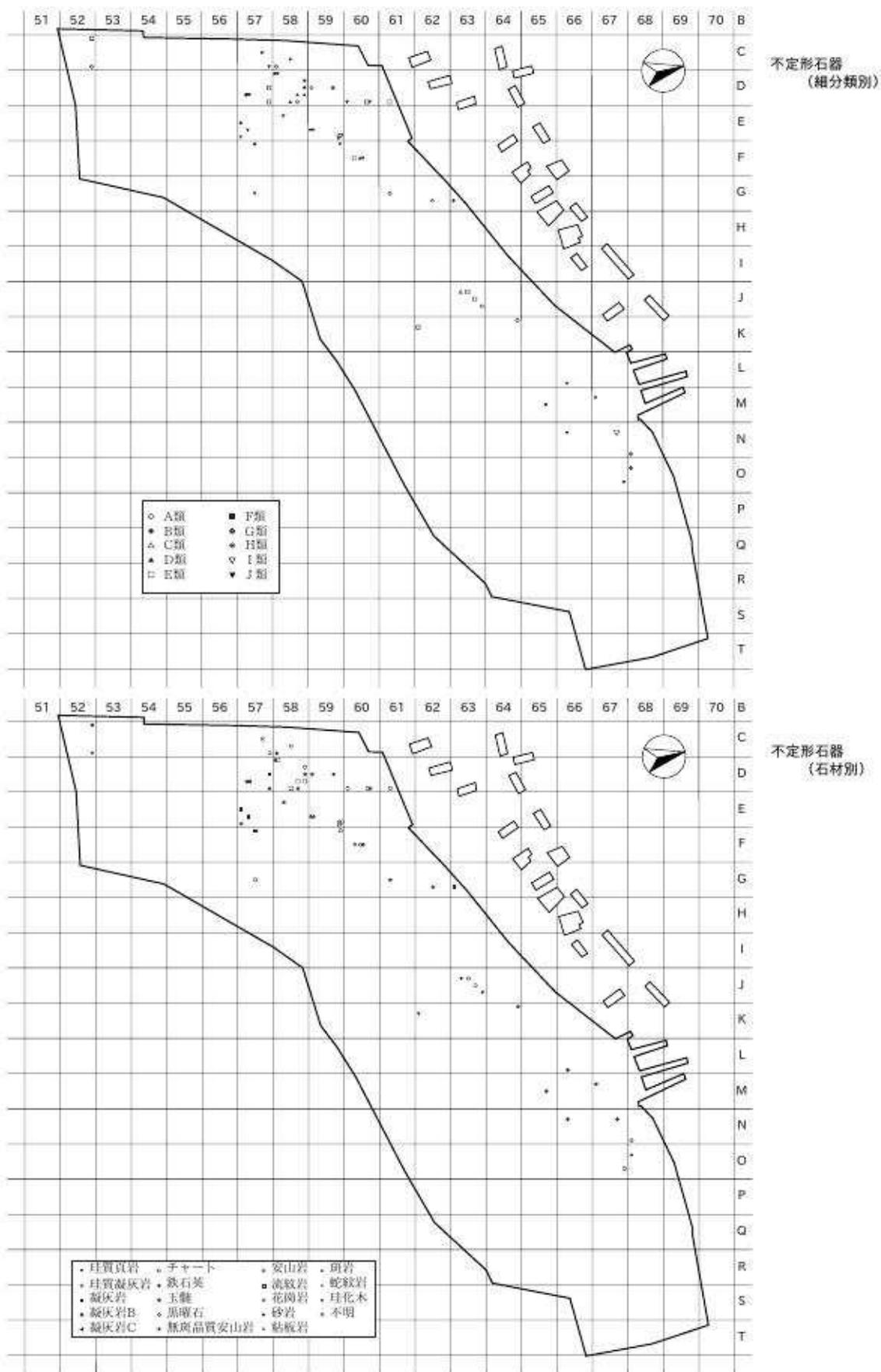
磨石類(細分類)

	安山岩	砂岩	流紋岩	花崗岩	珉岩	合計
A	5	1			5	11
(A)	2		1		1	4
B	4	2	1		1	8
C	1	4	1		1	7
(C)		1				1
D	3	3			2	8
E	6	1	3		1	11
F	2	3			1	10
G	1	1		1	1	4
H		1				1
不明	1					1
合計(点)	28	21	5	1	13	66
総重量(g)	10837.5	8566.7	2176.9	1237.8	5863.7	28682.6

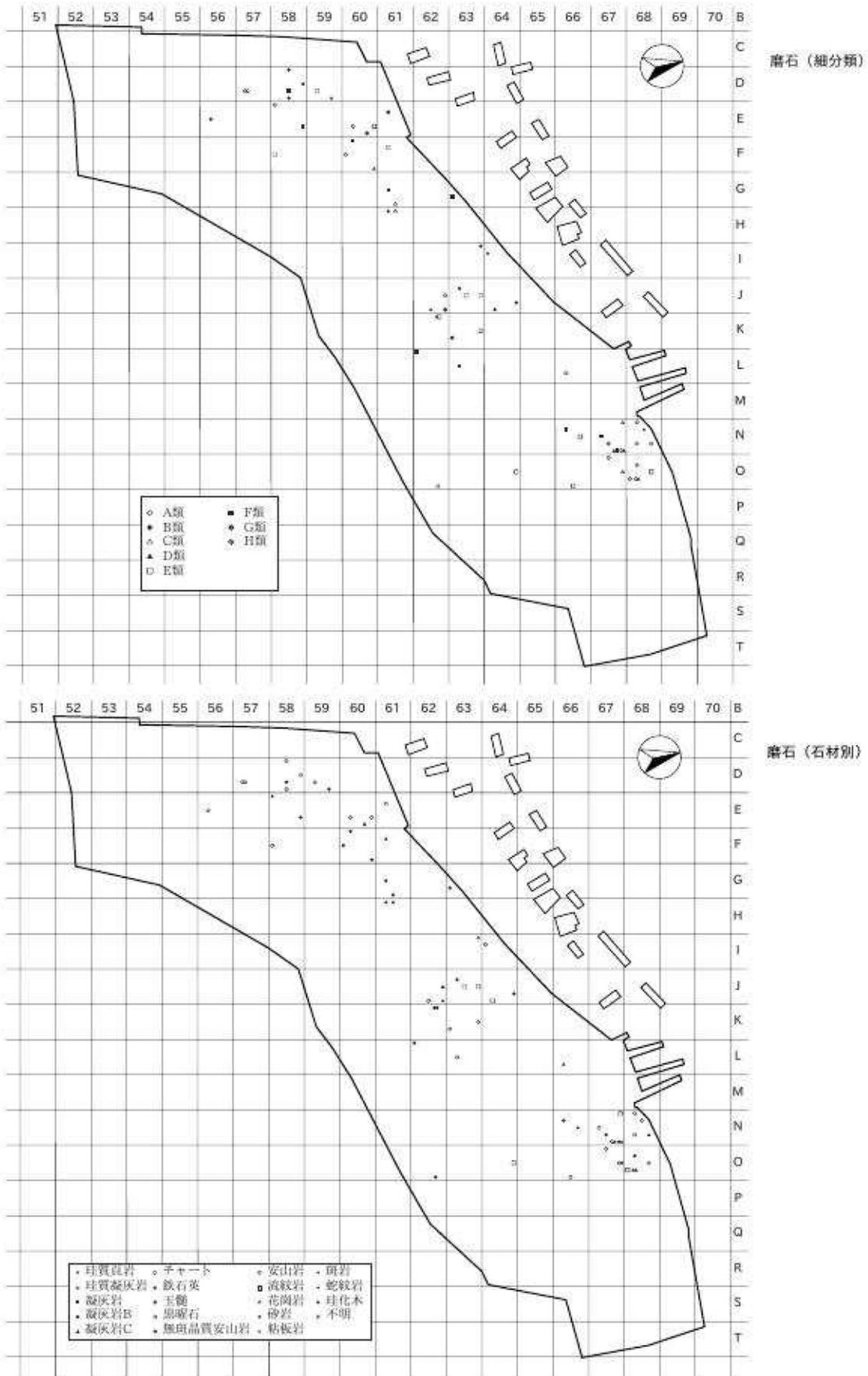
特殊磨石(細分類)

	安山岩	砂岩	流紋岩	花崗岩	珉岩	合計
A	5	2			3	10
(A)	3				2	5
B	4	1			1	6
(B)		1				1
C	4	1			2	7
(C)	2					2
D	4	4	2	1	5	16
E		1				1
F	2	1				3
(F)					1	1
G		1			2	3
(G)		1				1
H		3			4	7
(H)		1				1
合計(点)	24	17	2	1	20	64
総重量(g)	16984.1	12636.2	1874.3	977.4	16158.5	48630.5

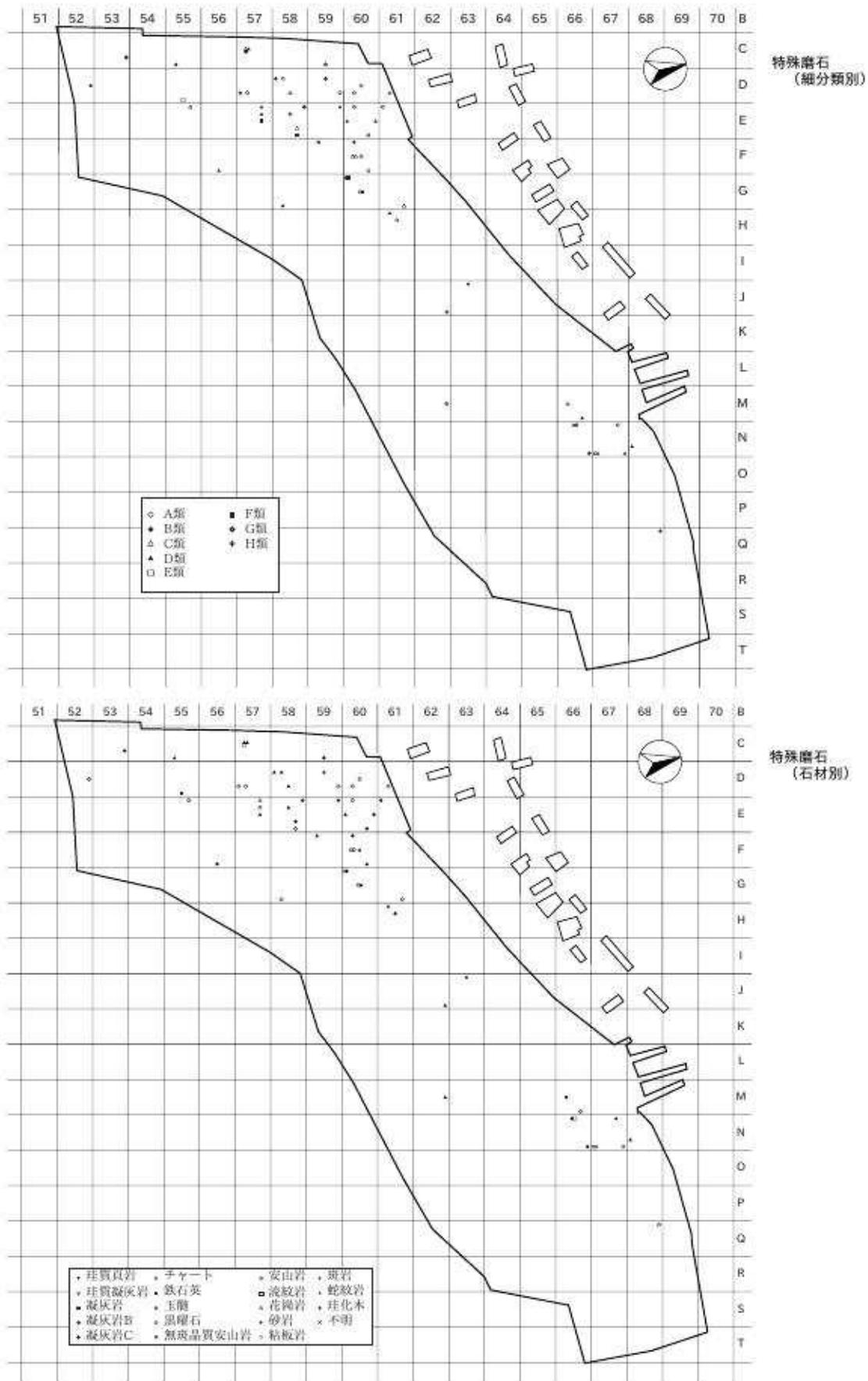
第2表 出土石器組成表



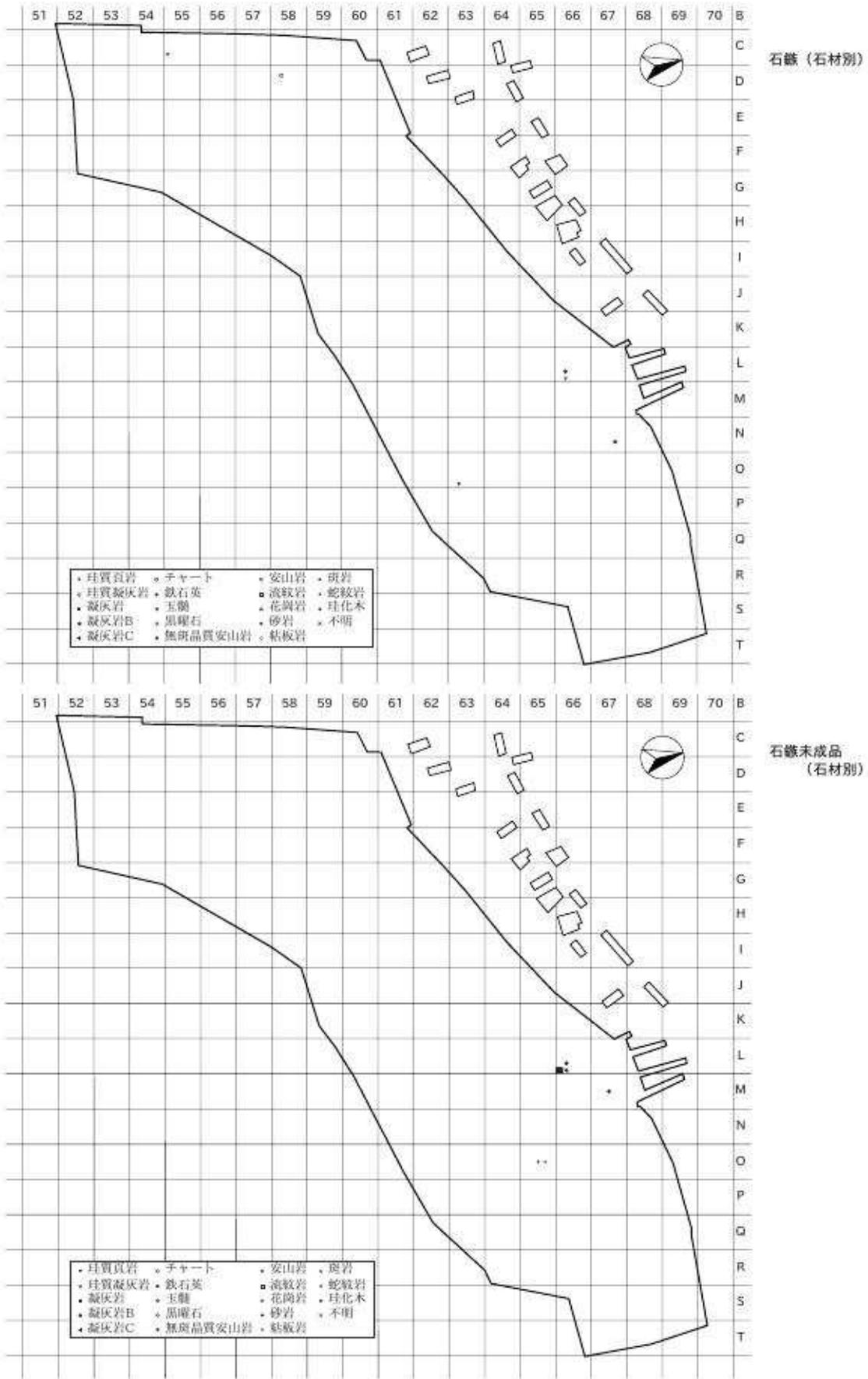
第10図 不定形石器分布図



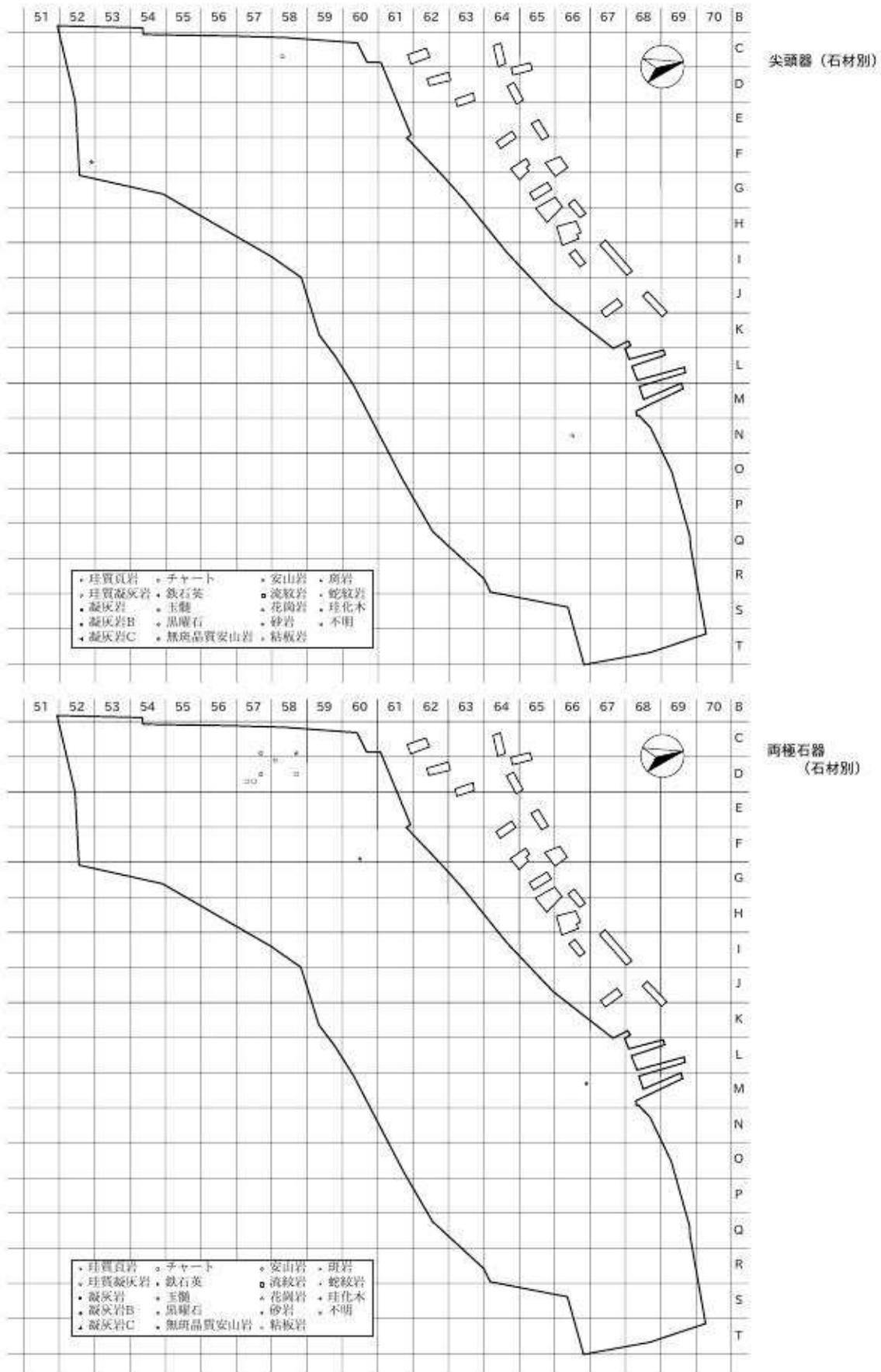
第11図 磨石類分布図



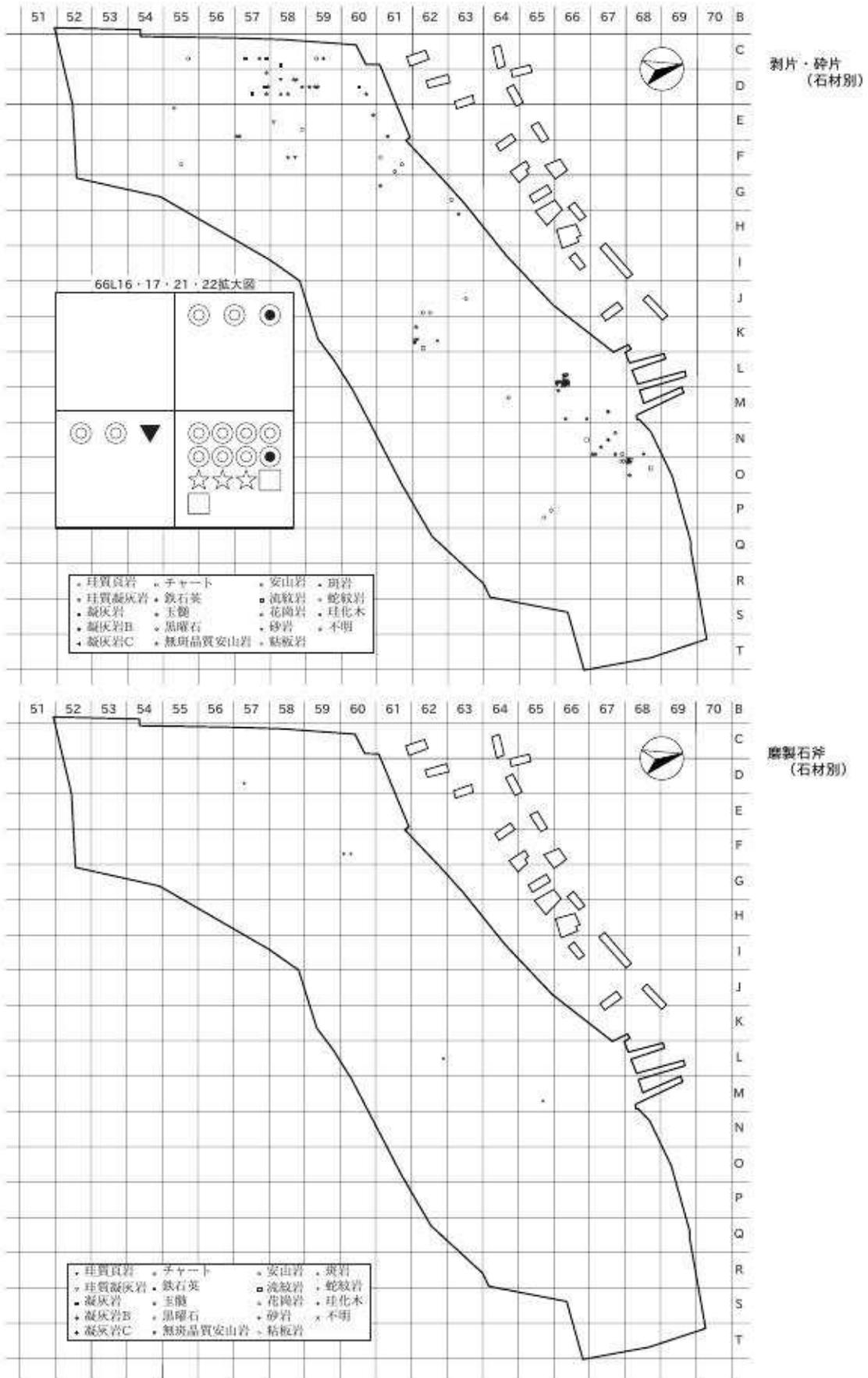
第12図 特殊磨石分布図



第13図 石鏃・石鏃未成品分布図

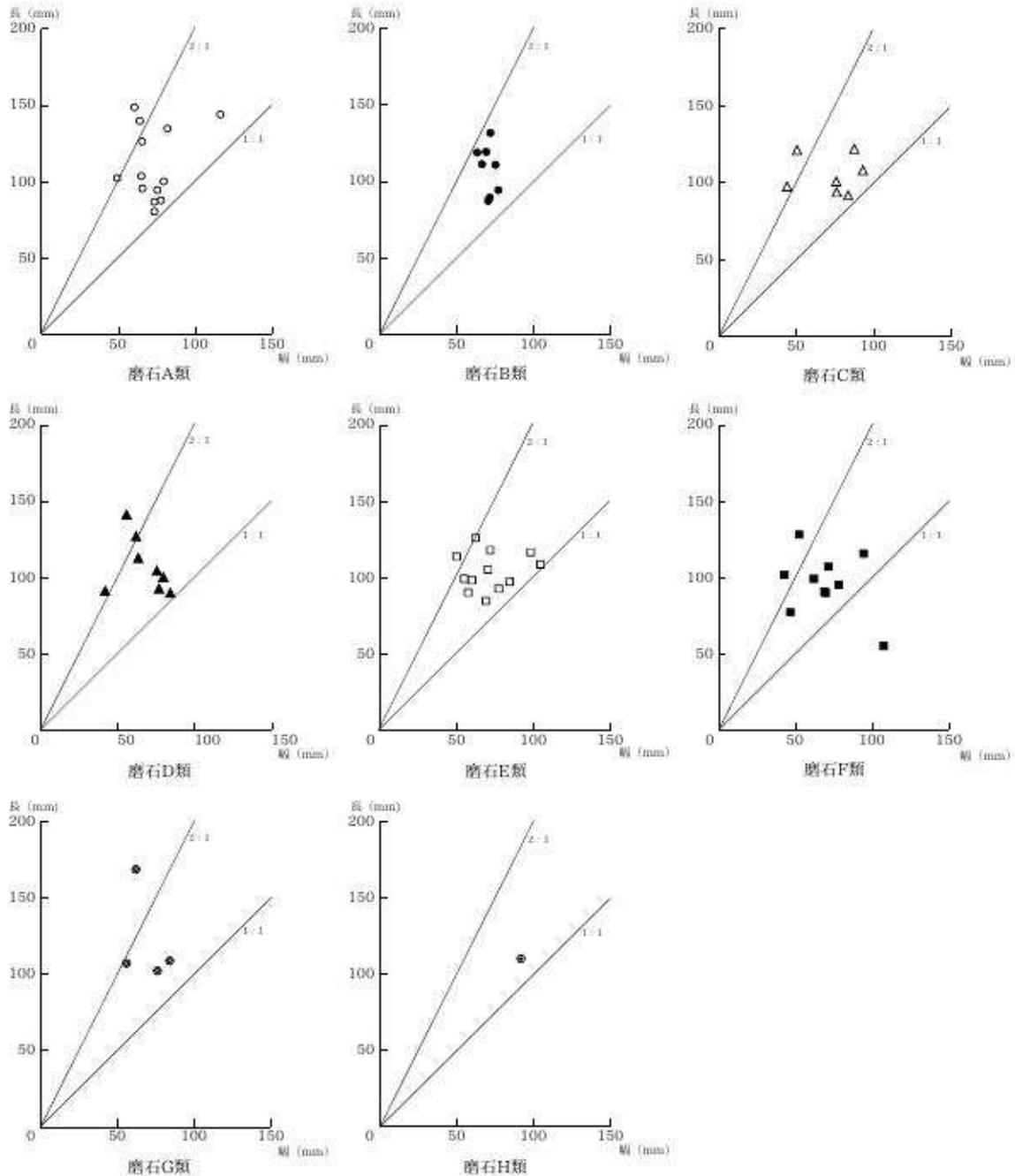


第14図 尖頭器・両極石器分布図



第15図 刻片・碎片・磨製石斧分布図

3 石 器



第16図 磨石類長幅分布図

※完形品を対象としてグラフを作成した。

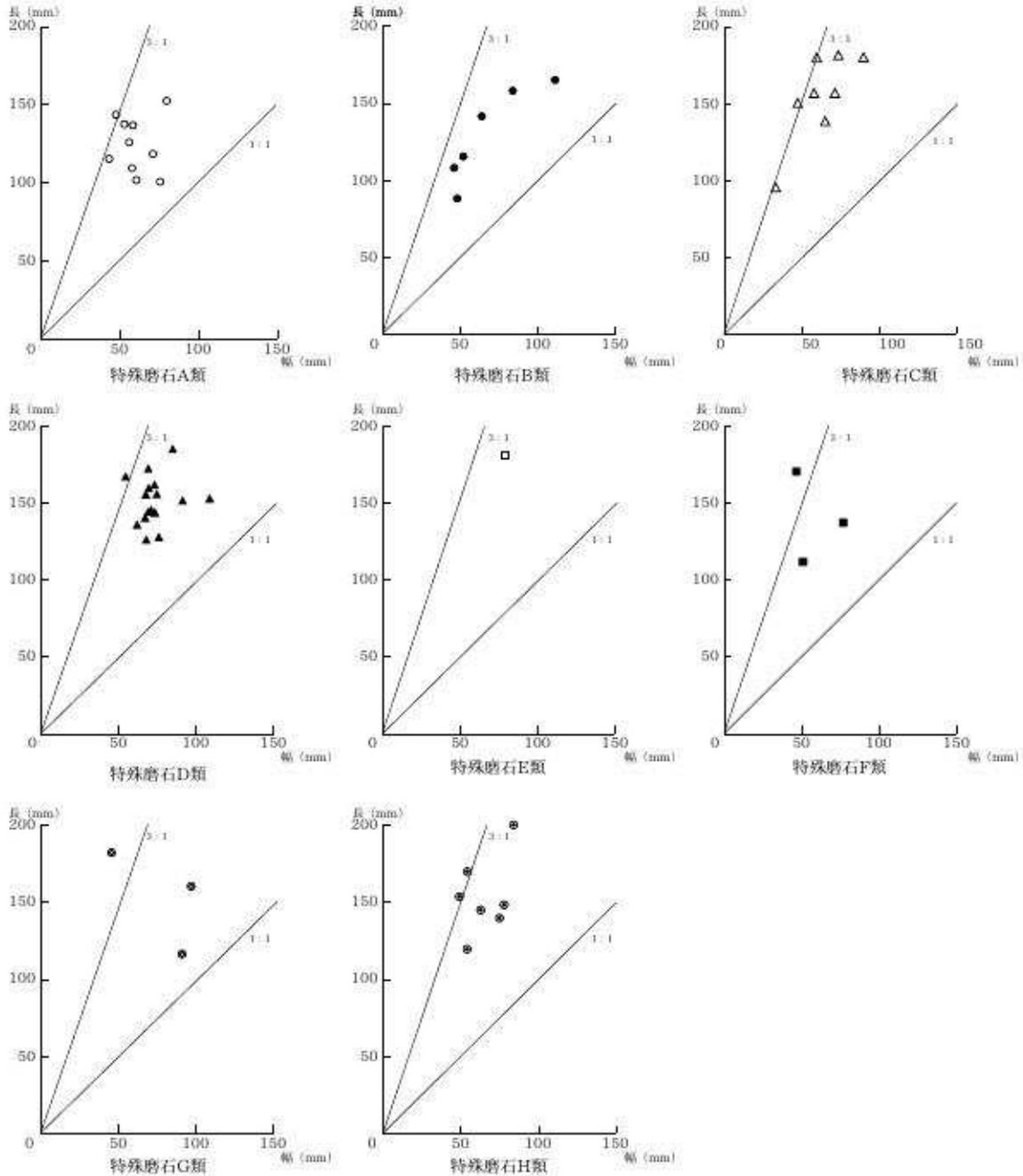
で、地質的な年代とは符合しない。

75は両側縁に節理に沿って割れた面が残存しており、そこに剥離が加えられているが鋭利な刃部になっていない。このため未成品とした。

剥片・碎片 剥片71点、碎片5点が出土した。

磨製石斧(76~79) 76・79は下半分を破損しているが、稜線をきっちり作り出す丁寧な磨きが行われている。77は透明感があり、大ききの割に重い石材を用いている。両側縁にツブレが認められる。研磨後の剥離面が多いが、剥離面の中に光沢が認められる部分もある。特に表面右上の広い剥離面では顕著である。破損後、再度磨きを施し再生を図っていた可能性がある。78は円礫を素材としている。

磨石類(80~109) 磨石類は66点出土し、A~H類に分類した。石材組成、分類組成は第2表に、



第17図 特殊磨石長幅分布図

※完形品を対象としてグラフを作成した。

分布は第11図、法量散布図は第16図に示す。

A類は11点、A類と推定されるもの4点が出土した(80~85)。80には石核状の割れ口がある。

B類は8点出土した(86~89)。87・89の側面には特殊磨石のような磨面がある。

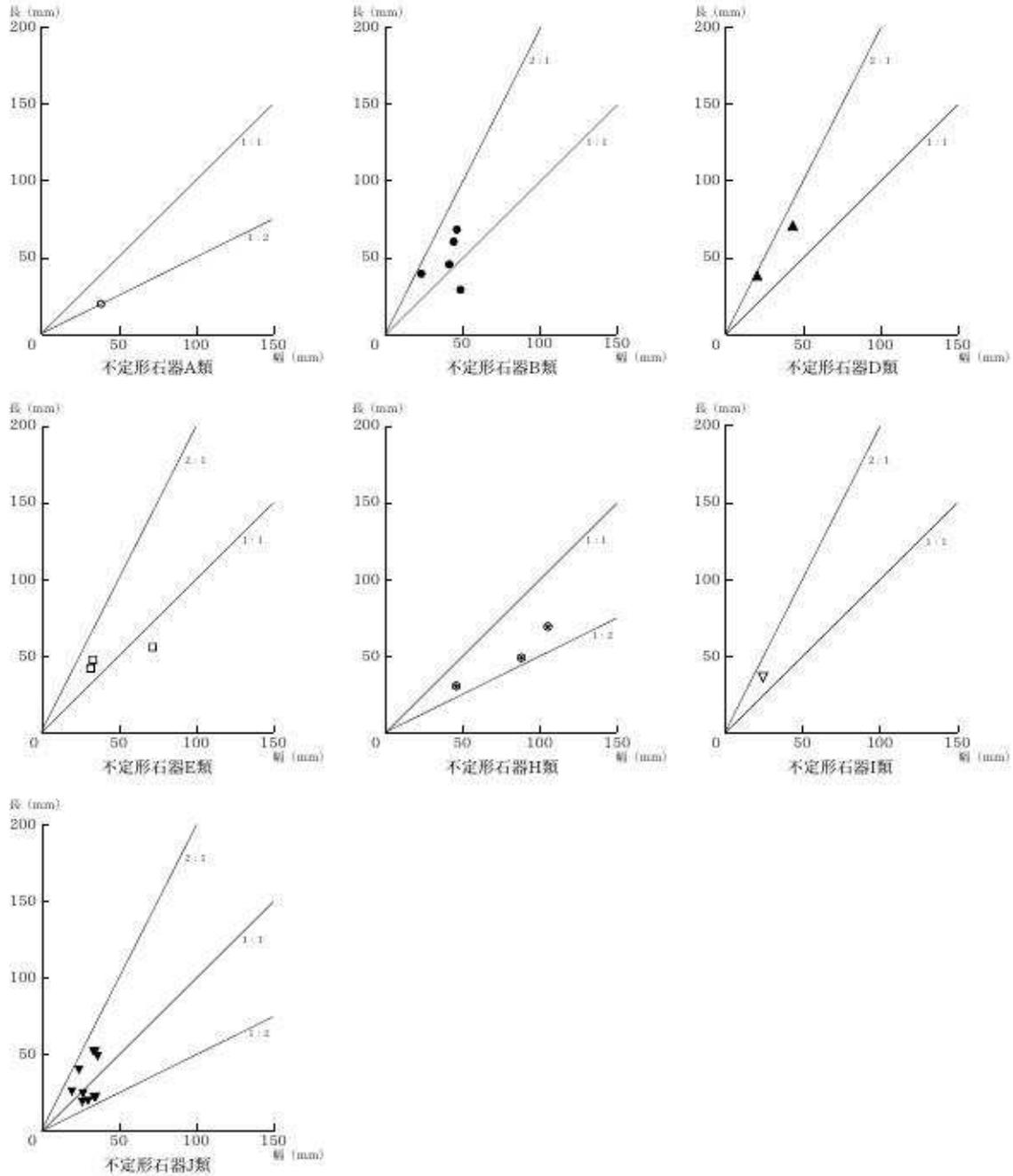
C類は7点、C類と推定されるもの1点が出土した(90~92・95)。90の磨面中央には幅2mm程度のごく浅い擦痕状の磨り面が認められる。

D類は8点出土した(93・94・96~99・101)。97の窪み痕は小さい点状の窪みの集合である。

E類は11点出土した(100・102・103・106)103の窪み痕は浅い皿状である。

F類は10点出土した(104・105・107)。107の窪み痕は削れてきたような印象である。

G類は4点出土した(108)。108は被熱により生じたと推定されるヒビが全面にある。



第18図 不定形石器長幅分布図 ※完形品を対象としてグラフを作成した。

H類は1点出土した(109)。109は上下に打ち欠きがあり、石鏟状になっている。

特殊磨石(110~151) 特殊磨石類は64点出土し、A~H類に分類した。石材組成、分類組成は第2表に、分布は第12図、法量散布図は第17図に示す。

A類は10点、A類と推定されるもの5点が出土した(110~113)。113右側面の磨面は凹凸がある。

B類は6点、B類と推定されるもの1点が出土した(114~118)。117は扁平で表面の磨面も平滑で広いので、台石としても利用されていた可能性がある。

C類は7点、C類と推定されるもの2点が出土した(119・120・122・123)。

D類は16点出土した(121・124~136)。端部の敲打痕は磨面の状態に似るもの(125~128・135)と剥離のあるもの(124)、窪み痕の様になっているもの(129~134・136)がある。132の末端は節理

で破損しているが、節理に付着している柱状の挟在物が半分程度剥落している。意識的に除去された可能性もある。133表面の磨面は浅い皿状になっている。

E類は1点出土した(137)。

F類は3点、F類と推定されるもの1点が出土した(138・140・141)。

G類は3点、G類と推定されるもの1点が出土した(139・142～144)。142・144は三角錐に近い形態の礫を素材として、その頂部に窪み痕がある。

H類は7点、H類と推定されるもの1点が出土した(145～151)。145は末端の敲打により裏面に大きな剥離痕が残る。147の窪み痕は小さい点状あるいは線状の窪みの集合である。150末端は深く窪んでいる。151は全体が剥落したようになっている。

台石(152) 表裏に磨面があるが、表面の磨面はざらつき、裏面は平滑できめ細かい。上下の打ち欠きは磨り面より後のものである。

砥石(153) 表表面及び側面に磨面がある。破損後、表面上側に調整が施されているが、剥離後の研磨作業は行われていない。砥面は平滑できめ細かい。

第V章 縄文時代以降の調査

1 遺 構 (図版10・11・40・41)

A 概 要

古墳時代の土坑1基、平安時代の掘立柱建物1基、炭窯3基が検出された。検出面はIV層赤倉火砕流上面である。

B 各 説

16SK1 平安時代の炭窯(16SJ1)の下部から検出されたため、元の形状は不明である。残存する土坑西側から古墳時代の甕1点(第19図)が潰れた状態で出土した。

1号掘立柱建物 長軸364cm、短軸352cmを計る。長軸はほぼ南北方向を指す。東西壁に3本ずつ、中央に2本の柱穴列が並ぶ総柱建物である。

炭窯 3基検出された。いずれも長方形の浅い皿状を呈し、調査区東側の尾根斜面部に構築されている。長軸方向が斜面に対し直行するように構築されている。

7SJ3 中央に幅20cmほどの浅い溝状の掘り込みがある。覆土に多量の炭を含む。

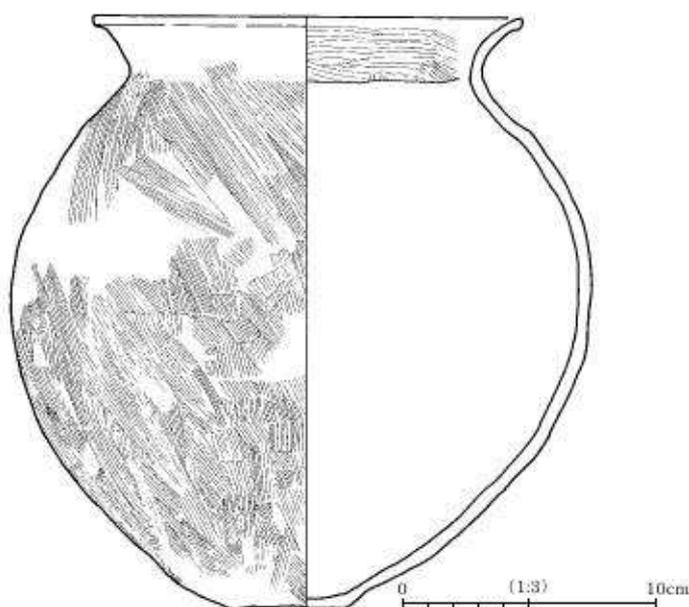
17SJ2 覆土に大量の炭化材を含む。北壁に突起状の出っ張りがあるので7SJ3同様、溝状の掘り込みがあった可能性がある。

16SJ1 覆土に焼山火山灰(KG-c)を含む。北壁に突起状の出っ張りがあるので7SJ3同様、溝状の掘り込みがあった可能性がある。

2 遺 物 (第19図・図版53)

包含層から古墳時代・平安時代の遺物は出土せず、16SK1の覆土から古墳時代の土師器の甕が1点出土した。

1は口径16.8cm、器高23.4cmを計る。外面と内面の口縁部はハケ目、体部内面はナデ調整である。底部外面は削りで調整されている。外面体部に厚く炭化物が付着する。古墳時代前期初頭に属する。



第19図 16SK1出土 土師器甕

第Ⅵ章 ま と め

1 縄文時代

関川谷内遺跡B地点は妙高山麓東側裾部の尾根上に立地し、赤倉火砕流堆積物に覆われた黒色土（Ⅴ層）から縄文時代早期～前期の遺構・遺物が出土した。遺構はⅤ層直下の田口岩屑なだれ堆積物を確認面として、住居跡1基・集石3基・集石土坑5基・フラスコ状土坑6基・土坑68基・石器製作跡1か所が検出された。住居跡と石鏃製作跡は比較的近接しており、関連があるのかもしれない。検出された住居跡が1基なので集落とは言い難いが、貯蔵穴と目されるフラスコ状土坑が検出され、磨石や特殊磨石なども多く出土しているので、なんらかの加工作業をしながらある程度の期間居住した場所であったと推定される。

A 縄文土器

1) 概 要

縄文土器は早期から後期の土器が出土した。早期～前期後葉の土器はⅤ層、前期中葉以降の土器はⅠ～Ⅲ層に包含される。主体となるのは早期末～前期初頭の土器である。

早期には押型文系土器群がある。

早期末～前期初頭の土器は絡条体圧痕文系土器群・羽状縄文系土器群に大別され、羽状縄文系土器群には塚田式に比定される隆帯貼付の土器が存在する。両者の前後関係を出土層位から分けることはできない。胎土はいずれも繊維を含み、内面調整に条痕・擦痕・ナデいずれかを用いる点も共通している。妙高山麓周辺の早期終末から前期初頭につながる過渡的な様相を示す土器群と捉えられる。今回は早期～前期初頭の幅をもたせて報告するが、今後の事例増加を待って、共伴・細分の可能性の検討が必要な土器群である。

前期は、前葉にニツ木式～関山Ⅱ式並行、中葉に有尾式並行、後葉に諸磯b式の土器がある。

中期以降は破片が多く詳細は不明であるが、後期後葉までの土器が少量出土した。

以下、主体となる早期から前期の土器についてまとめる。

2) 早期（Ⅰ群）土器群について

A類押型文系土器群では15SK73で一括資料（図版12-1～5）が得られたほか、6のような原体を回転せずに押圧した手法をもつものが出土した。

1は穀粒状の楕円文と山形文の併用施文で、口縁部楕円文部分にみられる鋸歯状施文が特徴的である。類例は六日町長表遺跡〔田辺1986〕や長野県信濃町七ツ栗遺跡〔中島ほか2000〕にある。異方向の施文という点では関川谷内遺跡A地点にも口縁に横位、口縁部に縦位の楕円文が施文される例があるが、文様構成は異なる。楕円文と山形文の密接併用、繊維の混入という点から「卵ノ木第Ⅱ類型」〔小熊1997a〕に位置付けられる。「卵ノ木第Ⅱ類型」は新潟県内の変遷案〔小熊1997b〕の第3期でも後半に相当する可能性が高い〔小熊1997a〕。

6は楕円文原体を回転せずに押圧した手法をもつもので、今のところ県内に類例はない。胎土に微量の

繊維を含むので、時期的には1と同様に新潟県内の変遷案〔小熊1997b〕の第3期に位置付けられよう。

3) 早期末～前期初頭（Ⅱ群）土器群について

a 絡条体圧痕文系土器群について

絡条体圧痕文系土器群とするのは主にⅡ群A類である。破片資料が多いため、全体の器形や文様構成についての詳細は不明である。施文されている絡条体は全般的に巻き上げる撚紐が細かいものを主とする。絡条体圧痕文は口縁部付近に横位または斜位（鋸歯状）に直線的に施され、横位の貼付隆帯を巡らすものもある。内外面の条痕調整は顕著ではなく、施されないものもみられる。器壁は概して薄手のものが多い。このような特徴から、絡条体圧痕文系土器群の中でも「後半期」〔小熊2000〕に位置付けられる。さらに、回転縄文を併用するA類1種のようなものも見られることや、A類2種に絡条体の半置反転的な手法が認められることから、早期最終末の土器群の可能性が高い。

なお、A類3種に分類した35は芋虫状圧痕が施されていることから、「前半期」〔小熊2000〕に属する可能性があるが明瞭ではない。

A類5種に分類した49は口唇部に絡条体、口縁外面端部に縄の側面圧痕が施文されており、注目される。原体縄は複節原体である。複節原体の圧痕は東北地方南部の早期末に認められるが、当地域では類例がない。なお、複節原体はA類1種に分類した28・29の地文の回転縄文にも使用されている。

b 羽状縄文系土器群について

羽状縄文系土器群とするのはおもにⅡ群B～I類である。このうち特徴的なのはB類1・2種である。B類1種は隆帯及び胴部に施される縄文の特徴から、前期初頭の長野県地方を中心に分布する塚田式〔下平1994〕に比定される。塚田式土器はこれまで千曲川水系を中心とし東信地方に濃密に分布するのが確認されていたが〔下平1994〕、今回の出土により分布域が拡大するのが明らかとなった。

B類2種はつまみ痕を施文の手法として用いるが、これは時期的にやや新しい手法と推測される。

地文のみではE～G類がある。このうち内面に条痕が施されるE1類、F1類、G1類はA類絡条体圧痕文を施文とする土器群に伴うものと考えられる。なかでも外面縄文、内面条痕の縄文条痕土器は絡条体圧痕文土器の最終末段階〔小熊1989〕に存在する土器であり、本土器群の編年的位置付けを行う目安となる。また、絡条体の半置反転的な手法の存在から、F類の撚糸文の中には絡条体を回転したものが含まれていると推定される。G類の条痕にもA群の絡条体原体の引きずりによる条痕が含まれている可能性がある。

E類には斜縄文、羽状縄文がある。羽状縄文では菱形状の構成となるものがあるが、これは塚田式の特徴のひとつとして捉えられる〔下平1994〕。

本群の縄文の特徴は、単節縄文を主体としながら0段多条あるいは直前段3段撚りなどの縄も使用されること、縄の端部処理部分が回転によりループ状に見える土器が散見されることが挙げられる。

最後にE類4種とした口縁部内面に縄文が施文される土器の位置付けについて触れておく。表裏縄文土器のまとまった資料としては長野県信濃町東裏遺跡・日向林遺跡などがあり、いずれも草創期終末から前期初頭に位置付けられている〔中島ほか2000〕。同様の土器は関川谷内遺跡A地点でも出土しており、その位置付けは「押型文系土器群I群に先行するか、その時期に一部並行する可能性が考えられる」〔小池1998c〕とされている。中ノ沢遺跡でも表裏縄文土器が出土しており、押型文土器と共伴する可能性が

指摘されている。同時に新潟県における表裏縄文が最終的には早期後半まで存在する可能性も示唆され、最終的な位置付けは保留されている〔寺崎1997〕。関川谷内遺跡B地点の土器は他のⅡ群土器と同様に胎土に繊維を含み、出土層位も区別されない。胎土に繊維を含む点で、上記遺跡出土土器とは異なる。早期末葉～前期初頭の富山県極楽寺遺跡のように内面に縄文と条痕が併用される例もあるので〔富山県教育委員会1965〕、E類4種土器も絡条体圧痕文系土器群など条痕を用いる土器群と共存する可能性が高い。

4) 前期土器群について

前期土器群は前葉(Ⅲ群)・中葉(Ⅳ群)・後葉(Ⅴ群)に大別される。

Ⅲ群は羽状縄文系土器群で結束を持つ羽状縄文やループ文がみられるA～C類と、櫛歯状工具による刺突が施されるD類に大別される。A類は結束羽状縄文を特徴とする布目式並行の土器である。B類は上げ底の底部と爪形文の連続刺突を特徴とする。C類はループ多段構成、体部に斜縄文をもつ。B・C類はニツ木式～関山Ⅰ式並行とみられる。D類は櫛歯状工具の使用から、長野県地方の神ノ木式との関連が考えられる。

Ⅳ群は有尾式並行の土器である。関川谷内遺跡A地点と同様に、赤倉火砕流より下位のⅤ層から出土した。305は大木2式的な土器であるという指摘がある¹⁾。

Ⅴ群は諸磯b式の土器である。幾何学模様の施文された深鉢と、無文のいわゆるUFO型の浅鉢がある。

5) 小 結

以上、関川谷内遺跡B地点出土土器についてまとめたが最後に問題点と課題について整理しておく。

今回出土した土器のうち今後特に検討を要するのはⅡ群土器の編年的位置付けと、細分である。大きくは早期末～前期初頭で捉えられる土器群であるが、絡条体圧痕文系土器群と羽状縄文系土器群、とりわけ塚田式土器との時間差を認めるのか、あるいは共伴の可能性があるのか、その場合前期と早期の線引きをどこで行うのか、という問題については事例の増加を待って検討する必要がある²⁾。

B 石 器

石器は包含層から288点、遺構から107点が出土した。石器の所属時期は土器の主体的な時期である早期末～前期初頭に属すると考えられる。石器には尖頭器・石鎌・両極石器・不定形石器・剥片・碎片・磨製石斧・磨石類・特殊磨石・台石・砥石がある。磨石・特殊磨石が多い点特徴で、両者で包含層出土石器の45%を占める。

4SX3では石鎌製作にかかわる資料が出土した。厚手の剥片を素材として石鎌を製作している。両極剥離も利用されていたようである。4SX3から40mほど離れた尾根の反対斜面から同一母岩の石鎌が出土しているので、製作後あまり遠出しないうちで使用していた可能性がある。

縄文時代の不定形石器のなかで報告した73は旧石器時代のナイフ形石器の可能性もある。形態的には横長の剥片を素材とする瀬戸内系石器群〔麻柄1994〕の流れを引く石器である。しかし、地質的には田口岩層なだれ堆積物(7,780±160y.B.P.)の上位から出土しているので確証はない。

1) 谷藤保彦氏ご教示。

2) この問題については塚田遺跡報告書中において梨久保遺跡出土の縄文施文の土器が早期末の範疇で捉えられること、塚田式土器についても早期末にかかる部分もちょうどという考えが示されている〔中沢1994〕。

2 平安時代

遺物は出土しなかったが、掘立柱建物1基、炭窯3基が検出された。

炭窯1基には約1,000年前に降灰した焼山火山灰(KG-c)の堆積がみられた。同形の炭窯はA地点〔小池ほか1998〕や中郷村郷清水遺跡などでも検出されており〔立木(土橋)ほか1999〕、今回検出された炭窯も平安時代の妙高山麓一帯に築かれた炭窯のひとつといえる。

炭窯が多数検出された郷清水遺跡では基本的には焚き口が北、煙道が南に設定されていると推定した〔立木(土橋)ほか1999〕。理由としては妙高山麓の山裾では四季を通じて南北方向の風が多く〔細谷1978〕、この風向きを意識して長軸方向が決定されたと考えたからである。今回検出された炭窯だけではなくA地点で検出された炭窯も長軸を南北方向に向けているので、やはり風向きを意識して構築されたと考えられる。

掘立柱建物は遺物を伴わないので詳細な時期は不明であるが、近くに平安期の炭窯が構築されていること、関川谷内遺跡B地点I区や中ノ沢遺跡で平安期の竪穴住居が検出されていることなどから、これも平安期の建物跡と推定される。付近で土器などの生活用具が出土していないこと、総柱建物であることから倉庫のような性格の建物だった可能性がある。

要 約

- 1 関川谷内遺跡は新潟県南西部の中頸城郡妙高高原町大字関川に所在し、妙高山東麓の緩斜面に位置する。標高は600m前後であり、現況は山林であった。
- 2 調査は上信越自動車道妙高インターチェンジの建設に伴い、平成5年から7年の3か年に実施した。調査面積は総計42,000m²であり、このうちB地点のII区とI区の遺物の一部について本書で報告した。遺跡は上信越自動車道用地内にとどまらず、周辺に広がっていると考えられる。
- 3 調査の結果、縄文時代・古墳時代・平安時代の遺構・遺物が発見された。
- 4 縄文時代早期末～前期初頭の遺物・遺構が赤倉火砕流堆積物より下位の層から検出された。縄文土器は当地域でこれまでに発見例のない時期の資料として注目される。石器は磨石類を主体とする組成を示し、石鏃製作跡も検出された。
- 5 縄文時代の遺構には住居跡・集石土坑・集石・フラスコ状土坑などがあるが、集落が営まれた場所ではないようである。
- 6 古墳時代前期の甕1点が土坑から出土した。
- 7 平安時代の掘立柱建物1基と炭窯3基が検出された。同時代の遺物は出土していない。炭窯は妙高山麓一帯で検出されているものと同形態であり、この時代の山麓開発の一端を示している。

引用文献

- 小熊博史 1989 「縄文時代早期終末における絡条体圧痕文土器の一樣相—新潟県中魚沼地方の資料を中心に—」『信濃』第41巻第4号
- 小熊博史 1997a 「卯ノ木遺跡出土土器の研究Ⅰ—押型文土器の再検討—」『長岡市立科学博物館研究報告 32』長岡市立科学博物館
- 小熊博史 1997b 「新潟県における押型文系及び沈線文系土器群の樣相」『押型文と沈線文』シンポジウム本編 長野県考古学会縄文時代（早期）部会
- 小熊博史 2000 「新潟県における絡条体圧痕文土器群の樣相」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』縄文セミナーの会
- 加藤学・荒川隆史ほか 1999 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 上信越自動車道関係発掘調査報告書V 和泉A遺跡」新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 北村 亮 1990 「第三章 4 遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第56集 関越自動車道関係発掘調査報告書 岩原Ⅰ遺跡・上林塚遺跡』新潟県教育委員会
- 小池義人 1994 「上信越自動車道関係一次調査の概要」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成5年度（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人 1998a 「第Ⅰ章序説」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第90集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人 1998b 「第三章 1. 層序」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第90集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人 1998c 「第六章 Ⅰ.A. 早期の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第90集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人 2002 「第二章 遺跡をとりまく環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第108集 一般国道18号改築工事関係発掘調査報告書 小重遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人ほか 1998 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第90集 上信越自動車道関係発掘調査報告書 関川谷内遺跡Ⅰ」新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林達雄ほか 2000 「籠峰遺跡発掘調査報告書Ⅱ 遺物編」中郷村教育委員会
- 下平博行 1994 「Ⅳ総括 2 J—5号住居出土土器について」『塚田遺跡 長野県北佐久郡御代田町塚田遺跡発掘調査報告書』御代田町教育委員会
- 鈴木俊成 1996 「第七章 3 石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第72集 関越自動車道堀之内インターチェンジ関連発掘調査報告書 清水上遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木道之介 1991 『図録 石器入門事典 縄文』柏書房
- 高橋保雄 1990 「第四章 第2節 石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第55集 関越自動車道関係発掘調査報告書 清水上遺跡』新潟県教育委員会
- 滝沢規明 1995 「関川谷内B遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成6年度（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田辺早苗 1986 「Ⅳ 1 縄文時代の遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第43集 関越自動車道埋蔵文化財発掘

- 調査報告書「長表遺跡」新潟県教育委員会
- 親跡喬・野村忠司ほか 1996 『龍峰遺跡発掘調査報告書Ⅰ 遺構編』中郷村教育委員会
- 立木（土橋）由理子 1996 「第Ⅴ章 1 旧石器時代のナイフ形石器について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第75集 一般国道18号妙高野尻バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大堀遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立木（土橋）由理子・寺崎裕助ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第75集 一般国道18号妙高野尻バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大堀遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立木（土橋）由理子・寺崎裕助 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第83集 上信バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 萩清水遺跡・三本木新田B遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立木（土橋）由理子・寺崎裕助ほか 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第84集 一般国道18号妙高野尻バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 中ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 立木（土橋）由理子ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第94集 国道18号上信バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ 西福田遺跡・郷清水遺跡・上中島遺跡・上滝ノ沢遺跡・中の原D遺跡・窪畑B遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺崎裕助 1997 「第Ⅳ章 1.B.土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第84集 一般国道18号妙高野尻バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 中ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 富山県教育委員会 1965 『極楽寺遺跡発掘調査報告書』
- 中沢道彦 1994 「Ⅳ総括 1 塚田遺跡出土早期土器群について」『塚田遺跡 長野県北佐久郡御代田町 塚田遺跡発掘調査報告書』御代田町教育委員会
- 中島英子ほか 2000 『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 49 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 16-信濃町内 その2- 星光山荘A・星光山荘B・西岡A・貫ノ木・上ノ原・大久保南・東裏・裏ノ山・針ノ木・太平B・日向林A・日向林B・七ツ栗・普光田 縄文時代～近世』日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター
- 早津賢二 1985 「妙高火山群を構成する各火山の地質」『妙高火山群—その地質と活動史—』第一法規出版
- 早津賢二 1994 「新潟焼山火山の活動と年代—歴史時代のマグマ噴火を中心として—」『地学雑誌』Vol.103 2（社）東京地学協会
- 早津賢二 1995 「妙高山—赤倉火砕流の¹⁴C年代—」『遺跡遺跡Ⅱ』新潟県妙高村教育委員会
- 早津賢二・小島正巳 1985 「火山噴出物と先史時代遺物包含層との層位関係」『妙高火山群—その地質と活動史—』第一法規出版
- 早津賢二・古川成光 1981 「妙高山赤倉火砕流堆積物と田口泥流堆積物の¹⁴C年代」『第四紀研究』20 日本第四紀学会
- 細谷 一 1978 「第一章 5 気候」『中郷村史』中郷村史編集会
- 室岡 博・早津賢二 1986 『中古遺跡』妙高村教育委員会
- 山本正敏 1994 「北陸における早期末葉～前期初頭の土器群」『第7回 縄文セミナー 早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 麻柄一志 1994 「中部地方及び東北地方日本海側の瀬戸内系石器群について」『瀬戸内技法とその時代』中・四国旧石器文化談話会

遺構

観測 図号	時代	遺構No	グリッド	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	遺物	備考
6	縄文	4SI1	66M21～23, 66N1～3	390	340	38	縄文土器No.208, 割片No.23, 特殊磨石No.24・25	加痕?
6	縄文	5号集石土坑	61P9	150	100	34		
6	縄文	6号集石土坑	61F8・13	150	119	62		
6	縄文	4号集石土坑	67N3・4	166	158	35		
6	縄文	3号集石土坑	68N13・14	88	82	30		
6	縄文	1号集石土坑	69S3・4	106	102	38		
6	縄文	1号集石	61F12・13・18	230	200	—		
6	縄文	2号集石	67N16・21	55	50	—		
6	縄文	3号集石	68N24, 68O4・5	280	160	—		
7	縄文	20SK69	54C21・22	60	52	26		
7	縄文	20SK55	60D21	62	38	28	縄文土器(V中層)2点	
7	縄文	20SK56	60E2	46	42	28		
7	縄文	20SK50	59E14	70	56	26		
7	縄文	20SK51	59E14・15	52	48	25		
7	縄文	2SK1	68Q13	82	74	50		
7	縄文	15SK73	52D3・4・8・9	57	48	25	押型文土器No.1・No.2～5(V下層)	
7	縄文	20SK65	55D6	72	58	22		
7	縄文	20SK75	55E1・2	82	62	24		
7	縄文	20SK74	55E7	54	46	28		
7	縄文	20SK40	58D20	100	90	20	縄文土器(V上・下層)3点	
8	縄文	20SK12	59E7・12	106	65	22		
8	縄文	20SK10	59E12・13	103	60	20		
8	縄文	20SK18	60F19	130	128	24	縄文土器(V上層)1点	
8	縄文	20SK7	58F7～9・12～14	452	200	36		
8	縄文	20SK9	58E25, 58F5	190	70	22		
8	縄文	20SK1	59H16	100	68	24		
9	縄文	6SK1	63M19	96	83	39		
9	縄文	18SK4	64M18・23	120	56	20		
9	縄文	18SK5	63N4・5・9・10	73	57	11		
9	縄文	18SK3	64N9	50	44	12		
9	縄文	18SK2	64N6・7	65	58	32	縄文土器(V中層)1点	
9	縄文	18SK1	65O11	82	66	37		
9	縄文	18SK6	62N20・25, 63N16・21	73	58	24		
9	縄文	17SK4	64Q13・14	94	32	29		
9	縄文	17SK5	64Q12	72	54	15		
9	縄文	17SK6	64Q8・13	116	44	46		
10	縄文	3SK1	66O20, 67O16	185	165	14	縄文土器No.149・157・185・223	
	縄文	4SX2	66M4・5・7～10・12～14・ 17・18	750	420	30	特殊磨石No.22	
	縄文	4SX3	66L17・21・22				縄文土器No.125・151・169・198, 石鏃等No.1～21	石鏃製作跡
	縄文	20SK21	60D9・14	76	60	16	縄文土器(V下層)2点	
	縄文	20SK26	58C25	50	42	—	縄文土器No.275(V中層)	
	縄文	20SK28	58C24	50	34	20	縄文土器No.220(V上層)	
	縄文	20SK30	58C23	60	36	12	縄文土器No.290(V中層)	
	縄文	20SK32	58D8	52	42	—	縄文土器(V中層)4点	
	縄文	20SK34	58D15	60	46	14	縄文土器(V中層)1点	
	縄文	20SK52	59E15	48	46	16	縄文土器No.242(V下層)	
	縄文	20SK57	60E2	46	44	12	特殊磨石A類(V下層)	
	縄文	20SK61	58D6	76	48	14	縄文土器(V中層)1点	
10	古墳	16SK1	67S9・13・14・19	354	188	35	甕1点	
10	平安	Pit1	66K12	33	32	32		
10	平安	Pit2	66K6	46	36	14		
10	平安	1号掘立柱建物 (5SB1)	65K9・10・14・15 66K6・11	364	352	—		
10	平安	5SB1-Pit3	66K11	44	33	20		
10	平安	5SB1-Pit4	65K14	37	30	12		
10	平安	5SB1-Pit5	65K15	34	31	12		
10	平安	5SB1-Pit6	65K14	32	30	12		
10	平安	5SB1-Pit7	66K6	58	36	30		
10	平安	5SB1-Pit8	65K10	38	32	14		
10	平安	5SB1-Pit9	65K9	48	42	23		
10	平安	5SB1-Pit10	65K15	36	24	—		
11	平安	7SJ3	61K1・2・6・7	334	147	25		
11	平安	17SJ2	66P21～24, 66Q3	506	174	58		
11	平安	16SJ1	67S13～15	390	185	42		

※遺物欄で()内に層位を記したものは、記載した層位から出土した遺物であるが、平面位置から遺構作出の可能性が考えられることを示す。作出の可能性については発掘調査時に行ったものである。

※遺物欄で遺物種類の後に記載したNoは本報告書掲載の図面Noである。

土器

土器

図No.	遺物No.	大グリ ソッド	小グリ ソッド	層位	部	分類	胎土	織産	焼成	色調	文様	備考
1	52D-25他	52D	4	15SK73	I	A	白砂 英 長	有		にぶい褐	楕円・山形密接・口縁斜位	
2	52D-22他	52D	9	V下(15SK73?)	I	A	白砂 英 長	有		にぶい褐	楕円密接(山形並列?)	
3	52D-3	52D	9	V下(15SK73?)	I	A	白砂 英 長	有		にぶい褐	楕円密接	3~5同一個体?
4	52D-2	52D	9	V下(15SK73?)	I	A	白砂 英 長	有		にぶい褐	楕円密接	3~5同一個体?
5	52D-4	52D	9	V下(15SK73?)	I	A	白砂 英 長	有		にぶい褐	楕円密接	3~5同一個体?
6a	47B-13	47B	18	V中	I	A	英 黒雲母	有		橙	楕円密接。一部原体側面圧痕	
6b	47B-9	47B	19	V下	I	A	英 黒雲母	有		橙	楕円密接。一部原体側面圧痕	
6c	47B-25	47B	24	V下	I	A	英 黒雲母	有		橙	楕円密接	
6d	47B-10	47B	24	V下	I	A	英 黒雲母	有		にぶい橙	楕円密接	
6e	47B-11	47B	24	V下	I	A	英 黒雲母	有		にぶい橙	楕円密接	
6f	47B-8	47B	24	V下	I	A	英 黒雲母	有		にぶい橙	楕円密接	
6g	47B-18	47B	23	V中	I	A	英 黒雲母	有		にぶい橙	楕円密接	
6h	47B-19	47B	23	V下	I	A	英 黒雲母	有		にぶい橙	楕円密接	
7	66N-4	66N	11	V下	I	A	白砂 英 長	有		橙	楕円密接	
8	56F-7	56F	18	V	II	A1	白砂 角	有		明褐	口唇丸棒状工具側面圧痕。口縁に沈線。陸帯土絡条体側面圧痕	内面指頭圧痕
9	56E-21	56E	8	V上	II	A1	白砂 角	有		明褐	口唇丸棒状工具側面圧痕。口縁に沈線。陸帯土絡条体側面圧痕。絡条体L	内面指頭圧痕
10	54E-4	54E	12	V上	II	A1	白砂 角	有		褐	口唇沈線。口縁に沈線。陸帯土絡条体側面圧痕。絡条体R	
11	61L-1	61L	20	V下	II	A1	白砂 角	有		明褐	口唇・口縁・陸帯上に絡条体側面圧痕。陸帯以下縄文RL横	内面擦痕
12	58D-166	58D	24	V中	II	A1	白砂 チヤ	有		明褐	口唇・口縁絡条体側面圧痕。絡条体L	28・29と同一個体?
13	62L-6	62L	17	V	II	A1	白砂 角	有		黒褐	口唇・口縁・陸帯上絡条体側面圧痕。陸帯下縄文。絡条体R	波状口縁。内面条痕
14	58D-155	58D	15	V上	II	A1	白砂	有		黒褐	口唇丸棒状工具側面圧痕。口縁絡条体側面圧痕。絡条体r	
15	54E-2	54E	24	V上	II	A1	チヤ	有		明褐	口縁・陸帯上絡条体側面圧痕	内面条痕
16	58F-21	58F	10	V下	II	A1	白砂 英 長	有		橙	地文RL横	
17	61H-3	61H	8	V中	II	A1	チヤ 白砂	有		明褐	口縁・陸帯上絡条体側面圧痕。口縁斜位沈線。絡条体L	
18		不明	不明		II	A1	チヤ 白砂	有		にぶい褐	口縁・陸帯上・下絡条体側面圧痕	
19	52C-3	52C	25	V中	II	A1	英 角	有	粗	浅黄橙	陸帯下絡条体側面圧痕	
20	59E-32 60D-3	59E 60D	16 1	V下	II	A1	チヤ 英 長	有		橙	体部絡条体側面圧痕。絡条体L	
21a	55F-24	55F	19	V中	II	A1	白砂多 英 長	有	粗	橙		器面荒れ激しい
21b	55F-13・16	55F	19	V中	II	A1	白砂多 英 長	有	粗	橙	上半縄文。下半無文?	器面荒れ激しい
22	57D-27	57D	24	V中	II	A1	英 長 白砂	有		暗褐	地文縄文RL-LR横。斜位・縦位の絡条体側面圧痕。絡条体R	
23	60F-111	60F	1	V中	II	A1	白砂	有		黒褐	絡条体R	
24	14Tr			V	II	A1		有		黒	地文縄文RL横	内面指頭圧痕
25	62L-44他	62L	15 14 19	V下	II	A1	英 長	有		橙	口唇絡条体圧痕	器面荒れ激しい
26	57D-30	57D	24	V中	II	A1	チヤ	有		明褐	地文縄文LR(細いRと太いRの合標)	断面に木の突刺痕数
27	57C-80	57C	18	V下	II	A1	白砂 英	有		褐	地文縄文LR横	内面擦痕
28	60E-5	60E	2	V下	II	A1	白砂 チヤ	有		明褐	地文縄文縦筋LLR。絡条体L	内面擦痕。12・29と同一個体?
29	59D-72・73	59D	11	V中	II	A1	白砂 チヤ	有		明褐	地文縄文縦筋LLR。絡条体L	内面擦痕。12・28と同一個体?
30	60E-25	60E	19	V下	II	A1	チヤ	有		浅黄橙	口唇絡条体側面圧痕。刺突?	
31	58E-3	58E	1	V中	II	A1	英 長 チヤ	有		橙	口唇絡条体圧痕	
32	58E-17	58E	14	V下	II	A1	英 角 白砂	有		橙	口唇絡条体圧痕。羽状縄文	
33a		59D		V	II	A2	玉髄 角 英	有		明褐	地文燃系R	内面指頭圧痕
33b		59D		V	II	A2	玉髄 角 英	有		明褐	口唇燃系側面圧痕。地文燃系R。絡条体R	内面指頭圧痕
33c	59D-30	59D	7	V中	II	A2	玉髄 角 英	有		明褐	口唇燃系側面圧痕。絡条体R	内面指頭圧痕

図No.	遺物No.	大グリッド	小グリッド	層位	群	分類	胎土	織理	焼成	色調	文様	備考
33d	59D-41	59D	7	V中	II	A2	玉髄 角 英	有		明褐	口唇縁側面圧痕、地文擦糸R、絡糸体半置反転、絡糸体R	内面指頭圧痕
33e	58D-13他	58D	9 12	V上・V中	II	A2	玉髄 角 英	有		明褐	地文擦糸	内面指頭圧痕
33f	59D-92他	59D	22	V下	II	A2	玉髄 角 英	有		明褐	絡糸体半置反転	内面指頭圧痕と条痕
33g	59D-245	59D	8	V下	II	A2	チャ 英	有		明褐	擦糸	内面指頭圧痕
34	58F-4	58F	5	V下	II	A2	英 長 角	有	粗	橙	擦糸	
35	68N-4	68N	21	V中	II	A3	英 長 白砂	有		橙	芋虫状の絡糸体側面圧痕	
36	59C-14	59C	16	V中	II	A2	白砂 長 角	有		明褐	口唇絡糸体圧痕、地文擦糸R	内面指頭圧痕
37	56D-11	56D	23	V上	II	A3	英 長	有		にぶい褐	口唇絡糸体圧痕、絡糸体L	内面条痕
38	60F-97	60F	24	V中	II	A3	チャ	有		褐	地文縄文LR横、条痕	内面擦痕
39	60F-105	60F	15	V中	II	A3	英 長 黒雲母	有		明褐	絡糸体半置反転(引きずり)、絡糸体R	
40	56H-1	57H	16	V中	II	A3	チャ 英 長	有		褐	絡糸体半置反転(引きずり)、絡糸体R	
41	59E-92	59E	6	V中	II	A4	角 白砂	有		橙	口唇圧痕	波状口縁
42	60E-29	60E	20	V中	II	A4	白砂 角	有		暗褐		波状口縁、器面荒れ激しい
43a	57D-69	57D	16	V中	II	A4	チャ 英	有		明褐	口唇ヘラ条工具刺突、口縁・隆帯上・下絡糸体側面圧痕、絡糸体R	
43b	57D-74	57D	21	V中	II	A4	チャ 英	有		明褐	口唇刻み、口縁・隆帯上・下絡糸体側面圧痕、絡糸体R	
44	57C-39	57C	17	V中	II	A4	英 長	有	粗	橙	口唇絡糸体側面圧痕、隆帯初落	
45	61F-12	61F	6	V下	II	A4	英	有		にぶい橙	口唇絡糸体圧痕	内面条痕
46	56E-13	56E	2	V上	II	A4	英	有	粗	にぶい橙	隆帯上絡糸体圧痕	器面荒れ激しい
47	56D-2	56D	15	V上	II	A4	英 白砂	有		にぶい褐	口縁・隆帯下絡糸体側面圧痕、隆帯上ヘラ状工具刺突	
48	58D-73	58D	3	V上	II	A4	長	有		黒褐	隆帯上・下絡糸体側面圧痕	
49	61L-3	61L	15	V下	II	A5	白砂 角	有		明褐	口唇絡糸体側面圧痕、口縁縄文複節(LLR?)側面圧痕、体部縄文	波状口縁、器面荒れ激しい
50	61M-2	61M	5	V	II	A	角 長 白砂	有		明褐	口唇・口縁絡糸体側面圧痕	
51	59D-152	59D	24	V下	II	A	白砂	有		明褐		器面荒れ激しい
52		59E		V	II	A	チャ	有		にぶい橙	口縁・隆帯上絡糸体側面圧痕	
53	55E-43	55E	14	V下	II	A	英 長	有	粗	橙	隆帯上・下絡糸体側面圧痕	
54	62L-35	62L	20	V	II	A	英 長	有		褐		
55	62M-2	62M	13	V	II	A	英	有		にぶい褐		器面荒れ激しい
56	60D-127他	59F 60D	10 22	V下・V中	II	B1	玉髄 チャ 英 長	有		橙	地文縄文LR横、一部多条LR横、丸棒状工具側面圧痕	底部穿孔後、閉塞
57	61G-17	61G	22	V上	II	B1	チャ 玉髄 角	有		にぶい橙	縄文RL、棒状工具刺突	
58a	59F-61	59F	2	V中	II	B1	白砂 英 長	有		褐	口縁・隆帯上短沈線	
58b	59F-93	59F	6	V下	II	B1	白砂 英 長	有		褐	口縁縦位短沈線、地文縄文RL横	
59a	62G-32他	62G	20	V下	II	B1	白砂	有		褐	地文縄文LR横、口縁・隆帯上丸棒状工具側面圧痕	
59b	62G-22	62G	15	V中	II	B1	白砂	有		褐	地文縄文LR横、口縁丸棒状工具側面圧痕	
60	60F-24	60F	9	V上	II	B1		有		にぶい褐	地文縄文LR横、口縁縦位沈線、隆帯上丸棒状工具側面圧痕	
61	58D-27	58D	11	V中	II	B1	チャ 英 長	有		明褐	地文縄文RL横、隆帯上丸棒状工具側面圧痕	
62	61G-101	61G	23	V中	II	B1	チャ 英 長	有		にぶい橙	縄文LR横、隆帯上丸棒状工具側面圧痕	波状口縁?
63a	62K-71 105	62K	1	V中	II	B1	チャ 英 角	有		褐	口縁・隆帯縄文RL横、隆帯以下多条LR横、隆帯上刺突	
63b	62K-62	62K	1	V中	II	B1	チャ 英 角	有		褐	地文RL横、隆帯上横位刺突	波状口縁
64	64H-5	64H	21	V	II	B1	白砂 角	有		にぶい褐	縄文RL横、隆帯	
65	58F-8他	58G	2 4	V上・V下	II	B1	白砂 角	有		黒褐	羽状縄文RL・LR横(端部処理)、多条LR異方向、隆帯上短沈線	波状口縁
66	60F-17	60F	7	V中	II	B1	英 長 角	有		褐	縄文RL横(端部処理)、隆帯上短沈線	波状口縁

土 器

図No.	遺物No.	大グリ ット	小グリ ット	層位	群	分類	胎土	織理	焼成	色調	文様	備考
67	64M-10	64M	22 23	V上・V下	II	B1	長 白砂	有		浅黄橙	地文縄文 RL・LR 横。沈線 隆帯上丸棒状工具圧痕	波状口縁
68	61D-14	61D	16	V中	II	B1	英 長 白砂	有		橙	隆帯腹に凹形竹管刺突	波状口縁。隆帯上割 傷
69		59D		V	II	B1	英 長	有		暗褐	地文縄文 RL。隆帯下に刺突	
70		59D		V	II	B1	英 長	有		暗褐	地文 RL 横。隆帯上下に交互 刺突	
71	63H-89	63H	19	V中	II	B2	チャ	有		灰褐	地文縄文 RL 横。波状隆帯	
72	58C-51	58C	24	V上	II	B2	英 白砂	有		褐	縄文多条 LR 横	
73	57C-50	57C	12	V中	II	B2	白砂 長	有		橙	多条 LR 横	
74	59D-120	59D	19	V下	II	B2	白砂	有		明褐	地文縄文 LR 横	
75	58E-44	58E	19	V下	II	B2	英 長 白砂	有		橙	地文縄文 LR 横	
76	57E-59	57E	2	V下	II	B2	白砂 長	有		褐		
77	62H-4	62H	15	III	II	B2	白砂 英 長	有多		にぶい橙	隆帯貼り付け痕不明瞭	内面割頭圧痕
78	58D-156	58D	14	V上	II	B2	角	有		にぶい橙	地文縄文 RL・LR 横	
79	58D-36	58D	7	V下	II	B2	チャ 長 角	有		明褐	地文縄文 LR 横。隆帯直下つ まみ痕	内面割頭
80	53F-3	53F	15	V中	II	B3a	チャ 英	有		明褐	地文縄文。縦位沈線	
81	61L-6	61L	15	V下	II	B3a	英 長	有		褐	地文縄文 LR 横。斜位・横位 沈線	
82	61L-10	61L	16	V下	II	B3a	英 長	有		褐	地文縄文。斜位・横位沈線	
83	59F-52	59F	7	V上	II	B3b	白砂 英 長	有		褐	地文縄文 RL 横。斜位沈線	
84	59D-201	59D	9	V下	II	B3b	白砂 角	有		褐	地文縄文多条 LR 横。斜位沈 線	
85		59E		V	II	B3b	英	有		灰褐	地文縄文。斜位・横位沈線	
86	59D-113	59D	18	V上	II	B3b	チャ 英	有		明褐	地文縄文。斜位・横位沈線	器面荒れ激しい
87	59F-65	59F	1	V中	II	B3b	白砂 英 長	有		褐	地文縄文。横位沈線	
88	59E-102	59E	7	V下	II	B3b	白砂	有		灰褐	地文縄文に横位並行沈線	
89	59E-17	59E	12	V中	II	B3b	英 長 角 白砂	有		明褐	地文縄文に横位沈線	95と同一?
90	61F-43	61F	19	V中	II	B4	チャ 白砂	有		にぶい橙	地文縄文 RL 横。凹形竹管刺 突	
91	58F-20	58F	5	V下	II	B4	玉髓 チャ 長 角	有		橙	地文縄文 RL 横。凹形竹管刺 突	
92	60E-42	60E	11	V下	II	B5	白砂	有		明褐	口縁丸棒状工具側面圧痕。縄 文 RL 横	
93		62G		V中	II	B5	白砂			黒褐	地文縄文 LR 横。丸棒状工具 側面圧痕	分類 B1 類?
94a	60K-25・38	60K	8	V中	II	B5	英 長	有		橙	地文縄文 RL・LR 横。丸棒 状工具側面圧痕	
94b	60K-31	60K	8	V中	II	B5	英 長	有		橙	地文縄文 RL・LR 横。丸棒 状工具側面圧痕	波状口縁
94c	60K-48他	60K	8	V中	II	E3	英 長	有		橙	縄文 LR 横	
94d	60K-22・44	60K	8	V中	II	E3	英 長	有		橙	羽状縄文 RL・LR 横	
95	59E-23	59E	17	V中	II	C	英 長 角 白砂	有		明褐	斜位・横位沈線	波状口縁。89と同 一物体?
96	57D-26	57D	25	V中	II	C	チャ 白砂	有		明褐	横位沈線	底部付近。内面割頭 圧痕
97	57D-8	57D	15	V中	II	C	白砂 角	有		明褐	ヘラ状工具沈線	
98	55C-1	55C	5	V下	II	C	チャ 長	有		にぶい橙	沈線(不規則)	
99	56E-1	56E	24	V下	II	D	白砂	有		褐灰	地文条痕? 刺突	
100		60D		V	II	D	英 長 角	有		橙	丸棒状工具刺突後。短沈線	
101	55E-40他	55E	14	V上・V下	II	E1	白砂 英 長	有		褐	口唇縄圧痕。地文縄文 LR 横。 横位つまみ痕	波状口縁
102	57E-56他	57E	1 6	V上・V中	II	E1	玉髓 長 白砂	有		橙	口唇棒状工具側面圧痕。羽状 縄文 LR・RL 横	
103	58D-133	58D	10	V中	II	E1	英 長	有		粗 橙		
104	59D-43	59D	7	V中	II	E1	英 長 チャ	有		赤褐	縄文	器面荒れ激しい
105	57D-100	57D	2	V	II	E1	白砂 英	有		黒褐	羽状縄文 RL・LR 横	
106	57E-37	57E	3	V上	II	E1	白砂	有		橙	縄文 LR 多方向	
107		62H		V	II	E1	チャ	有		灰褐	縄文 RL 多方向	
108	60F-47	60F	13	V中	II	E1	チャ	有		橙	縄文 LR 横	108～111同一物体?
109	60F-134	60F	13	V下	II	E1	チャ	有		橙	縄文 LR 横	108～111同一物体?
110	60F-55他	60F	13	V中・V下	II	E1	チャ	有		橙	縄文 LR 横	既図録 108～111頁参照?
111	60F-58他	60F	13	V下	II	E1	チャ	有		橙	縄文 LR 横	108～111同一物体?
112a	59F-19他	59F	13 17	V中・割木痕	II	E2	チャ 英 長	有		にぶい橙	菱形羽状縄文 RL・LR 横	

図No.	遺物No.	大グリッド	小グリッド	層位	群	分類	胎土	織理	焼成	色調	文様	備考
112b	59F-28	59F	13	V下	II	E2	チャ 英 長	有		にぶい橙	菱形羽状縄文RL・LR横	
113	59F-73・74	59F	13	燗木痕	II	E2	白砂 英 長	有		明褐	縄文LR横	内面指頭圧痕
114	59E-44他	54E 59D	3 1	V上・V下	II	E2	白砂 角	有		橙	縄文多条LR横	
115a	58D-50他	58D	11	V下・V上	II	E2	チャ 白砂	有		明褐	縄文L多方向	
115b	57D-20	57D	25	V上	II	E2	チャ 白砂	有		明褐	縄文	器面荒れ激しい
116	59G-3	59G	2	V上	II	E2	白砂	有		褐	縄文LR横	
117	56C-1・2	56C	25	V上	II	E2	チャ 白砂	有		褐	縄文LR横	
118	59C-34	59C	20	V下	II	E2	白砂 チャ 長	有		にぶい褐	縄文LR横	
119	57C-51	57C	12	V上	II	E2	白砂 英 長	有		褐	縄文多条LR横	
120	62L-119	62L	2	V	II	E2	英 長 チャ	有		灰褐	羽状縄文RL・直前段3本多条LR	
121	60F-57	60F	13	V上	II	E2	白砂	有	粗	褐灰	縄文多条RL横	
122	64I-3	64I	1	V下・VI上面	II	E2	チャ 長	有		にぶい褐	縄文多条LR横	
123	67N-34	67N	10		II	E3	英 長 角 白砂	有		明褐	縄文RL・LR多方向	
124	59F-35他	59F	12	V中	II	E3	チャ	有			縄文LR横	内面指頭圧痕
125	4-SX3-47他	66L	22	4SX3	II	E3	チャ 長 英 角	有		橙	縄文0段多条横	内面指頭圧痕
126	59E-97他	59E	18	V下	II	E3	角 白砂	有		明褐	口唇刺突。縄文0段多条LR口縁横。体部斜位	小波状口縁
127	59D-148他	61E 59D	16 20	V・V下	II	E3	チャ 長	有		橙	羽状縄文LR・RL横(局部処理)	口縁に小突起
128	58E-43	58E	24	V下	II	E3	チャ 白砂	有		にぶい褐	菱形羽状縄文RL・LR縦横	口縁小突起
129	63M-5	63M	2	VI上面	II	E3	角	有		灰褐	縄文RL縦	平口縁に突起。穿孔
130	61G-46	61G	2	V上	II	E3	チャ 英 長	有		明褐	羽状縄文RL・直前段3本多条LR横	口縁突起
131	60E-54	60E	1	V下	II	E3	英 長	有		褐	縄文LR縦	波状口縁。内面指頭圧痕
132	59F-13	59F	10	V中	II	E3	英 長 白砂	有		橙	縄文LR縦・斜位	波状口縁。内面指頭圧痕
133	61G-96他	61G	22 23	V上	II	E3	チャ 白砂 角 英	有		灰褐～橙	口唇縄文。縄文LR縦。羽状縄文LR・RL横	
134	57C-27	57C	23	V中	II	E3	英 長	有		にぶい橙	口唇縄文面圧痕。縄文LR横	
135	65M-2	65M	14	V中	II	E3	角 白砂	有		にぶい橙	口唇縄文。縄文LR横	
136	63M-11				II	E3	英 白砂	有		褐	口唇縄文。菱形縄文RL・LR縦横	波状口縁
137a	58C-54	58C	25	V中	II	E3	角 白砂	有		褐	縄文LR縦	波状口縁
137b	58C-53	58C	25	V中	II	E3	角 白砂	有		褐	口唇縄文面圧痕。縄文LR縦	波状口縁
138a	60H-48	60H	15	V中	II	E3	英 角	有		橙	口唇縄文。縄文	波状口縁
138b	60H-24他	60H	15	V中	II	E3	英 角	有		橙	羽状縄文LR・RL横	
139a	60E-53 60F-2	60E 60F	21 1	V下・V中	II	E3	白砂 英 長	有		明褐	口唇縄文面圧痕?羽状縄文直前段3本多条RL・同LR横	
139b	59E-49 59F-92	59E 59F	22 12	V下	II	E3	白砂 英 長	有		明褐	口唇縄文面圧痕?羽状縄文直前段4本多条RL・同LR横	
140	58D-143他	58D	15	V中	II	E3	白砂 長	有		褐	口唇縄文。縄文RL横・多条LR横	内面指頭圧痕
141	69C-42	68C	24	V	II	E3	チャ 英	有		橙	羽状縄文LR・RL横	
142	61H-1	61H	3	V中	II	E3	白砂 長	有		明褐	口唇圧痕。縄文RL横	
143	67M-12他	67M	3	V下	II	E3	白砂	有		明褐	口唇縄文?縄文LR横	波状口縁。器面荒れ激しい
144	58D-40	58D	1	V中	II	E3	白砂	有		明褐	口唇丸棒状工具側面圧痕。縄文LR横	波状口縁
145	64H-10	64H	21	V	II	E3	白砂 チャ	有		灰褐	口唇短沈線。縄文RL縦	波状口縁
146	61G-60他	61G	2	V上	II	E3	英 長 チャ 白砂	有	粗	橙	羽状縄文RL・LR横	
147	60F-11他	60F	8	V中	II	E3	チャ 長	有		にぶい褐	羽状縄文RL・LR横	
148	61E-77他	61E	18	V上	II	E3	チャ 長	有		にぶい褐	羽状縄文RL・LR横	
149	3-SK1-3	66C	20	3SK1	II	E3	砂多	有		褐	羽状縄文RL・直前段3本多条LR横。RL縦	
150	58E-30他	58E	18	V下	II	E3	チャ 角 白砂	有		橙	羽状縄文LR・RL横	補修孔
151a	4-SX3-49	66L	22	4SX3	II	E3	チャ 長	有	粗	灰褐	縄文RL横	
151b	4-SX3-49	66L	22	4SX3	II	E3	チャ 長	有	粗	灰褐	縄文RL横	
152	67N-94他	67N	4 9	V中	II	E3	白砂 角 長	有		橙	羽状縄文直前段3本多条RL・同LR横	穿孔途中。器面荒れ激しい。153と同一?
153	67N-10他	67N	17 18	V	II	E3	白砂 角	有		褐	羽状縄文LR・RL横	尖底部(穿孔) 152と同一個体?
154	60F-104	60F	15	V中	II	E3	白砂 角	有		にぶい褐	縄文RL横	

土 器

図No.	遺物No.	大グリッド	小グリッド	層位	群	分類	胎土	織様	焼成	色調	文様	備考
155	66O-6	66O	14	V	II	E3	英 長	有	粗	明褐	縄文RL横	
156		67R		V	II	E3	チャ	有		にぶい橙	縄文RL横	
157	3-SK1-18	66O	20	3SK1	II	E3	砂多	有	粗	褐	縄文LR横	
158	57E-60	57E	2	V下	II	E3	白砂 角	有	粗	橙	縄文LR横	
159	59D-45	59D	7	V中	II	E3	白砂	有		灰褐	縄文LR横	
160	59D-152	59D	2	V中	II	E3	長	有	粗	にぶい橙	縄文LR横	
161	54C-5	54C	1	V下	II	E3	白砂 英 長	有	粗	にぶい橙	縄文LR横	
162a	67N-53	67N	10	V上	II	E3	角 チャ 白砂	有	粗	灰褐	縄文LR横	
162b	67N-51	67N	11	V上	II	E3	角 チャ 白砂	有	粗	灰褐	縄文LR横 多条LR横	
163	53F-2	53F	8	V中	II	E3	チャ 角	有		褐	縄文LR横	
164	67P-8	67P	9	V	II	E3	白砂 英	有	粗	にぶい褐	縄文LR横	
165	68Q-2	68Q	7	V	II	E3	白砂 角 英	有	粗	橙	縄文LR横	
166	62G-18	62G	14	V下	II	E3	チャ 白砂	有		黒	縄文LR横	
167	59D-70他	59D	11	V中	II	E3	白砂 英 長	有		黒褐	縄文LR横	
168	57D-50	57D	17	V下	II	E3	白砂 チャ 英	有	粗	浅黄橙	縄文LR多方向	
169	4-SX3-49	66L	22	4SX3	II	E3	チャ	有		橙	縄文LR(多条?)横	
170	68N-17	68N	24	V	II	E3	角				縄文RL斜め	
171		67N		V	II	E3	白砂 角 長	有	粗	褐	縄文	器面荒れ激しい
172		67N		V	II	E3	白砂	有	粗	褐	縄文	172と同一個体?
173	67O-25	67O	5	V	II	E3	チャ 白砂 角	有	粗	明褐	縄文?	
174	68N-16	68N	24	V	II	E3	英 長	有	粗		縄文	器面荒れ激しい
175	67N-36	67N			II	E3	白砂 英 角	有		橙	菱形羽状縄文RL・LR横	
176	57D-34	57D	23	V下	II	E3	白砂 英	有		黒褐	縄文LR横	
177	59C-15	59C	22	V中	II	E3	白砂 長	有		にぶい橙	羽状縄文RL(真原体)縦横	
178	59E-94	59E	1	V上	II	E3	チャ 英 長 白砂多	有		褐	羽状縄文RL・LR横	
179	58G-3他	58G	15	V中	II	E3	白砂 長	有		橙	菱形羽状縄文LR縦横(原体 端部処理)	
180	59G-2	59G	2	V上	II	E3	白砂 長	有	粗	橙	羽状縄文LR・直前段多条 RL	
181	59F-21	59F	13	V中	II	E3	チャ 長	有		にぶい橙	羽状縄文LR・直前段3本多 条RL横	
182	59F-17・33	59F	12 13	V中・V下	II	E3	英 長	有		橙	羽状縄文LR(端部処理)・ RL横	
183	57D-113	57D	17	V下	II	E3	チャ	有		にぶい橙	羽状縄文RL・LR横	
184	59F-84	59F	17	V中	II	E3	白砂	有		明褐	羽状縄文	
185	3-SK1-15	66O	20	3SK1	II	E3		有		暗褐	羽状縄文RL・LR横	
186	59E-47	59E	21	V中	II	E3	チャ	有	粗	橙	羽状縄文	
187	59E-7	59E	2	V下	II	E3	チャ 英 長	有		橙	羽状縄文RL・LR縦	
188	61F-48	61F	19	V中	II	E3	英 白砂	有		明褐	羽状縄文RL(端部処理)・ 0段多条LR横	
189	65N-4	65N	8	V下	II	E3	白砂 英 長	有	粗	橙	羽状縄文RL・LR縦	
190	57F-2	57F	14	V上・V下	II	E3	英	有	粗	にぶい褐	羽状縄文	
191	66O-2	66O	23	V	II	E3	英 長 白砂	有		橙	羽状縄文LR斜位・多条RL 横	
192	55E-57	55E	6	V下	II	E3	長 角	有		浅黄橙	縄文LR横(端部処理)	
193	58G-6	59G	22	V上	II	E3	白砂 長	有		橙	縄文LR横(端部処理)	内面指頭圧痕
194	59D-149	59D	20	V下	II	E3	チャ 英 長	有		にぶい橙	地文縄文LR横(端部処理)	
195	59D-144	59D	25	V中	II	E3	チャ 英 長	有		にぶい橙	縄文LR横(端部処理)	
196	65P-1	65P	15	V中	II	E3	白砂 英	有	粗	にぶい橙	縄文	
197	67S-5	67T		V下	II	E3	雲母 チャ 角	有	粗	橙	縄文LR横	
198	4-SX3			4SX3	II	E3	チャ 英 長	有	粗	灰白	縄文LR横	
199	58C-57	58C	20	V下	II	E3	白砂 チャ	有	粗	明褐	縄文	
200	56D-6	56D	13	V中	II	E3	長	有	粗	浅黄橙	縄文LR横	器面割傷
201	60D-27 60D-28	60D	19	V中・V下	II	E3	英 長	有	粗	褐	縄文LR横と無文帯	
202	60D-109 60D-110	60D	22	V中	II	E3	チャ 長	有		橙	縄文LR横	
203	59C-36	59C	17	V上	II	E3	白砂 長	有		にぶい橙	縄文LR横	
204	59D-156	59D	11	V上	II	E3	英	有		にぶい橙	縄文LR横	
205	60K-2	60K	18	VI	II	E3	英 長	有		橙	縄文LR横	
206	59D-213他	59D 60F	10 5	V中	II	E3	チャ 長	有	粗	橙	縄文LR横	
207	61H-4	61H	8	V中	II	E3	長	有		明褐	縄文LR横	
208	66M-24	66M	23	V上(4S1?)	II	E3	白砂	有		にぶい褐	縄文LR縦	
209	68P-7	68P	2	V	II	E3	白砂 英	有		にぶい褐	縄文LR多方向	内面指頭圧痕
210	56C-6他	56C	20	V上	II	E3	英 長	有		明褐	縄文LR横	

図No.	遺物No.	大グリッド	小グリッド	層位	群	分類	胎土	織様	焼成	色調	文様	備考
211	58C-14	58C	16	V中	II	E3	角	有	粗	橙	縄文多条LR横	
212	57E-20	57E	21	V中	II	E3	白砂 長	有	粗	褐	縄文多条LR横	
213	62G-13	62G	9	V中	II	E3	チャ 白砂	有		灰褐	縄文0段多条LR・直前段3本多条LR横	
214	60F-74他	60F	13	V中	II	E3		有	粗	褐灰	縄文0段多条横(端部処理)	
215	59D-122 61G-122	59D 61G	19 25	V上	II	E3	英 長	有		橙	縄文RL横	内面指頭圧痕
216	57D-114	57D	17	V下	II	E3	角 長	有		明褐	縄文RL横	
217	58D-167	58D	24	V上	II	E3	白砂 英 長	有		にぶい橙	縄文RL横	内面指頭圧痕
218	65P-13	65P	19	V中	II	E3	白砂 英	有		灰褐	縄文RL横	
219	65K-1				II	E3	角		粗	にぶい橙	縄文	
220	58C-50	58C	24	V上 (20SK28?)	II	E3	長	有	粗	浅黄橙	縄文RL横	
221	59E-80	59E	10	V上	II	E3	白砂 英 長	有		明褐	縄文LR横	
222	67R-1	67R	18	V下	II	E3	チャ	有	粗	褐	縄文RL横	
223	3-SK1-5他	660	20	3SK1	II	E3	英 長 白砂多	有	粗	にぶい橙	縄文RL横	
224	58C-41・42	58C	19	V下	II	E3	白砂 英	有		橙	縄文LR横・斜位	内面指頭圧痕
225	61E-76	61E	22	V上	II	E3		有		橙	縄文RL横・斜位	
226	59E-79	59E	10	V上	II	E3	英	有		明褐	縄文LR斜位	内面指頭圧痕
227	59F-54	59F	7	V上	II	E3	英 長	有		明褐	縄文LR縦	内面指頭圧痕
228	64M-25	64M	23	V中	II	E3	白砂 英	有		褐	縄文RL斜位	
229		58D		V	II	E3	白砂 長	有		橙		木の实圧痕?
230	57F-5	57F	21	V下	II	E3	英 長 木の实	有		橙	縄文RL	木の实圧痕?
231					II	E3	英 長 木の实	有		橙	縄文RL	木の实圧痕?
232	60F-66他	60F	12 13	V中・V下	II	E3		有		粗褐灰	縄文(多条?)RL横	
233	59E-62	59E	20	V下	II	E3	英	有		黒褐	多条RL横	
234	58D-59	58D	7	V中	II	E3	白砂 チャ 英	有		褐	縄文多条LR斜位	内面指頭圧痕
235	65O-3	65O	9	V上	II	E3	白砂 角	有		橙	縄文(多条?)LR横	内面指頭圧痕
236	59C-6	59C	17	V中	II	E3	白砂 長 角	有		橙	縄文L横	
237	58E-22	58E	18	V下	II	E3	白砂 英 長 角	有		橙	縄文L斜位	
238	59D-142	59D	19	V中	II	E3	白砂 角	有		明褐	縄文R横	
239	61G-22・24	61G	24	V下	II	E3	チャ 白砂	有	粗	にぶい橙	縄文R縦	
240	61G-23	61G	6	V下	II	E3	チャ 英	有	粗	にぶい橙	縄文	
241	64M-26	64M	23	V中	II	E3	英 チャ 白砂	有		明褐	縄文	
242	59D-67 59E-96	59D 59E	11 15	V中 V下(20SK52?)	II	E3	白砂	有	粗	橙	縄文	
243	56E-10	56E	5	V中	II	E3	英 長	有	粗	にぶい橙	縄文	
244	57F-4	57F	17	V下	II	E3	英 長	有		明褐	縄文	
245	57C-19 20	57C	19 24	V中	II	E3	角	有	粗	浅黄橙	縄文	
246	59E-99	59E	13	V下	II	E3	チャ 英 長	有	粗	橙	縄文	
247	53F-5	53F	20	V中	II	E3	英 長	有	粗	橙	縄文	
248a	67 N-58	67N	22	III	II	E4	チャ	有		にぶい橙	口唇縄文、縄文LR横、口縁内面縄文LR横	
248b	67 N-58	67N	22	III	II	E4	チャ	有		にぶい橙	口唇縄文、縄文LR横、口縁内面縄文LR横	
249	58E-86	58E	25	V中	II	E4	英 長 白砂	有		黒褐	羽状縄文RL・LR横、口縁内面縄文LR横	
250	60H-38	60H	15	V中	II	E4	チャ 角 白砂	有		橙	縄文RL横、口縁内面縄文RL横	
251a	59D-10 240	59D	4 14	V中	II	F1	チャ 白砂 英 長	有		明褐	口唇摺系側面圧痕、摺系r・l	
251b	59D-46	59D	7	V中	II	F1	チャ 白砂 英 長	有		明褐	口唇摺系側面圧痕、摺系r・l	
251c	59D-126他	59D	12 14	V中・V下	II	F1	チャ 英 長	有		明褐	口唇摺系側面圧痕	
252	59D-247他	59D	6 7 12	V上・V中	II	F1	チャ			赤褐	摺系L横・斜位	
253	57E-8	57E	10	V下	II	F1	白砂 英 長	有		橙	摺系R	
254	56C-34	56C	8	V上	II	F1	チャ 英	有		褐	摺系R	
255	59C-11	59C	18	V中	II	F1	白砂	有		明褐	摺系(条痕?)	
256a	59D-155他	59D	7 12	V中・V下	II	F2	白砂 チャ 角	有		褐	摺系R	外面指頭圧痕
256b	59D-48他	59D	7	V中	II	F2	長 英	有		明褐	摺系R	外面指頭圧痕

土 器

図No.	遺物No.	大グリッド	小グリッド	層位	群	分類	胎土	織様	焼成	色調	文様	備考
257	59D-12	59D	4	V中	II	F2	白砂	有	粗	褐		
258		61E		V	II	F3	白砂	有	粗	浅黄橙	口唇撫系圧痕? 撫系R	
259	59D-140	59D	10	V下	II	F3	白砂	有		褐	撫系R	
260	59D-141	59D	20	V中	II	F3	白砂 英 長	有	粗	橙	撫系R	
261a	58E-37	58E	22	V下	II	F3	白砂 英 長	有	粗	橙	撫系R	
261b	59D-230	59D	20	V下	II	F3	白砂 英 長	有	粗	橙	撫系R	
261c	58D-130 59C-22	58D 59C	10 23	V中・V上	II	F3	白砂 英 長	有		橙	撫系R	
262a	59C-8	59C	17	V中	II	F3	白砂	有	粗	橙	撫系R	
262b	58D-70	58D	8	V中	II	F3	白砂	有		橙	撫系R	
262c	58D-72	58D	3	V上	II	F3	白砂	有		橙	撫系R	
263a	59D-90	59D	22	V下	II	F3	英 長	有	粗	にぶい橙	撫系R	
263b	59E-16	59E	14	V中	II	F3	英 長	有	粗	にぶい橙	撫系R	
264	60F-108	60F	15	V中	II	F3	英	有	粗	橙	撫系R	
265	56E-19	56E	21	V中	II	F3	英	有	粗	橙	撫系R	
266	59F-68	59F	1	V中	II	F3	英 角	有	粗	にぶい橙	撫系R	
267	57D-70	57D	16	V下	II	F3	チヤ 英	有		褐	撫系R	
268	61E-4	61E	11	V	II	F3	白砂	有		にぶい橙	撫系R	
269	58E-12	58E	9	V下	II	F3	白砂 角	有		橙	撫系R	
270	57D-6	57D	5	V中	II	F3	白砂 長	有	粗	浅黄橙	撫系R	
271	62L-103	62L	15	V中	II	F3	チヤ			浅黄橙	撫系L	
272	60E-65 - 67	60E	4	V下	II	F3	英 チヤ 白砂 角	有		にぶい褐	撫系L	
273a	58D-83	58D	8	V中	II	F3	英 長 白砂	有	粗	橙	撫系L	
273b	58D-86	58D	8	V中	II	F3	英 長 白砂	有	粗	橙	撫系L	
274	59E-38	59E	16	V中	II	F3	白砂 角?	有	粗	浅黄橙	撫系L	
275	58C-55	58C	20	V中 (20SK26?)	II	F3	チヤ 英 長 白砂	有		明褐	撫系	
276	58D-92	58D	8	V中	II	F3	英 長	有	粗	浅黄橙	撫系	
277a	63H-2	63H	25	V下	II	G1	白砂 角	有		にぶい褐		
277b	63H-15	63H	25	V上	II	G3	白砂 角	有		にぶい褐		
278	58D-120	58D	9	V下	II	G2		有		明褐	条痕多方向	
279	63H-5	63H	25	V下	II	G3		有		褐灰		
280	58D-200	58D	8	V下	II	G3	英 長 白砂	有		にぶい褐		
281	56H-2	56H	25	V下	II	G3	英 長 チヤ	有		明褐		
282	56E-2	56E	24	V下	II	G3	チヤ 玉髄	有		黒褐		
283	57F-6	57F	21	V下	II	G3	長 白砂	有		にぶい橙	地文条痕。横走沈線?	
284	60F-118	60F	7	V下	II	H	白砂 角 黒雲母	有		暗褐	上半分縄文RL横。下半分条痕	
285		58E		V	II	I	英 長 白砂	有		浅黄橙	羽状縄文多条LR - 撫系L2本組横	
286	57D-4	57D	10	V中	II	J	チヤ	有		褐		
287	64H-12	64H	21	V	II	L	白砂 長	有		にぶい褐	無文?	
288		67N		V	II	L	白砂 (発泡土器)	有	粗	褐	無文 (以下、縄文?)	
289a	57C-61	57C	9	V中	II	L		有		浅黄橙	口唇縄圧痕?	
289b	57C-65	57C	9	V下	II	K	角	有		浅黄橙	無文	尖底
290	58C-38	58C	23	V中 (20SK30?)	II	L	英 白砂 長	有		橙		
291	58E-63他	58E	20	V下	II	K	白砂 英 長	有		橙	縄文LR横	丸底。内面指頭圧痕
292	61F-38他	61F	17 18	V中	II	K	角 白砂	有		明褐	縄文LR横	尖底
293	59D-252	59D	18	V下	II	K	白砂	有		橙	縄文	丸底。器面荒れ激しい
294	55D-18	55D	1	V中	II	K	チヤ	有		褐	縄文LR横	尖底
295	63H-33	63H	1	V上	II	K	白砂 長	有		明褐	縄文?	尖底
296	65O-1②	65O	9	V上	II	K	英 長 角	有		褐	縄文	尖底 (穿孔)
297	62K-117他	62K	16	V中	III	A	英 長	有		明褐	口唇0段多条LR回転歯文。結束羽状縄文0段多条RL・回LR横	
298	67N-61	67N	9	V中	III	B	白砂 角	有		明褐	刺突 (爪形)	上げ底
299	65O-1①	65O	4	V上	III	B	英 角	有		明褐	縄文。底部周縁に刻み (爪形)	上げ底
300a	57D-88	57D	16	V中	III	D	チヤ	有		明褐	地文縄文RL横。櫛歯状工具刺突	
300b	57D-116	57D	16		III	D	チヤ	有		明褐	地文縄文RL横。櫛歯状工具刺突	

図No.	遺物No.	大グリッド	小グリッド	層位	群	分類	胎土	織様	焼成	色調	文様	備考
300c	57D-88	57D	16	V中	Ⅲ	D	チャ	有		明褐	地文縄文LR横。轆轤状工具刺突	
300d	57D-44	57D	17	V中	Ⅲ	D	チャ	有		明褐	地文縄文RL横	
301	12Tr			V	Ⅲ	D		有		灰白	轆轤状工具刺突	
302	67N-5	67N	22	V	Ⅲ	C	白砂	有		にぶい橙	上半部羽状縄文ループRL・LR横。下半部縄文RL。一部多条？RL横	上げ底
303	62K-79	62K	8		Ⅳ	B	白砂 長			褐灰	縄文（多条？）LR横	
304	53C-4	53C	21	Ⅲ	Ⅳ	B	チャ 白砂			褐	羽状縄文	
305	61E-18他	61E	21 22	V	Ⅳ	A1	白砂 英 チャ	有		褐	地文RL横。沈線間刺突	ほぼ完形
306	61F-21他	61F	7	V中	Ⅳ	A2	英	有		黒褐	口縁沈線。体部縄文	波状口縁
307	7Tr			Ⅲa	V	A1	白砂 英			橙	地文縄文。平截竹管文	波状口縁
308	59D-234他	59D	25	V下	V	A2	角 英			赤褐		
309	5Tr			Ⅲa	V	B	白砂多			灰褐	横位・斜位沈線。燃糸	
310				耕土	V	B	白砂多			灰褐	縦位沈線。燃糸	
311	67L-52他	67L	9	I～Ⅱ上	Ⅵ	A	チャ 海貝 長			浅黄橙	平截竹管押し引きによる刺突。地文燃糸L	内面磨き
312	64N-37他	64N	23	Ⅱ～Ⅲ・Ⅱ中 Ⅱ上	Ⅵ	A	砂			浅黄橙	棒状工具による沈線・刺突。地文条痕	
313	64M-36・38	64M 67N	24	Ⅱ～Ⅲ・Ⅱ上 V	Ⅵ	B	海貝骨針 チャ			明褐		
314		64L	1	I	Ⅵ	C	白砂 角			赤褐	縄文RL横？	
315	64M-42	64N	4	Ⅱ中	Ⅵ	D	海貝骨針 チャ			にぶい橙	無文。口縁突起あり？	
316	69R-1	69R	19	V	Ⅵ	E	英 長			黒褐	隆帯上刺突	
317a		62K	24	耕土	Ⅵ	F	チャ 長			浅黄橙	沈線。刺突	
317b	62K-2	62K	24	Ⅱ下～Ⅲ上	Ⅵ	F	チャ 長			浅黄橙	沈線。刺突	

※層位欄に（ ）で遺構名が記されているものは、記載した層位から出土した土器であるが、平面位置から遺構伴出の可能性が考えられることを示す。

※胎土略号 英：石英 長：長石 角：角閃石 チャ：チャート 白砂：石材名不明の白色の角礫。直径1mm以下。

※文様欄の縄文の方向は原体の回転方向を示す。

※文様欄の絡状体の摺りは、巻かれている縄の摺りを示す。

石 器

石器

図号	遺物No.	大グ リット	小グ リット	層位	分類	細分類	最大長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	焼熱	破損	備 考
1	4-SX3-12	66L	22		石鏃	—	25.28	17.60	4.24	1.40	珉頁	×	×	
2	4-SX3-22	66L	17		石鏃	—	25.20	14.40	4.00	1.00	凝灰B	×	片脚欠	
3	4-SX3-14	66L	21		石鏃未成品	—	24.48	16.72	4.80	1.60	凝灰B	×	×	
4	4-SX3-77	66L	21		石鏃未成品	—	27.36	24.00	6.72	4.00	凝灰B	×	×	
5	4-SX3-2 + 3 付近ベルト	66L	21		石鏃未成品	—	32.08	30.00	12.24	8.50	凝灰B	×	×	
6	4-SX3-1	66L	21		石鏃未成品	—	43.20	29.84	10.88	9.90	凝灰B	×	×	
7	4-SX3-57	66L	22		石鏃未成品	—	40.08	35.92	13.44	15.30	凝灰B	×	×	4-SX3-24①と 接合
8	4-SX3-5	66L	21		石鏃未成品	—	43.52	29.36	11.76	11.50	凝灰B	×	×	
9	4-SX3-18	66L	17		石鏃未成品	—	28.48	36.88	9.84	9.40	凝灰B	×	上半欠	
10	4-SX3-24①	66L	22		剥片	—	14.24	23.52	6.24	1.10	凝灰B	×	×	4-SX3-57に接 合
11	4-SX3-3	66L	21		石鏃未成品	—	35.84	16.16	9.44	5.20	凝灰B	×	×	両極打撃
12	4-SX3-17	66L	22		剥片	—	39.20	39.36	6.56	6.80	凝灰B	×	左欠	稜面あり
13	4-SX3-2	66L	21		剥片	—	26.88	36.40	7.28	4.40	凝灰B	×	×	
14	4-SX3-74	66M	1		剥片	—	16.96	12.08	4.85	0.50	凝灰B	×	末端欠	
15	4-SX3-60①	66L	22		剥片	—	11.60	9.76	1.44	0.10	凝灰B	×	×	
16	4-SX3-49	66L	22		剥片	—	24.88	15.04	4.40	0.90	凝灰B	×	×	
17	4-SX3-26①	66L	17		剥片	—	20.64	12.40	4.16	0.40	凝灰B	×	×	
18	4-SX3-6	66L	21		剥片	—	17.76	16.24	3.65	0.70	凝灰B	×	×	
19	4-SX3-65	66L	22		剥片	—	17.84	16.88	2.95	0.60	凝灰B	×	×	
20	4-SX3-59	66L	22		不定形石器	J	25.12	26.64	8.48	4.80	鉄石英	×	×	
21	4-SX3-79	66L	17		磨石	A	143.70	116.50	62.40	1,392.20	頁岩	×	×	
22	4-SX2-3	66M	12		特殊磨石	C	178.90	59.75	92.45	1,191.20	砂岩	○	新欠(3 つに割)	片端に敲打・稜 周辺を剥離
23	66M-26	66M	22	V上 (4SI1)	剥片	—	49.76	53.84	7.28	18.20	無安	×	ガジリ	
24	66M-25①	66M	3	V上 (4SI1)	特殊磨石	D	144.90	71.10	49.25	712.50	流紋	×	×	
25	66M-25②	66M	3	V上 (4SI1)	特殊磨石	H	153.60	49.70	67.00	733.10	砂岩	×	×	
26	52F-1	52F	20	V中	尖頭器	—	61.12	21.04	8.16	9.80	無安	×	ガジリ	
27	58C-19	58C	17	V下	尖頭器	—	21.12	20.48	7.12	2.30	チャート	×	下半欠	
28	63O-6	63O	22	V中	石鏃	—	25.92	13.60	2.88	0.60	珉頁	×	×	
29	67N-20	67N	19	V	石鏃	—	30.64	18.64	5.04	1.40	凝灰B	×	×	
30	55C-13	55C	16	V中	石鏃	—	22.88	15.68	3.04	0.90	黒曜石	×	片脚欠	
31	66N-16	66N	13	側木直	尖頭器	—	16.88	16.16	5.52	1.10	黒曜石	×	下半欠	
32	58D-196	58D	7	V中	石鏃	—	20.48	16.80	3.68	1.30	チャート	×	×	
33	65O-4	65O	14	V上	石鏃未成品	—	47.92	34.48	10.56	12.40	凝灰C	×	×	稜面あり
34	65O-6	65O	13	V上	石鏃未成品	—	41.92	26.48	13.20	11.30	凝灰C	×	上欠	
35	67M-10	67M	13	V下	石鏃未成品	—	50.16	27.60	7.76	11.10	玉髄	×	×	
36	57C-12	57C	24	V下・VI 上面	両極石器	2極一対	20.24	19.60	7.28	2.50	チャート	×	×	
37	57D-53	57D	17	V下	両極石器	2極一対	33.52	30.72	10.88	9.60	凝灰B	×	左半欠	
38	58C-47	58C	24	V中	両極石器	2極一対	43.92	38.56	13.52	20.10	無安	×	×	
39	57D-103	57D	14	V中	両極石器	4極二対	24.24	31.36	7.84	6.20	チャート	×	下端微損	
40	58D-48	58D	1	V下	両極石器	4極二対	24.48	31.68	7.36	6.10	チャート	×	右欠	
41	59E-69	59E	25	V下	不定形石器	A	41.52	28.88	13.04	14.70	チャート	×	上端欠	稜面あり
42	63J-12	63J	20	V	不定形石器	A2	20.08	38.48	11.92	7.90	珉頁	×	×	
43	52C-2	52C	25	V下	不定形石器	A	15.04	43.52	13.52	6.70	珉頁	×	上半欠	
44	63G-4	63G	16	V中	不定形石器	B1	68.00	46.88	14.72	43.40	凝灰	×	×	稜面あり
45	58D-42	58D	1	V中	不定形石器	B	60.00	44.80	11.04	32.30	無安	×	×	
46	65M-3	65M	14	V下	不定形石器	B	38.48	21.12	14.88	12.10	玉髄	×	石半欠	稜面あり
47	57E-15	57E	11	V上	不定形石器	B	28.88	49.12	11.04	11.60	凝灰	×	×	打面・底縁に刃 部
48	57F-1	57F	3	V上	不定形石器	B1	61.92	34.40	19.70	24.10	凝灰	×	末端欠	
49	58C-13	58C	21	V下・VI 上面	不定形石器	A	37.60	51.84	14.16	25.00	無安	×	左欠	
50	57C-75	57C	14	V中	不定形石器	B	24.48	37.52	7.76	6.50	?	×	上半欠	
51	62G-16	62G	18	V中	不定形石器	(C)	46.24	47.44	15.60	29.80	無安	×	上半欠	

図No	遺物No	大グ リッド	小グ リッド	層位	分類	細分類	最大長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	被熱	被損	備 考
52	58D-168①	58D	19	V中	不定形石器	石錘	45.12	24.48	7.10	6.20	流紋	赤化	×	
53	60F-85	60F	13	V中	不定形石器	D(石鏃)	37.60	20.48	6.90	3.00	無安	×	×	刃部磨耗
54	58D-185・ 168②	58D	23 19	V中	不定形石器	D2	70.32	43.60	11.15	56.90	流紋	×	ガジリ	58D-185・ 168②と接合 (ガジリ)
55	58D-162	58D	20	V上	不定形石器	石錘	43.52	36.64	13.20	12.50	流紋	×	上半欠	稜面あり
56	63J-7	63J	8	V	不定形石器	E2	28.08	14.72	11.75	3.90	チャート	×	未端欠	
57	61D-27	61D	22	V下	不定形石器	E2	36.32	17.36	8.15	3.80	チャート	×	石欠	
58	60D-76	60D	24	V下	不定形石器	E2	47.12	33.44	8.25	11.50	無安	×	×	稜面打面
59	52C-1	52C	5	V下	不定形石器	E2	55.68	71.76	19.28	69.70	無安	×	×	稜打面
60	62K-52	62K	6		不定形石器	E2	41.92	31.92	6.40	8.60	珪頁	×	石欠	稜面打面
61	57D-11	57D	15	V下	不定形石器	E1	50.24	36.56	10.88	15.70	凝灰	×	上半欠・ ガジリ	
62	60F-68	60F	12	V中	不定形石器	E1	57.60	47.20	11.75	43.50	粘板	×	土欠	
63	57D-54	57D	17	V下	不定形石器	G	59.52	37.28	13.85	22.00	無安	×	左半欠	稜打面
64	59D-128	59D	14	V中	不定形石器	H	48.60	88.10	14.65	71.60	砂岩	スス	×	磨石破片?
65	58D-129	58D	10	V中	不定形石器	H	30.08	45.92	4.64	6.70	チャート	×	×	
66	59E-68	59E	25	V下	不定形石器	I	36.88	24.32	7.60	9.60	チャート	×	×	
67	57C-2	57C	25	V上	不定形石器	J	40.16	24.16	4.40	3.20	チャート	×	×	
68	59E-33	59E	16	V中	不定形石器	J	26.16	19.68	6.24	2.20	無安	×	×	
69	66N-13	66N	7	VI上面	不定形石器	J	19.44	26.16	4.96	2.00	鉄石英	×	×	
70	60D-130	60D	24	V中	不定形石器	J	20.16	30.16	6.20	3.00	チャート	×	×	稜面打面
71	59E-67	59E	25	V下	不定形石器	J	22.72	33.92	8.64	7.40	チャート	×	×	
72	57E-16	57E	17	V中	不定形石器	J	22.80	35.04	3.76	2.80	凝灰	×	×	打面側も薄く、そ こに使用痕あり
73	64K-1	64K	5	V上	不定形石器	—	39.28	22.16	6.24	5.00	無安	×	下半欠	旧石器?
74	58D-208	58D	24	V中	不定形石器	—	69.68	24.80	14.85	21.90	無安	×	×	背面縁上から剥 離後、微細剥離 ・稜打面
75	61G-12	61G	12	V中	未成品?	—	68.88	27.60	8.80	16.20	無安	×	×	
76	57D-52	57D	17	V下	磨製石斧	—	43.05	32.85	10.00	21.10	蛇紋	○?スス	上下欠	
77	60F-30	60F	16	V中	磨製石斧	—	63.40	42.50	18.40	69.60	蛇紋	×	○	
78	60F-46	60F	17	V中	磨製石斧	—	51.00	40.00	15.00	41.90	蛇紋	×	○	
79	62L-77	62L	15	V	磨製石斧	—	56.90	44.80	14.50	48.60	蛇紋	×	○	
80	58E-5	58E	1	V上	磨石	(A)	80.05	73.45	34.05	270.90	英岩	×	○	石核状の磨石1
81	57D-59	57D	17	V中	磨石	A	87.65	77.90	53.30	490.30	安山	×	×	
82	60F-26	60F	11	V中	磨石	A	134.45	82.10	47.80	677.60	砂岩	×	×	
83	62J-1	62J	15	V	磨石	A	95.40	65.80	51.70	440.40	英岩	×	×	
84	67O-16	67O	3	V	磨石	A	103.20	65.15	42.20	429.40	安山	×	×	
85	68O-18	68O	17	V	磨石	A	148.45	60.70	31.80	441.60	英岩	×	×	
86	58D-151	58D	15	V上	磨石	B	93.80	77.25	57.60	541.50	安山	×	×	
87	63J-3	63J	7	V上	磨石	B	109.00	69.15	38.45	428.40	砂岩	×	ガジリ	
88	64J-1	64J	20	V	磨石	B	131.40	72.00	43.15	520.20	砂岩	×	×	
89	64K-2	64J	22	V	磨石	B	110.50	75.40	37.65	446.40	流紋	×	×	
90	61G-18	61G	23	V下	磨石	C	97.00	44.50	35.60	222.60	砂岩	×	×	磨面に線条痕
91	61H-2	61H	3	V中	磨石	C	90.95	83.65	45.90	501.70	英岩	×	×	
92	67N-26	67N	24	V	磨石	C	107.40	92.85	39.30	526.40	安山	×	×	
93	67N-31	67N	25	V	磨石	D	90.40	42.00	26.95	158.50	砂岩	×	×	
94	59D-111	59D	24	V中	磨石	D	91.50	77.15	43.65	393.10	砂岩	×	×	
95	67O-11	67O	15	V	磨石	C	120.50	50.40	47.00	382.40	砂岩	×	×	
96	62J-9	62J	23	V下・VI 上面	磨石	D	99.20	79.70	38.15	446.90	安山	×	×	
97	64I-1	64I	6	V上	磨石	D	140.55	55.70	36.15	357.00	安山	×	×	
98	61H-6	61H	2	V中	磨石	D	126.20	62.30	36.10	388.60	英岩	×	×	
99	68O-17	68O	17	V	磨石	D	89.30	84.35	53.65	490.70	英岩	×	ヒビ	
100	58F-2	58F	11	V中	磨石	E	116.40	98.20	67.40	944.00	安山	×	×	
101	60F-101	60F	25	V上	磨石	D	103.60	75.50	28.20	310.20	砂岩	×	×	
102	61F-24	61F	7	V中	磨石	E	84.50	69.20	48.20	411.10	英岩	×	×	
103	59D-177	59D	17	V上	磨石	E	125.75	62.35	32.45	396.30	安山	×	×	
104	58D-175	58D	18	V中	磨石	F	101.70	43.05	32.25	200.20	砂岩	×	ガジリ	凹面が細長い凹 痕の集合になっ ている

石 器

図No	遺物No	大グ リット	小グ リット	層位	分類	細分類	最大長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	被熱	破損	備 考
105	63L-1	63L	12		磨石	F	77.05	46.90	30.55	155.50	安山	×	ガジリ	
106	68O-10	68O	14	V	磨石	E	117.75	71.80	42.00	456.70	安山	赤変・スス はじけ	ガジリ	
107	66N-14	66N	7	VI上面	磨石	F	89.80	69.90	34.40	316.60	砂岩	×	×	
108	60E-56①	60E	24	V下	磨石	G	168.20	62.20	33.30	495.90	砂岩	○?	ヒビ	両端を側縁
109	67N-17	67N	18	V	磨石	H	110.00	91.60	40.25	480.90	砂岩	×	×	両端から岩盤→ 石錐状
110	60D-18	60D	13		特殊磨石	A	151.95	79.95	40.65	731.50	安山	×	×	
111	59D-138	59D	20	V下	特殊磨石	A	101.40	60.70	32.90	312.60	安山	赤化	×	
112	61E-90	61E	1	V下	特殊磨石	A	118.15	71.00	27.25	274.60	砂岩	×	ガジリ	
113	67N-1	67N	21	V	特殊磨石	A	100.40	75.85	37.20	475.70	安山	×	ガジリ	
114	58D-30	58D	6	V中	特殊磨石	B	136.30	58.40	76.70	685.00	斑岩	×	ガジリ	
115	52D-30	52D	15	V上	特殊磨石	B	141.35	64.10	82.20	915.90	安山	×	×	
116	55C-9	55C	22	V下	特殊磨石	B	108.00	46.20	68.10	417.10	斑岩	×	ガジリ	
117	58G-6	58G	22	V上	特殊磨石	B	164.90	111.30	45.70	1,093.10	安山	×	ガジリ	
118	68Q-1	68Q	5	IV	特殊磨石	B	157.90	84.00	47.55	860.60	安山	×	ガジリ	
119	55E-2	55E	4	V中	特殊磨石	C	156.10	58.10	80.50	921.70	安山	×	ガジリ	
120	58D-215	58D	18	V下	特殊磨石	C	138.10	65.20	47.95	585.40	斑岩	×	×	
121	60E-37	60E	11	V中	特殊磨石	D	154.70	67.70	67.30	987.80	斑岩	×	×	2種に磨面
122	61D-23	61D	17	V下	特殊磨石	C	180.80	73.65	48.45	1,020.50	安山	×	×	末端のみ(スタ ンプ形)
123	61G-25	61G	24	V下	特殊磨石	C	179.50	90.00	50.30	1,118.30	安山	×	×	
124	57C-49	57C	12	V中	特殊磨石	D	184.65	84.90	57.00	1,161.80	流紋	×	×	
125	57E-10	57E	9	V上	特殊磨石	D	143.75	69.55	49.15	720.00	安山	×	×	
126	59E-3	59E	5	V下	特殊磨石	D	158.80	69.80	51.00	836.20	砂岩	×	×	
127	63J-6	63J	3	V	特殊磨石	D	139.75	67.45	49.20	741.80	斑岩	×	ガジリ	
128	60G-28	60G	1	V下	特殊磨石	D	154.80	75.00	79.40	1,030.80	砂岩	×	×	
129	57E-36	57E	4	V上	特殊磨石	D	150.90	91.35	54.85	977.40	花崗	×	×	
130	64L-1	64L			特殊磨石	D	125.20	68.35	38.70	475.00	斑岩	×	×	
131	61H-5	61H	2	V中	特殊磨石	D	171.90	69.50	67.30	1,149.80	斑岩	×	×	線状痕あり
132	60E-13	60E	15	V下	特殊磨石	D	166.50	54.65	90.40	1,012.90	砂岩	×	○セツリ	
133	66M-2	66M	24	III	特殊磨石	D	152.35	108.95	53.68	1,063.70	安山	×	上欠	
134	68N-19	68N	16	V下	特殊磨石	D	127.10	76.15	53.10	731.20	斑岩	×	×	
135	67N-27	67N	25	V	特殊磨石	D	160.00	73.40	64.75	848.30	安山	×	×	下縁に磨面、上 縁に敲打
136	67N-2	67N	21	V	特殊磨石	D	135.00	62.20	72.50	883.20	安山	×	末端	2種に磨面、凹 面の磨面あり
137	55D-9	55D	23	IV上	特殊磨石	E	181.25	79.15	41.10	895.80	砂岩	×	×	縁部まで磨面連 続
138	60G-1	60G	1	V下	特殊磨石	F	137.05	76.90	47.90	688.50	安山	×	○	
139	58E-94	58E	5	V上	特殊磨石	G	182.25	45.50	60.25	741.60	砂岩	赤化	×	
140	60G-16	60G	13	V下	特殊磨石	F	170.20	45.45	67.25	693.70	砂岩	×	ガジリ	
141	58E-42	58E	24	V中	特殊磨石	F	111.60	51.00	25.00	187.90	安山	×	×	凹面は非常に小 さい凹の連続
142	57C-48	57C	12	V中	特殊磨石	G	116.65	91.10	57.80	798.20	斑岩	赤化	×	
143	59D-189	59D	8	V中	特殊磨石	G	160.30	96.85	51.00	1,052.60	斑岩	×	×	両縁の台石
144	53C-3	53C	20	V上	特殊磨石	(G)	117.00	67.20	81.30	754.40	砂岩	×	ガジリ	
145	60E-56②	60E	24	V下	特殊磨石	H	139.75	75.05	51.00	637.20	砂岩	×	ガジリ	両端の敲打に伴 う大きい剥離
146	59C-31	59C	23	V下	特殊磨石	(H)	194.15	89.20	67.00	1,154.20	砂岩	赤化	○	両縁の台石
147	58E-9	58E	8	V下	特殊磨石	H	169.50	54.30	64.10	857.70	斑岩	×	ガジリ	3面に凹面
148	66N-2	66N	25	V	特殊磨石	H	145.00	63.10	81.25	905.10	砂岩	×	×	
149	59F-60	59F	2	V中	特殊磨石	H	199.80	84.05	56.20	1,369.50	斑岩	×	×	
150	62J-3	62J	25	V	特殊磨石	H	119.50	54.40	31.30	287.30	斑岩	×	×	末端凹面は敲打 というより回転 痕
151	62M-5	62M	15	V下	特殊磨石	H	148.20	78.10	64.90	1,038.30	斑岩	×	×	ほぼ全面に敲打
152	59D-108	59D	24	V中	台石	—	170.96	120.00	43.30	1,204.80	砂岩	×	ガジリ	上下を打ち欠い ている
153	57D-9	57D	15	V下	砥石	—	100.75	59.90	48.00	318.30	砂岩	×	○	

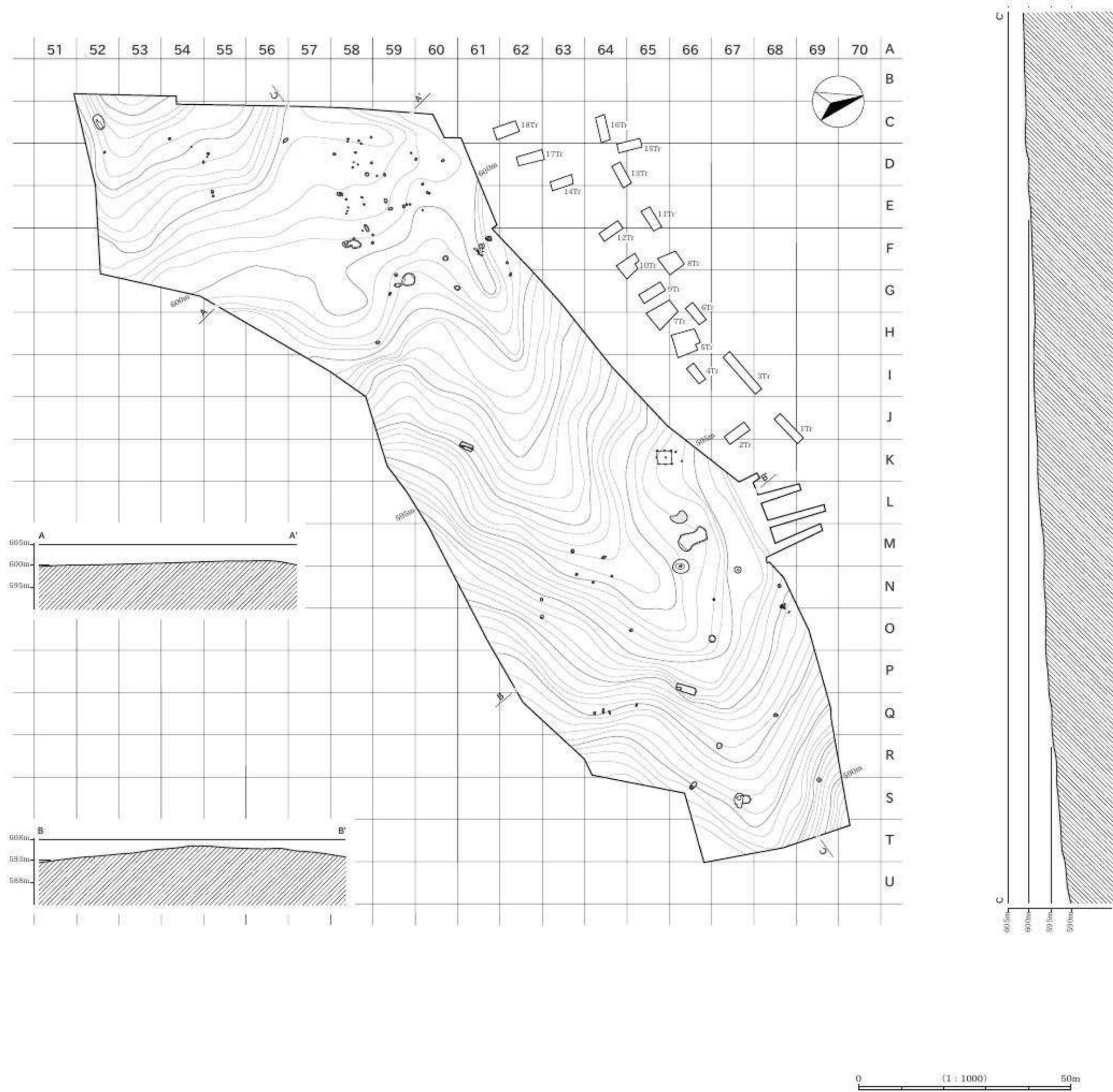
被熱：×は被熱なし。破損：×は破損なし。

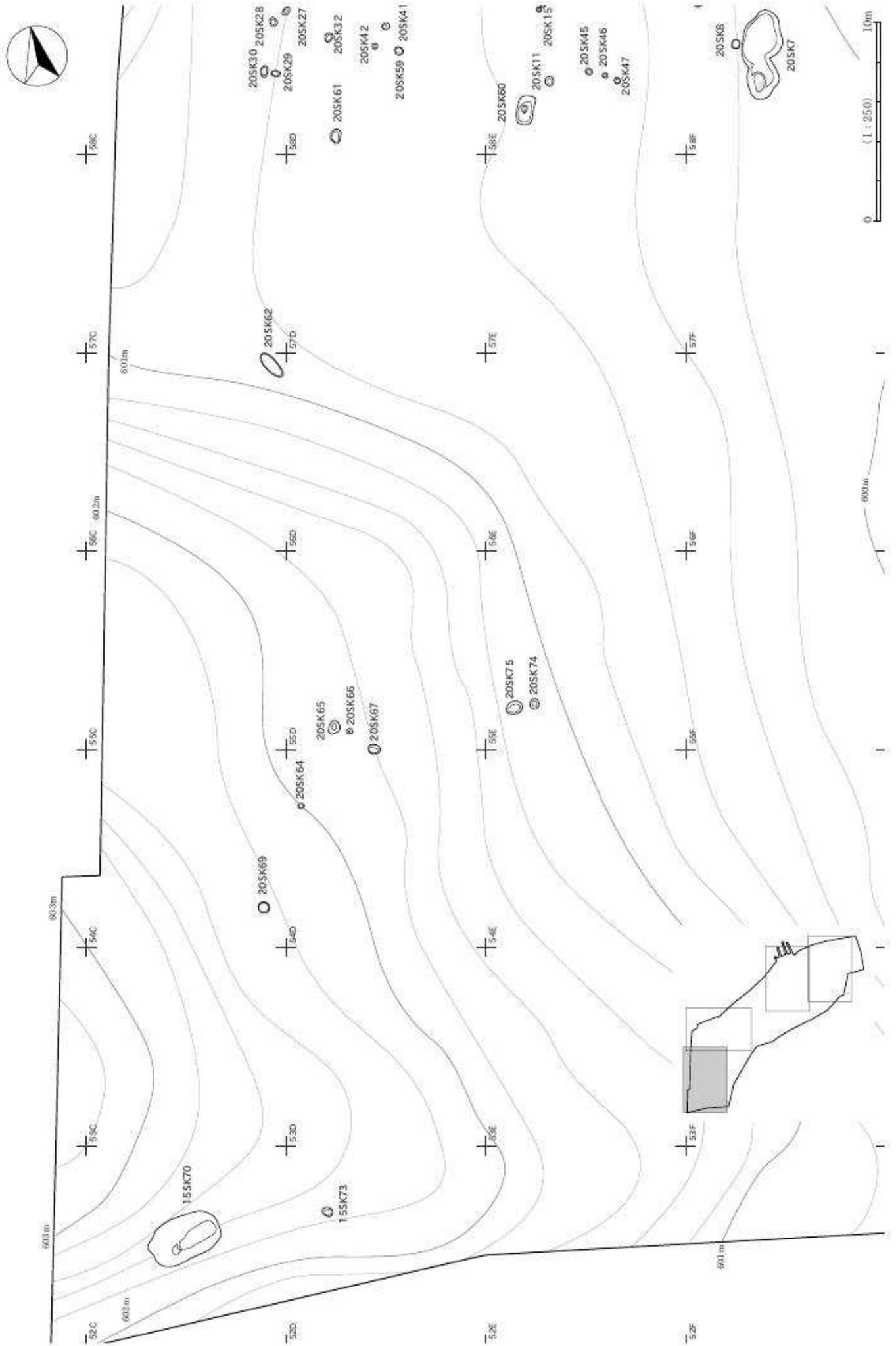
石材略号：珉頁：珉頁質岩、凝灰：凝灰岩、無安：無珉晶質安山岩、流紋：流紋岩、蛇紋：蛇紋岩、安山：安山岩

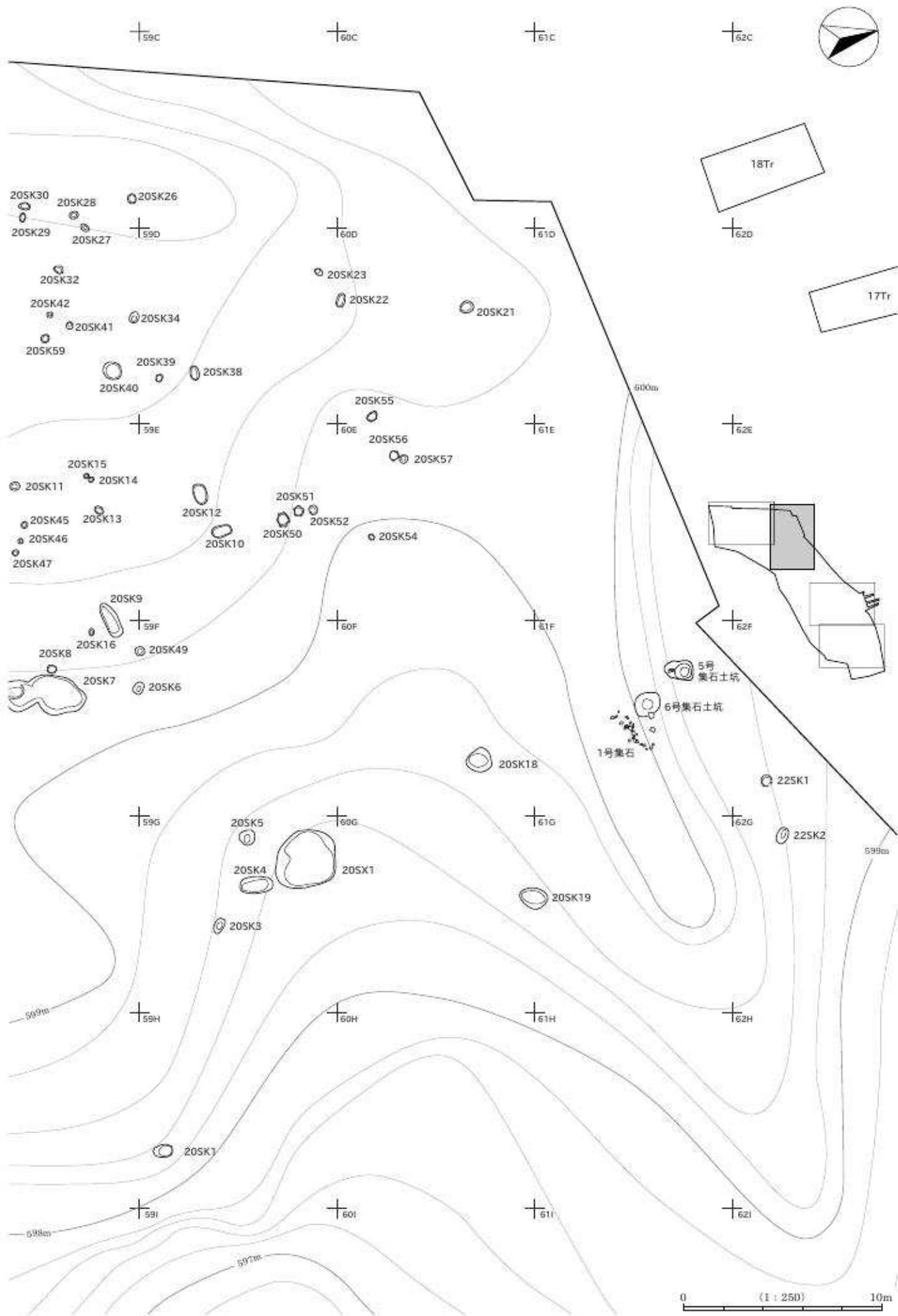
図 版

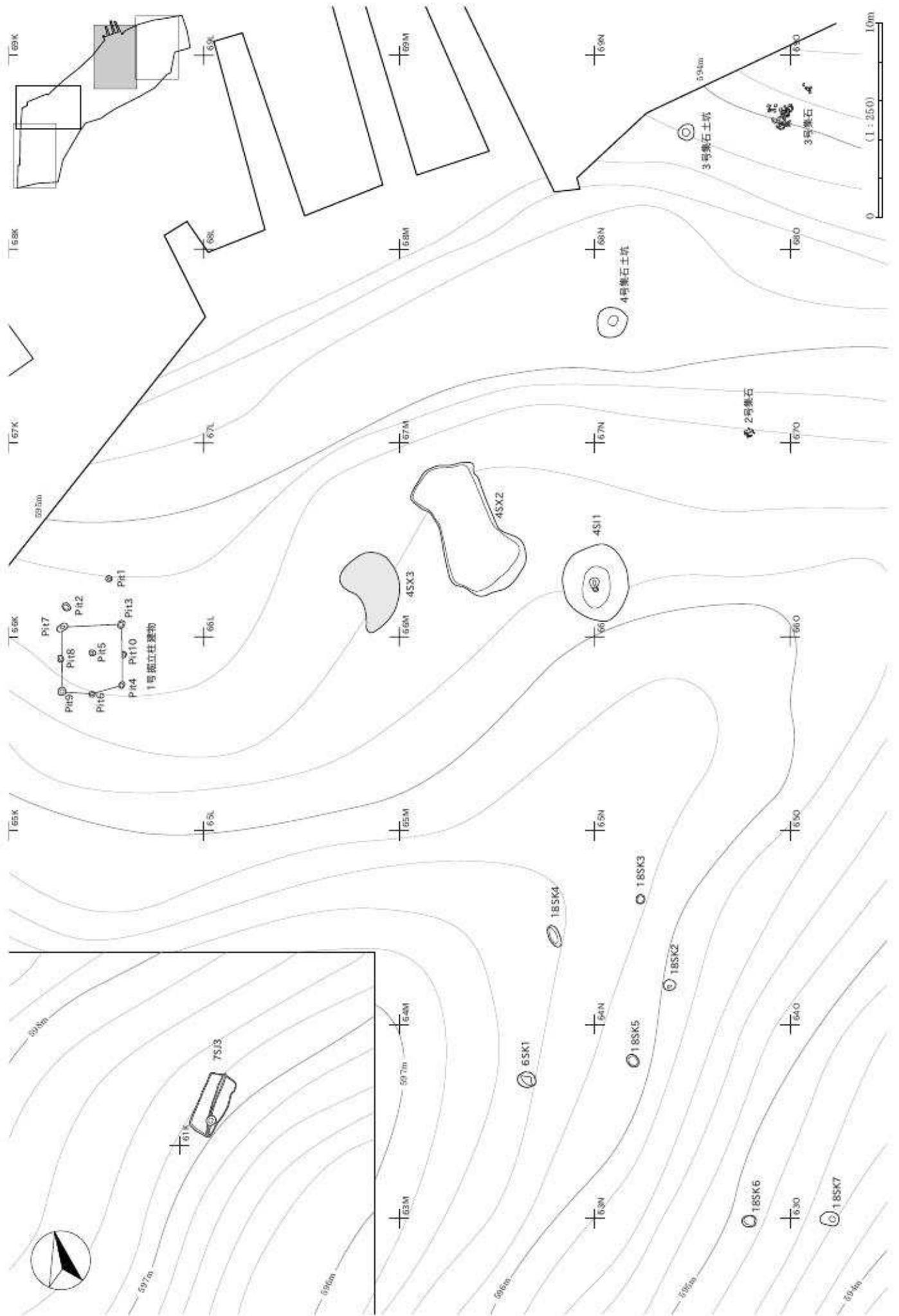
凡 例

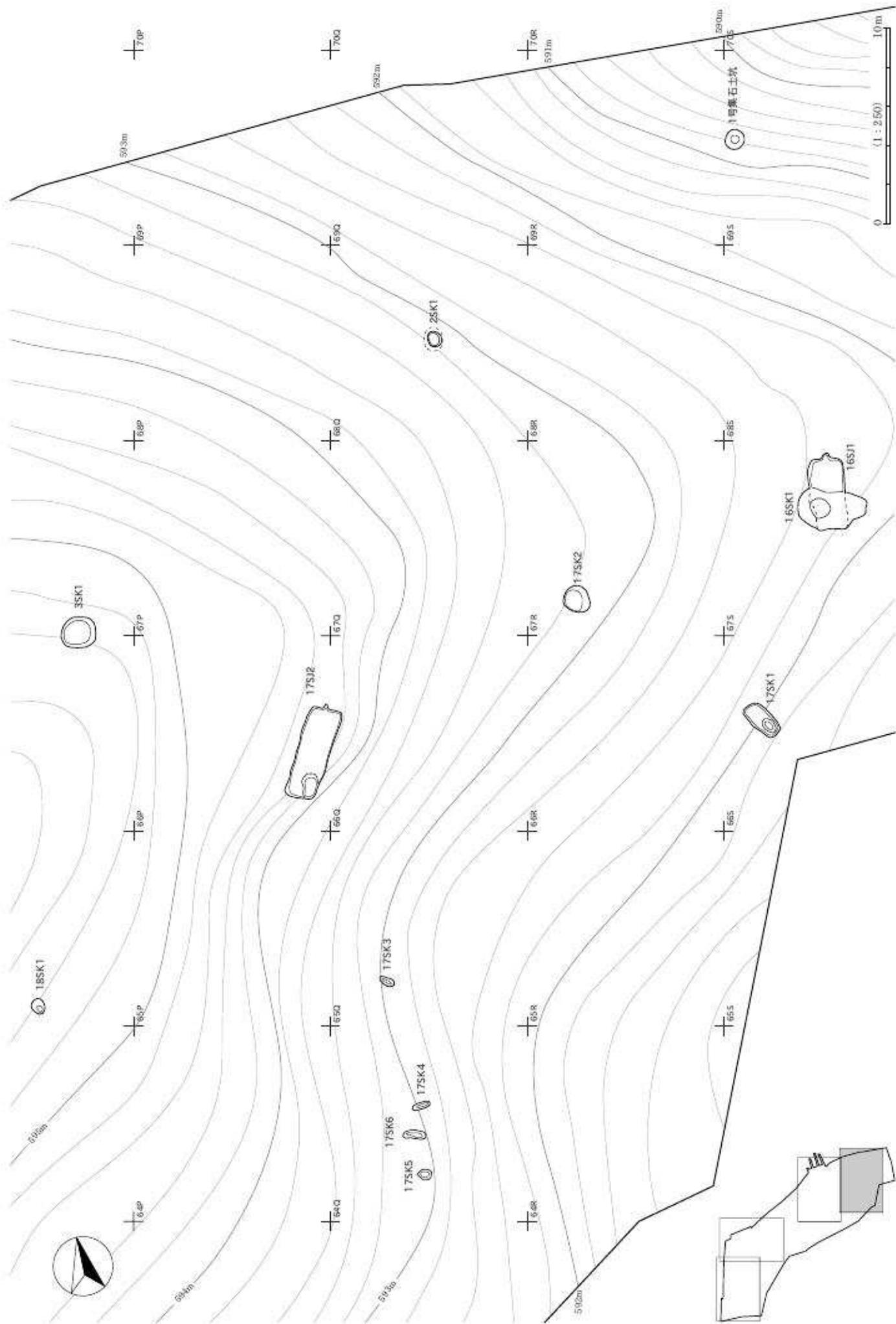
- 1 土器図版において、断面にアミ掛けのあるものは胎土に繊維を含むことを示す。
- 2 土器図版において、() 内に遺構名を記したものはその遺構出土のもの、あるいはその遺構の直上のV層出土で遺構伴出の可能性のある土器である。
- 3 石器図版において、微細剥離のある範囲は /←→/ で示した。
- 4 石器図版において、新しい破損部分（ガジリ）は白抜きで示した。



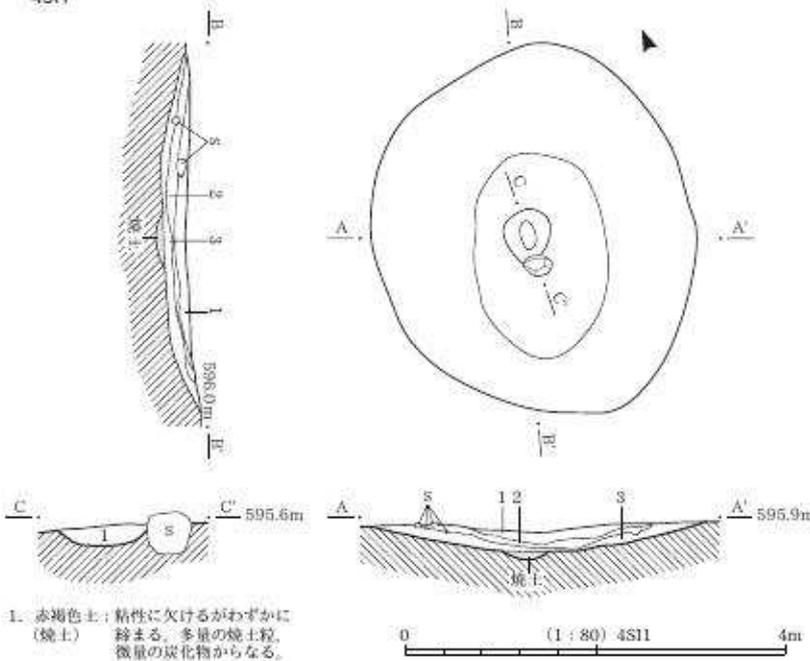








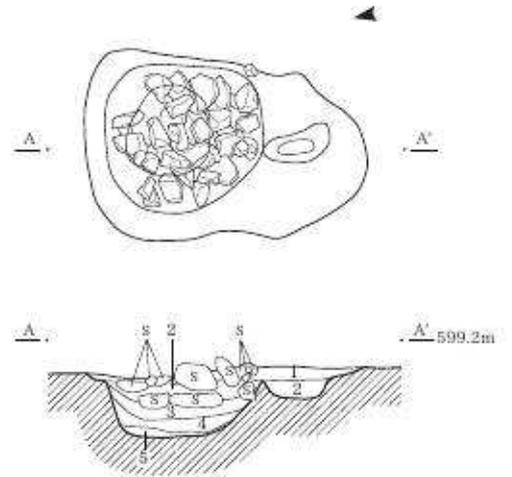
4S11



1. 赤褐色土：粘性に欠けるがわずかに締まる。多量の焼土粒、微量の炭化材からなる。

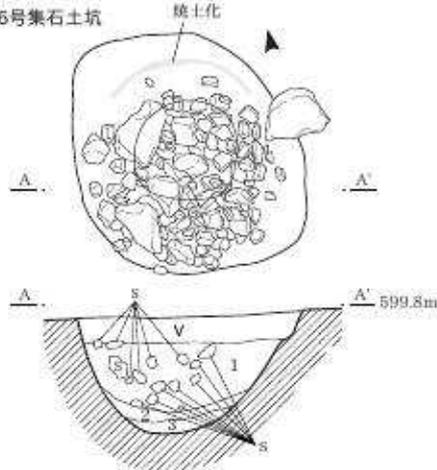
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。
2. 灰褐色土：粘性・締り共になし。
3. 暗黄褐色土：粘性あるが締りなし。

5号集石土坑



1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。微量の炭化材を含む。
2. 黒褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化材を含む。
3. 黒色土：粘性・締り共になし。多量の炭化材を含む。
4. 黒褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化材を含む。
5. 暗褐色土：粘性・締り共になし。微量の炭化材を含む。

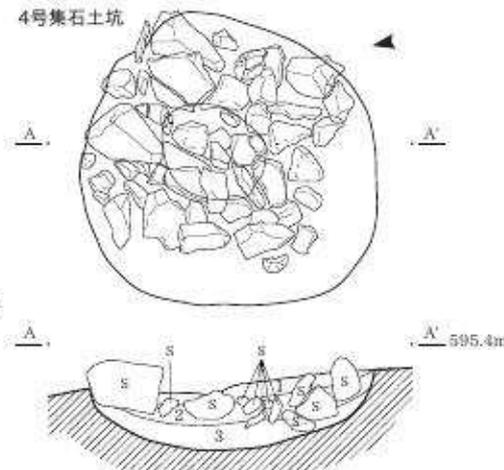
6号集石土坑



V (基本土層)：微量の炭化粒を含む。

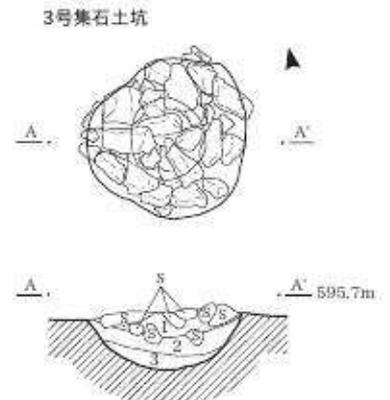
1. 黒褐色土：粘性・締り共にややなし。少量の炭化粒を含む。
2. 黒褐色土：1とほぼ同質であるが、やや黒味強い。
3. 暗褐色土：粘性ないが締まる。多量の炭化粒・材を含む。

4号集石土坑



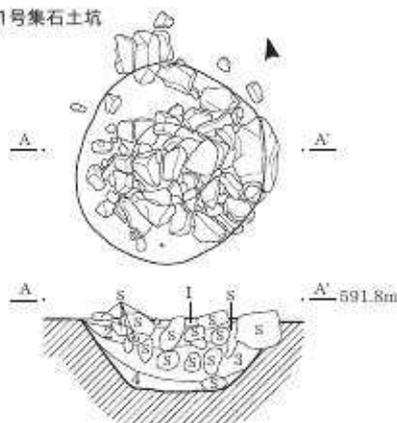
1. 暗褐色土：粘性・締り共にややなし。微量の炭化材を含む。
2. 暗褐色土：粘性・締り共にややなし。少量の炭化材を含む。
3. 黒褐色土：粘性・締り共にややなし。多量の炭化材を含む。

3号集石土坑



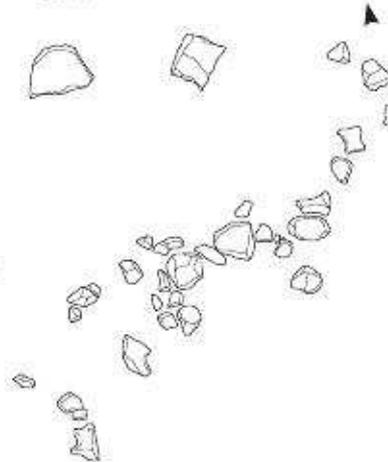
1. 暗褐色土：粘性・締り共になし。
2. 黒褐色土：粘性・締り共になし。多量の炭化粒を含む。
3. 黒色土：粘性・締り共になし。炭化材を大量に含む。

1号集石土坑



1. 褐色土：粘性・締り共になし。微量の炭化粒を含む。
2. 暗褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化粒を含む。
3. 黒褐色土：粘性・締り共になし。多量の炭化粒を含む。
4. 黒褐色土：3と同質であるが、より多量の炭化粒を含む。

1号集石



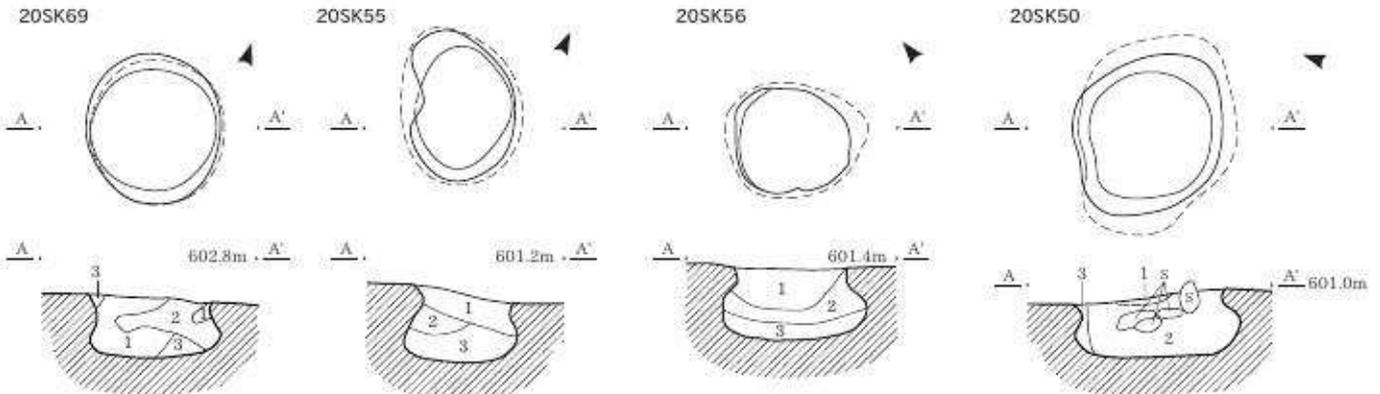
2号集石



3号集石



0 (1:40) その他 2m

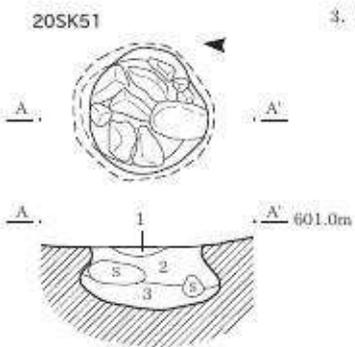


1. 灰褐色土 : 粘性・締り共になし、多量のローム粒を含む。
 2. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
 3. 黄褐色土 : 粘性があるが締りなし。

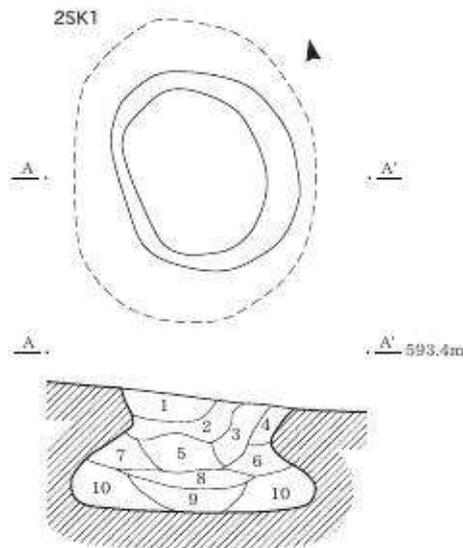
1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、多量の炭化物と少量のローム粒を含む。
 2. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
 3. 褐色土 : 粘性・締り共になし、少量の炭化物を含む。

1. 暗褐色土 : 粘性があるがやや締りなし、少量の黒色粒を含む。
 2. 暗褐色土 : 粘性があるがやや締りなし、微量の黒色粒を含む。
 3. 暗褐色土 : 1・2よりやや明るい、少量の黒色粒を含む。

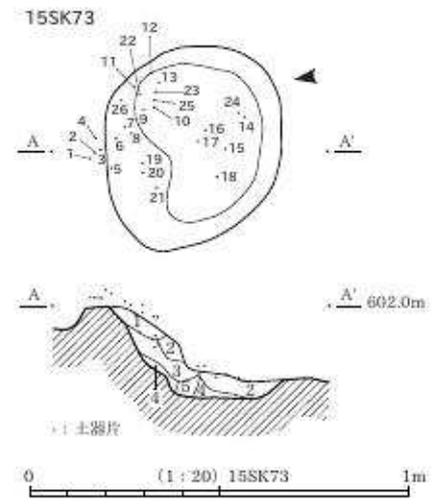
1. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。
 2. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし、ローム粒を含む、大小礫が多量に混入。
 3. 黄褐色土 : 粘性があるがやや締りなし。



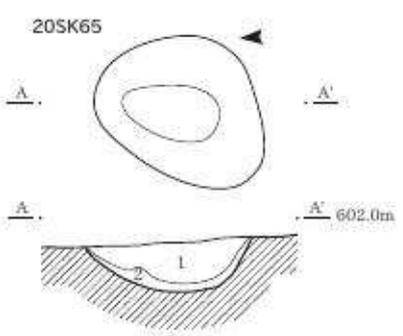
1. 暗褐色土 : 粘性があるが締りなし。
 2. 暗褐色土 : 粘性があるが締りなし、少量のローム粒を含む。
 3. 暗褐色土 : 2よりやや明るい、粘性ないが締りあり、多量のローム粒を含む。



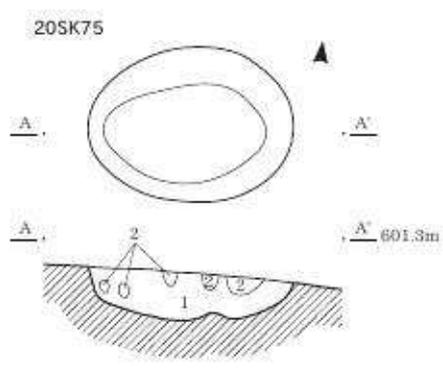
1. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし、微量の黄褐色土粒を含む。
 2. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、微量の黄褐色土粒を含む。
 3. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、少量のローム粒を含む。
 4. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし、多量のローム粒を含む。
 5. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、微量のローム粒・黒色土粒を含む、2・3よりやや明るい。
 6. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし、少量のローム粒・ブロックを含む。
 7. 暗褐色土 : 粘性があるが締りなし、少量の黒色土粒を含む。
 8. 暗黄褐色土 : 粘性があるが締りなし、微量のローム粒を含む。
 9. 暗褐色土 : 粘性があるが締りなし、少量のローム粒を含む。
 10. 暗褐色土 : 粘性があるが締りなし、少量のローム粒を含む。



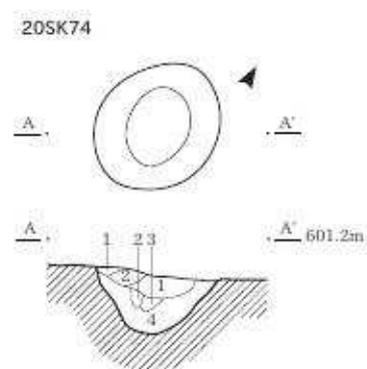
1. 灰褐色土 : 粘性・締り共になし。
 2. 黒色土 : 粘性・締り共になし。
 3. 灰褐色土 : 粘性・締り共になし、少量のローム粒を含む。
 4. 褐色土 : 粘性・締り共になし、多量のローム粒を含む。
 5. 灰褐色土 : 粘性・締り共になし。



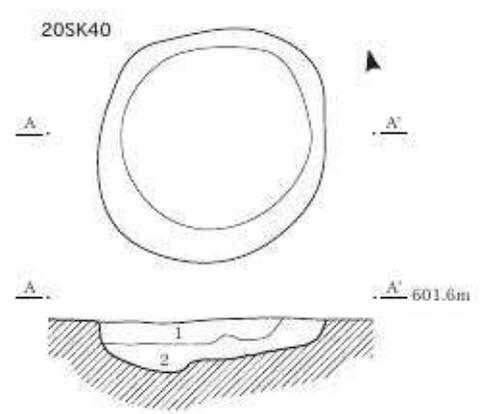
1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、ローム粒を含む。
 2. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし、ローム粒を含む。



1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、多量のローム粒を含む。
 2. 暗褐色土 : 1より明るい、粘性・締り共になし、多量のローム粒を含む。

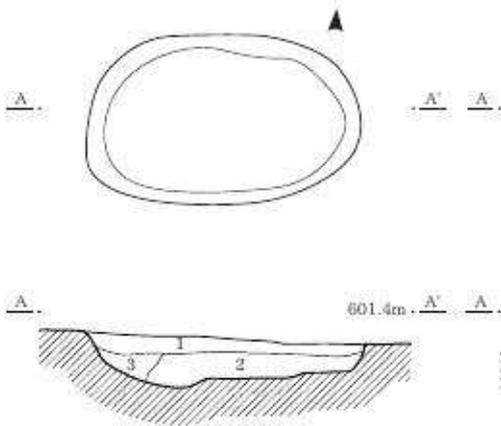


1. 赤褐色土 (焼土) : 粘性やあるが締りなし、炭化物を含む。
 2. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし、炭化物・少量のローム粒を含む。
 3. 黄褐色土 : 粘性・締り共になし。
 4. 灰褐色土 : 粘性があるが締りなし。



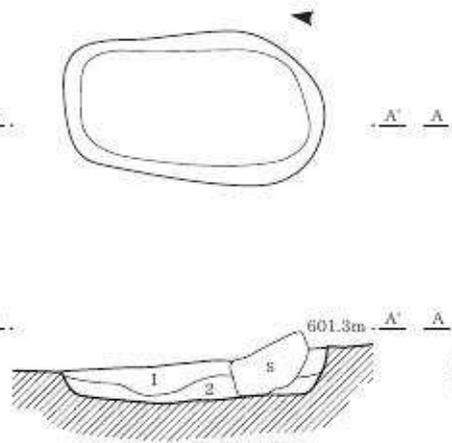
1. 暗褐色土 : 粘性わずかにあるが締りなし、微量のローム粒・焼土粒を含む。
 2. 暗褐色土 : 粘性わずかにあるが締りなし、微量のローム粒を含む。

20SK12



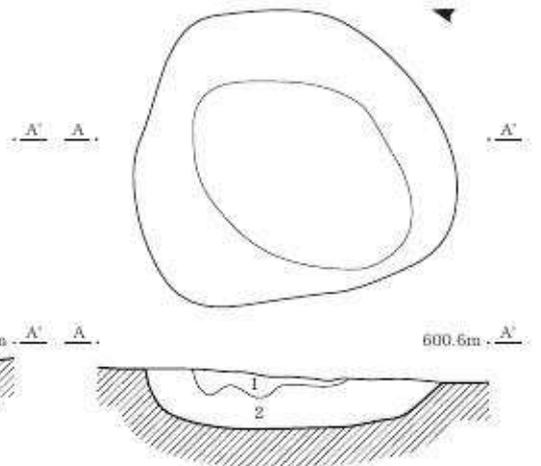
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化粒を含む。
2. 暗褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化粒を含む。
3. 暗黄褐色土。

20SK10



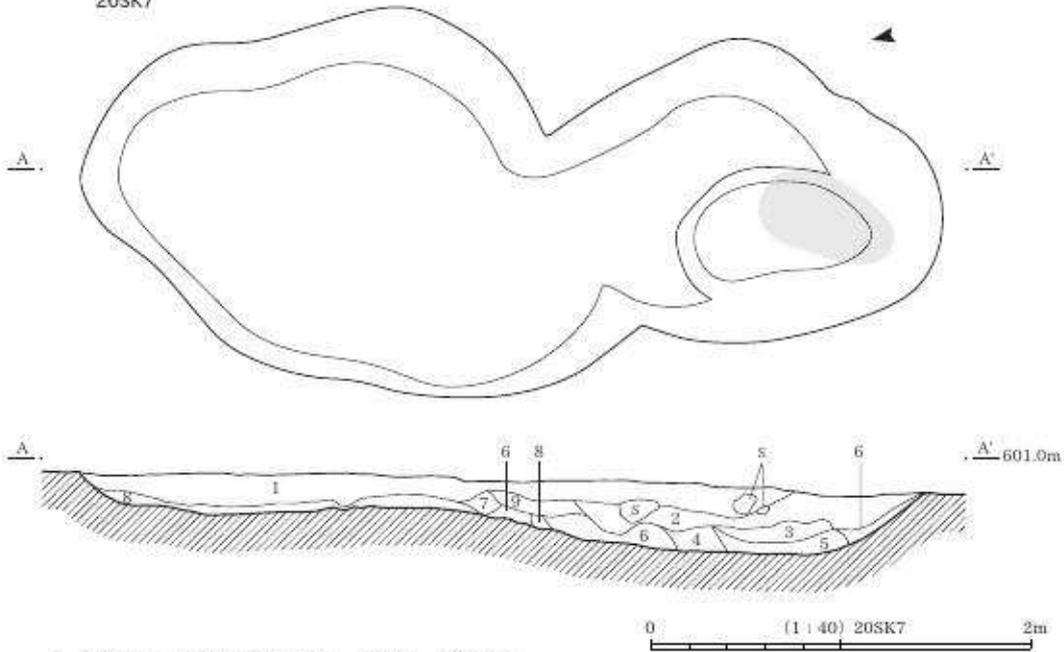
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化粒を含む。
2. 暗褐色土：粘性あるが締りなし。微量のローム粒を含む。

20SK18



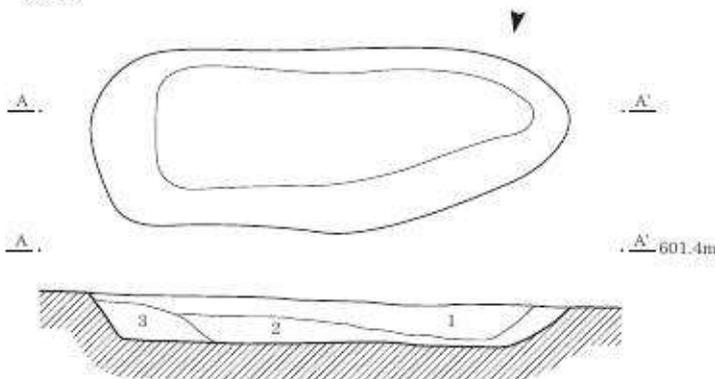
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。
2. 暗褐色土：1層よりやややうすい。粘性・しまり共になし。多量のローム粒。少量の炭化物混じる。

20SK7



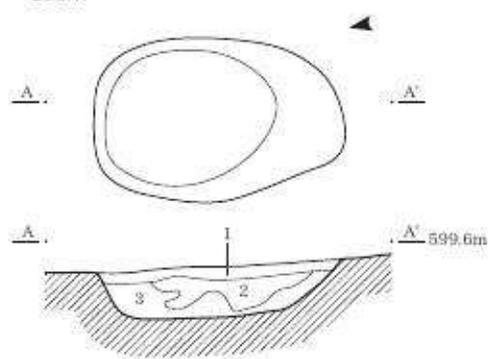
1. 暗褐色土：粘性ややあるが締りなし。少量のローム粒を含む。
2. 暗灰褐色土：粘性ややあるが締りなし。下部に多量のローム粒・炭化物を含む。
3. 暗褐色土：粘性あるが締りなし。多量の炭化物と少量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土：粘性あるが締りなし。少量のローム粒を含む。
5. 赤褐色土（焼土）：粘性・締り共になし。
6. 明灰褐色土：粘性・締り共になし。ローム粒を多量に含む。
7. 灰褐色土：粘性・締り共になし。ローム粒を含む。
8. 黄褐色土：粘性ややあるが締りなし。
9. 灰褐色土：粘性・締り共になし。少量のローム粒を含む。

20SK9



1. 黒褐色土：粘性ないがやや締まる。微量のローム粒・焼土粒を含む。
2. 暗褐色土：粘性ないがやや締まる。微量の黒色粒を含む。
3. 暗黄褐色土：粘性あり硬く締まる。極少量の黒色粒を含む。

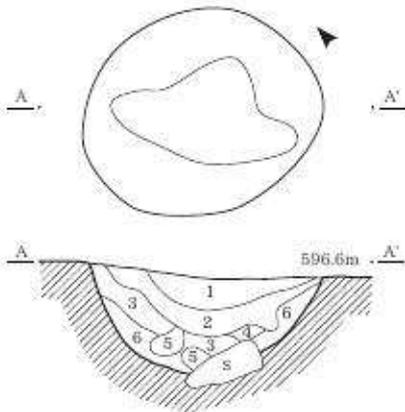
20SK1



1. 暗褐色土：粘性・締り共になし。少量の炭化物を含む。
2. 暗褐色土：粘性・締り共にあり。多量の炭化粒を含む。
3. 黒色土：粘性・締り共になし。極多量の炭化材を含む。

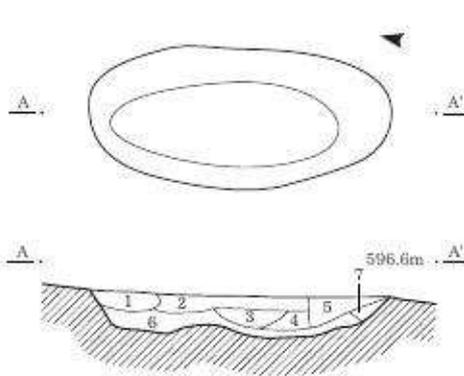
0 (1:30) その他 2m

6SK1



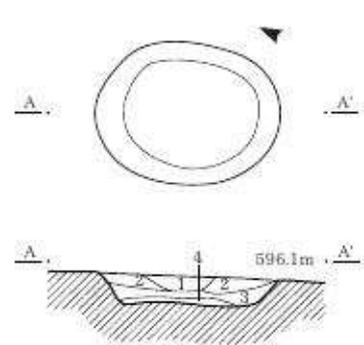
1. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 黒褐色土 : 粘性やあるが締りなし。
3. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
4. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。
5. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
6. 褐色土 : 粘性・締り共になし。地山に近い。

18SK4



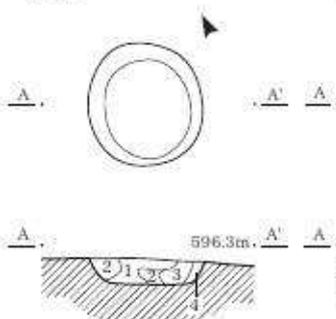
1. 褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。少量の炭化物を含む。
3. 暗褐色土 : 粘性あるが締りなし。
4. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
5. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし。少量の炭化物を含む。
6. 褐色土 : 粘性あるが締りなし。少量の炭化物を含む。
7. 暗黄褐色土 : 粘性あるが締りなし。

18SK5



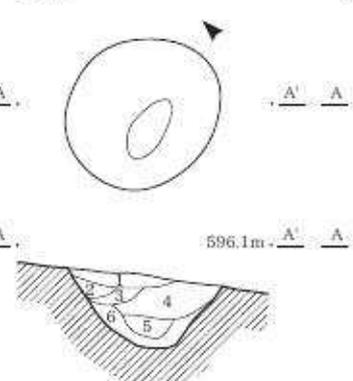
1. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。少量のローム粒を含む。
3. 暗黄褐色土 : 粘性あるが締りなし。少量のローム粒を含む。
4. 褐色土 : 粘性あるが締りなし。少量のローム粒を含む。

18SK3



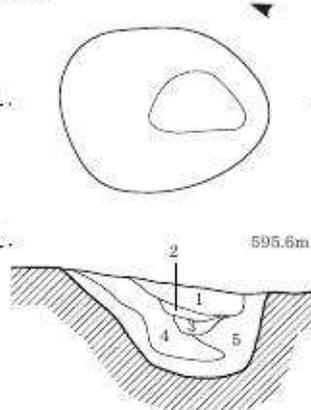
1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。炭化物を含む。
2. 褐色土 : 粘性・締り共になし。
3. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。少量のローム粒を含む。
4. 褐色土 : 粘性・締り共になし。黒色土小ブロックを含む。

18SK2



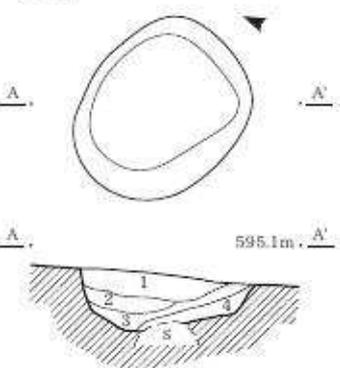
1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 褐色土 : 粘性あるが締りなし。
3. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。少量のローム粒を含む。
4. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし。多量のローム粒を含む。
5. 暗黄褐色土 : 4と同質であるが、色調がやや暗い。
6. 褐色土 : 粘性あるが締りなし。

18SK1



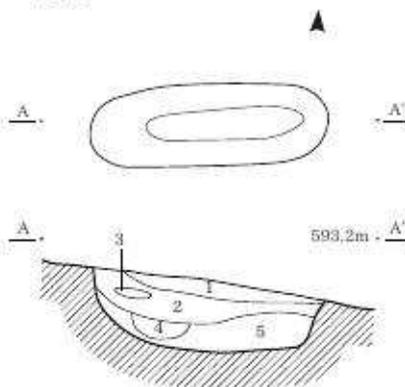
1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし。多量のローム粒を含む。
3. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし。少量のローム粒を含む。
4. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。少量のローム粒を含む。
5. 黄褐色土

18SK6



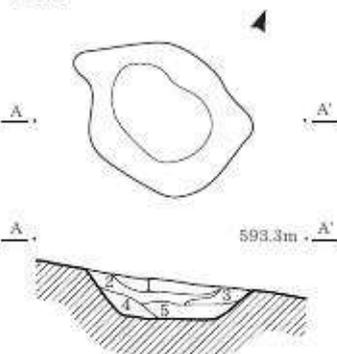
1. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 褐色土 : 粘性・締り共になし。多量のローム粒を多含む。
3. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。多量のローム粒を含む。
4. 黄褐色土 : 粘性あるが締りなし。

17SK4



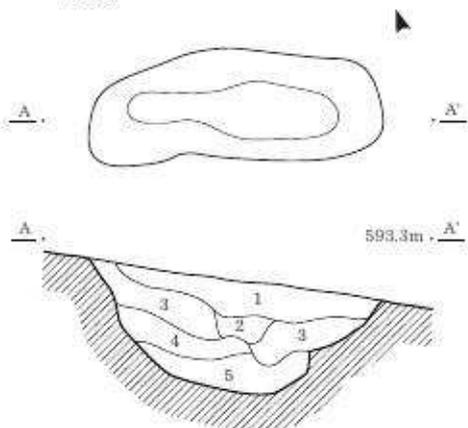
1. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。
2. 灰黒褐色土 : 粘性・締り共になし。褐色土粒を含む。
3. 褐色土 : 粘性やあるが締りなし。
4. 黒褐色土 : 粘性・締りなし。褐色土をブロック状に含む。
5. 褐色土 : 粘性あるが締りなし。

17SK5



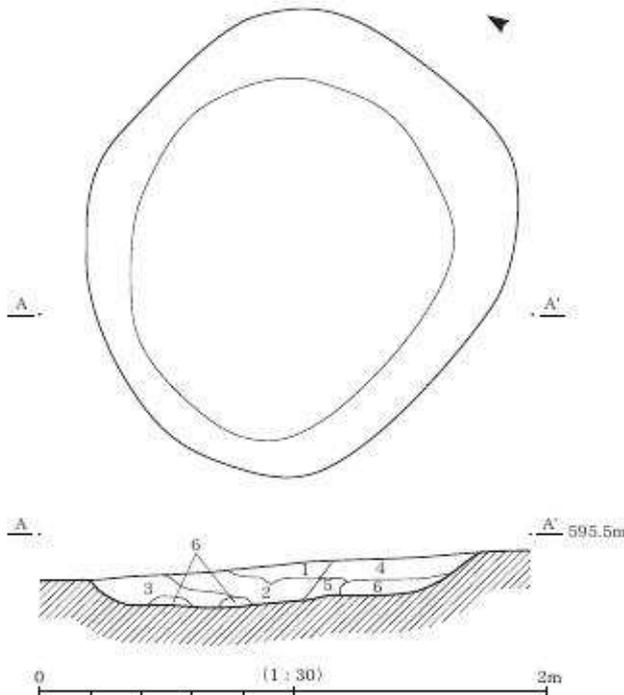
1. 灰褐色土 : 粘性・締り共になし。径2~3cmの地山をブロック状に含む。
2. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし。径5mmの赤褐色土粒を含む。
3. 灰褐色土 : 粘性・締り共になし。径5mmの赤褐色土粒を含む。
4. 暗黄褐色土 : 粘性・締り共になし。
5. 暗黄褐色土 : 4と同質であるが、地山を含む。

17SK6



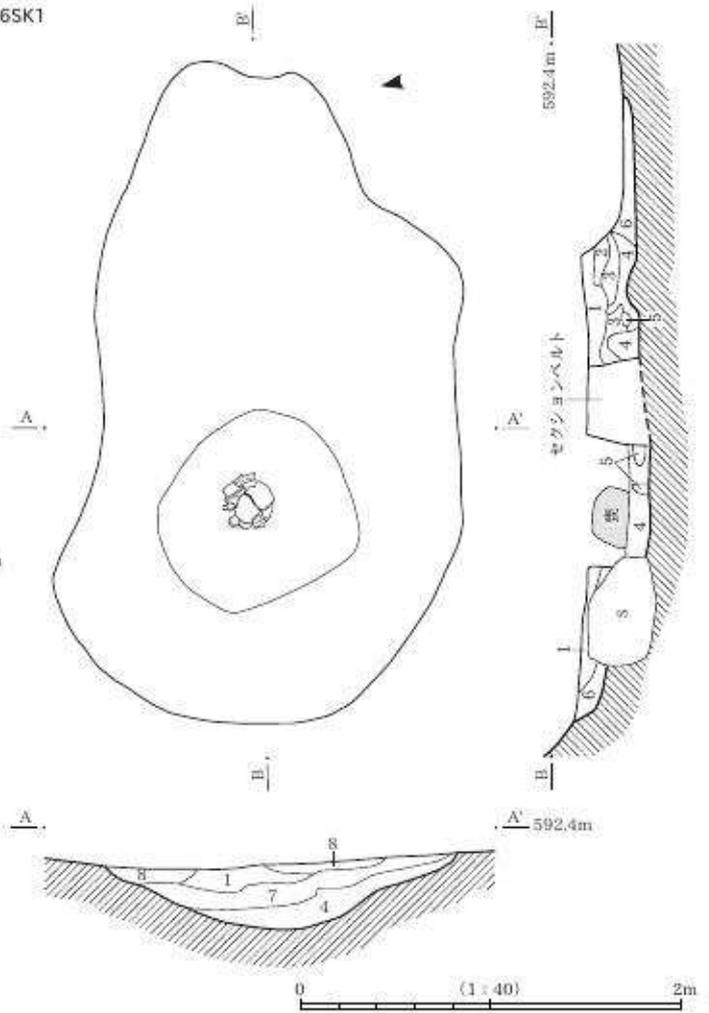
1. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。地山に含まれる径3cm前後の赤褐色土塊を含む。
2. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。地山土をブロック状に含む。
3. 黒褐色土 : 粘性・締り共になし。1・2より地山土を多く含む。色調が濃い。
4. 暗褐色土 : 粘性・締り共になし。多量の地山土を含む。
5. 黄褐色土 : 粘性・締り共になし。

35K1



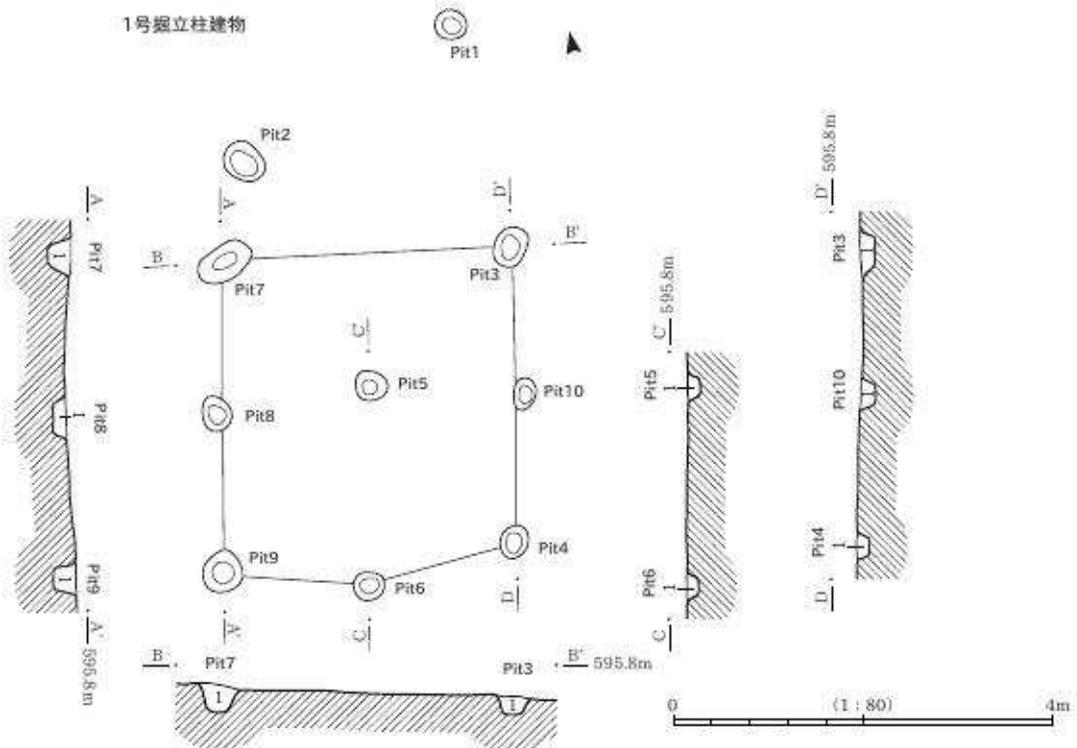
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。
2. 暗褐色土：粘性・締り共になし、径5mmの小礫を含む。
3. 暗褐色土：粘性ややあるが締りなし。
4. 灰褐色土：粘性・締り共になし。
5. 灰褐色土：粘性あるが締りなし。
6. 黄褐色土：粘性あるが締りなし。

16SK1



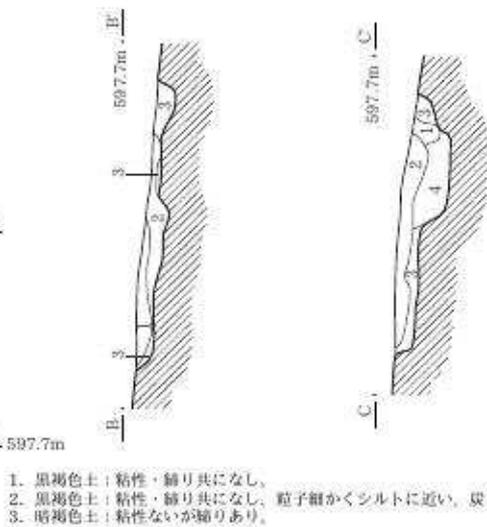
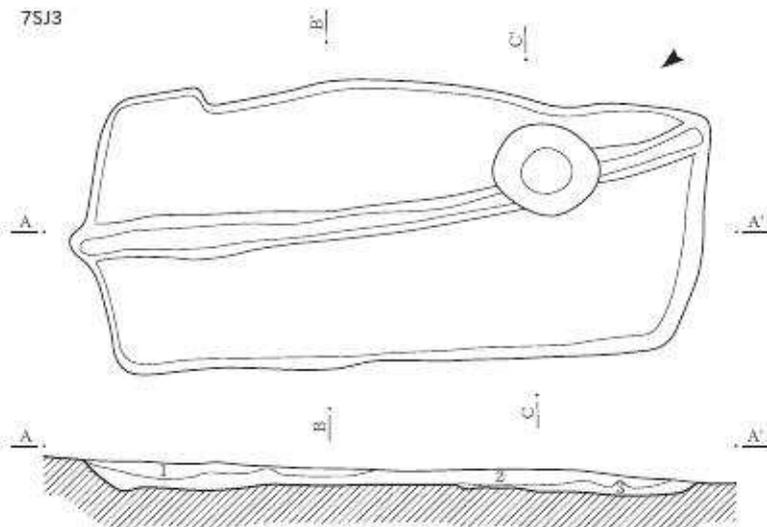
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし、黄褐色土をブロック状に含む。
2. 黒褐色土：粘性・締り共になし、少量の黄褐色土塊、炭化物を含む。
3. 黄褐色土：粘性・締り共になし、少量の暗褐色土塊を含む。
4. 黒褐色土：粘性・締り共になし、少量のローム粒を含む。
5. 灰褐色土：粘性・締り共になし。
6. 黒褐色土：粘性・締り共になし、灰褐色砂を含む。
7. 黒褐色土：粘性あるが締りなし、黄褐色土をブロック状に含む。
8. 黒褐色土：粘性・締り共になし、暗褐色土をブロック状に含む。

1号掘立柱建物



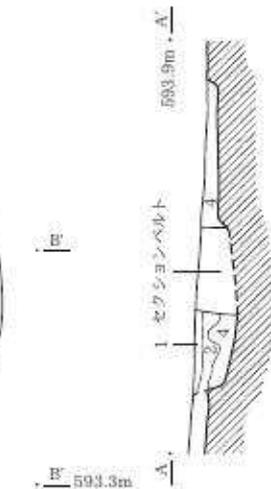
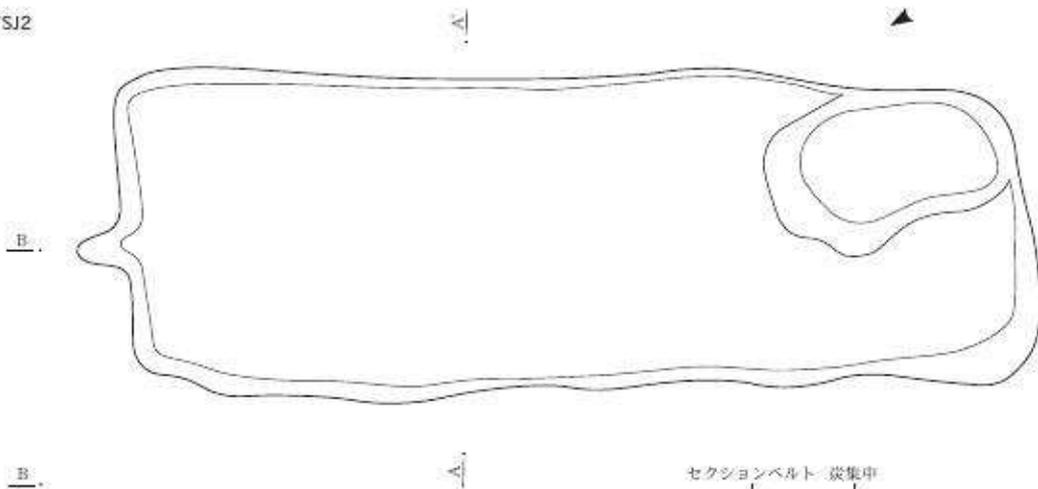
1. 淡褐色土：粘性ないがやや締る、微量の炭化物粒・ローム粒を含む。

75J3



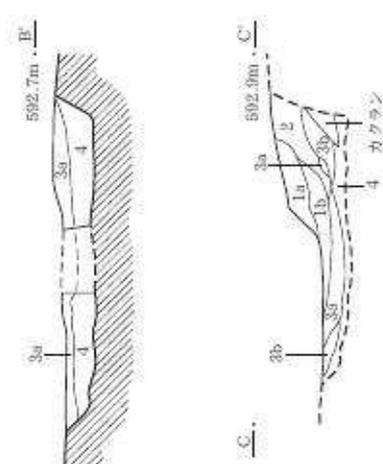
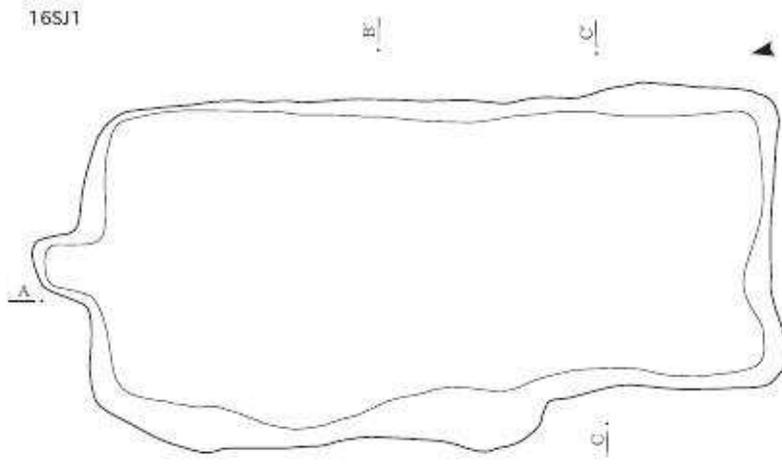
1. 黒褐色土：粘性・締り共になし。
2. 黒褐色土：粘性・締り共になし、粒子細かくシルトに近い、炭を多量に含む。
3. 暗褐色土：粘性ないが締りあり。
4. 黒褐色シルト：粘性あるが締りなし、径4~5mmの地山粒を含む。

175J2

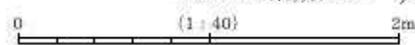


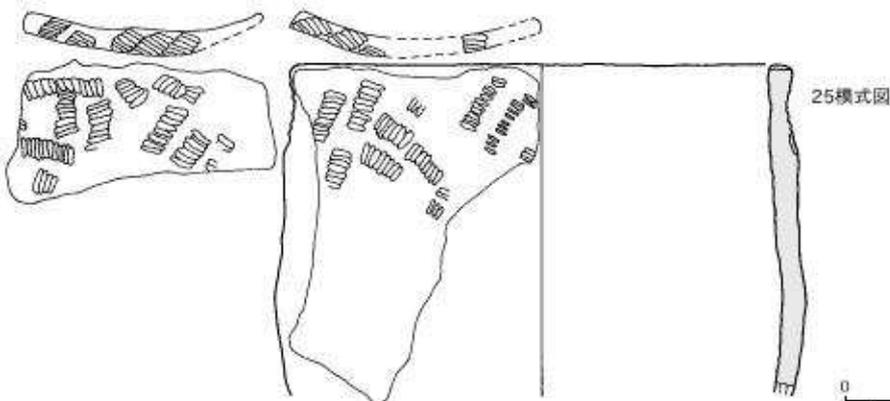
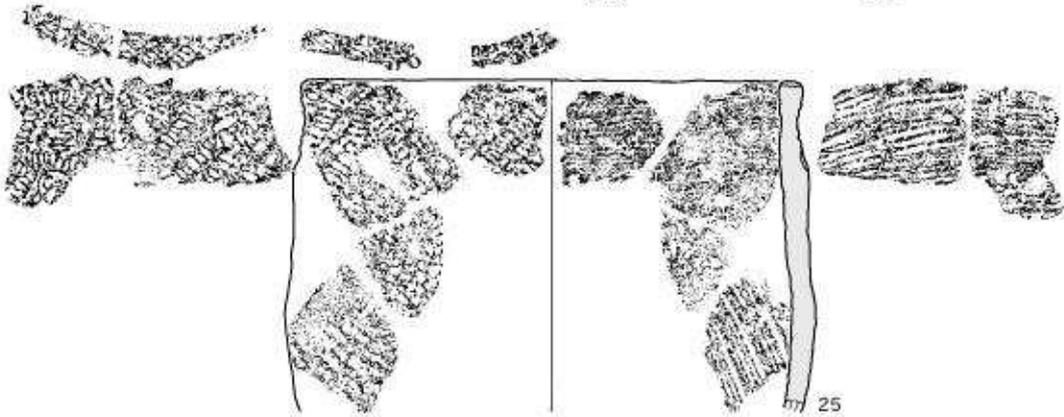
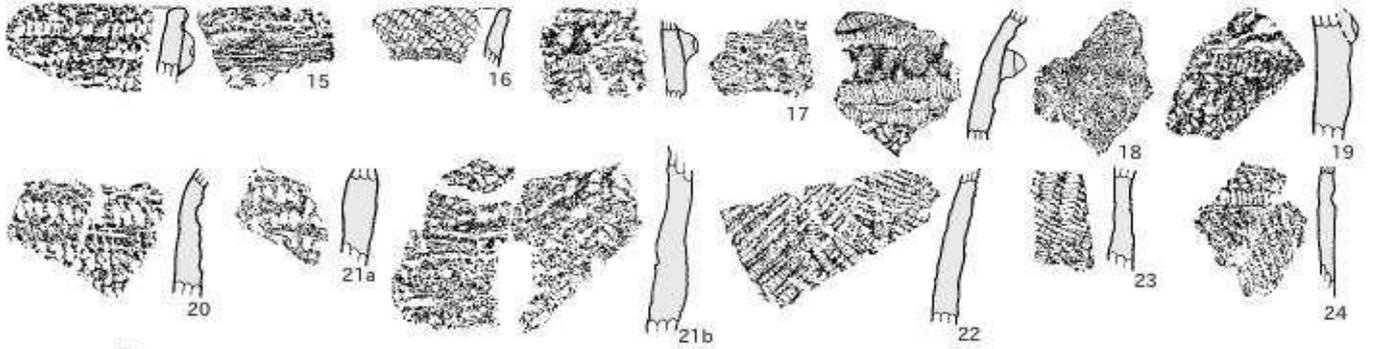
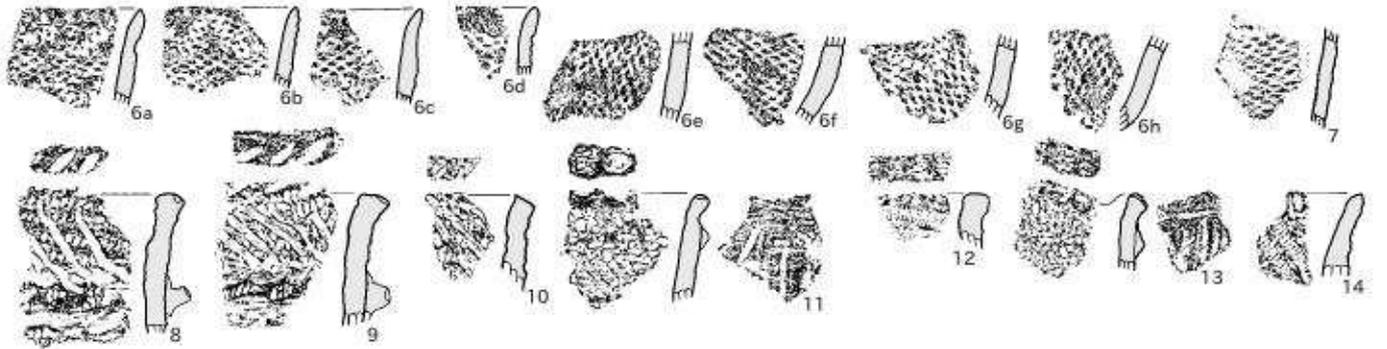
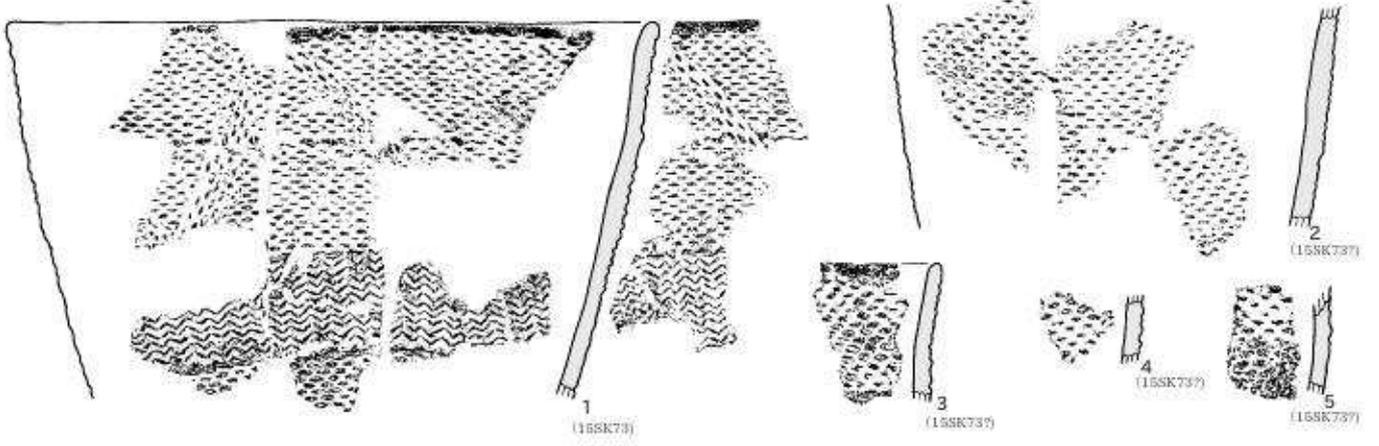
1. 暗褐色土：粘性・締り共になし、微量の炭化粒を含む。
2. 黒褐色土：やや粘性があり締る、多量の炭化材を含む。
- 3a. 黒褐色土：やや粘性があり締る、中量の炭化材を含む。
- 3b. 黒褐色土：やや粘性があり締る、大量の炭化材を含む。
4. 暗黄褐色土：粘性ないが締る、少量の赤倉火砕流粒子を含む。

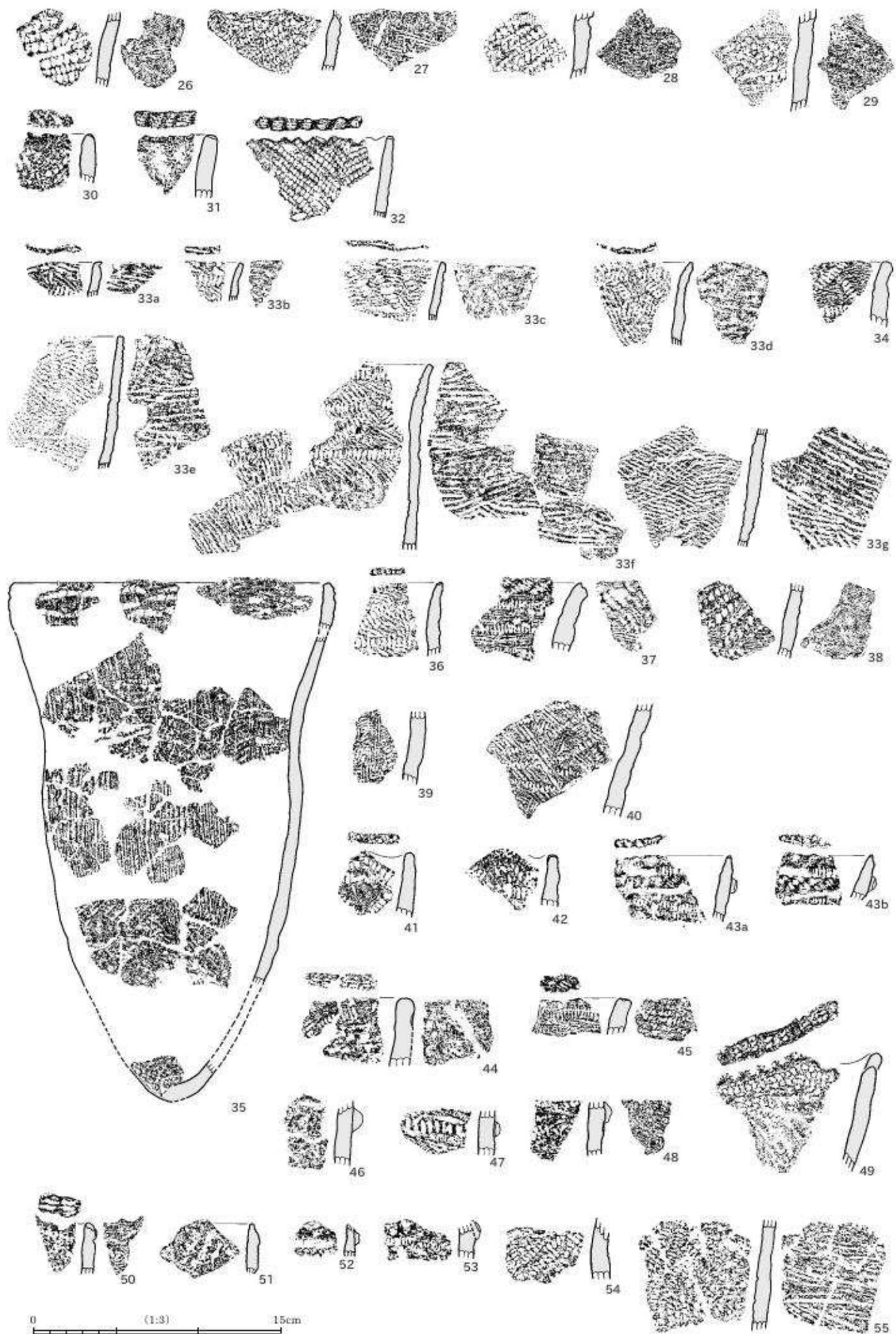
165J1

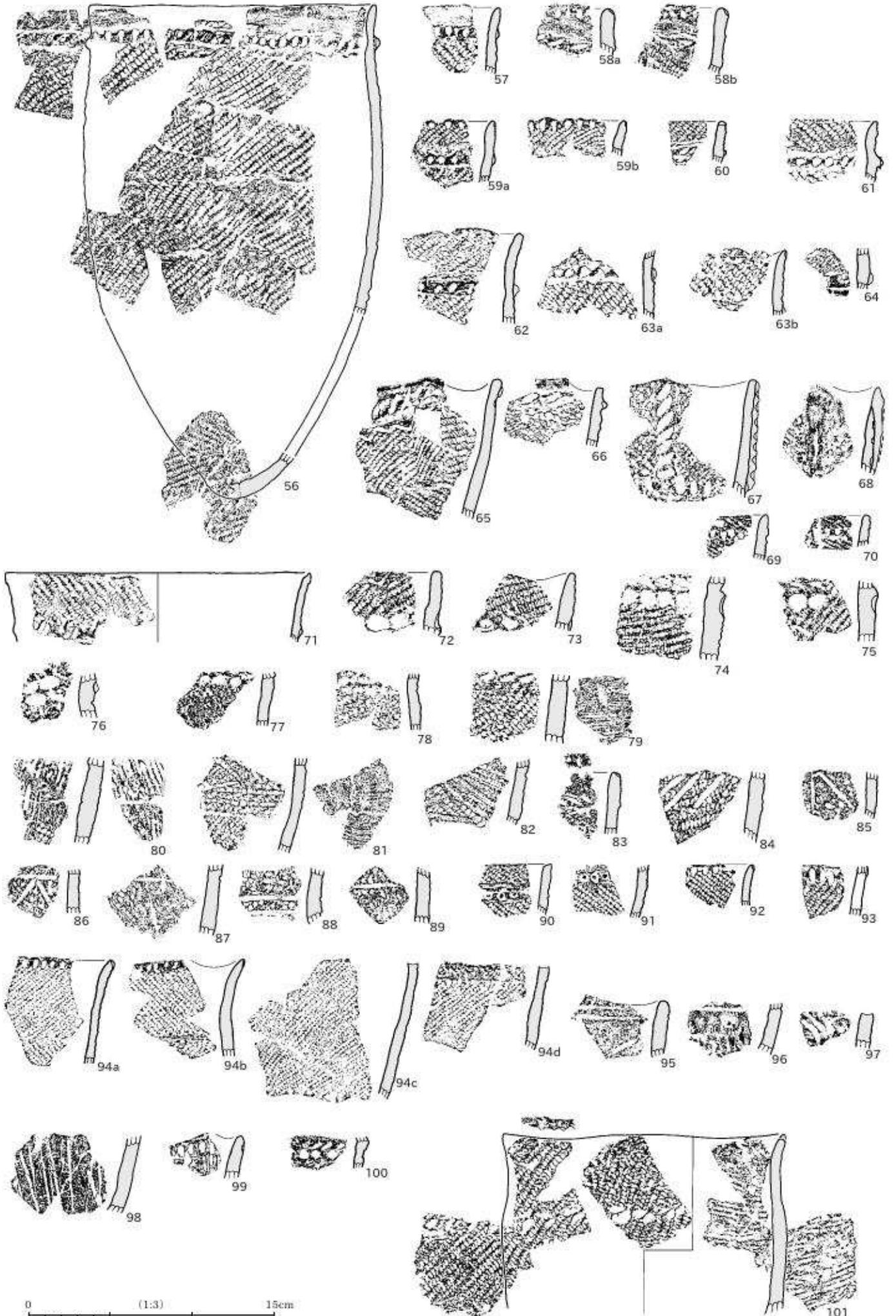


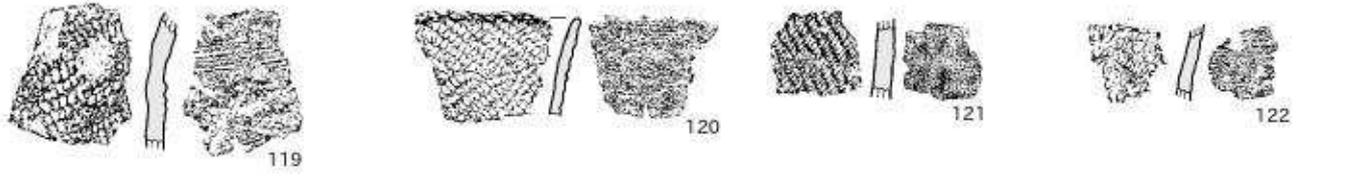
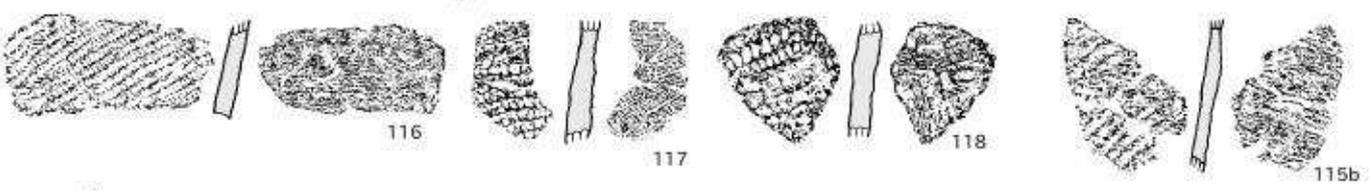
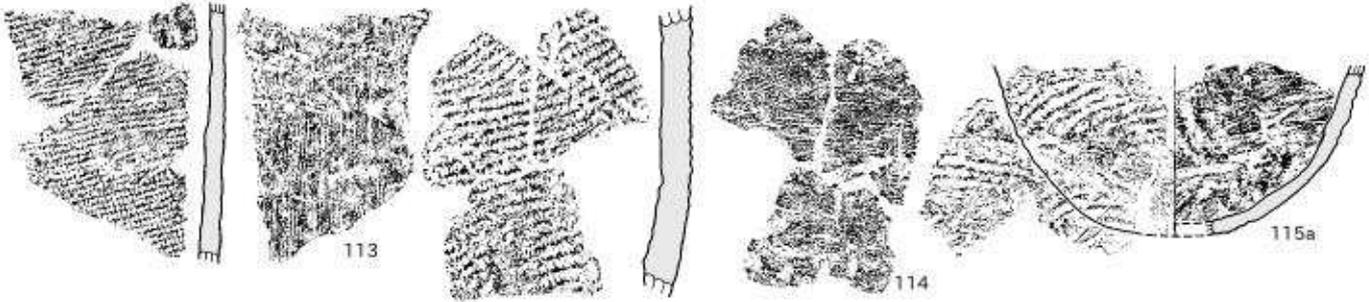
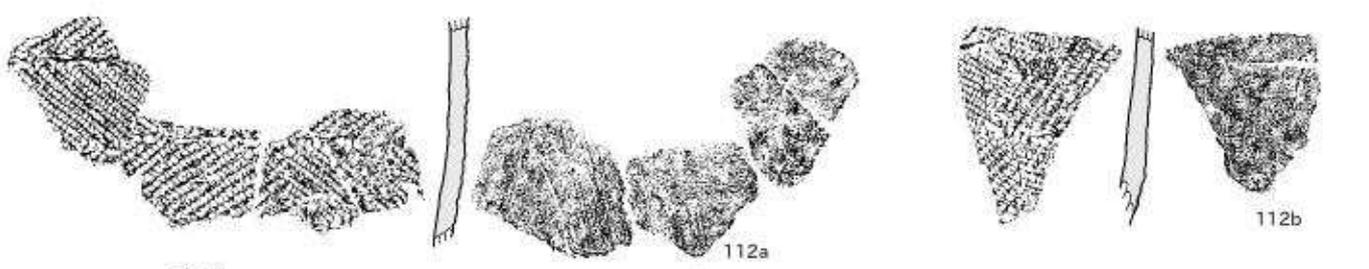
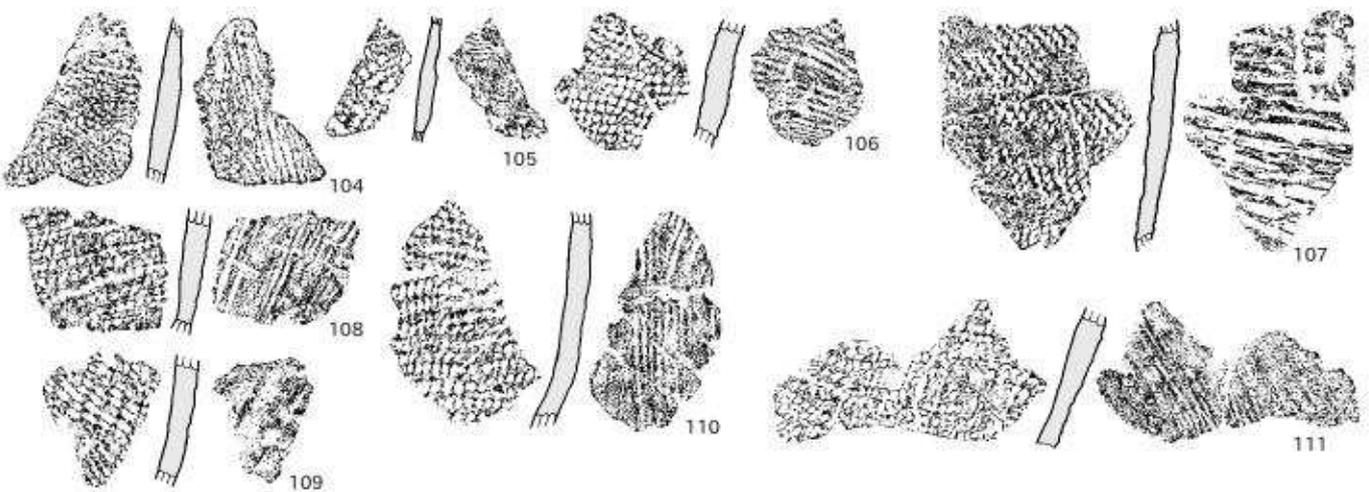
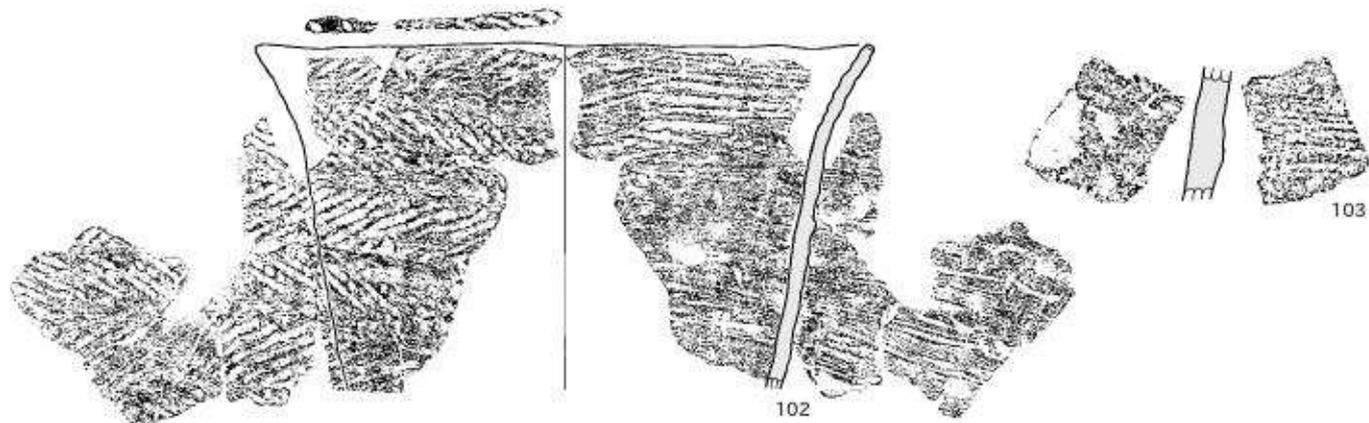
- 1a. 暗褐色土：粘性・締り共になし、微量の赤倉火砕流粒子を含む。
- 1b. 褐色土：粘性・締り共になし、少量の赤倉火砕流粒子を含む。
2. 暗褐色土：粘性わずかにあるが締りなし、微量の赤倉火砕流粒子を含む。
- 3a. 淡褐色土：粘性わずかにあるが締りなし、少量の焼山火山灰(KG-c)を含む。
- 3b. 褐色土：粘性・締り共になし、少量の炭化物を含む。
4. 黒色土：粘性・締り共になし、木炭屑。

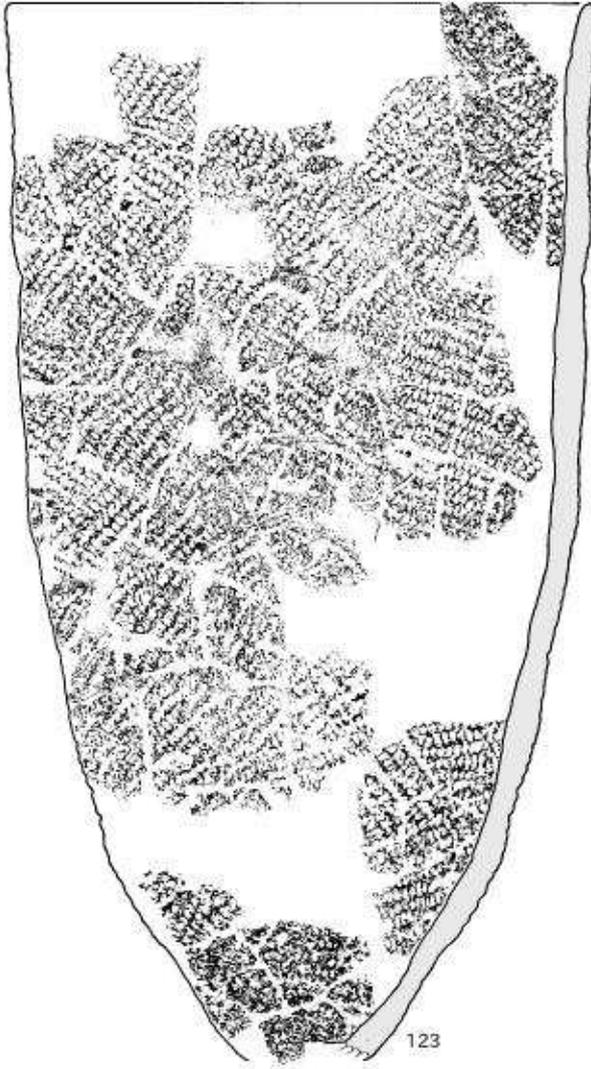




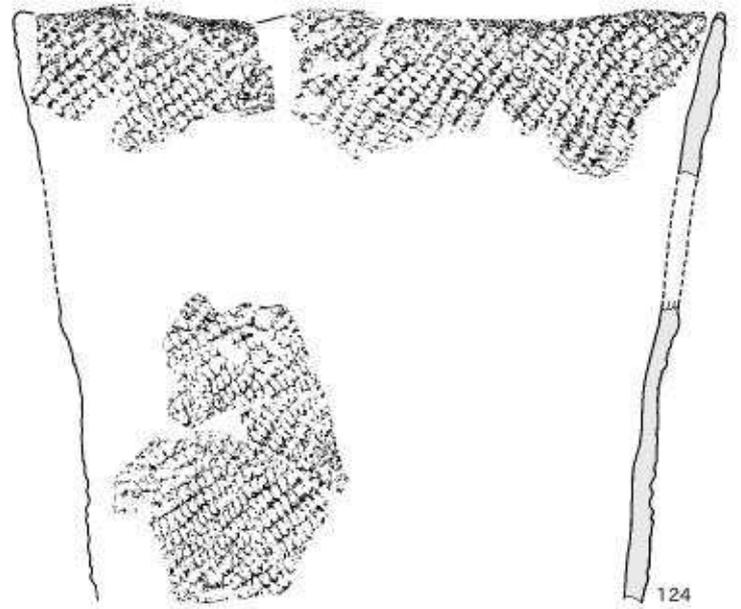








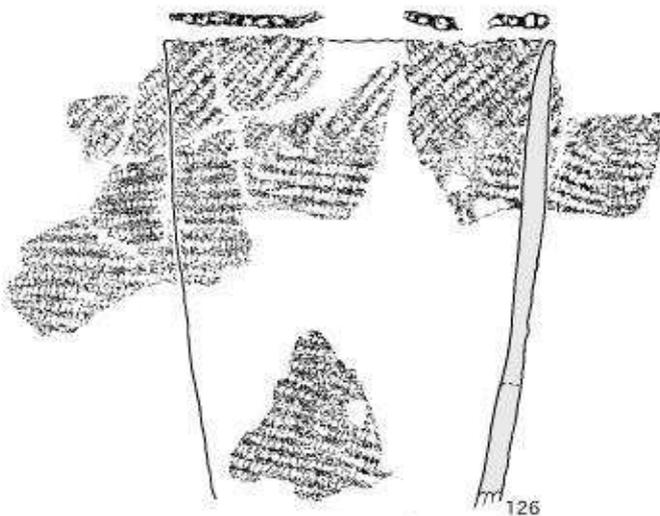
123



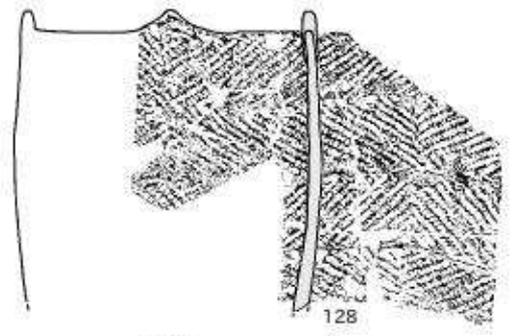
124



125
(4.8x3)



126



128



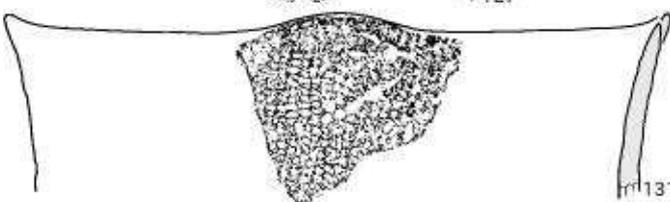
129



127



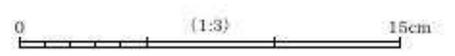
130

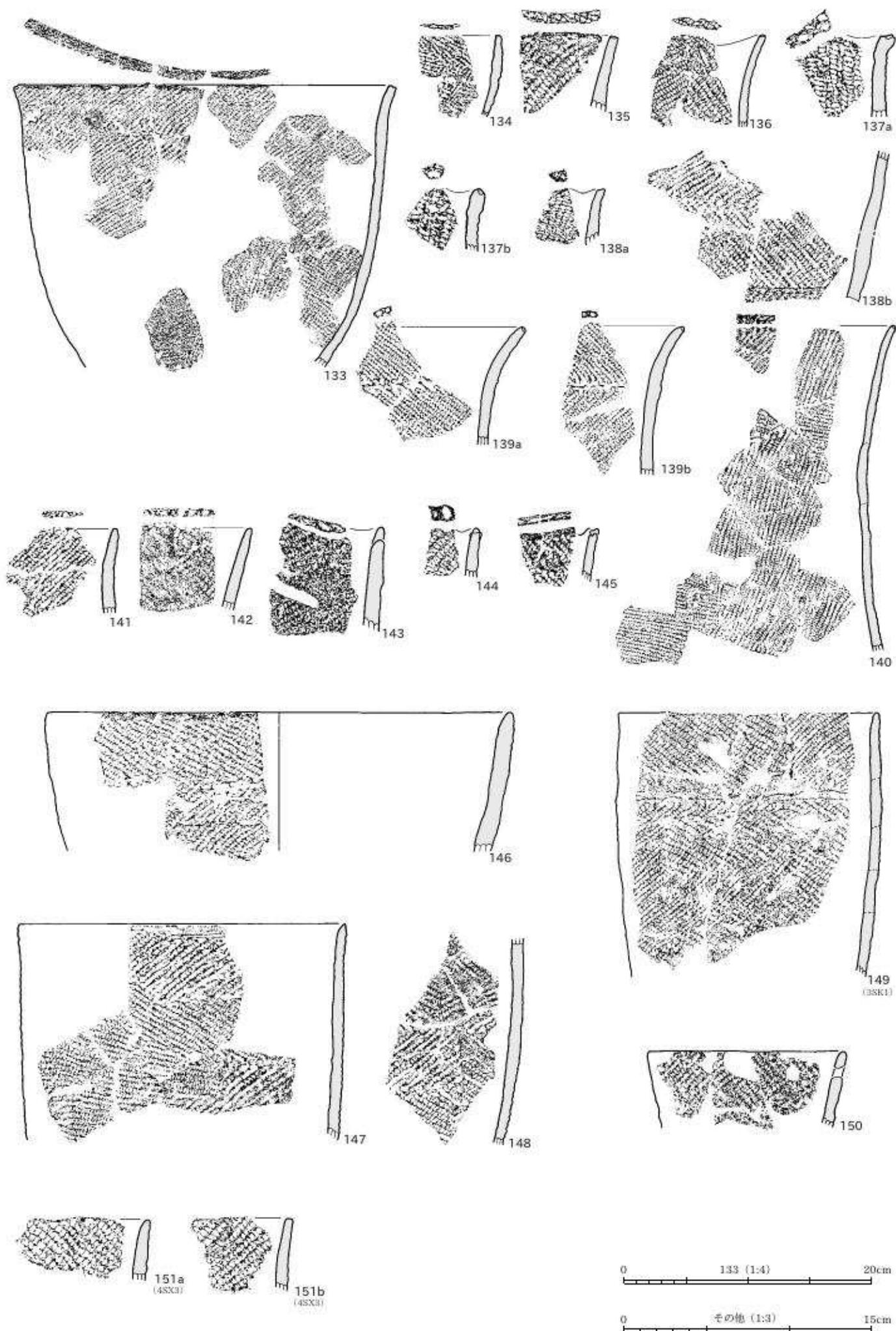


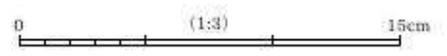
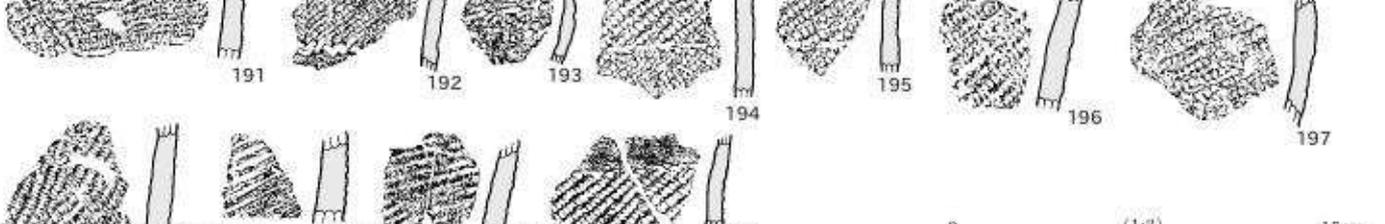
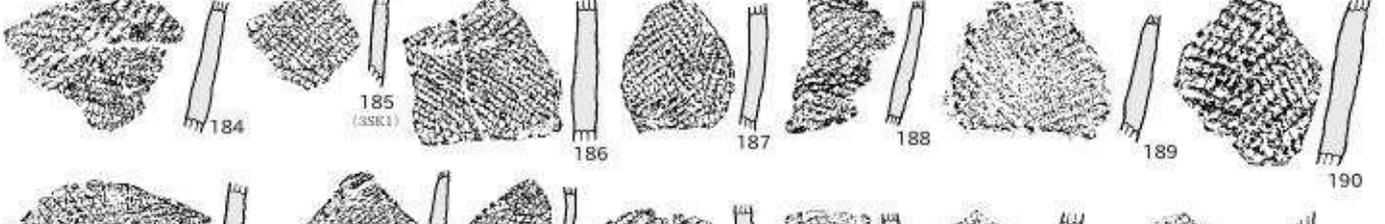
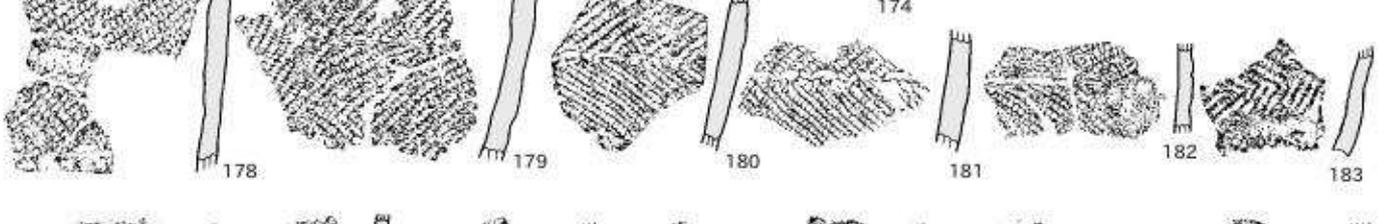
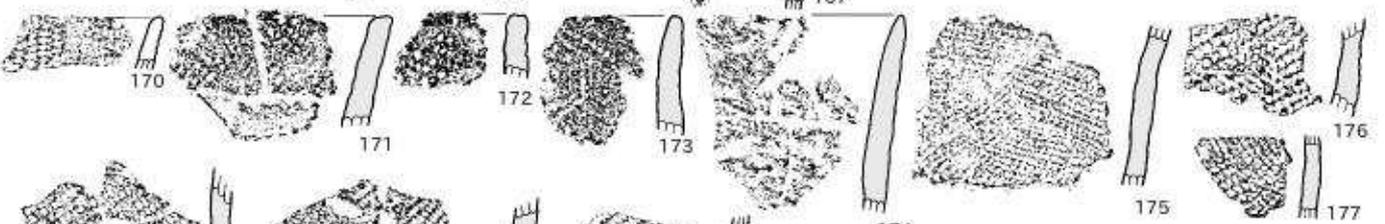
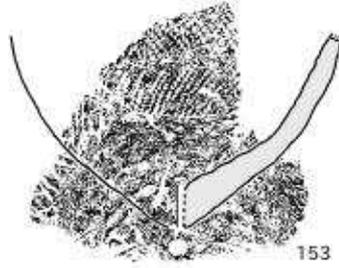
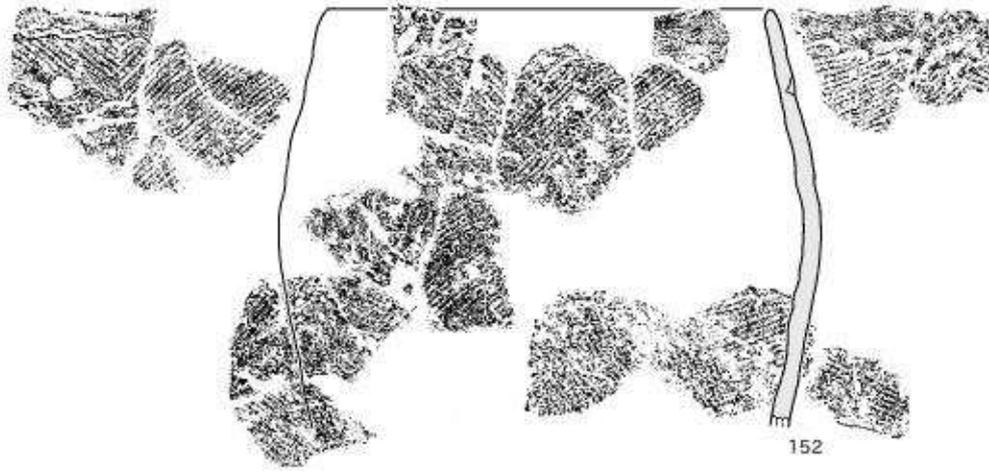
131

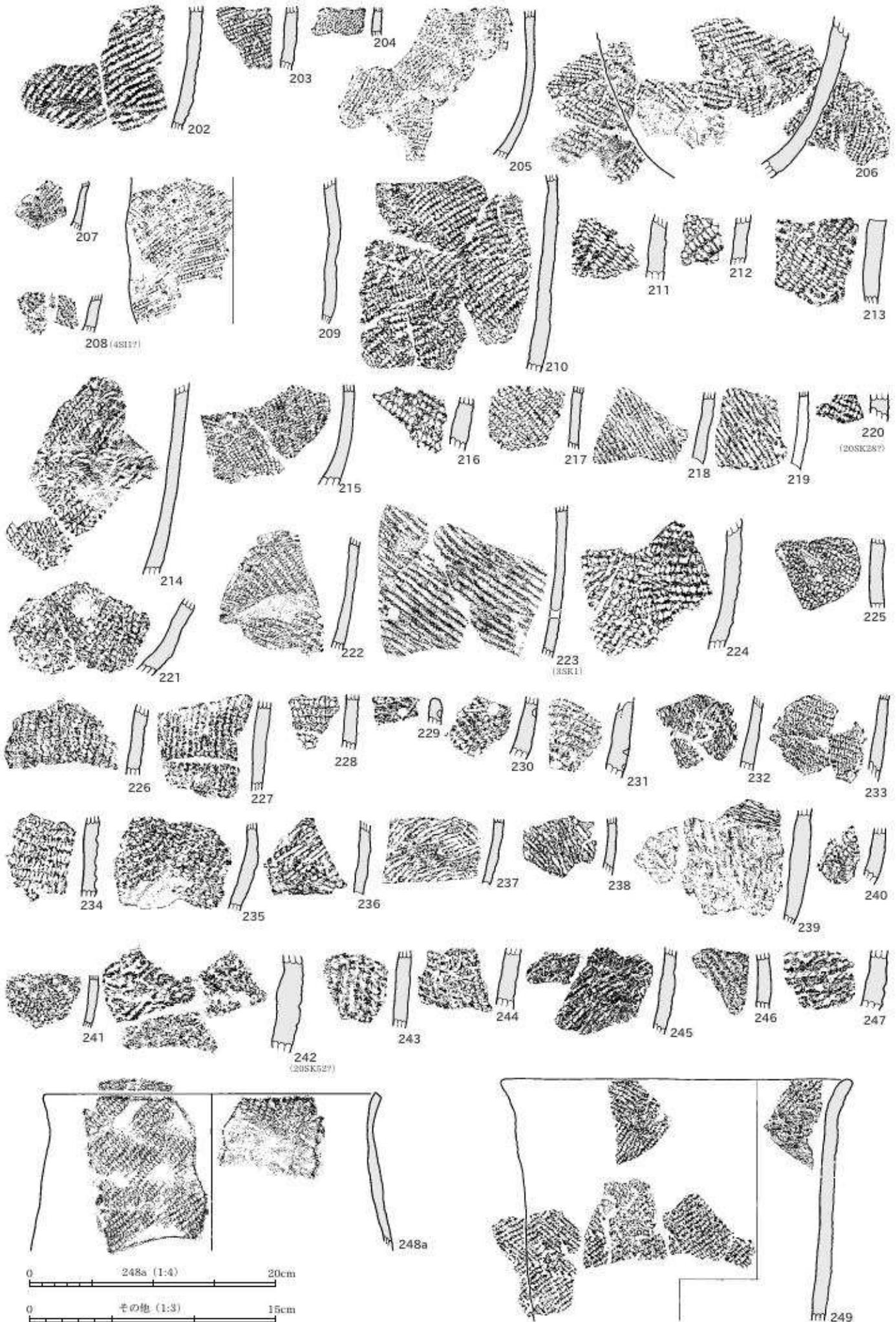


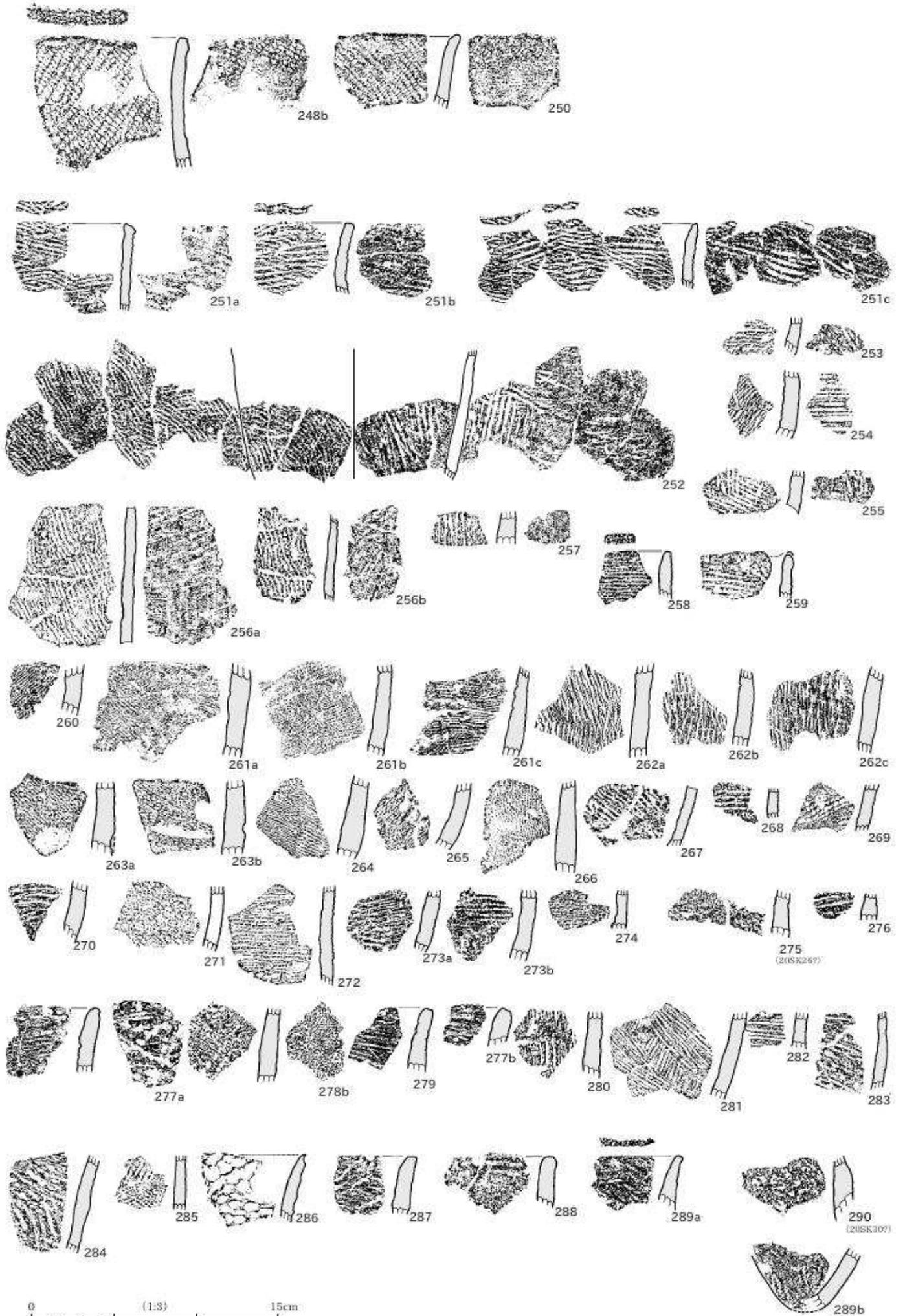
132

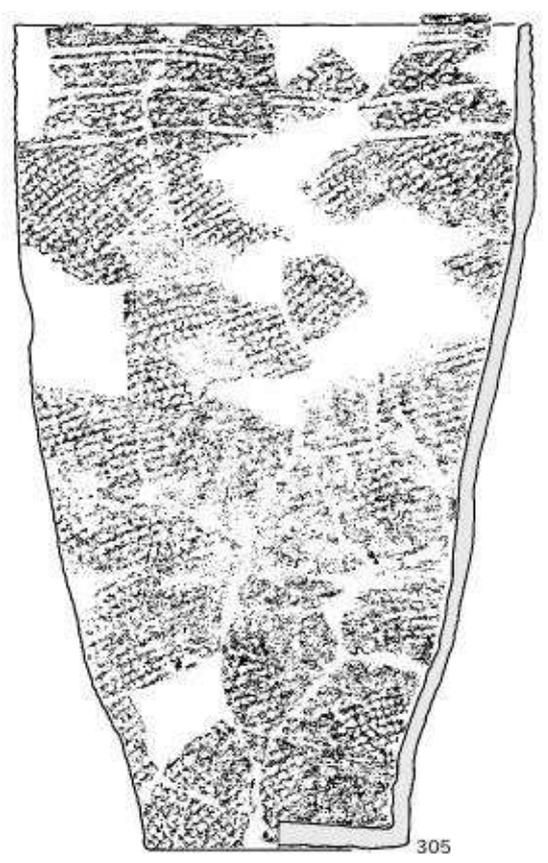
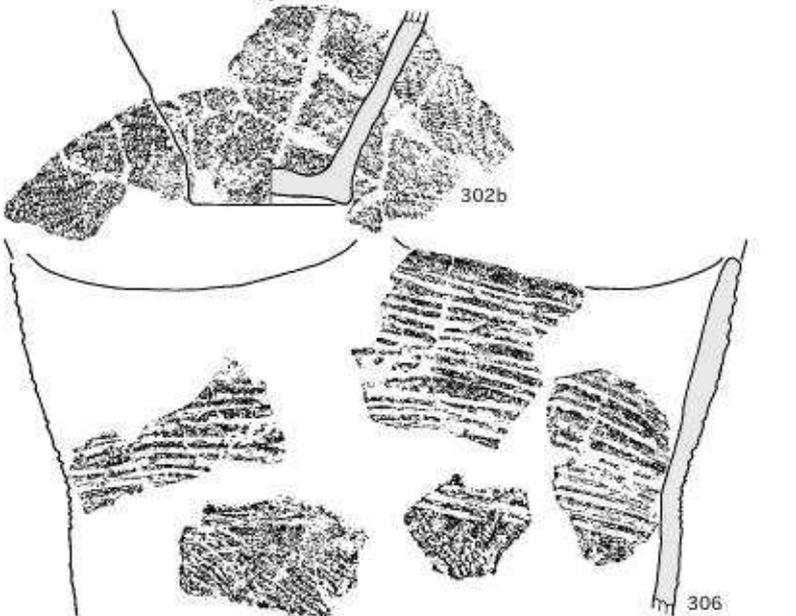
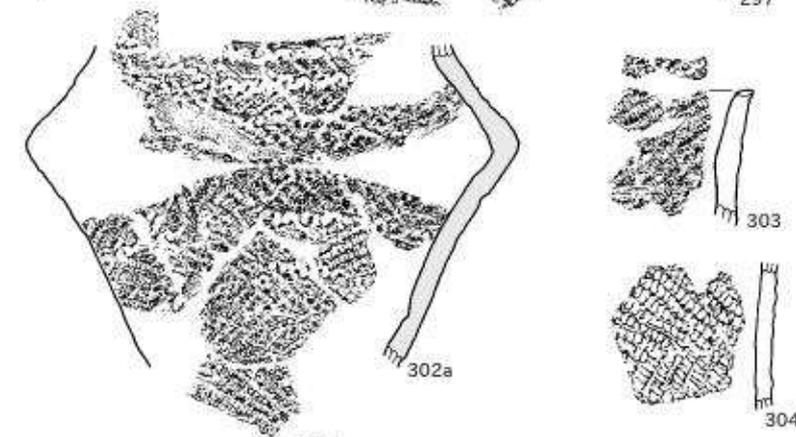
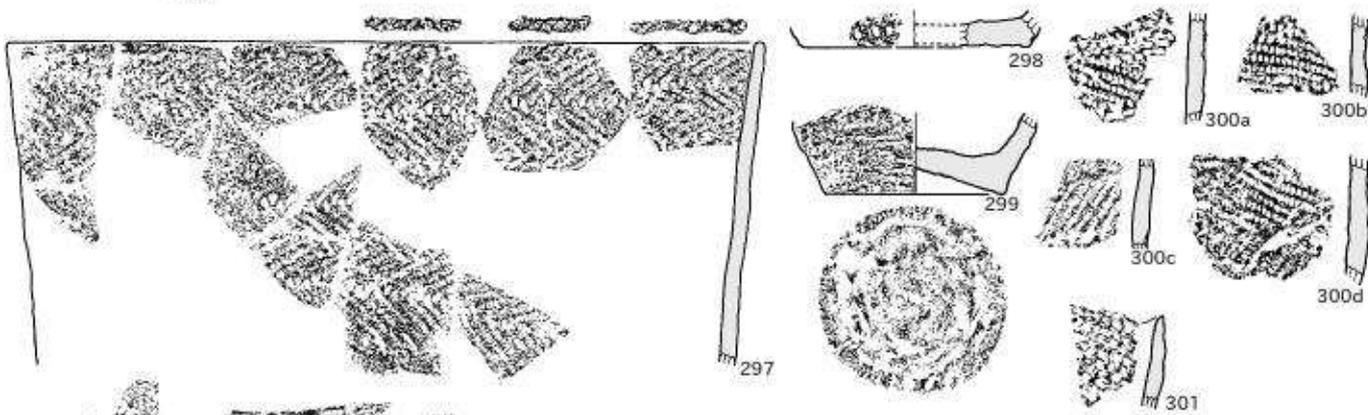
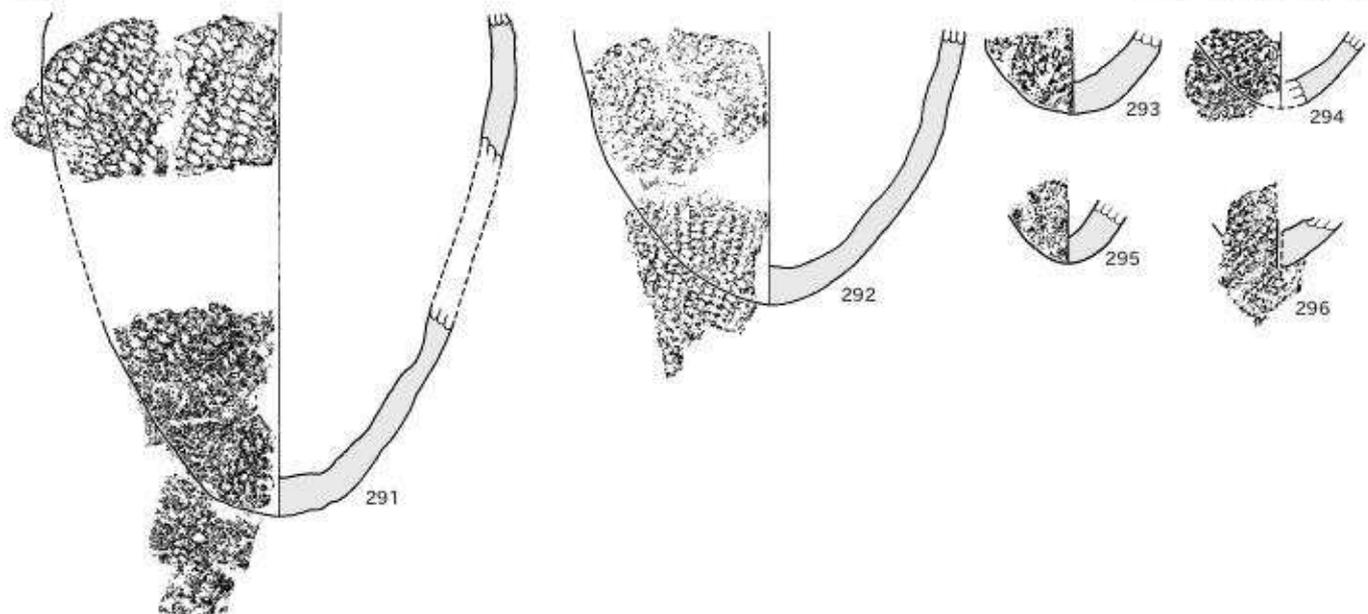


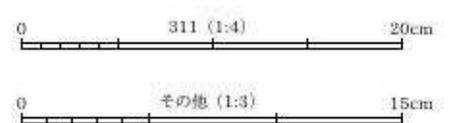
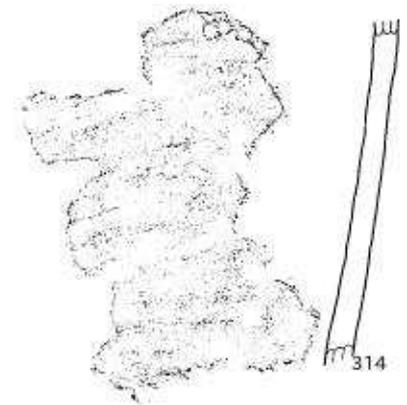
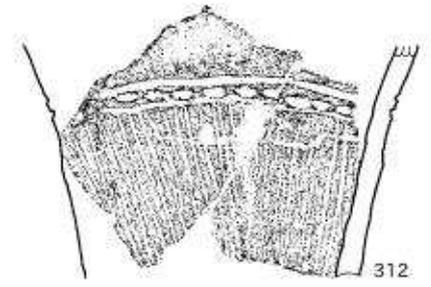
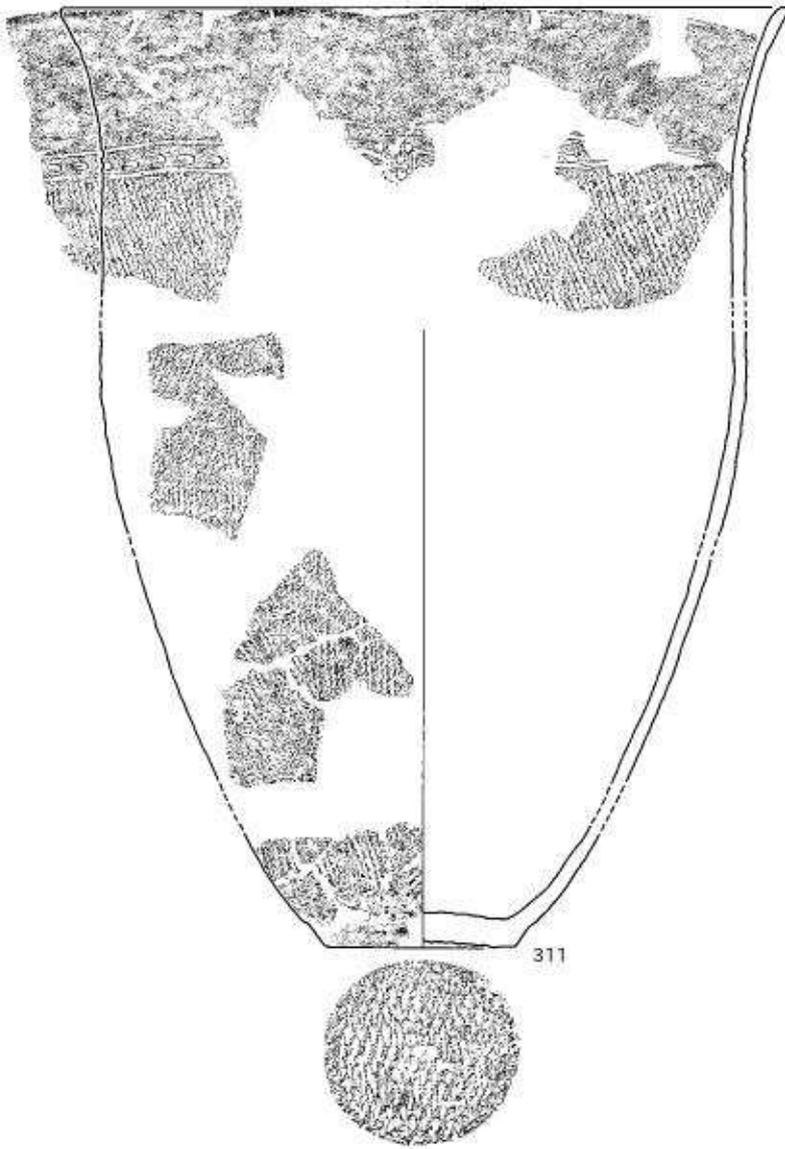
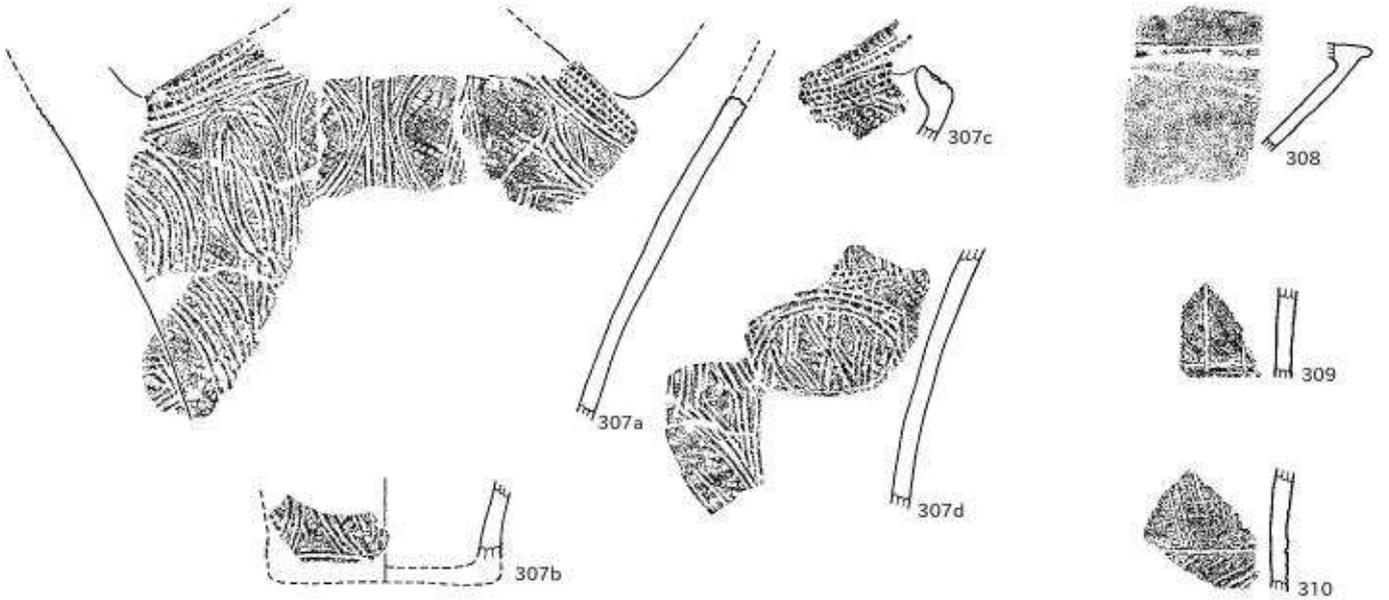




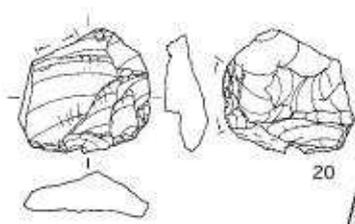
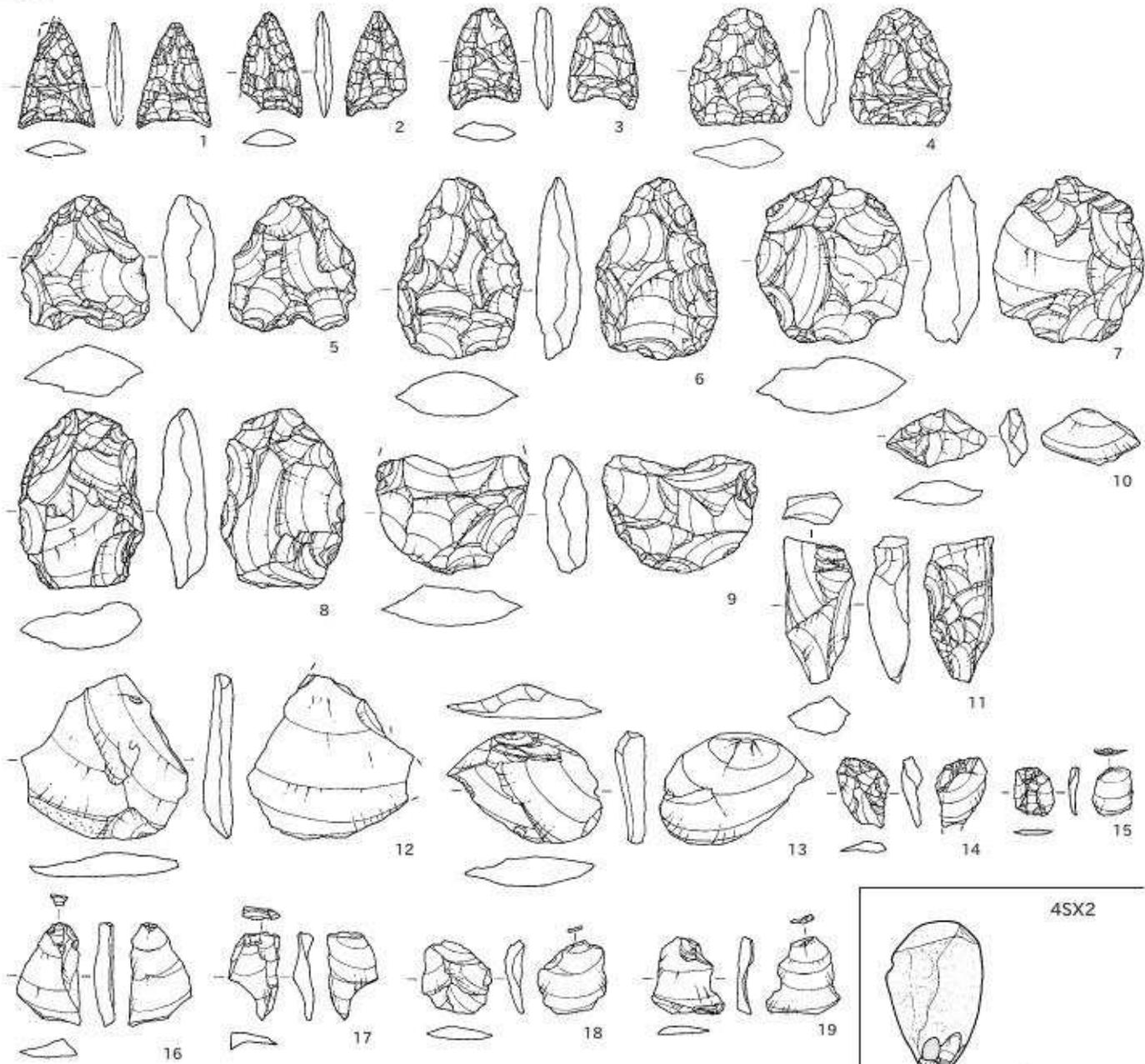




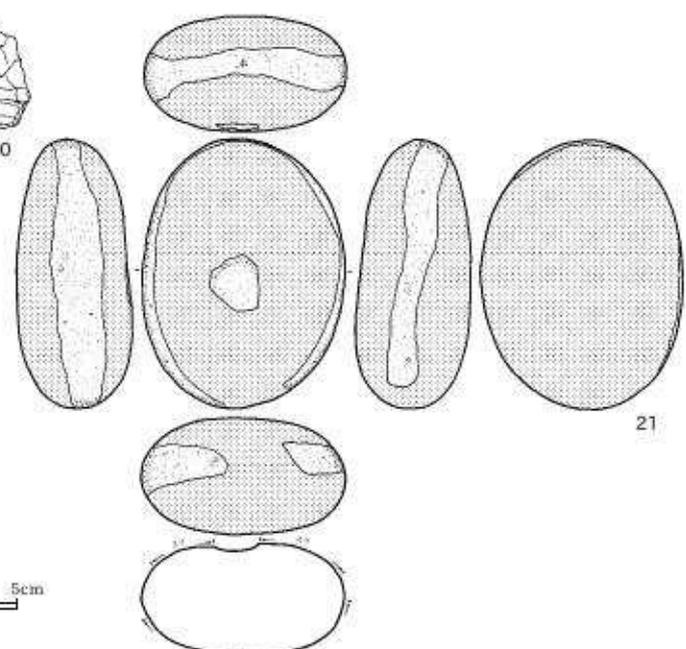




4SX3



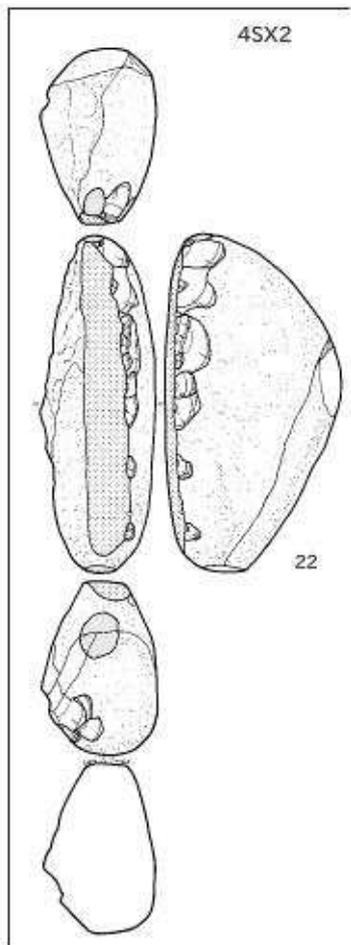
磨痕
 敲打痕



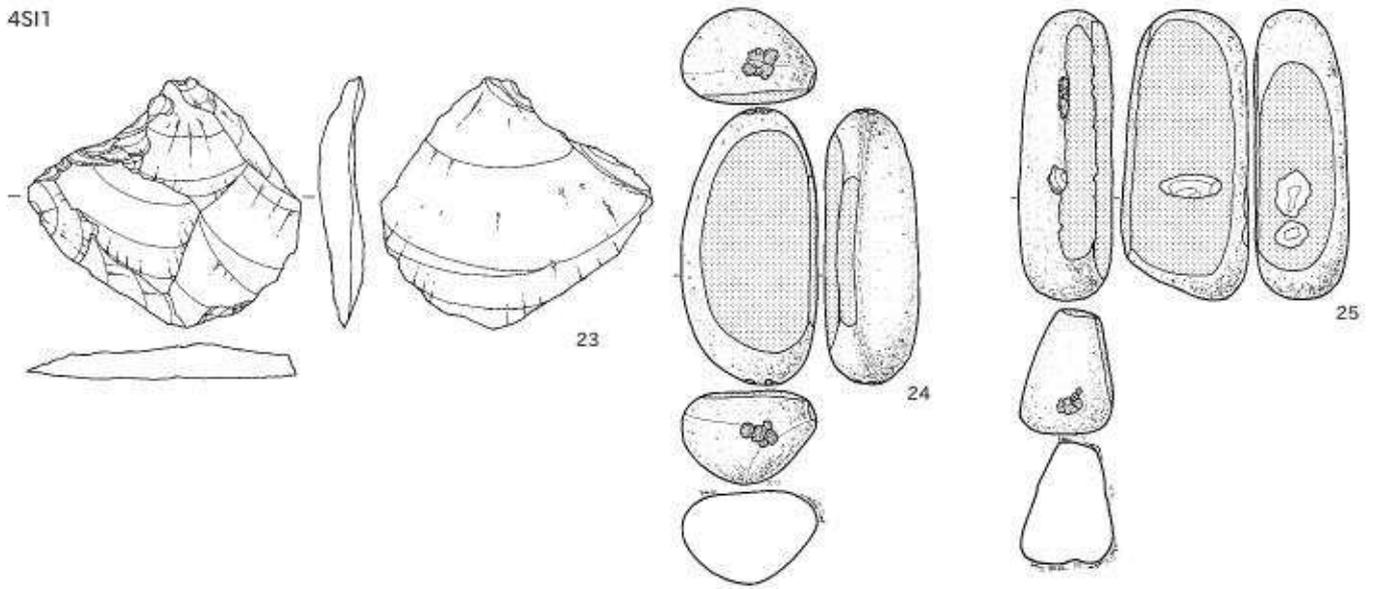
(1~20) 0 (2:3) 5cm

(21~22) 0 (1:4) 20cm

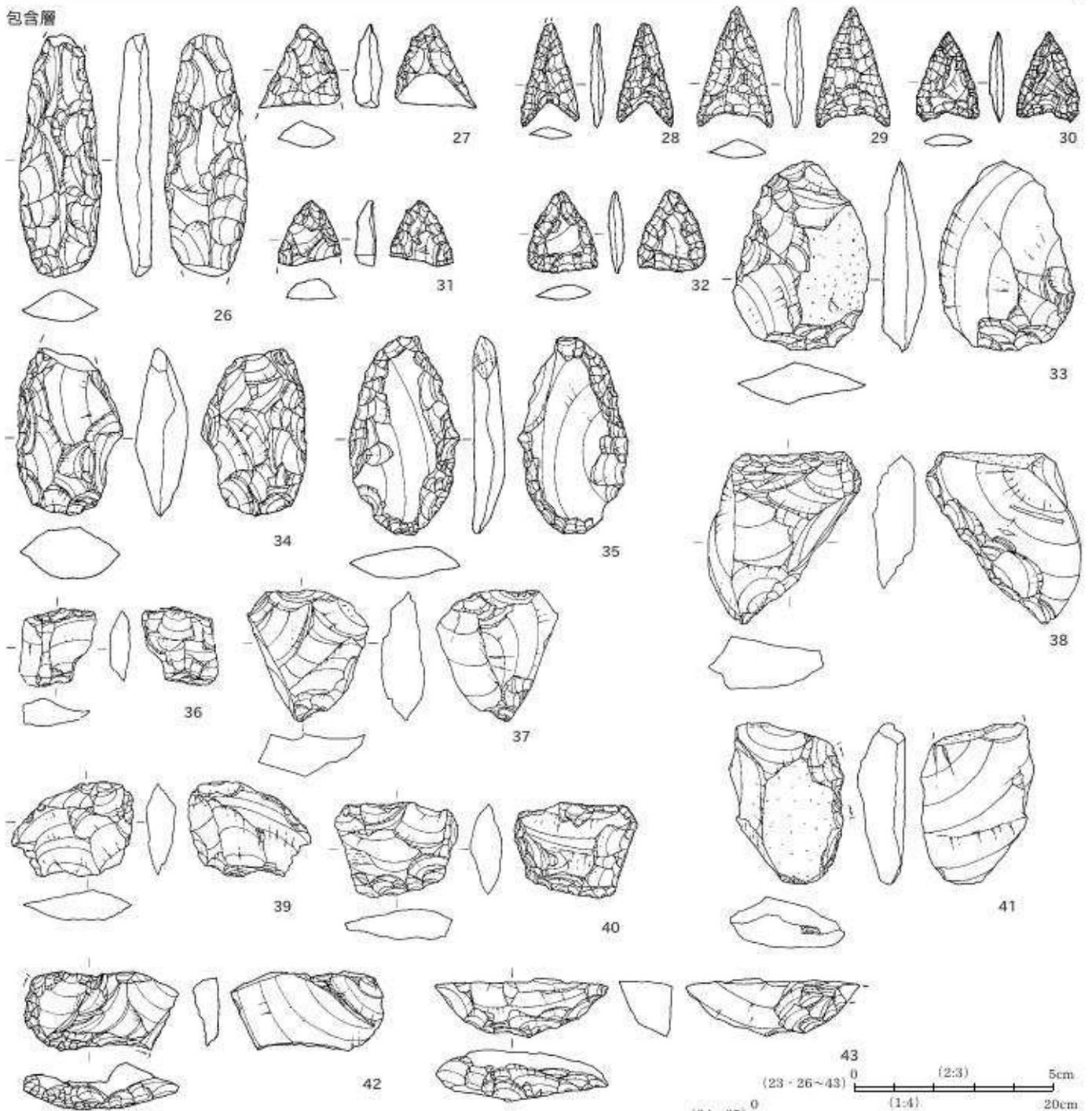
4SX2



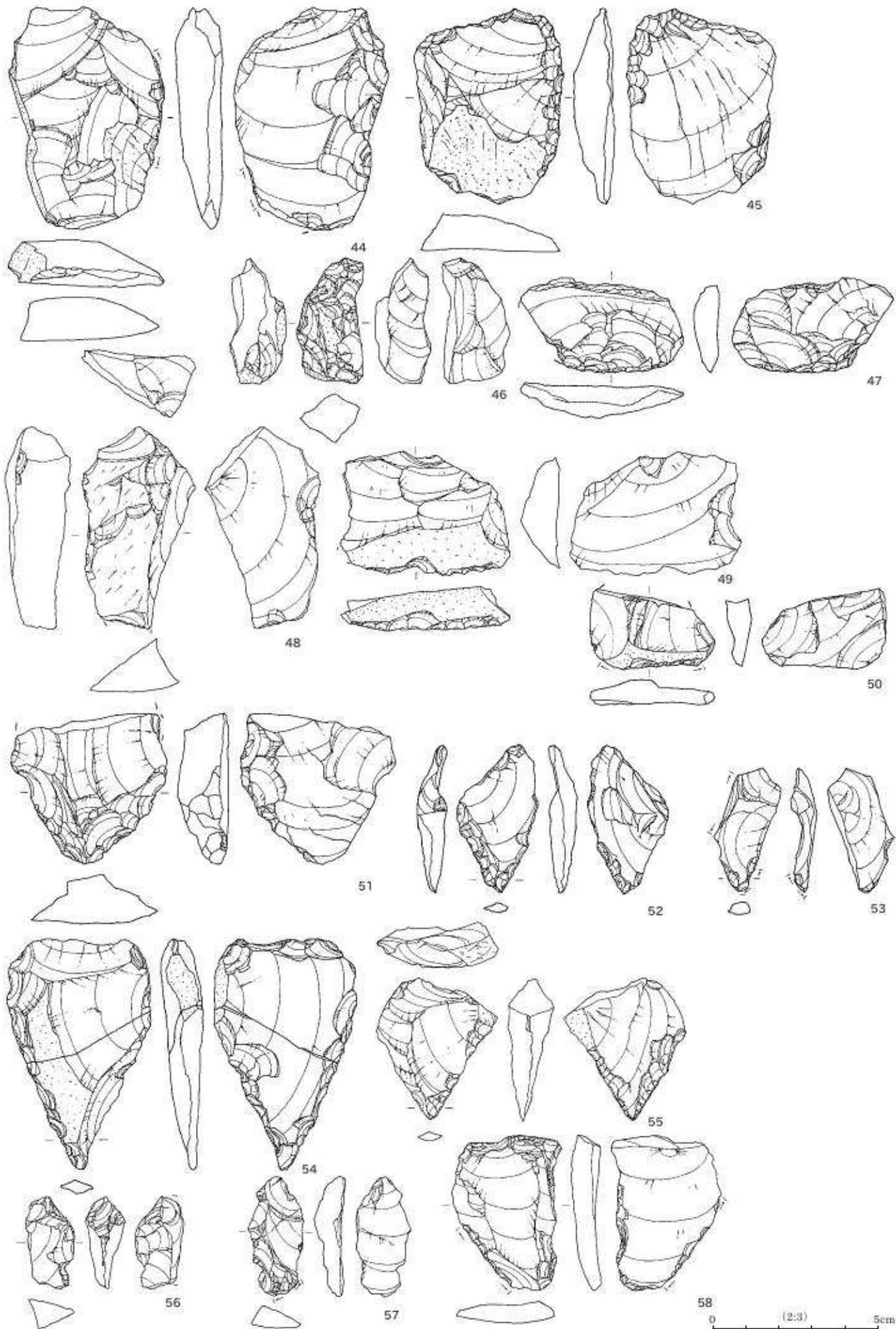
4SI1

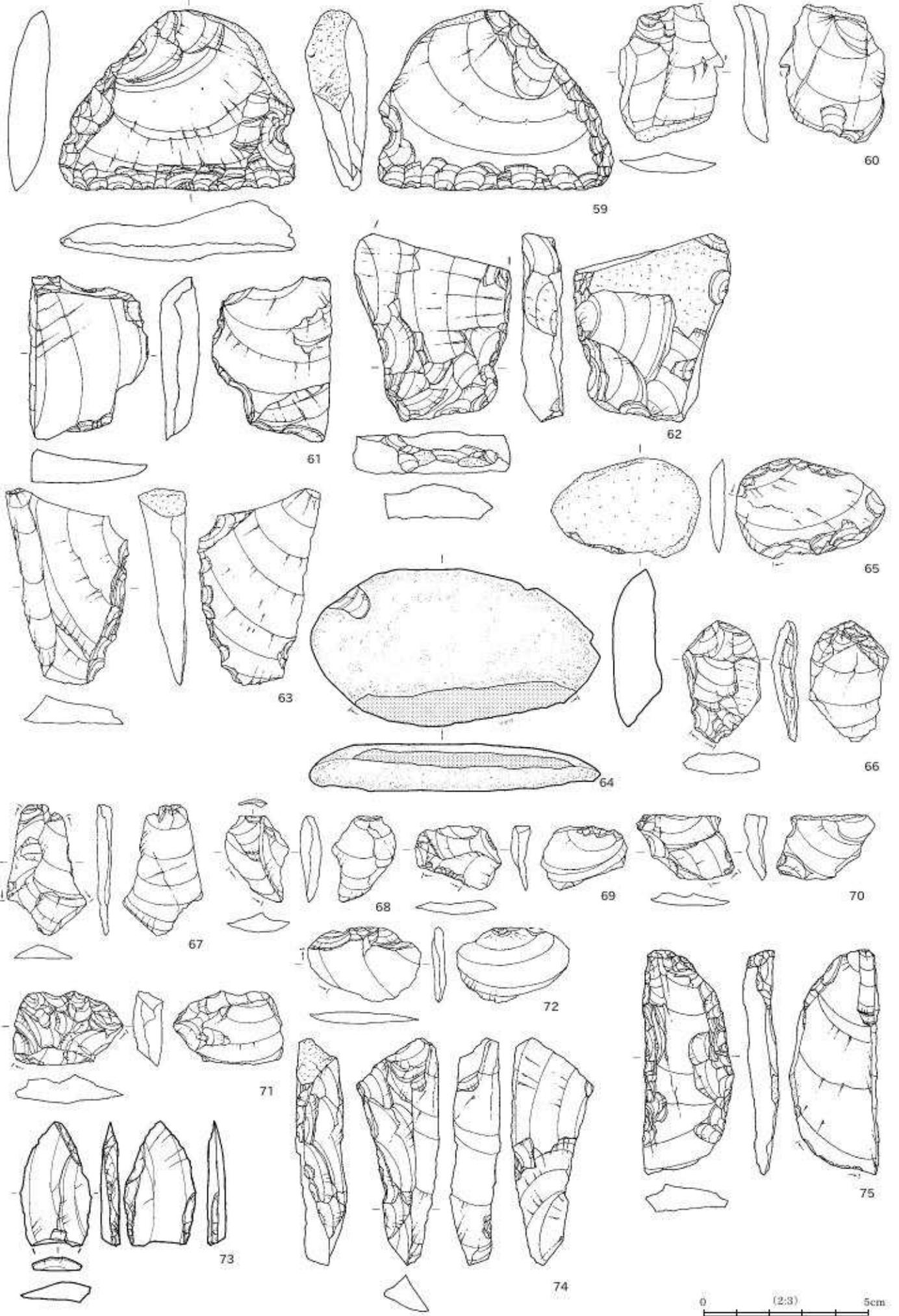


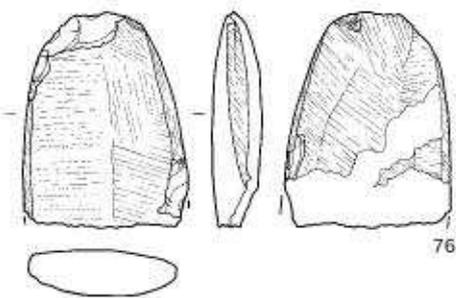
包含層



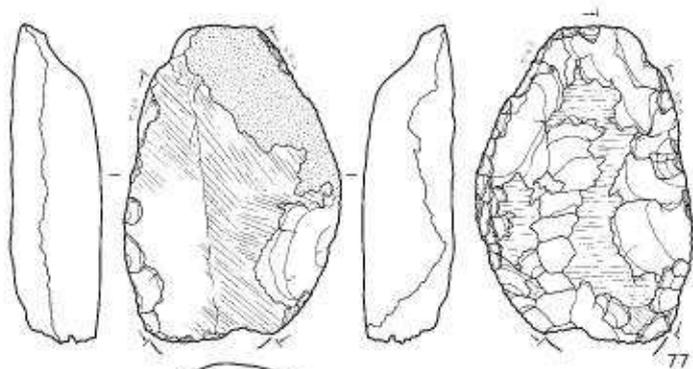
43
 (23・26~43) 0 (2:3) 5cm
 (24・25) 0 (1:4) 20cm



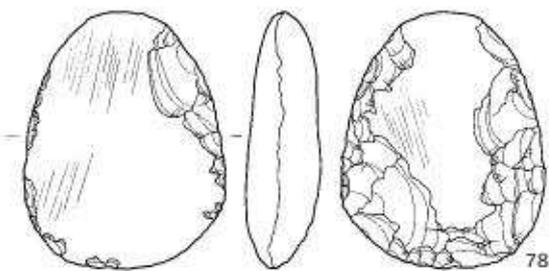




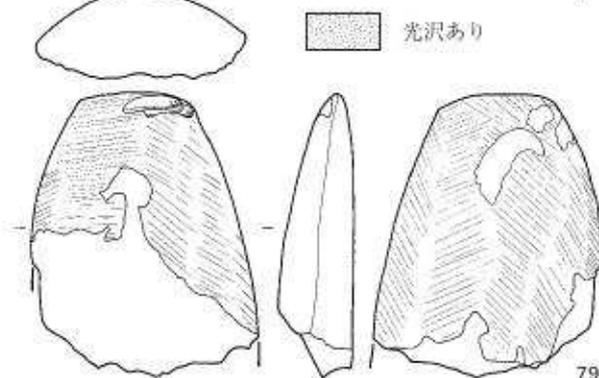
76



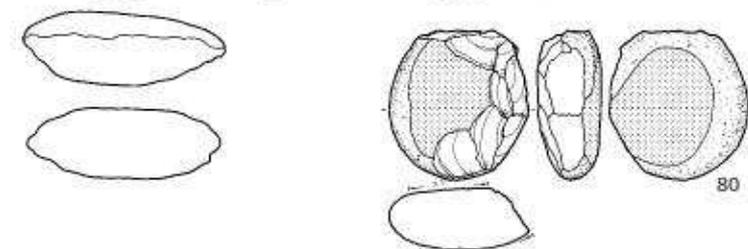
77



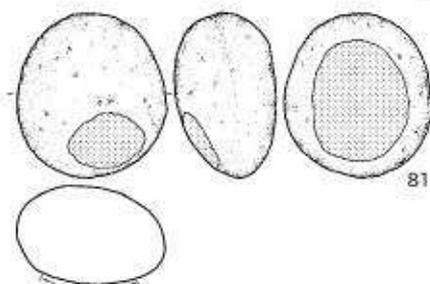
78



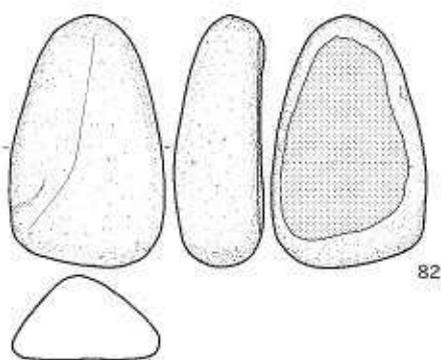
79



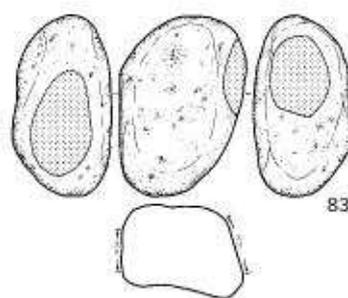
80



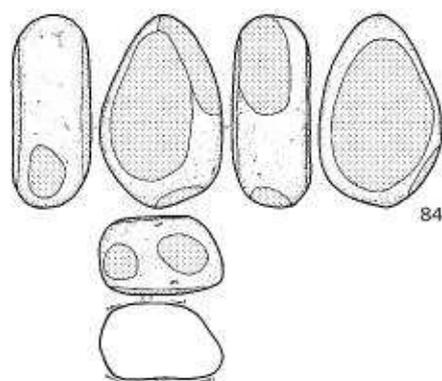
81



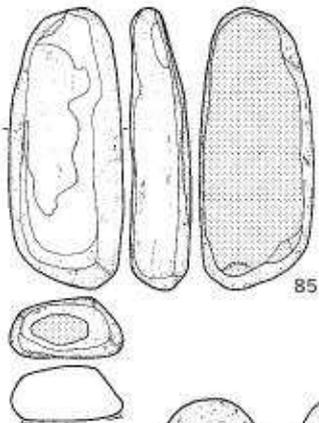
82



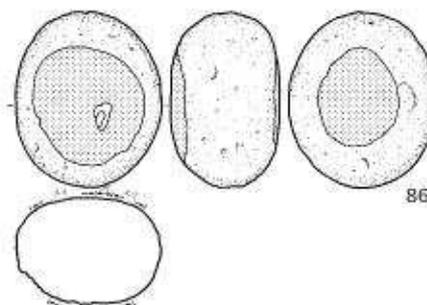
83



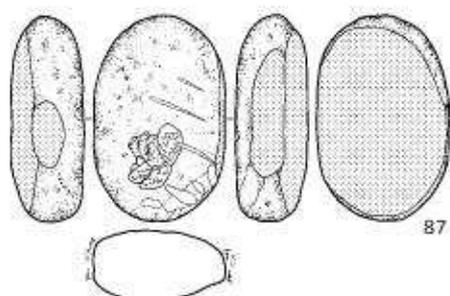
84



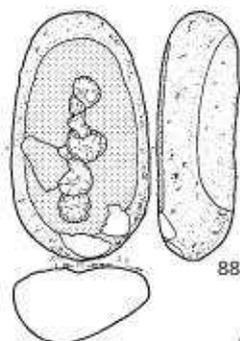
85



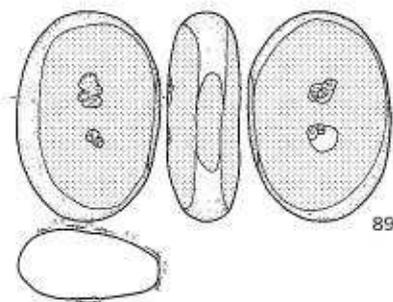
86



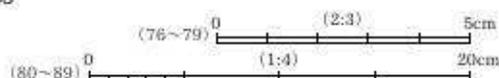
87

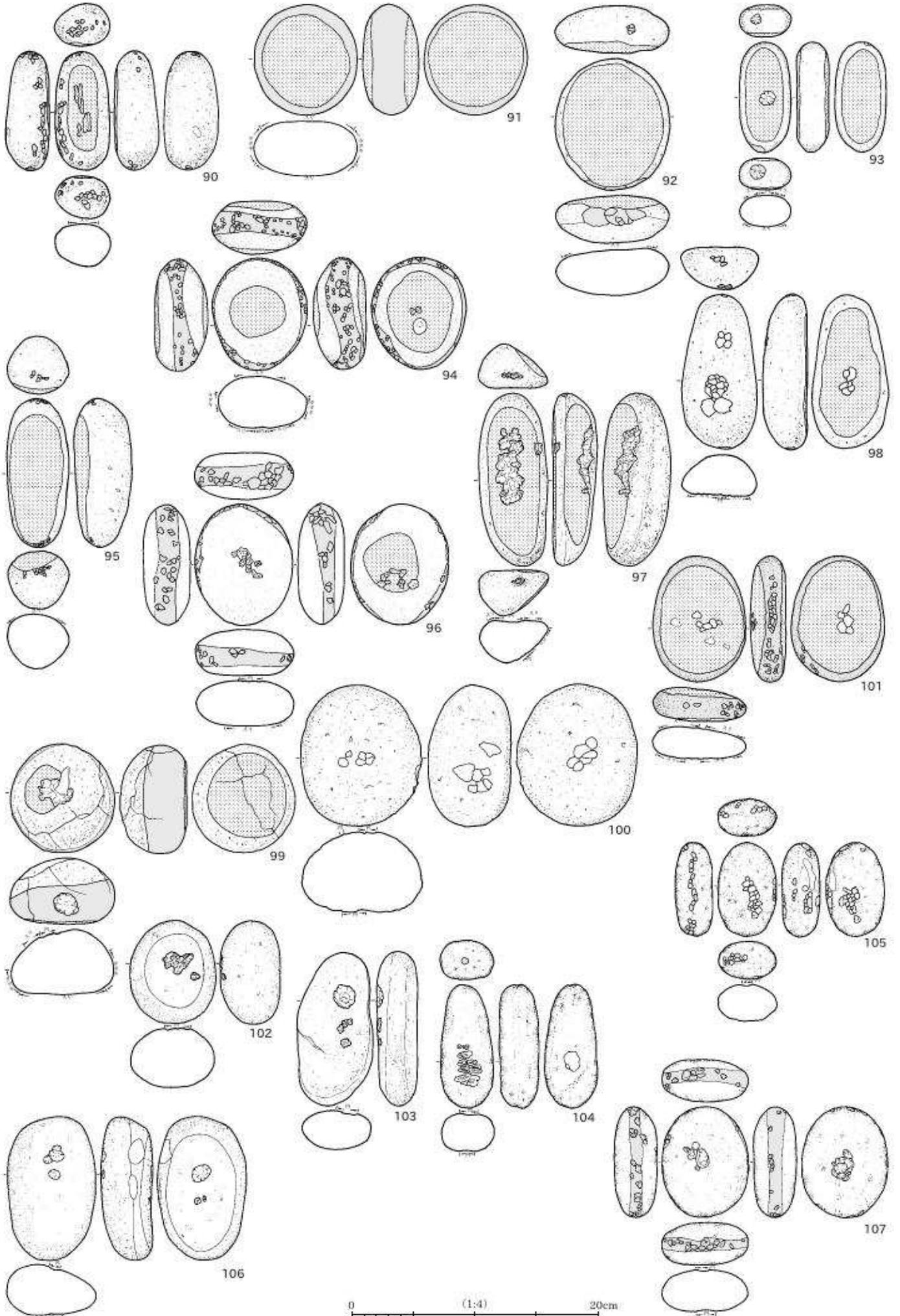


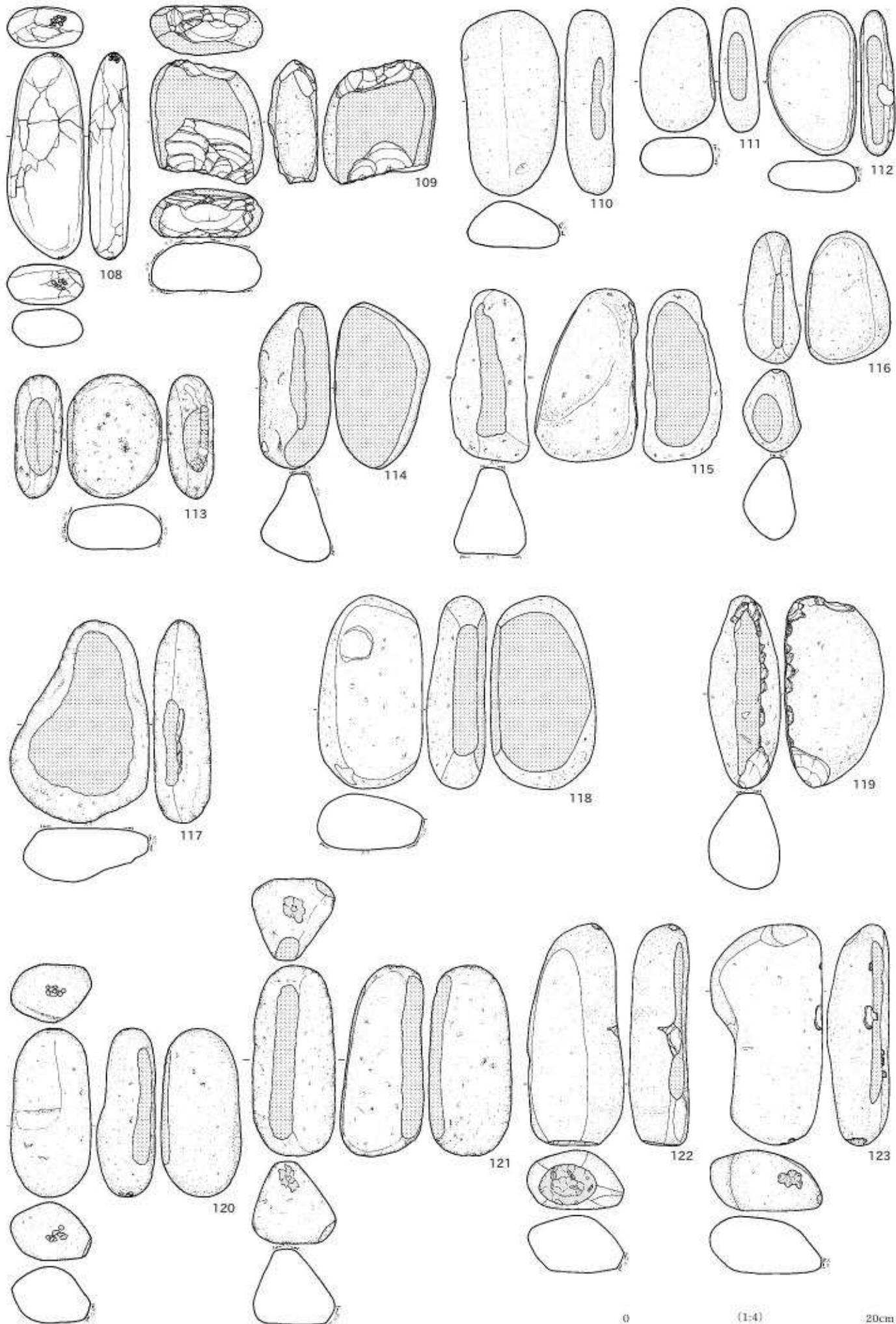
88

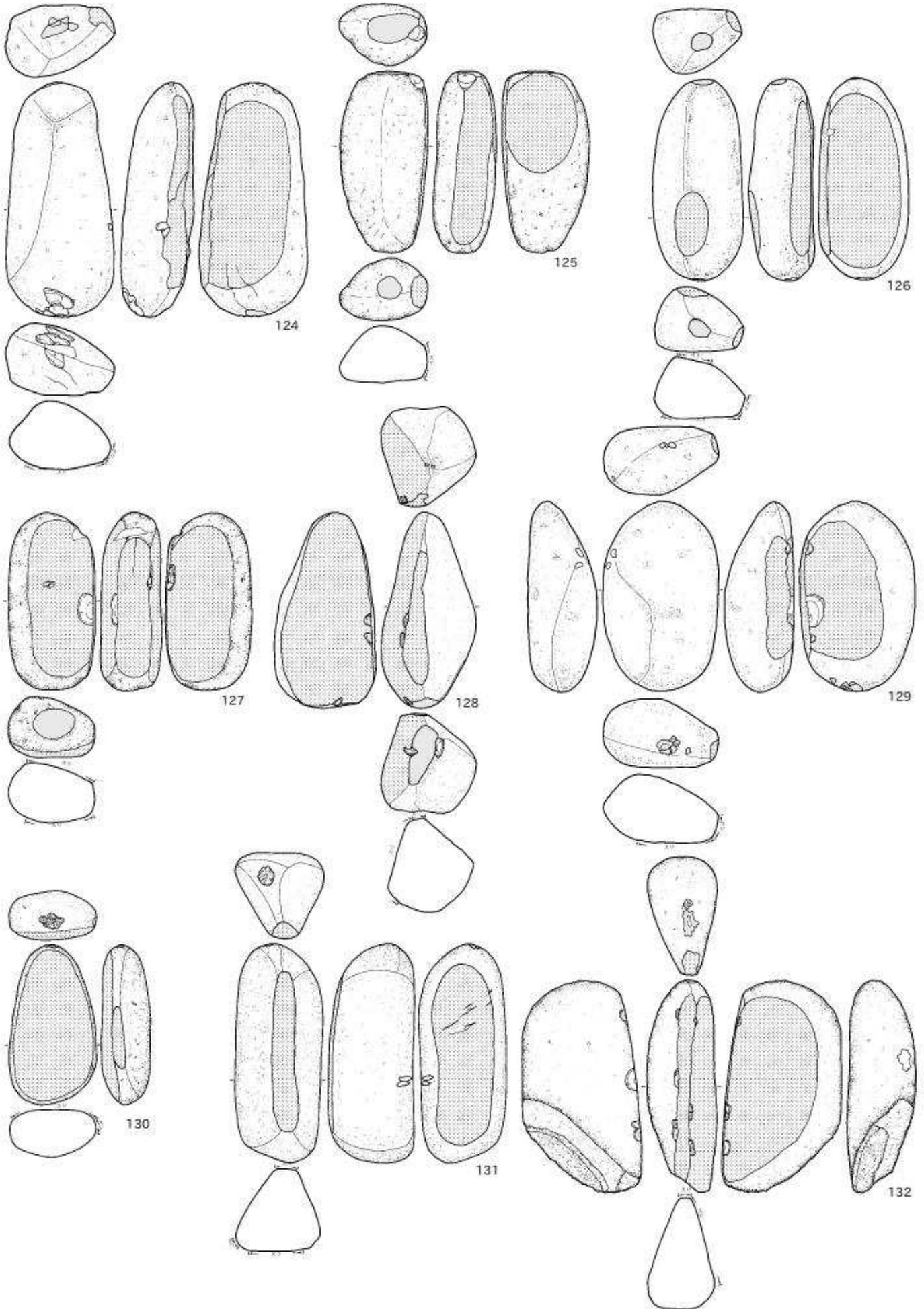


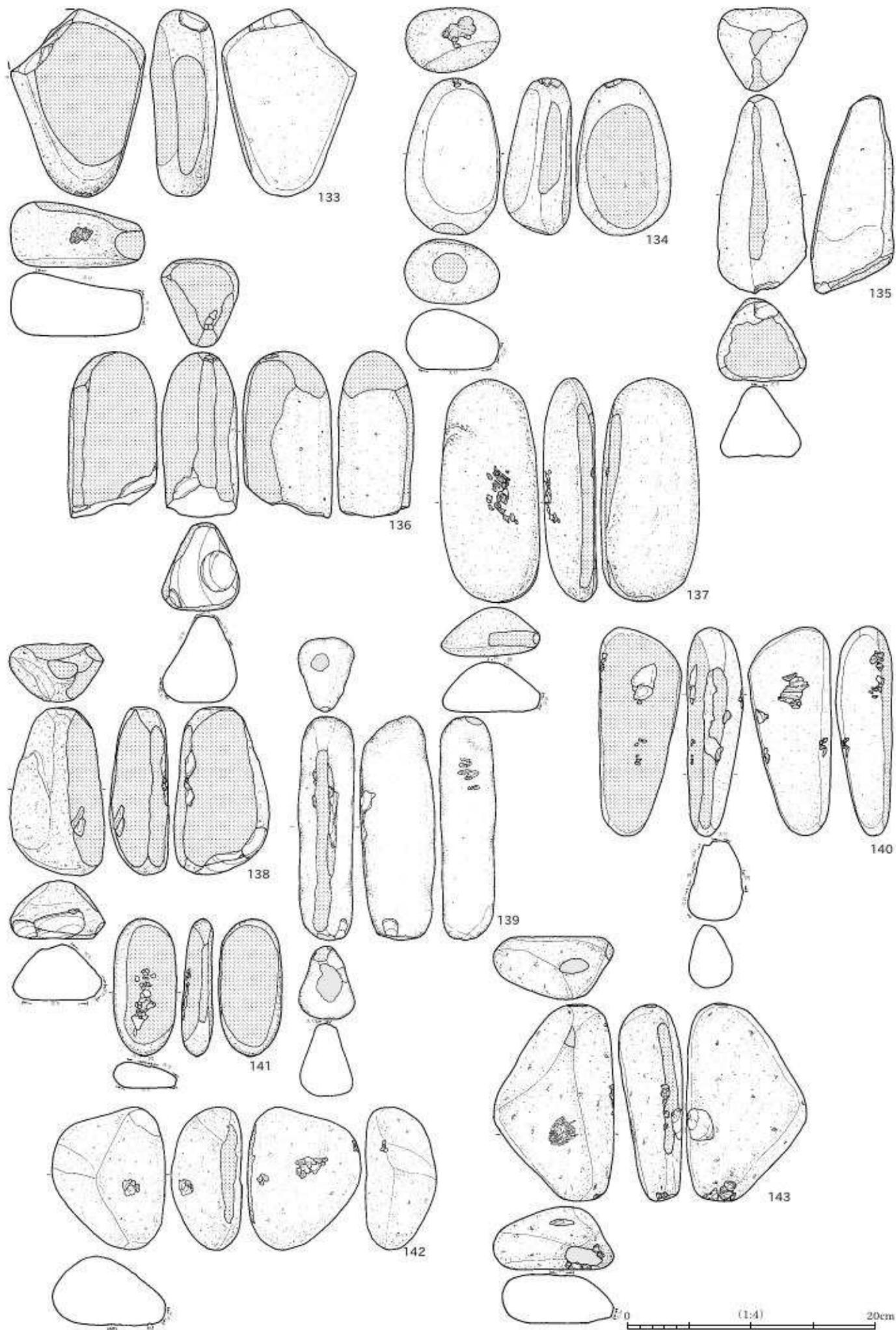
89

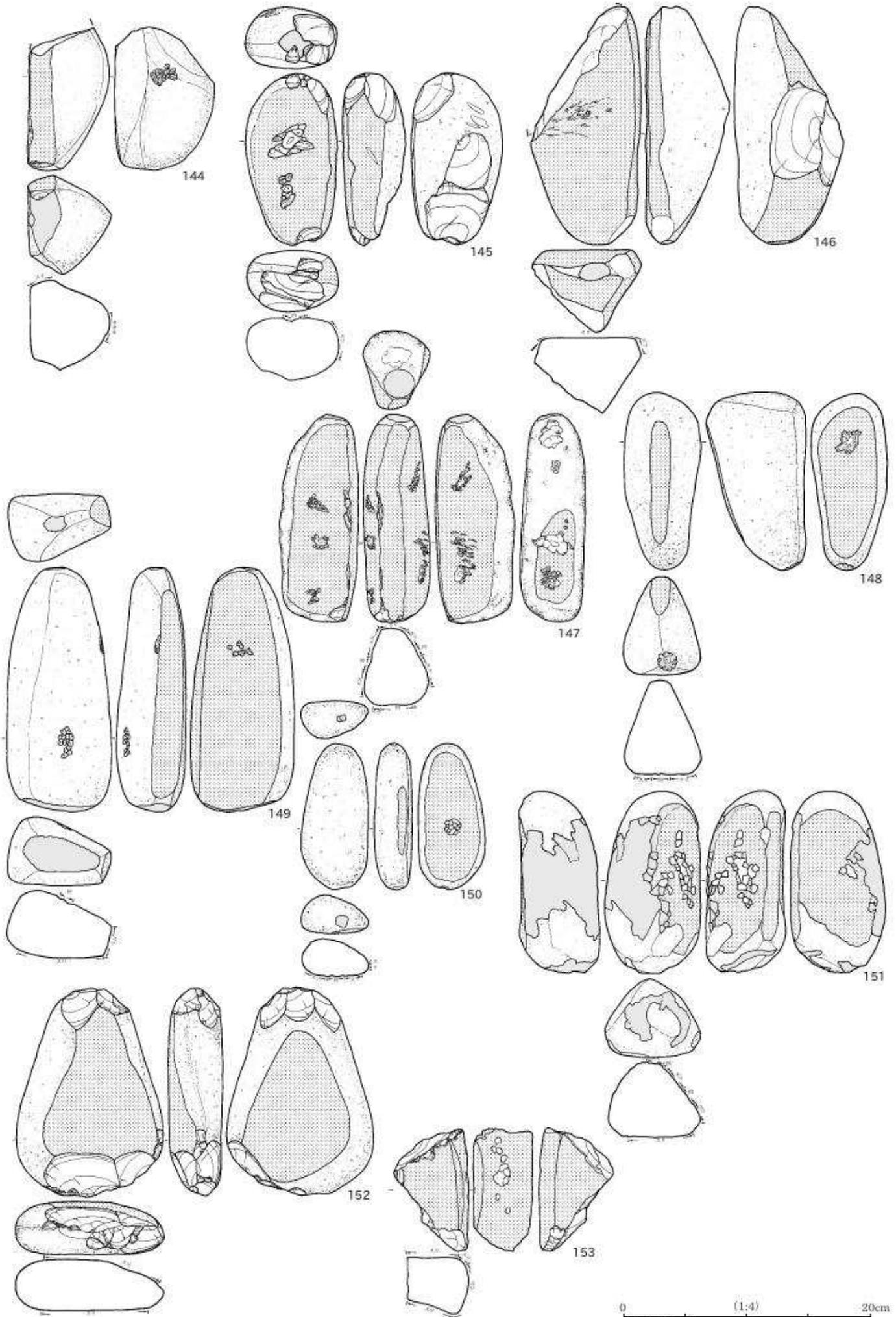














関川谷内遺跡遠景（東上空から）



B地点全景



遺跡遠景（北から）



遺跡全景（南東から）



3～4区（南北セクション） 土層堆積状況（南西から）



3～4区（南北セクション） 土層堆積状況（北西から）



基本土層



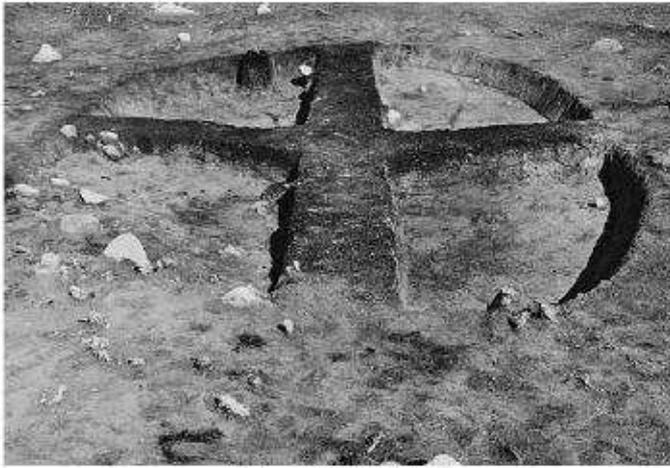
11区 遺物出土状況（南から）



22区 遺物出土状況（西から）



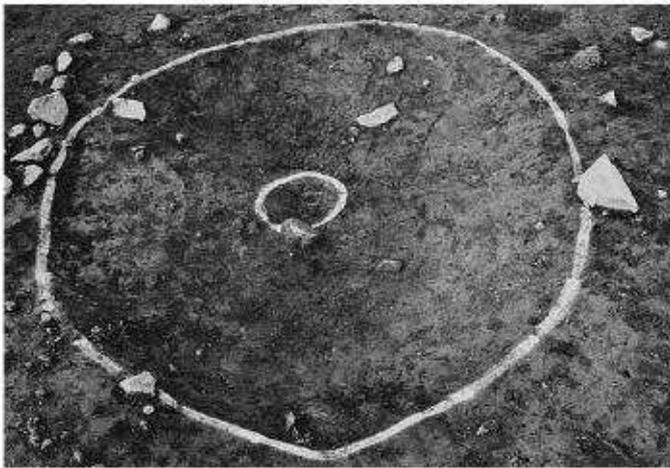
21区 遺物出土状況（南から）



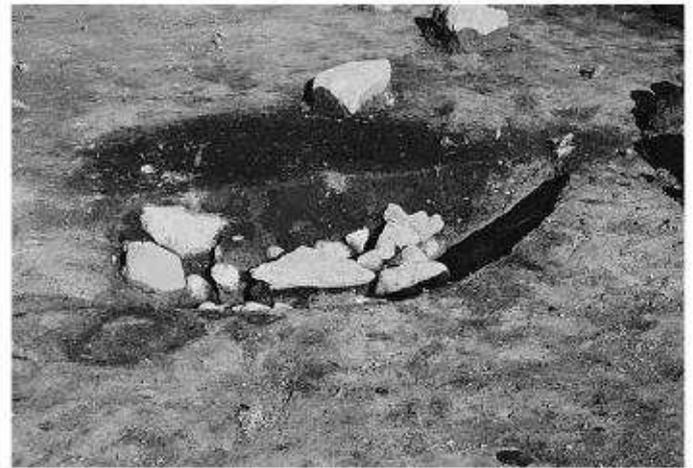
4SI1 東西断面（南から）



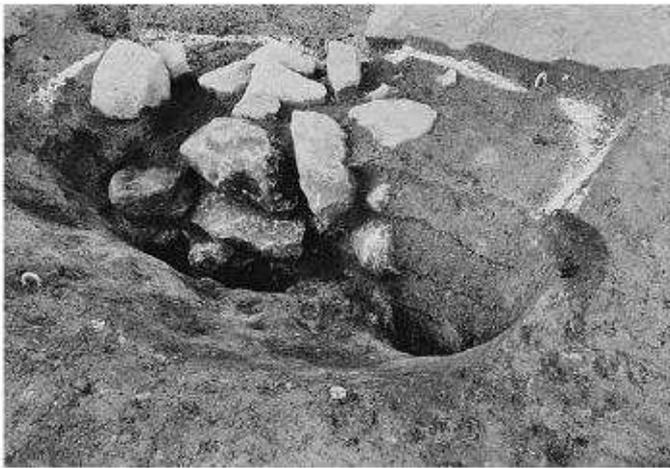
4SI1 炉 南北断面（西から）



4SI1 完掘（南から）



6号集石土坑 南北断面（西から）



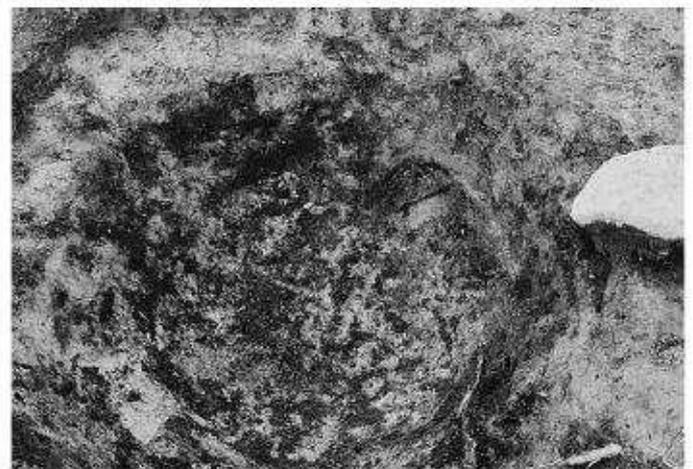
5号集石土坑 東西断面（南から）



6号集石土坑 礫検出（東から）



5号集石土坑 完掘（東から）



6号集石土坑 完掘（南から）



4号集石土坑 検出(南から)



1号集石土坑 検出(東から)



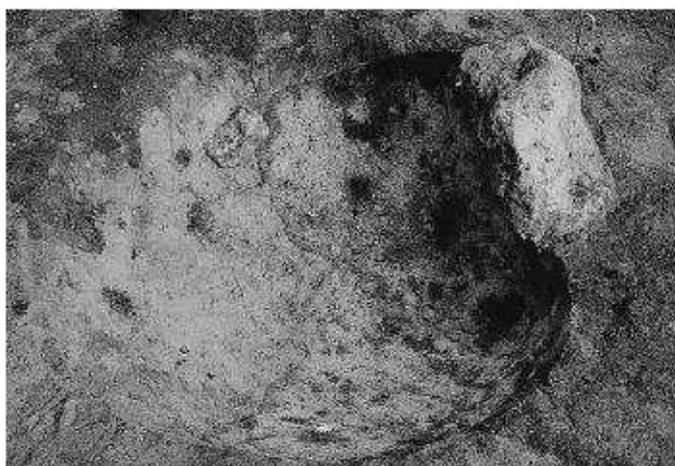
4号集石土坑 南北断面(西から)



1号集石土坑 東西断面(南から)



4号集石土坑 完掘(西から)



1号集石土坑 完掘(南から)



3号集石土坑 検出(北から)



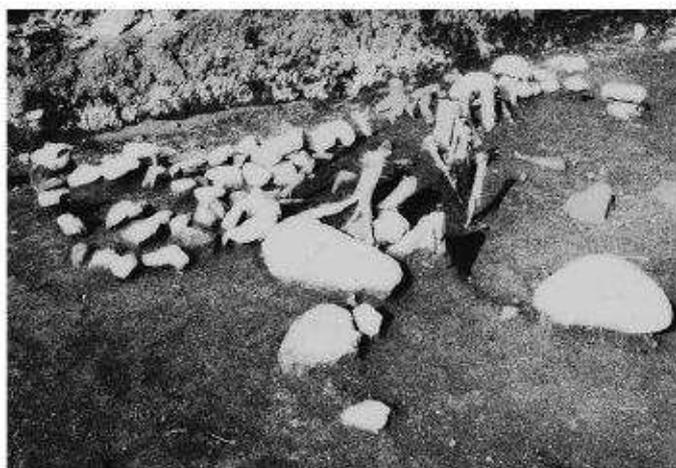
3号集石土坑 東西断面(南から)



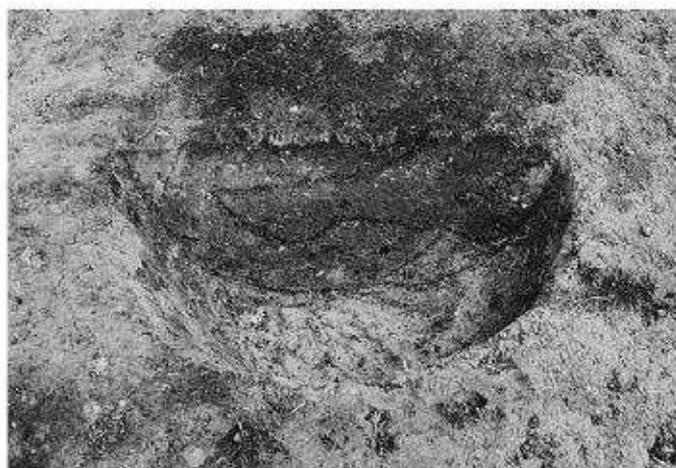
1号集石 検出(北から)



2号集石 検出(南から)



3号集石 検出(西から)



20SK69 東西断面(南から)



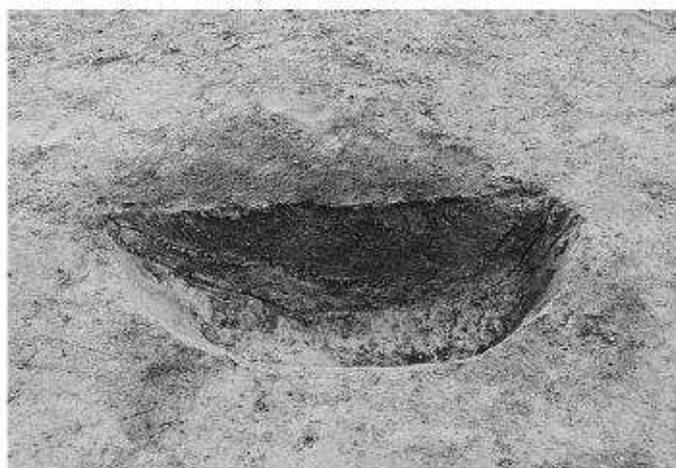
20SK55 完掘(南西から)



2SK1 東西断面(南から)



15SK73 南北断面(西から)



20SK65 南北断面(西から)



20SK75 東西断面 (南から)



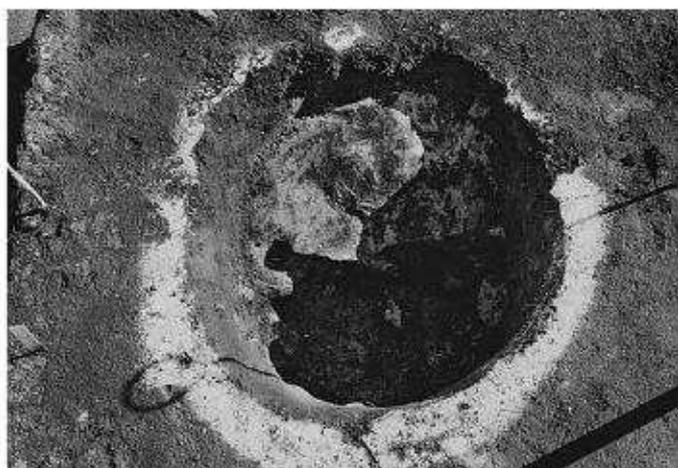
20SK75 完掘 (南から)



20SK74 東西断面 (南から)



20SK74 完掘 (南東から)



20SK12 完掘 (西から)



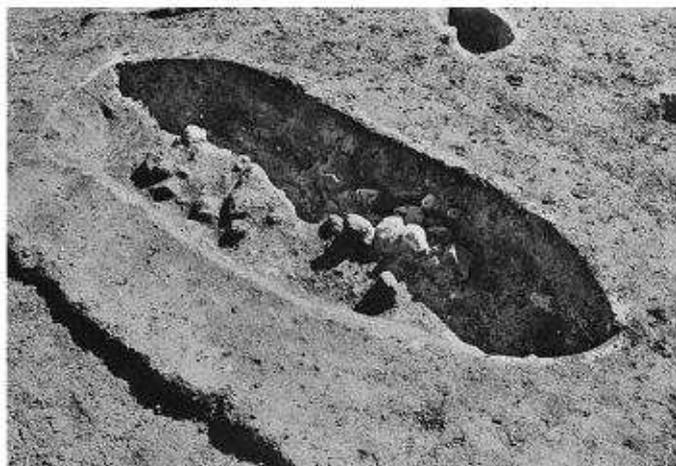
20SK7 南北断面 (西から)



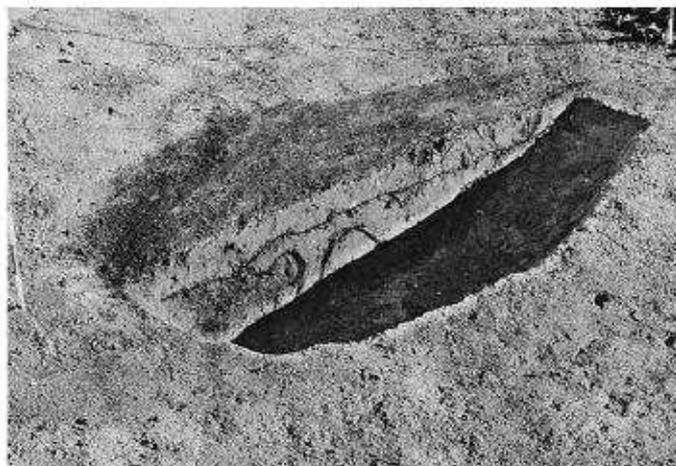
20SK7 焼土検出 (東から)



20SK7 完掘 (西から)



20SK9 完掘 (西から)



20SK1 南北断面 (西から)



6SK1 完掘 (西から)



18SK4 完掘 (南から)



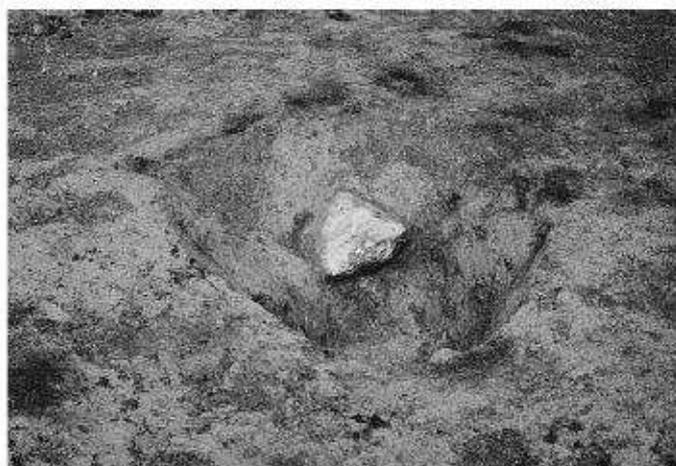
18SK5 完掘 (南から)



18SK3 完掘 (南から)



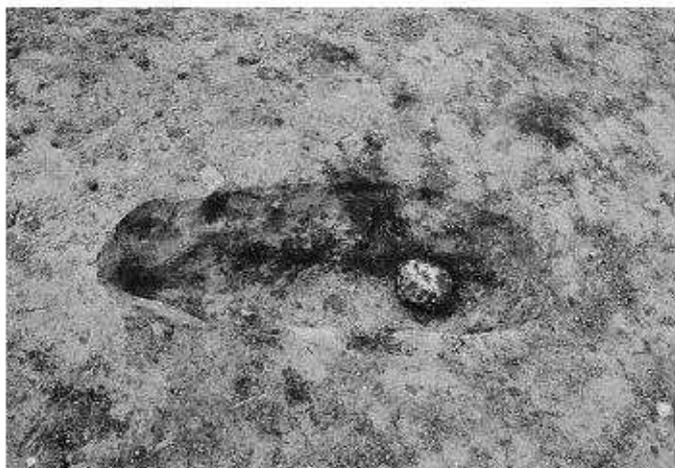
18SK2 完掘 (南西から)



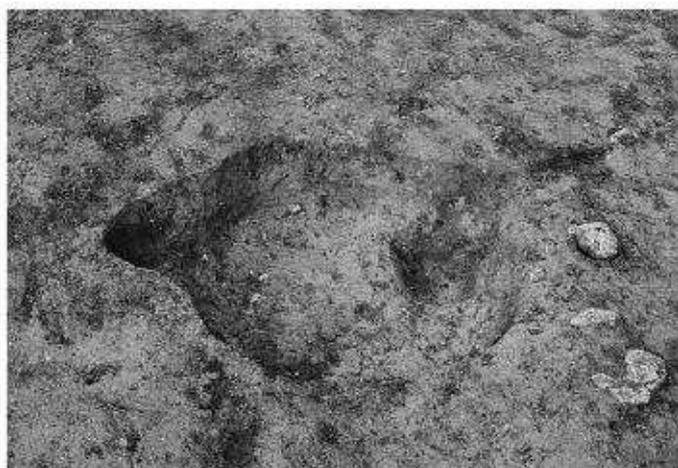
18SK1 完掘 (南から)



18SK6 完掘 (南東から)



17SK4 完掘 (南西から)



17SK5 完掘 (南西から)



17SK6 完掘 (南西から)



3SK1 完掘 (南東から)



16SK1 南北断面 (西から)



1号掘立柱建物 (南から)



16SK1 遺物出土状況 (南西から)



17SJ2 東西断面 (北から)



17SJ2 完掘 (北から)



17SJ2 南北断面 (東から)



7SJ3 完掘 (南から)



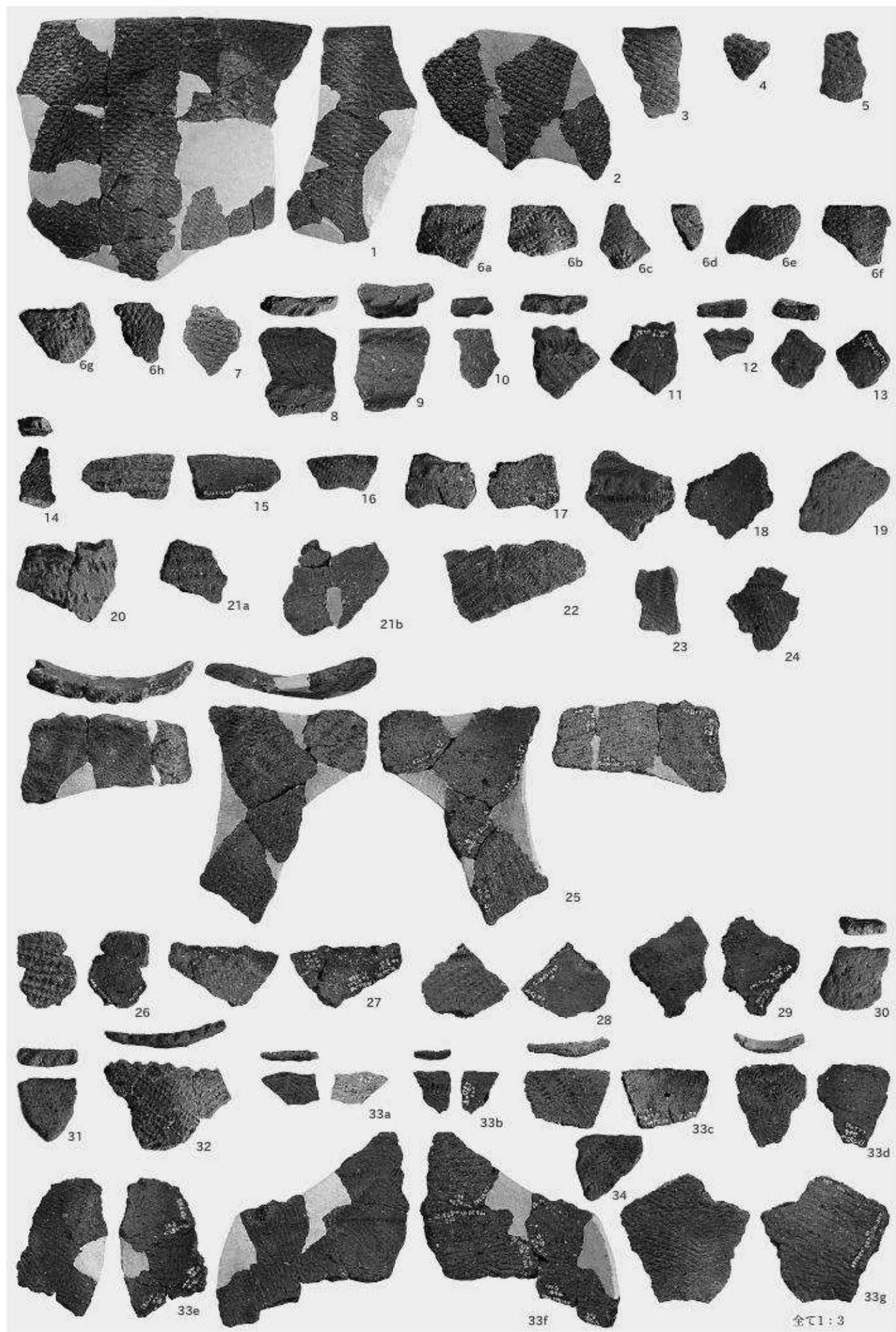
16SJ1 断面 (南西から)

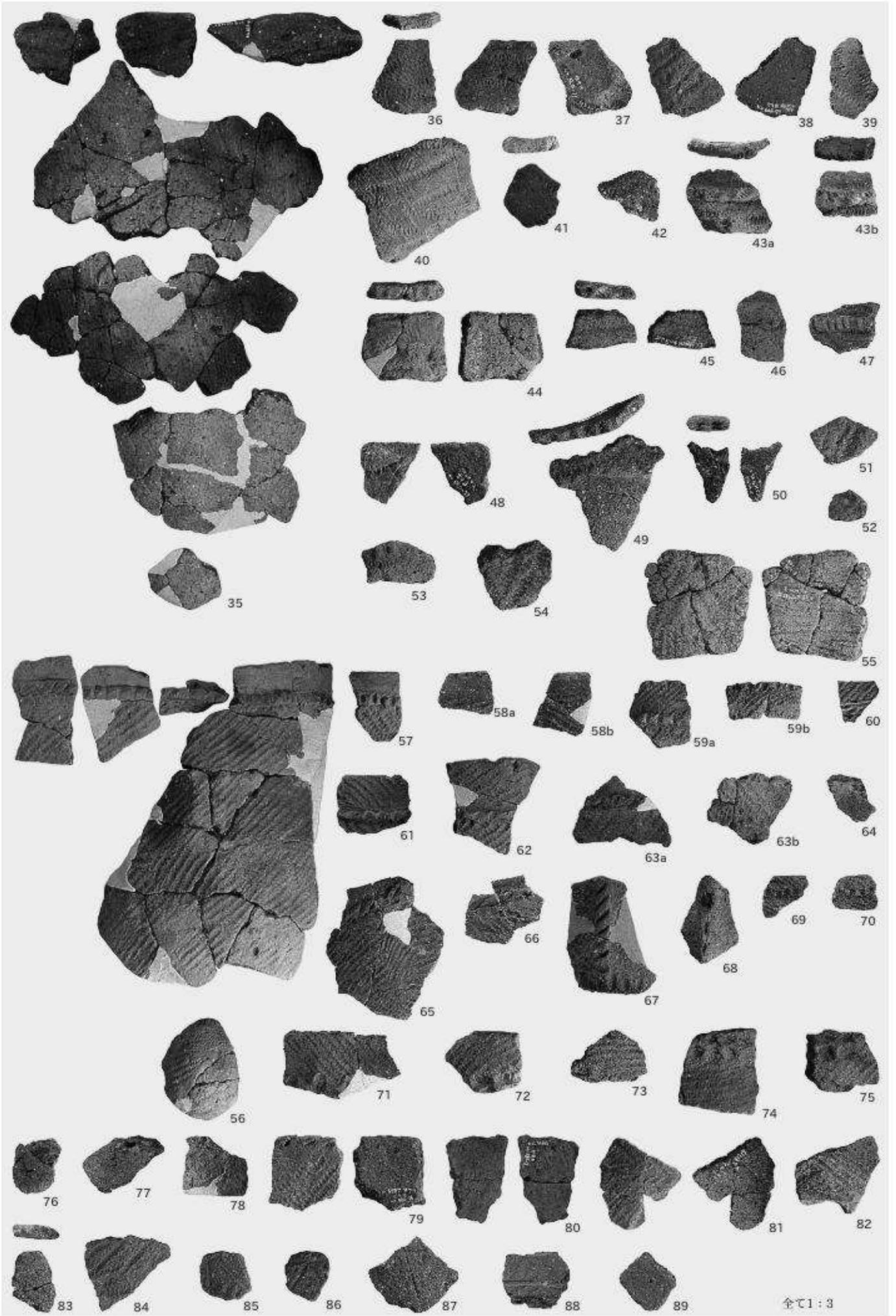


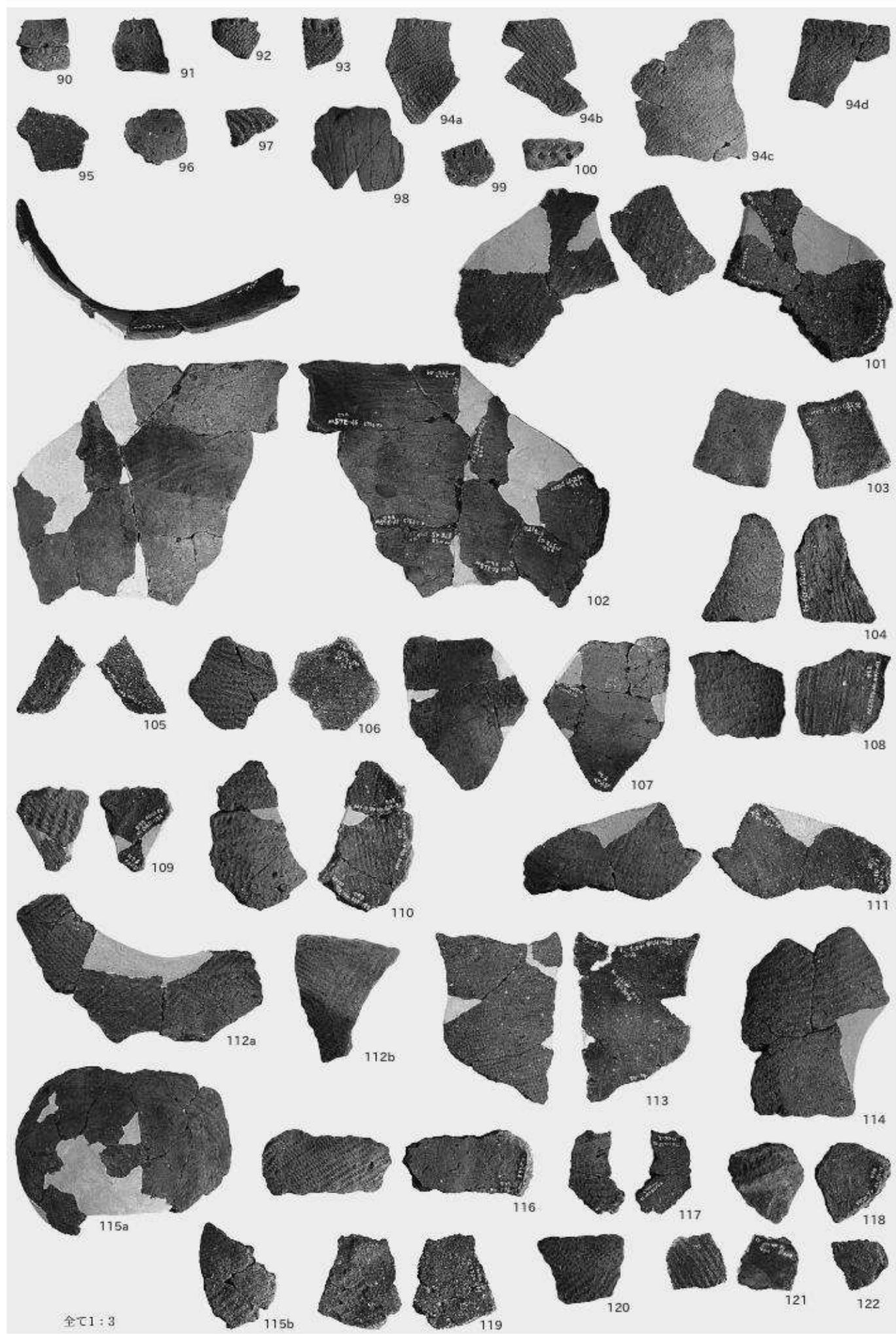
16SJ1 東西断面 (南から)

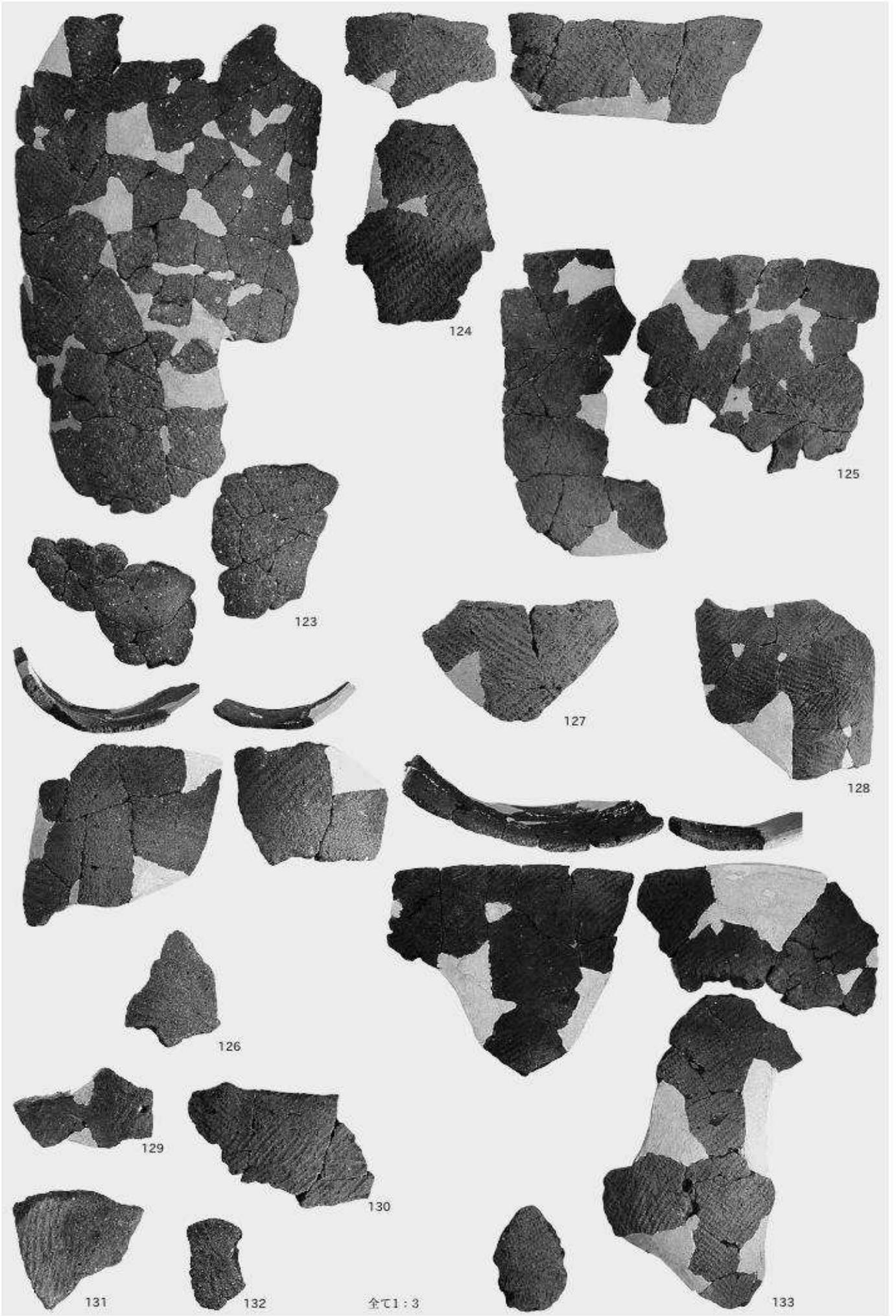


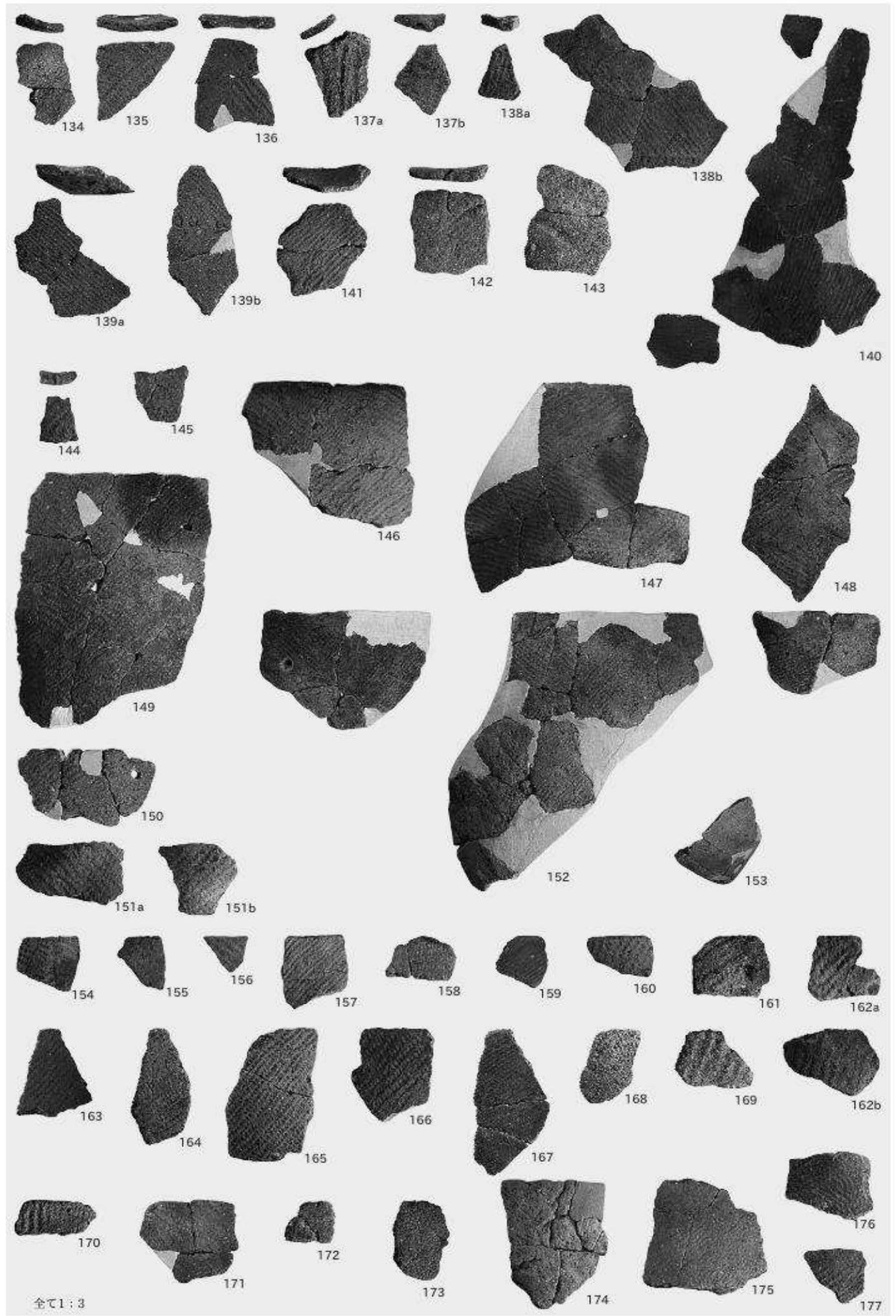
16SJ1 完掘 (南から)

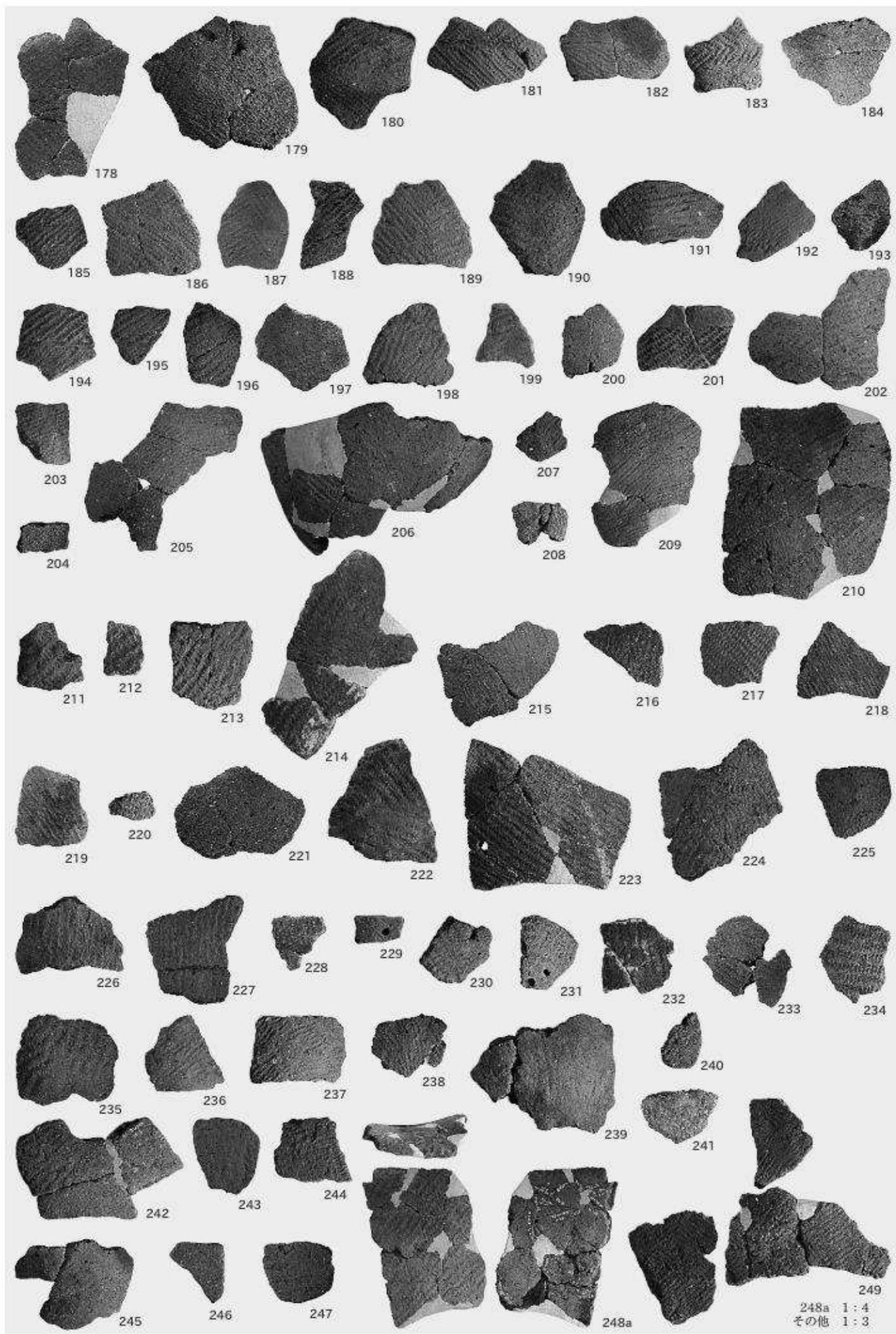


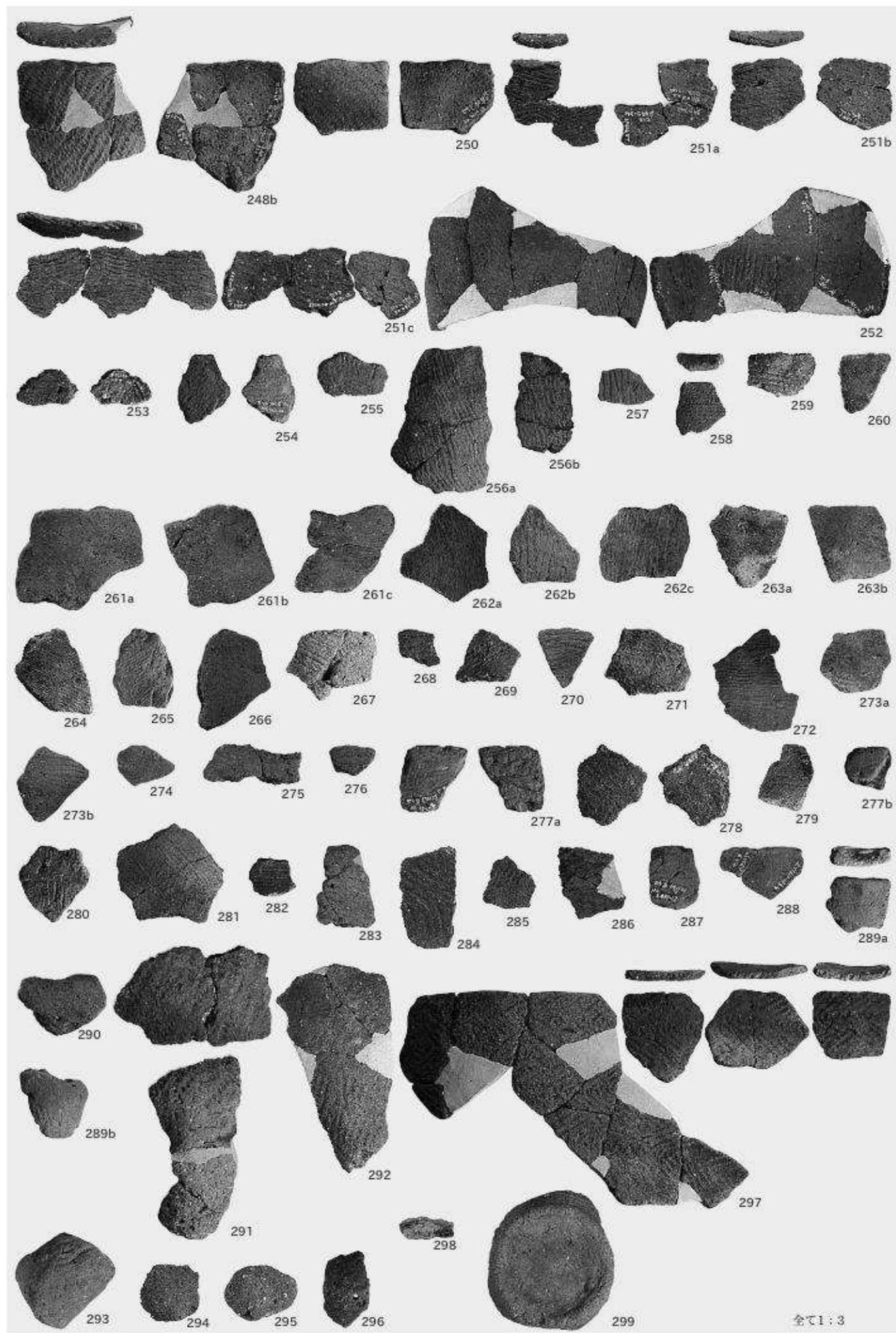


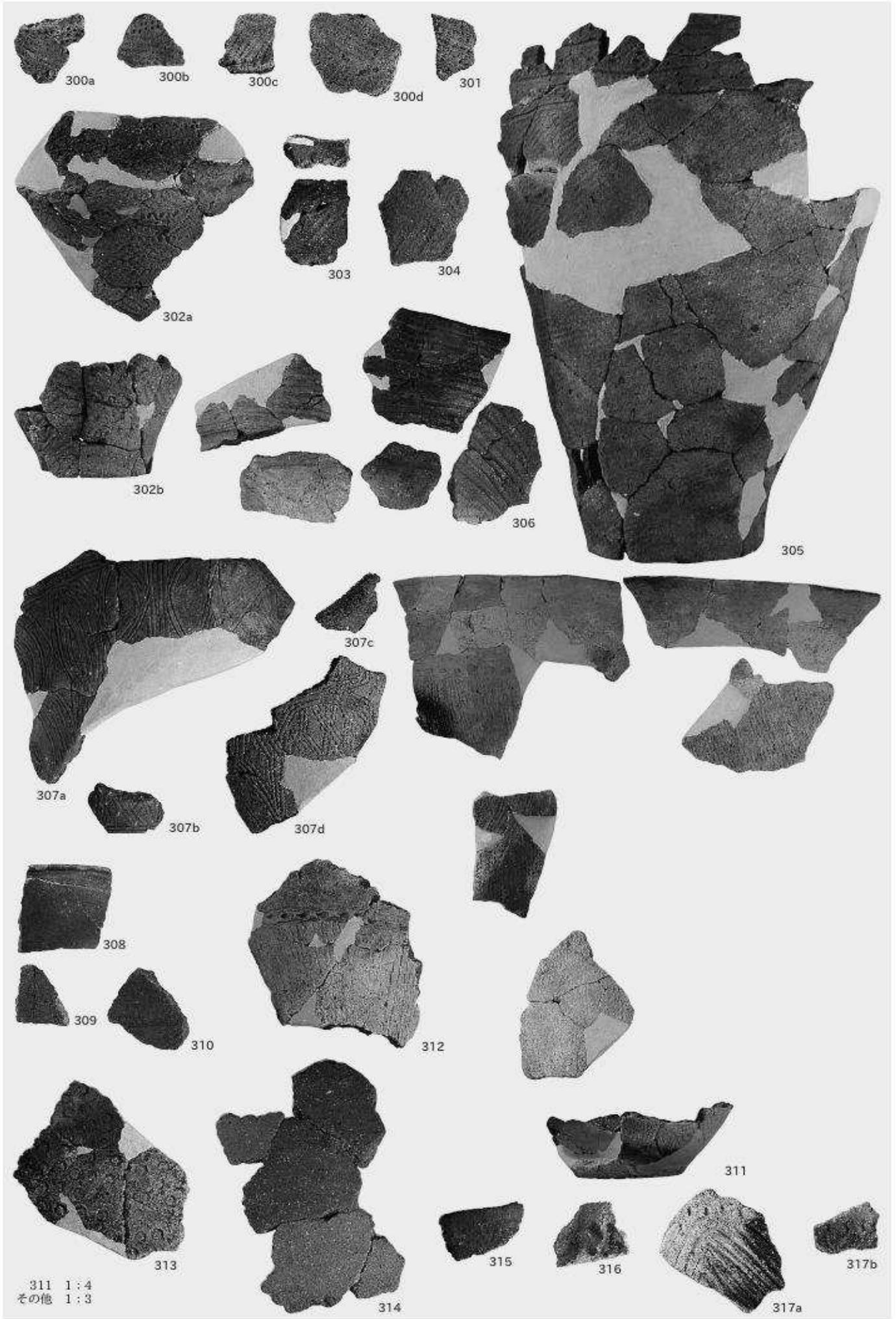




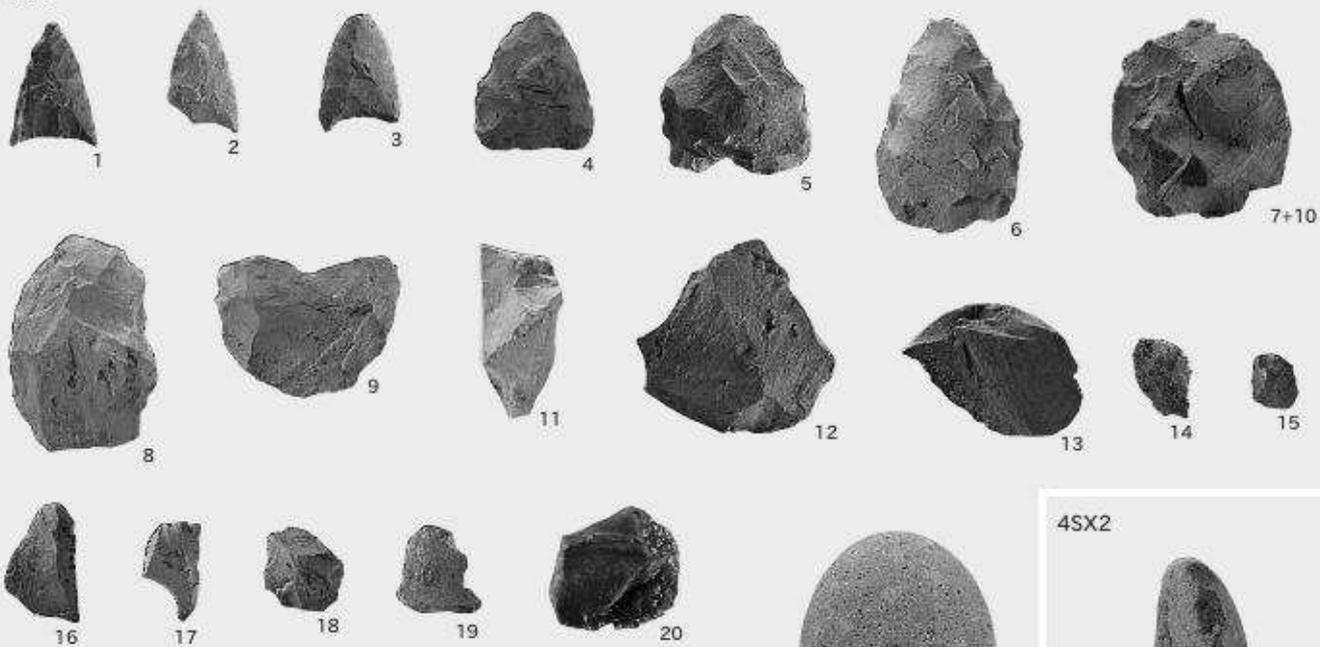








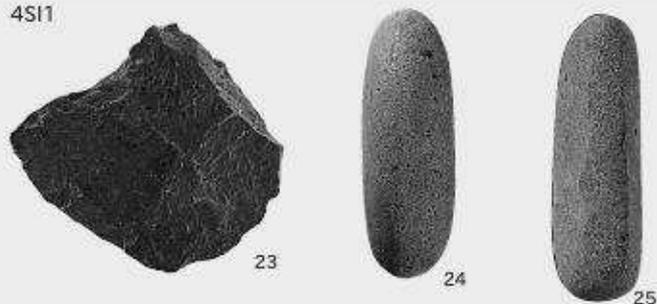
4SX3



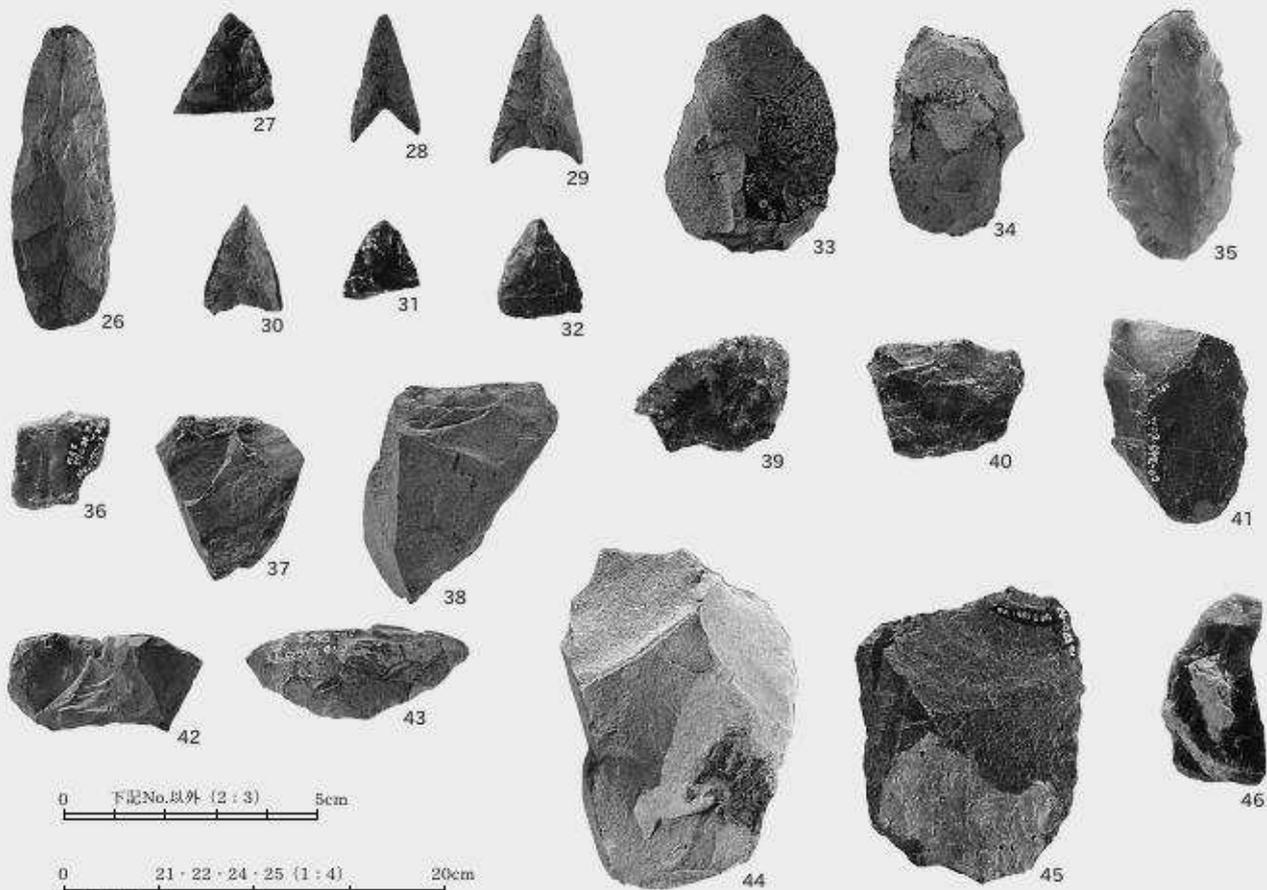
4SX2



4S11

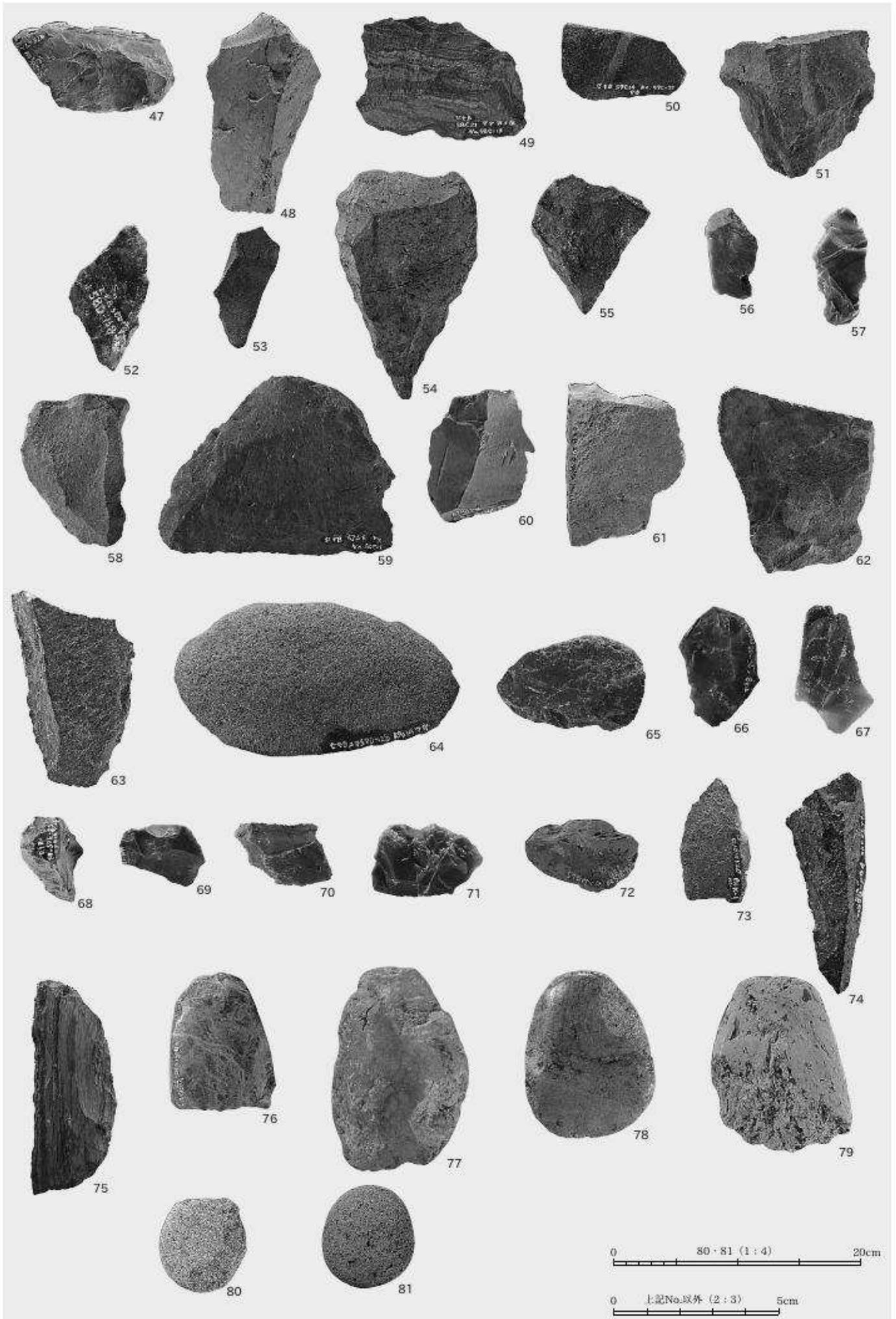


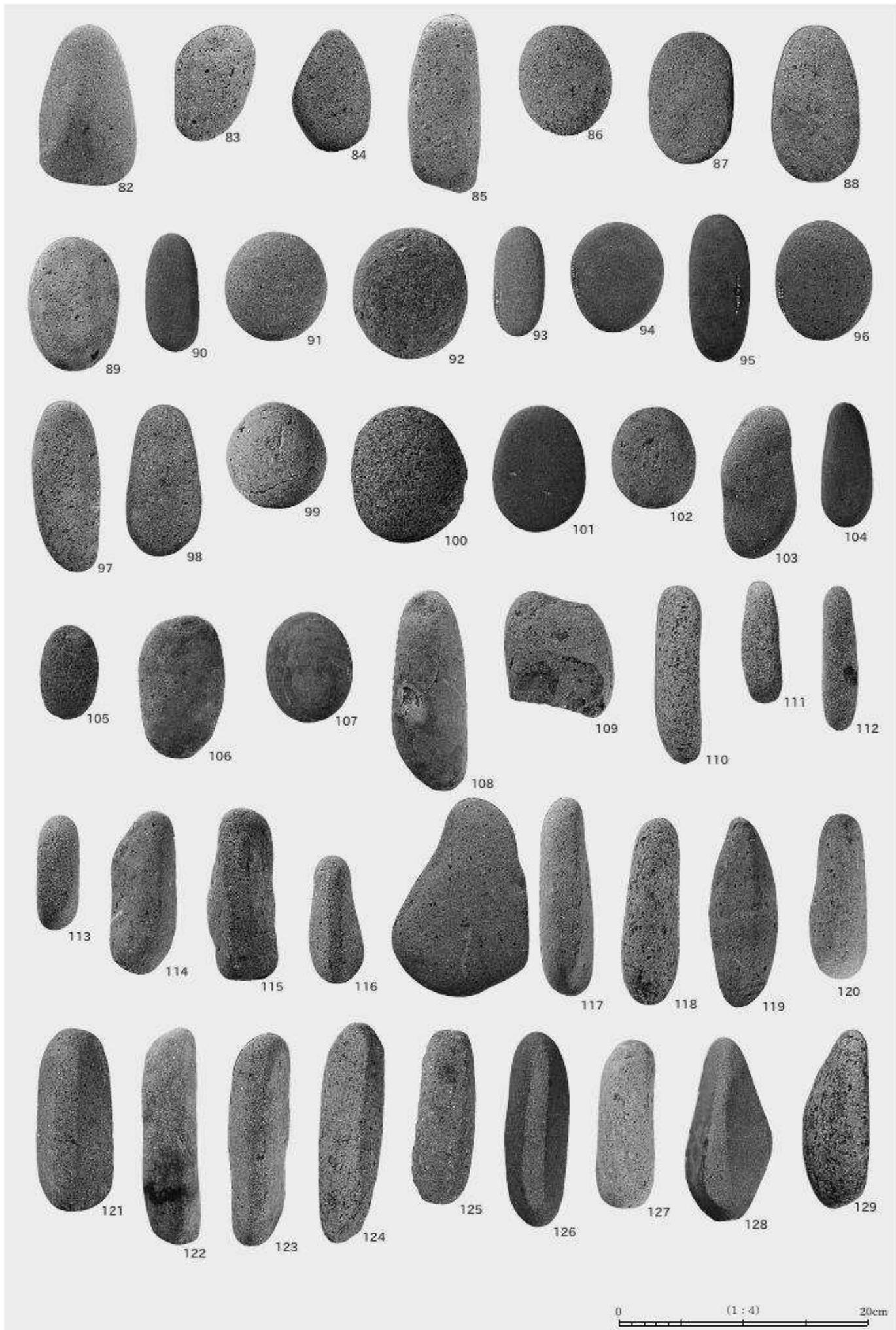
包含層

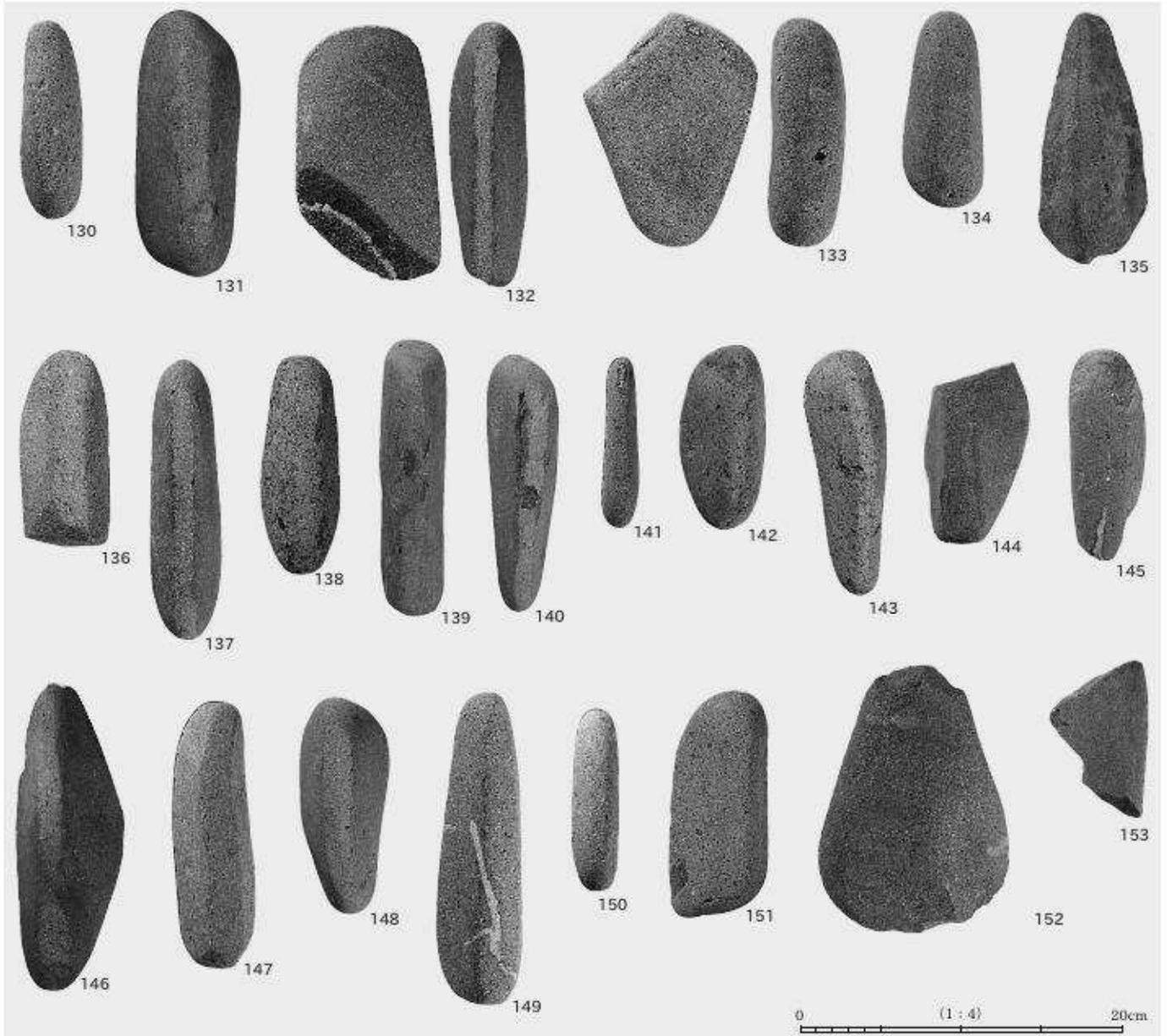


0 下記No.以外 (2:3) 5cm

0 21・22・24・25 (1:4) 20cm







古墳時代の土器



報告書抄録

ふりがな	せきかわやちいせきⅡ							
書名	関川谷内遺跡Ⅱ							
副書名	上信越自動車道関係発掘調査報告書							
巻次	X							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第124集							
編著者名	土橋由理子							
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新津市大字金津93番地1 TEL 0250 (25) 3981							
発行年月日	2003 (平成15) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
関川谷内遺跡	新潟県中頸城郡 妙高高原町大字 関川字谷内・中 ノ沢ほか	15545	52・53	36度 51分 45秒 (旧座標)	138度 11分 51秒 (旧座標)	一次調査 19930927～ 19931018 二次調査 19940425～ 19941114	15,000	上信越自動車 道の建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
関川谷内遺跡B地点	散布地	縄文時代 (早期～ 前期)		住居跡1基・集石土坑5 基・集石3基・フラスコ 状土坑6基・土坑68基・ 石鍬製作跡1か所 (縄文) 土坑1基 (古墳) 掘立柱建物1基・炭窯3 基 (平安)		縄文土器・石器 古墳時代の鏝		

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第124集	
上信越自動車道関係発掘調査報告書X	
関川谷内遺跡Ⅱ	
平成15年3月25日印刷 平成15年3月31日発行	編集・発行 新潟県教育委員会 〒950-8570 新潟市新光町4番地1 電話 025 (285) 5511 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒956-0845 新津市大字金津93番地1 電話 0250 (25) 3981 FAX 0250 (25) 3986
	印刷・製本 新高速印刷 株式会社 〒950-0963 新潟市南出来島2丁目1番25号 電話 025 (285) 3311

頁	位置	誤	正
抄録	北緯（旧座標）	36度51分48秒	36度51分45秒
抄録	東経（旧座標）	138度11分50秒	138度11分51秒